多摩大学自己点検報告書 Tama University Annual Report

2022

「自己点検報告書」作成について

1、記載内容(基準項目)

本年度令和 5 (2023) 年度作成の「自己点検報告書 2022」は、「三つのポリシーの検証」「学修成果の点検評価」をキーワードに、「基準 2」「基準 3」「基準 4」「基準 5」「基準 A」「基準 B」における「内部質保証」を記述した。

エビデンスを明示し客観的に記述することと、本学の個性・特色を浮かび上がらせることの両立を強く意識し、全学体制で作業した。

2、来年以降の記載内容(基準項目)の方針

- (1)令和 6(2024)年度の「自己点検 2023」では、「教育の内部質保証」にテーマを絞って「基準 2」「基準 3」「基準 4」「基準 A」「基準 B」の記述を計画している。
- (2) 令和 7(2025) 年度の「自己点検 2024」では、令和 8(2026) 年度の認証評価受審を前に、フル記述を計画している。
- (3)令和8(2026)年度は、日本高等教育評価機構の機関別認証評価受審を計画している。

今後とも「教育の質の向上」に向けて、更に自己点検の PDCA を回し、教職員協働で自律的な大学改革を推進して参る所存である。

多摩大学 企画・評価室

目 次

| I : 本学の現況 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 1 |
|--|-----|
| Ⅱ:評価機構が定める基準に基づく自己評価 | |
| 基準 2 学生 | |
| 2-1 学生の受入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 |
| 2-2 学修支援 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | ç |
| 2-3 キャリア支援 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 14 |
| 2-4 学生サービス | 21 |
| 2-5 学修環境の整備 ····· | 27 |
| 2-6 学生の意見・要望への対応 ····· | 35 |
| 基準 3 教育課程 | |
| 3-1 単位認定、卒業認定、修了認定 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 44 |
| 3-2 教育課程及び教授方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 49 |
| 3-3 学修成果の点検・評価 ····· | 59 |
| 基準 4 教員・職員 | |
| 4-1 教学マネジメントの機能性 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 68 |
| 4-2 教員の配置・職能開発等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 72 |
| 4-3 職員の研修 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 78 |
| 4-4 研究支援 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 80 |
| 基準 5 経営・管理と財務 | |
| 5-1 経営の規律と誠実性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 87 |
| 5-2 理事会の機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 89 |
| 5-3 管理運営の円滑化と相互チェック ····· | 90 |
| 5-4 財務基盤と収支・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 92 |
| 5-5 会計 ····· | 94 |
| Ⅲ:大学が独自に設定した基準による自己評価 | |
| 基準 A 産官学民連携 | |
| A-1 産官学民連携 · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 96 |
| 基準 B 国際交流 | |
| B-1 国際交流 ···································· | 112 |
| Ⅳ:エビデンス集一覧 | |
| エビデンス集(データ編)一覧 目次 | 125 |
| エビデンス集(資料編)一覧 | 130 |

(2023年4月1日改編) 多摩大学組織図 各種奨学金審査委員会 ・成績優秀者 ·海外留学 理事長 •私費外国人留学生 理事会 •特別給費牛 評議員会 被災学生 ・多摩チャレンジ 個人情報保護委員会 就職委員会 ハラスメント防止委員会 学部運営委員会 入試委員会 教務委員会 多摩衛生委員会 学生委員会 アクティブ・ラーニング委員会 研究活性化委員会 経営情報学部 経営情報学科 学部教授会 産官学民連携委員会 国際交流委員会 大学経営会議 学 部 各種奨学金審査委員会 学部運営委員会 ·成績優秀者 ·海外留学 •私費外国人留学生 •特別給費生 グローバルスタディーズ学部 学部教授会 •被災学生 グローバルスタディーズ学科 ・多摩チャレンジ 入試·広報委員会 教務委員会 院生支援委員会 大学院運営委員会 経営情報学研究科 研究活性化委員会 大学院 研究科教授会 経営情報学専攻 就職委員会 博士前期(修士) 入試委員会 各種奨学金審査委員会 博士後期 教務委員会 学生委員会 アクティブ・ラ-特待生 ニング委員会 •学部卒業生 自己点検評価委員会 研究活性化委員会 •私費外国人留学生 産官学民連携委員会 国際交流委員会 教学マネジメント会議 総務課 教務課 大学運営 学 長 学生課 多摩キャンパス キャリア支援課 事務長 ALC事務課図書館 産官学民連携センター事務課 人事委員会 研究活性化センター事務課 事務局 事務局長 国際交流センター事務課 事務局次長 採用候補者選考部会 入試課 昇格候補者審査部会 学長室事務課 再任候補者審査部会 大学院・研究開発機構事務室 学長室 湘南キャンパス 総務課 事務長 就業支援戦略室 教務課 学生課 就業支援戦略室会議 キャリア支援課 企画·評価室 ALC事務課図書館 国際交流センター事務課 入試課 IR推進室 事業推進室 大学附置機関 国際交流センター 国際交流センター運営委員会 産官学民連携センター運営委員会 産官学民連携センター 入試センター 入試センター運営委員会 研究活性化センター 研究活性化センター運営委員会 アクティブ・ラーニングセンター(ALC) ALC運営委員会 総合研究所 情報社会学研究所 研究開発機構 医療・介護ソリューション研究所 研究開発機構 ルール形成戦略研究所 評議員会 社会的投資研究所

I:本学の現況

(1) 大学名 多摩大学

(2) 所在地

- ・多摩キャンパス 東京都多摩市聖ヶ丘4丁目1番地1
- ・湘南キャンパス 神奈川県藤沢市円行802番地
- ・品川サテライト 東京都港区港南2丁目14番14号品川インターシティフロント5階
- ・九段サテライト 東京都千代田区九段北1丁目9番17号

(3) 学部構成

- ①学部 ・経営情報学部 経営情報学科、事業構想学科
 - ・グローバルスタディーズ学部 グローバルスタディーズ学科
- ②大学院 経営情報学研究科 経営情報学専攻
- (4) 学生数、教員数、職員数(令和 5(2023) 年 5 月 1 日現在)
 - ①学生数:2,165人

経営情報学部 1,446 人、グローバルスタディーズ学部 592 人、大学院 127 人

②教員数

<学部> (人)

| 学部・学科 | | 専任教員数 | | | | | 設置基準 | 設置基準 | 学部間 | |
|-------------------|-------------------|--------|-----|----|----|-------|----------|------|--------|--|
| | | 教 授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 11111 | 上必要専任教員数 | 上必要専 | 兼担 教員数 | |
| 奴 | 経営情報学科 | 9 | 4 | 4 | | 17 | 10 | 5 | 0 | |
| 経営情報学部 | 事業構想学科 | 15 | 5 | 1 | | 21 | 12 | 6 | U | |
| グローバル スタディーズ学部 | グローバル スタディーズ学科 | 10 | 8 | 2 | | 20 | 14 | 7 | 1 | |
| | 収容定員に 専任教員数 | | | | | | 21 | 11 | | |
| 合 | = + | 34 | 17 | 7 | | 58 | 57 | 29 | 1 | |

<大学院、研究開発機構研究所>

(人)

| | | | 専任教員数 | | | | 設置基準上 | 設置基準上必要 | 研究指導教 | 研究 | 研究 | |
|-----------------|------------------------|----|-------|----|----|---|---------------|------------------------------|-------|----|-----------------|-----------|
| 研究科・専攻、 研究所等 | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 必要研究 指導教員数 | 研究指導教員数 及び研究指導補 助教員数合計 | 空指道補助 | 指導 | 指導 補助 教員数 | 兼担 教員数 |
| 経営 情報学 研究科 | 経営 情報学 研究科 専攻 | 5 | | | | 5 | 6 | 10 | 10 | 6 | 4 | 5 |
| 情報社会 | 学研究所 | 3 | | | | 3 | | | | | | |
| | 形成戦略 究所 | 1 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合 | 計 | 9 | | | | 9 | 6 | 10 | 10 | 6 | 4 | 6 |

③事務職員数

(人)

| | 専任事務職員 | 非常勤事務職員 | 派遣・契約 | 合 計 |
|----|--------|---------|-------|-----|
| 人数 | 44 | 33 | 14 | 91 |

Ⅱ:評価機構が定める基準に基づく自己評価

基準 2. 学生

- 2-1. 学生の受入れ
- 2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知
- 2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証
- 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持
 - (1) 2-1 の自己判定

「基準項目2-1を満たしている。」

- (2) 2-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- 2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

<事実の説明>

本学は「現代の志塾」を教育理念とし、本学が育成するのは「志」の高い「多摩グローカル(グローバル+ローカル)人材」である。「学則」第1条第1項〔資料2-1-101〕では、「多摩大学は、永年に及ぶ産業教育における経験を基盤とし、国際化・情報化時代に即応して、学生に高度な外国語能力と世界に通用する教養・最新の経営知識及び的確な情報処理能力を修得せしめ、国際的ビジネスの場で活躍できる人材の育成を目指すとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与する指導的人材を育成することを目的とする。」と、育成する人材像を明記している。学則上の教育目的を踏まえ、その人材像に沿って、三つのポリシーを策定している。

- (1) 各部門の学則における「育成する人材像」
 - ①経営情報学部:「学則」第5条第2項〔資料2-1-102〕

企業経営、情報科学に関する学術と応用を教授研究し、高度の経営情報知識と、これを支える豊かな教養とを合わせ備えた創造的、実践的な問題解決能力を有する人材を 育成することを目的とする。

- ②グローバルスタディーズ学部:学則第5条第3項[資料2-1-201] 文明・歴史・経済・多文化交流などに関する学術と応用を教育研究し、語学力を活用 したコミュニケーション能力とグローバルな問題を解決できる能力を持ち、国際基準 の知識とこれを支える教養をもとにグローバルな舞台で活躍できる人材を育成することを目的とする。
- ③大学院:大学院学則第1条〔資料2-1-301〕 広い視野に立って精深な学識を授け経営情報学の研究教授を通じて創造的問題解決能力を有する高度な専門的職業人の育成を使命・目的としている。
- (2) 平成 25 (2013) 年には、「現代の志塾」から導き出された人材目標を具体的に示すことを目的として、「本学は、地域に密着しつつ、世界に目をひらき、地域社会、グローバル社会に貢献する高い志を持った人物を求める。」と、両学部共通のアドミッション・ポリシー(以下、「AP」と略すこともある。)を定めた〔資料 2-1-103〕〔資料 2-1-202〕。
- (3) 平成 28 (2016) 年度に、三つのポリシー間の整合性を図ると同時に、学力の 3 要素を多面的に評価するため、両学部・大学院の AP を改定した〔資料 2-1-203〕。

①経営情報学部のAPで求める人物

ディプロマ・ポリシーで示した「多摩グローカル人材」の具体像として、企業経営、情報科学に関する学術と応用を教育研究し、高度の経営情報知識と、これを支える豊かな教養を合わせ備えた創造的、実践的な問題解決能力を有する人材を育成することを教育目標にしており、AP記載の人物を求める。

- ②グローバルスタディーズ学部の AP で求める人物 ディプロマ・ポリシーで示した「グローバルな問題を解決し、グローバルな舞台で活 躍する人材を育てる」ことを教育目標にしており、AP 記載の人物を求める。
- (4) 大学院は、全学の教育理念をもとに、「志」を持って「産業社会の課題解決の最先端で活躍する高度経営人材及び高度情報人材」の育成を目的にして AP を定めてきた。
 - ①平成 29(2017)年度に、上記 AP を検証し、「知の再武装」「実践知」「イノベーション」というキーワードを盛り込み、新たな AP を策定した〔資料 2-1-302〕。「イノベーション」を起こせる「イノベーターシップ人材」とは、教育理念「現代の志塾」に基づき、現在の課題に正面から向き合い、持続可能な未来の社会を創造する高い志を見出し、それを実現できる高い専門能力のある人材である。
 - ②令和 3(2021)年度に AP と出願資格との整合性を検討した。結果、一貫性があり、AP 及び出願資格を変更する必要がないことになった〔資料 2-1-303〕。
- (5) 両学部・大学院の AP の明示・周知については、次のとおりである。
 - ①入学試験要項〔資料 2-1-104〕〔資料 2-1-204〕〔資料 2-1-304〕
 - ②大学のホームページ〔資料 2-1-105〕〔資料 2-1-205〕〔資料 2-1-305〕
 - ③大学院パンフレット [資料 2-1-306]
 - ④大学院説明会資料〔資料 2-1-307〕
- (6)オープンキャンパスや個別相談会 [資料 2-1-206] 等においても、高校生に分かりやすい言葉・表現を用いて説明する機会を設ける等、受験生に対し周知を図っている。

<自己評価>

- (1)教育目的を踏まえ、育成すべき人材像を具体化している。
- (2) AP を適切に明確化し、周知している。

2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証 <事実の説明>

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部]

- (1) 両学部では、教授会のもと、「入試委員会」が「入試課」〔資料 2-1-106〕と連携し、AP に沿った学生募集と入試業務を行っている。運営方針〔資料 2-1-207〕は、教授会の議を経て〔資料 2-1-107〕年度計画として組織的に定めた上で、募集活動を柔軟に行っている「資料 2-1-108〕「資料 2-1-208〕。
 - ①令和 4(2022) 年度は、経営情報学部では、教員 9 人、職員 5 人で組織する「入試委員会」を 19 回開催した〔資料 2-1-109〕〔資料 2-1-110〕。グローバルスタディーズ学部では、教員 7 人、職員 3 人で組織する「入試委員会」〔資料 2-1-209〕を 11 回開催した〔資料 2-1-210〕。

- ②「入試委員会」が試験問題・小論文〔資料 2-1-211〕・志望理由書〔資料 2-1-212〕・評価書の学内フォーム作成〔資料 2-1-213〕、採点、合否判定を組織的に行った〔資料 2-1-111〕〔資料 2-1-214〕。
- (2) 一般選抜では、入試委員会のもとに作問委員会を組織し、両学部共通の試験問題を作成している。経営情報学部は、国語、数学、日本史B、政治経済、世界史Bの試験問題を作成した[資料2-1-112]。グローバルスタディーズ学部は、AP上で英語の重要性を明記していることもあり、英語試験の作問を、そして地理Bの作問を担当している[資料2-1-215]。
- (3)入学者の選抜方法は、総合型選抜、学校推薦型選抜指定校方式・公募方式・附属系列校方式、一般選抜、一般選抜大学入学共通テスト利用方式、留学生選抜、その他の方式で実施している〔資料 2-1-113〕〔資料 2-1-216〕。それぞれの入学者選抜ごとに AP に沿った試験科目を定めており、いずれも学力の 3 要素を多面的・総合的に評価方針を定め、評価方法〔資料 2-1-217〕により、AP に沿った能力・資質を有する者を選抜し、「多摩グローカル人材」を育てるための工夫をしている〔資料 2-1-114〕。
- (4) AP に沿った入学者受入れの実施とその検証については、「アドミッション・ポリシーと 入学者受入れ方法との関連を示す資料」〔資料 2-1-218〕を作成し、学力の 3 要素(「基 礎的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性・多様性・協働性」) を判断基準とする検証に努めている〔資料 2-1-219〕。令和 6(2024)年度入学者選抜では、 この検証を活用し、改善につなげていく予定である。
 - ①筆記系入学者選抜(一般選抜、一般選抜大学入学共通テスト利用方式)では、調査書の 内容を判定基準に入れており、多面的・総合的に評価することができている。
 - ②総合型選抜、学校推薦型選抜では、面接、小論文の他、調査書の内容を判定基準に入れており、多面的・総合的に評価できている。また、令和 5(2023)年度入学生は、AP に沿った、「異なる文化や習慣、価値観を学ぶ意欲」、「外国語によるコミュニケーション力を身に着ける意欲」のある学生が多く入学した。
- (5) 実際に入学してきた学生を以下の方法で分析し、入学後の離学の状況や、成績の推移、 就職活動状況等、在学生の卒業までの状況を把握し、選抜方式の適切性についての検証 に努めている。
 - ①アセスメント・ポリシーに基づき、「入学前データ」「PROG」「TOEIC」「GPA」等に関する詳細な IR 分析を実施し、テーマごとに冊子にまとめ、年次更新してきた〔資料 2-1-220〕。
 - ②令和 4(2022)年度は、「2018年度入学生年代記」を作成し、入試委員会で検証した〔資料 2-1-221〕。
- (6)入学者選抜結果等のデータを学内で共有し、クラス分け等に活用している〔資料 2-1-115〕。

[経営情報学研究科]

教授会のもと、「入試・広報委員会」〔資料 2-1-308〕が「大学院事務課」と連携し、AP に 沿った院生募集と入試業務を行っている。副委員長には職員1人を選出している〔資料 2-1-309〕。運営方針は、教授会の議を経て、年度計画として組織的に定めている〔資料 2-1-

- 310]。教育目的を踏まえ AP に沿った入学者選抜〔資料 2-1-311〕を行っている。
- (1) 教職協働で組織する入試・広報委員会を 12 回開催した〔資料 2-1-312〕。
- (2) AP に沿った入学者選抜を行い、教授会が合否判定を行っている〔資料 2-1-313〕。
 - ①入学にふさわしい知識や学識のレベルを問う口頭試問形式にとどまらず、志願者一人ひとりの入学目的を確認している。志願者が学びたい研究内容と本研究科が提供する教育コンテンツ(実践型プログラムの展開)とのミスマッチを防ぐため、入試・広報委員会が「事前課題」〔資料 2-1-314〕をもとに、「事前課題評価シート」〔資料 2-1-315〕、「面接評価シート」〔資料 2-1-316〕を学内作成している。
 - ②毎年、「事前課題」や「評価シート」の検証〔資料2-1-317〕を行っている。
- (3) 留学生に関しては、日本人と同様に入試を実施しており、AP に沿った選抜を行っている [資料 2-1-311] [資料 2-1-318] [資料 2-1-319]。
 - ①1次試験で、日本語能力レベルを確認している。
 - ②令和 3(2021)年度 9 月入学生以降は、新たな評価基準を入試・広報委員会で定め、実施している。

<自己評価>

- (1)独自の入学者選抜では、入試問題を全て学内で作成・管理している。
- (2) AP に沿った入学者受入れの実施とその検証を適正に行っている。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

<事実の説明>

[経営情報学部] 「グローバルスタディーズ学部]

- (1) 収容定員及び入学定員は「多摩大学学則」第 5 条第 4 項 [資料 2-1-116] [資料 2-1-222] に明示されている。各学部、各学科の収容定員、在籍者数は〔データ表様式 2〕〔データ表 2-1〕のとおりである。なお、収容定員及び入学定員は「多摩大学学則」第 5 条 [資料 2-1-116] [資料 2-1-222] に明示されている。
- (2) 両学部協働で、次の活動を行った。
 - ①のべ約1,800件の高校訪問や塾・予備校訪問を実施した〔資料2-1-117〕。
 - ②SNS やインターネット広告等を積極的に活用し、多言語対応を含めホームページ掲載 内容の拡充を図っている〔資料 2-1-118〕。
 - ③令和 4(2022)年度の資料請求者数は、両学部併せて 2 万 3,745 件であった〔資料 2-1-223〕。
 - ④令和 4(2022)年度は高等学校教員等を対象とした対面での教育内容説明会は、コロナ 禍対策の観点から中止した。

[経営情報学部]

経営情報学部の収容定員は1,280人である。

令和 5(2023)年 5 月 1 日現在の在籍者数は 1,446 人であり、収容定員に対する充足率は 1.13 倍である。なお、以下の記述における「前年度比」は「令和 4(2022)年度入学比」で ある。

- (1) オープンキャンパス参加者数は前年度比99.5%と横ばいであった〔資料2-1-119〕。
- (2) 高校内や外部会場にて行われるガイダンスに積極的に参加した〔資料 2-1-120〕。
- (3)地方出身者(東京・神奈川以外の高校からの入学者)が、令和 4(2022)年の 111 人から 133 人(前年度比 119.8%)へ増加した [資料 2-1-121]。
- (4)女子入学者数は令和 4(2022)年の 65 人から、60 人(前年度比 92.3%)にやや減少した [資料 2-1-122]。
- (5)入学前学習を実施し〔資料 2-1-123〕、入学前に求める基本的な資質・能力の向上を図っている。入学前学習における新入生データを学部内で共有し、入学後の「プレゼミ」のクラス編成、初年次学修指導に利用している〔資料 2-1-124〕。

[グローバルスタディーズ学部]

グローバルスタディーズ学部の収容定員は600人〔資料2-1-222〕である。

令和 5 (2023) 年 5 月 1 日現在の在籍者数は 592 人〔資料 2-1-224〕であり、収容定員に対する充足率は 0.99 倍である。

- (1) 専任教職員の活動
 - ①のべ191件の高校を訪問した〔資料2-1-225〕。
 - ②のべ9件の日本語学校を訪問した〔資料2-1-226〕。
 - ③専任教員が、高校での模擬授業を16回実施した〔資料2-1-227〕。
 - ④専任職員が、高校や会場でのガイダンス、大学説明会を31回実施した〔資料2-1-227〕。
- (2) 本学部の動画、施設の動画、卒業生や在学生の動画を計6本製作した[資料2-1-238]。
- (3)入試広報イベントの参加者数は、のべ 723 人であった [資料 2-1-229]。オープンキャンパスは次のとおりである。
 - ①オープンキャンパス集客のため、Web CM を制作し、YouTube や Instagram の SNS で CM を流した [資料 2-1-230]。
 - ②オープンキャンパスを 9 回開催した〔資料 2-1-231〕。
 - ③参加者数は、令和 3(2021)年度比 98.8%であった [資料 2-1-232] [資料 2-1-233]。
- (4) 地方出身者(東京・神奈川以外の高校からの入学者)が 16 人であった〔資料 2-1-234〕。
- (5) 女子入学者数は41人であった〔資料2-1-235〕。
- (6) 高大連携の一環として、協定校の一つである藤沢翔陵高等学校と両学部教員によるスプリングスクールを実施した[資料 2-1-236]。

〔経営情報学研究科〕

収容定員は、修士 120人、博士 15人である〔資料 2-1-320〕。

令和 5(2023)年 5 月 1 日現在の在籍者数は、修士 120 人、博士 7 人〔資料 2-1-321〕であり、充足率は、それぞれ 1.00 倍、0.47 倍である。

修士課程の令和5(2023)年度春入学は、定員40人に対し入学者が42人であった。

博士課程の令和 5(2023)年度春入学は、定員 5人に対し入学者が 2人であった〔資料 2-1-322〕。

院生の適正な受入れ数を確保するため、令和4(2022)年度は、次の取り組みを行った。

(1)各イベントへの来場者情報等をデータベース化し、募集に活用している。令和5(2023)

年5月1日時点の登録者数は、1万593人となった〔資料2-1-323〕。このデータベースをもとに、体験講座やイベント情報を提供している。

(2)学内のイベント

学内イベントを年 109 回開催し、のベ申込者数 2,267 人、のべ参加者数は 1,162 人〔資料 2-1-324〕となった。学内イベントの内訳は次のとおりである。

- ①「イノベーターシップ&ライフシフトフォーラム」を8回開催した。そして、「グローバルフェロートーク」を1回開催した〔資料2-1-325〕。
- ②大学院説明会と「体験講座」を高頻度で開催した。平日夜、土日祝日の昼に開催し、回数は、春学期29回、秋学期35回、計64回となった〔資料2-1-326〕。
- ③社会人向けの「大個別相談会」を7回開催した〔資料2-1-327〕。
- ④男性、女性、留学生向けに、それぞれに特化した大学院説明会を開催した(平日の夜、 土日祝日の昼) [資料 2-1-328]。
 - ・ビジネスパーソンのための大学院説明会:5回
 - ・女性のための大学院説明会:3回
 - 留学生進学相談会: 4回
- ⑤ ヘルスケア対象の大学院説明会を3回開催した〔資料2-1-329〕。
- ⑥「地方在住者のためのオンライン説明会」を4回開催した〔資料2-1-330〕。
- ⑦日本語学校との連携を強化するため、「日本語学校教員向け説明会」を 4 回開催し〔資料 2-1-331〕、志願者の更なる質向上を図った。
- (3) 学外のイベント [資料 2-1-332]
 - ①外部業者の留学生進学相談会に参加した。
 - ②大学間の連携を強化し、「MBA7 大学の合同説明会&相談会」を2回開催した。
 - ③外部業者や医療介護ソリューション研究所、品川塾によるヘルスケア分野のイベント を開催した。
- (4)ホームページ、SNS を使用した広報
 - ①ホームページのコンテンツを更新した〔資料 2-1-333〕。
 - ②オフィシャルの Facebook [資料 2-1-334] を活用し、大学院イベント、研究所のイベント、教員の執筆物、教員の講演等の情報発信を行った [資料 2-1-335]。
 - ③イベント管理サイト「Peatix」を活用し、体験講座や大学院イベントの告知を行った [資料 2-1-336]。
- (5) 社会人志願者に対し、入試面接日程の設定等を柔軟に行った〔資料 2-1-337〕。
- (6) コロナ禍対策として、オンラインによる面接を可能にした〔資料 2-1-338〕。

<自己評価>

入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持のための活動を行い、定員の着実な充足に 努め、在籍者数を適正な範囲で管理している。

(3) 2-1 の改善・向上方策 (将来計画)

〈教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知〉

求める人物像、AP、カリキュラムの特色、入試制度改革に対する本学の対応状況等を説

明し、深く理解してもらう。そのダイレクトコンタクトの機会や対象は次のとおりである。

(1) 両学部

- ①オープンキャンパス・総合型選抜対策セミナー等に参加する受験生やその保護者
- ②高等学校のガイダンスや相談会等のイベントに参加する受験生やその保護者
- ③高等学校の進路指導担当者、3年生担任の教員
- ④予備校の教室長等の教員
- (2) 大学院では、入試説明会の参加者全員に対して、教育目的や AP の説明を行う。

〈アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証〉

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部]

AP に沿った入学者受入れの実施とその検証による改善策を基盤に、令和 6(2024)年度入試を改革する。学力の 3 要素を入試区分ごとに網羅的に判定し、併せて、主体性評価を重視する方向で、計画的に入試改革を進める。

(1)総合型選抜

- ①求める人材に関する説明会・セミナー開催の検証、及び目的の明確化
- ②小論文試験の継続実施
- ③調査書項目の配点の見直し
- (2) 学校推薦型選抜
 - ①指定校対象校と募集人数の見直し
 - ②学力試験としての口頭試問の継続実施
- (3)一般選抜

学習習慣のある学生を増やすことを目的に、調査書を積極的に活用する。

〈入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持〉

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部]

- (1) 中期計画・年度事業計画に記載した諸施策の目標数値・KPI (オープンキャンパス来場者数、資料請求者数、志願倍率、地方出身者数、女子人数等)を一つ一つクリアしていく。
 - ①高校訪問を起点・ベースとする募集体制の維持・向上を図る。積極的に高校訪問、塾・ 予備校訪問を実施し、進路担当教員等に本学の教育内容等をしっかりと説明する。
 - ②ガイダンスや大学説明会等、高校生に直接アプローチができるイベントに積極的に参加する。
 - ③本学入学への導入ツールである関連オンラインサイトを充実する。
 - ・学部説明、入学者選抜説明等の高校教員向けの説明・個別相談を、Web コンテンツ を活用し、早期に開催する。
 - ・動画を拡充し、活用する。
 - ④オープンキャンパスへの参加者を増やす。
 - ・授業紹介等のコンテンツの見直しや演出面での工夫を行う。
 - リピーターの増加に努める。
 - ・志願マインドを醸成し、「総合型選抜対策セミナー」につなげる。
 - ⑤オープンキャンパスのライブ配信、オンライン面談での対応により、地方在住の受験

生の増加を図る。

- ⑥附属系列校からの進学率向上策を具体化する。
- ⑦ブランド強化を図る。
- (2) 入学前教育の内容を改善する。

初年次教育との効果的な連動を図りつつ、入学前教育の内容を、大学へのソフトランディングの模範となり、多摩大学の独自の特徴を打ち出すものとして実施する。

[経営情報学研究科]

AP に沿った入学者獲得を推進し、新入生では定員 60 人以上を確保する。

- (1)各種イベントの年間予約数をのべ 1,000 人以上、参加者数を 650 人以上とする。イベント集客のため、ホームページや SNS にて情報発信を行う。
 - ①入学関心者向けの体験講座を年50回以上実施する。
 - ②話題喚起の目的で、入学関心者に限定しないビジネスパーソン向けのオンラインセミナーを半期それぞれ1回以上実施する。
 - ③女性管理職層をターゲットにしたオンライン体験講座を年4回以上実施する。
 - ④社会で活躍している修了生・現役生をフィーチャーしたオンラインセミナーを年8回 実施する。
 - ⑤オンライン経由で、地方在住のビジネスパーソンの入学者数増加を目指す。
 - ⑥MBA の合同説明会に参加する。
- (2)各種セミナー、専任教員・客員教員の出版や寄稿等を通じて、本大学院のメディア露出機会を増やす。

2-2. 学修支援

- 2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備
- 2-2-② TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実
 - (1) 2-2の自己判定

「基準項目 2-2 を満たしている。」

- (2) 2-2の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- 2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

<事実の説明>

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部] [経営情報学研究科]

- (1) 学修支援の実施体制
 - ①「教務委員会」を「多摩大学教務委員会規程」「多摩大学大学院教務委員会規程」〔資料 2-2-301〕に基づき運営している。「教務委員会」では、授業運営のほか、カリキュラム、授業時間割、試験、教職課程、単位認定、進級・卒業、学年暦、講義要項の編集等、教務に関する事項の審議・実施を行っている。
 - ②両学部での学修支援は、「教務委員会」と「アクティブ・ラーニング委員会」が担当している。「多摩大学アクティブ・ラーニング委員会規程」に基づき、アクティブ・ラー

- ニング委員会は、学修支援のほか、アクティブ・ラーニング(以下、「AL」と略すこともある。)、FD、「VOICE」(学生による授業評価)、図書館運営、情報環境等を担当している。
- ③これらの委員会を教員と職員の協働で組織し、副委員長には職員1人を選出している [資料2-2-101][資料2-2-201][資料2-2-302]。
- ④委員会を、原則、毎月1回開催している〔資料 2-2-303〕。
- (2) 学修支援の方針・計画
 - ①経営情報学部の「アクティブ・ラーニング委員会」では、アクティブ・ラーニング・ プログラム開発や、学修サービス、資格支援サービスに関する事業計画〔資料 2-2-102〕 を作成し、遂行している。
 - ②グローバルスタディーズ学部では、「活動計画」〔資料 2-2-202〕に基づき適切に運営している。「学修支援に関する方針」については、令和 4(2022)年度に、「修学の支援」、「図書館」、「メディア・サービス」を学修支援と位置づけ、計画・目標等を策定した〔資料 2-2-203〕。
 - ③大学院では、教務委員会が事業計画を作成し、遂行している。

<自己評価>

教職協働による学生への学修支援に関する計画・実施体制を適切に整備・運営している。

2-2-② TA(Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実

<事実の説明>

[経営情報学部]

- (1) 平成 29(2017) 年から「学修サービス」及び「メディア・サービス」を図書館に設置し、「AL プログラム」支援、IT 支援及び図書サービスを一体的かつ総合的に行う体制を構築した。また「学修サービス」は、「資格支援サービス」「ボランティアコーナー」の機能も有している。教職員12人が交代で相談窓口に常駐し、利用件数は141件となった〔資料2-2-103〕。
- (2)「多摩大 AL 祭」を開催した。コロナ禍対策から、午前・午後の 2 回に分けて開催した。 26 件のプログラムを発表した「資料 2-2-104」。
- (3) 令和 4(2022) 年度の SA(Student Assistant) を活用した授業数は、87 授業となった〔資料 2-2-105〕。
- (4)「教職支援室」では、教職課程履修学生1年生17人、2年生9人、3年生7人、4年生7人の学修支援を実施した〔資料2-2-106〕〔資料2-2-107〕。
- (5)オフィスアワーは、専任教員 38 人が実施している。非常勤講師 38 人は、担当講義終了後の対応、もしくはオフィスアワー専用の公開メールアドレスを用いた問い合わせ対応を実施している〔資料 2-2-108〕。
- (6) 障がいのある学生に関しては、「ガイドライン」を策定し、障がいの内容に応じた配慮を行っている〔資料 2-2-109〕。
- (7)「AL プログラム」の開発・運営を行った。プログラム数は 26 件、単位認定者数はのべ 349 人となった〔資料 2-2-104〕。

- (8)「書評コンクール」を開催した〔資料 2-2-110〕。
- (9) 資格支援として、MOS 試験、ビジネス能力検定、SPI 講座を実施した。受験者は、MOS 試験 39 人、ビジネス能力検定 46 人、SPI 講座 105 人(受講者)となった [資料 2-2-111]。
- (10) 新入生に関しては、入学前の情報を学内で共有している〔資料 2-2-112〕。
- (11) 成績不良者等に対しては、「教務委員会」から保証人に対し成績通知書の郵送と同時に成績不良の連絡を行った。必要に応じて保証人、学生と面談し、学修スケジュールの確認や履修指導を行った〔資料 2-2-113〕。
- (12) 学生相談室の周知を強化した〔資料 2-2-114〕。
- (13)休学・復学・退学時に、ゼミ担当教員・学生課職員が145回の面談を実施した〔資料2-2-115〕。
- (14) 退学理由の分析を行っている〔資料 2-2-116〕。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)新入生の人間関係構築支援のため、プレオリエンテーションを実施した〔資料 2-2-204〕。
- (2) 入学時オリエンテーションで、多摩大学での学修に必要な資料等を配付し〔資料 2-2-205〕、履修指導を細やかに行っている〔資料 2-2-206〕。
- (3) 新カリキュラムに伴って必履修科目として設置された「プレゼミ」担当教員にアドバイザーとしての役割も担わせた〔資料 2-2-207〕。
 - ①全新入生に対しての授業開始直後に定期面談を、プレゼミ教員に依頼した。
 - ②秋学期のプレエントリー期間にも定期面談を依頼した。
 - ③面談内容は、履修に関する問題の有無、大学生活への不安・問題、健康問題、金銭面の問題、今後への不安、大学への要望・質問等、多岐に亘った〔資料 2-2-208〕。

(4) 履修相談

- ①履修関連に関する説明書を作成し、学生に公開している〔資料 2-2-209〕。
- ②履修相談窓口を設置し、相談対応用の Zoom URL 及びメールアドレス等を公開した〔資料 2-2-210〕。令和 4(2022)年度の、Zoom での履修相談窓口利用者は、春学期のべ 16 人〔資料 2-2-211〕、秋学期のべ 11 人〔資料 2-2-212〕、計のべ 27 人であった。
- (5)オフィスアワーは、全専任教員が実施している〔資料 2-2-213〕。非常勤講師は、担当授業前後の対応もしくは、オフィスアワー専用の公開メールアドレスを用いた問い合せ対応を実施している〔資料 2-2-214〕。
- (6) 学生の英語力向上を目的として、「学修支援室」を設置し運営している [資料 2-2-215]。 令和 4(2022) 年度は、新カリキュラムの時間割等を踏まえ「AEP(英語集中講義)」 (Academic English Program) との連動を図り学修効果を向上させた。結果利用実績はの べ 1,164 件であった。
- (7) 令和 2(2020) 年度に実施した「T-NEXT 学修ポートフォリオ」の設定、「T-NEXT 保証人アカウント」の発行を継続するとともに、下記について実施することで学修支援を強化した [資料 2-2-216]。
 - ①T-NEXT 学修目標機能の活用検討
 - ②カリキュラムマップの更新
 - ③科目ナンバリングの更新

- ④履修モデルの作成
- ⑤「T-NEXT Web シラバス」上に、「VOICE」(学生による授業評価)への「応答」を掲載
- (8) TA の活用は、コンピューター等技術指導が必要な科目及び履修者が 40 人以上の特定の科目で実施している〔資料 2-2-217〕。令和 4(2022)年度 TA の活用実績は、春学期 18 授業、秋学期 9 授業、計 27 授業であった〔資料 2-2-218〕〔資料 2-2-219〕。
- (9)「教職支援室」にて、教職課程履修学生の履修指導を実施した〔資料 2-2-220〕。
- (10)資格支援として、MOS 試験を実施した。
 - ①受験者 114 人のうち「情報処理 I」(2 クラス) 履修者及び「情報処理 II」(2 クラス) 履修者はのべ 107 人であった [資料 2-2-221]。
 - ②合格者は103人となった。
- (11)「障がい学生の支援について」を策定し、障がいの内容に応じた配慮を行っている〔資料 2-2-222〕。また、教育的配慮が必要な学生に対しては、配慮の具体的な内容等を「教務委員会」で都度審議の上、該当学生が履修している授業担当教員に対応を依頼している〔資料 2-2-223〕〔資料 2-2-224〕。
- (12) 学生が学修で使用するパソコンに関しては、令和 4(2022) 年度よりノートパソコン配付を廃止し、自己準備(BYOD) 化を推進している [資料 2-2-225]。新入生には「プレゼミ」内において、パソコンを使用した学修環境のレクチャーを実施した [資料 2-2-225]。
- (13) 学生の読解力習得のため、「ライブラリー・セミナー」を「プレゼミ」で実施した(4月) [資料 2-2-202]。
- (14)休退学防止策として、単位修得状況、履修登録状況、出席状況等を確認し、次の対応 を実施した。
 - ①毎月の教授会で全新入生の出欠席状況を共有した〔資料 2-2-226〕。欠席が多くなってきた新入生に対してプレゼミ教員による臨時面談を依頼した〔資料 2-2-227〕。
 - ②成績不良

成績不良者の基準〔資料 2-2-228〕に基づき、早期からの成績不良改善を図った。

- ・成績不良者等には、成績発表のタイミングで該当学生及び保証人に連絡を行った。
- ・成績不良の原因確認、就学意思の確認及び履修指導等を実施した〔資料 2-2-229〕。
- ③出席不良

学期開始後3~5週間を目途に、出席状況不良の学生を抽出し、学生本人への状況確認と保証人への連絡を行った〔資料2-2-230〕。また、必要に応じ三者面談等を実施し、改善を図った。

(15) 退学者に対してアンケートを実施し、退学理由の分析を行っている。分析結果は全教 員にフィードバックした〔資料 2-2-231〕〔資料 2-2-232〕。

〔経営情報学研究科〕

院生が学修を支障なくできるように、教職員が情報共有し、連携して、個々人に柔軟できめ細かな支援を行っている。

(1)学位論文を、大学院の学びの集大成と位置づけしており、令和 4(2022)年度の事業計画内で「論文評価での A+評価率を 28%以上、A 評価率を 37%以上となるような教育をする」と方針を立て〔資料 2-2-304〕、次の学修支援を行った。

- ①「研究計画書」〔資料 2-2-305〕の提出を 2 回義務付けている。院生は、入学時、そして 2 年進級時に提出する。入学時は教務委員、2 年進級時は指導教員が、個々にコメントを記載し院生にフィードバックしている〔資料 2-2-306〕。
- ②院生の2セメスター開始時に、連続3日間に渡る論文基礎講座を開設し、執筆要領等を細かく指導している[資料2-2-307]。その結果、論文評価において、A+評価率が44%、A評価率が31%になった「資料2-2-308]。
- (2)図書資料の貸し出し、リファレンスサービスを品川サテライトにおいても実施している [資料 2-2-309]。
- (3)院生同士での勉強会用に教室を開放し、その旨を周知している〔資料 2-2-310〕。
- (4) オフィスアワーを実施している〔資料 2-2-311〕。
- (6) 博士課程や修了生には TA、修士課程在学生には SA を依頼できるよう整備した [資料 2-2-313]。
- (7) 履修相談の個別面談を行っている〔資料 2-2-314〕。
- (8) 退学者は数人に留まっている [資料 2-2-315]。 令和 4(2022) 年度は、4 人が退学をし、 理由は「業務都合」「家庭の事情」「他大学合格」であった [資料 2-2-316]。
- (9) 退学防止のために個別相談を実施している〔資料 2-2-316〕。

<自己評価>

- (1) SA の活用、教職課程履修者指導、オフィスアワーの運用、AL プログラムの開発、AL 祭の開催運営、学修サービスや学修支援室の運営、資格取得支援等により、学修支援を充実させている。
- (2)休退学防止に関しては、成績、履修及び出席状況等を把握の上、学生の状況を理解しながら組織横断的に教職協働で対応している。

(3) 2-2 の改善・向上方策(将来計画)

[全学]

令和 5(2023)年度のアクティブ・ラーニングセンター運営委員会にて、「学修支援に関する方針」及び「学修支援に関する計画」について検討する。

[経営情報学部]

令和 5(2023)年度事業計画に基づき、教職協働による学修支援を実施する。

- (1)「学修支援に関する方針」を策定する。
- (2) AL プログラムの活動内容や所要時間を検証し、改善する。
- (3) 多摩大 AL 祭では、発表プログラムの質向上を図る。
- (4)「学修サービス」「資格支援サービス」における資格取得支援を強化する。資格・検定 試験等を充実し、受講者数を増やす。
- (5) 修学支援新制度で定められている適格認定(GPA、出席率等を基準)を全学生に実施し、 ゼミ担当教員と連携して、成績不良者対応を早期に実施する。

[グローバルスタディーズ学部]

「学修支援に関する方針」を策定し、学生が円滑に学修を進められるよう支援を行う。

- (1)入学前学習を12月から行う。年内合格者には英語教育を実施し、学力の向上を図り、初年次教育へつなげる。
- (2) 履修相談を毎学期の1週目に実施し、学生の履修を補助する。
- (3) 履修モデル及び科目ナンバリングを活用し、体系的かつ順次性をもった学修を推進させる。
- (4)「学習支援室」の開室時間を増やした運営を継続し、英語学習を中心に支援を行う。
- (5) 初年次科目「プレゼミ」
 - ①入試結果をもとにクラス分けし、学修効果を向上させる。
 - ②グループワーク、ディスカッションをはじめとした PBL 授業を実施する。
 - ③TA を配置し、学修支援及び学修環境構築の支援を継続する。
 - ④図書館、「メディア・サービス」関連の教育を実施し、学修環境を構築する。
 - ⑤「プレゼミ」担当教員が1年生のアドバイザーを兼ねることになることから、担当教員にタイムリーに情報を提供し、休退学防止に活用する。
- (6) 読解力や、ICT 社会で必要とされるメディアリテラシーの向上を図る。
 - ①「ライブラリー・セミナー」の内容を精緻にする。
 - ②MOS 資格取得につながる「情報処理 I」及び「情報処理 II」の履修を推奨する。また、同科目の多クラス展開の効果を定量分析で検証する。
- (7) 初年次科目「日本語文章表現法」「グローバルスタディーズのための数学入門」では、 クラス分けテストをもとにクラス分けし、学修効果を向上させる。
- (8) プレゼミから2年次アドバイザー教員への引き継ぎを着実に行う。
 - ①2年次アドバイザー制度のコース必履修科目への移行支援
 - ②プレゼミ科目でのアドバイザー機能の改善
 - ③プレゼミから2年次アドバイザー教員への学生情報の引き継ぎ
 - ④プレゼミ教員及び2年次必履修科目教員への情報提供
- (9) 休退学防止
 - ①退学者アンケートを分析し、退学要因を検証し、各部門へフィードバックする。
 - ②新規サークルの立ち上げを呼びかけ、立ち上げ作業を支援する。
 - ③カウンセラーや保健室の利用率を向上させる。

〔経営情報学研究科〕

- (1)令和5(2023)年度に「学修支援に関する方針」及び「学修支援に関する計画」策定を検討する。
- (2)院生が良質な学位論文を提出できるよう、論文基礎講座を継続し、多摩大学院式論文の手引き「実践知論文作法」を院生に配付する。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

(1) 2-3の自己判定

「基準項目2-3を満たしている。」

(2) 2-3 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

<事実の説明>

[全学]

令和 4(2022)年 4 月に「就業支援タスクフォース会議」を学長主導のもと組織した。検討結果を「多摩大学・就業支援タスクフォース最終報告書」にまとめた〔資料 2-3-103〕。

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部]

教授会のもと、「就職委員会」[資料 2-3-101] を教職協働で組織し、副委員長には職員 1 人を選出し [資料 2-3-201]、原則毎月 1 回開催している。

就職委員会が「キャリア支援課」及びキャリア科目担当者と密に連携し、正課内外において多様な科目・講座を展開し、それぞれの教育目標に沿ったキャリア教育を計画的・組織的に実施している。

また、就職活動やキャリア形成の強力なサポートのために、専門的知識とネットワークを有する「相談員」を配置し、1年次から卒業後まで、学生一人ひとりの状況に応じた相談、助言を行っている。

[経営情報学部]

- (1) 基本方針「資料 2-3-102〕
 - ①「就職に強い大学」を多摩大学の旗印に掲げる。
 - ・「脱・出会いがしら就職」を目指す。
 - ・より早期の着手・内定を目指す。
 - ・全ての施策や事業を、「学生からみた就職活動プロセス」をベースに組み直し、教職 協働で取り組む。
 - ②「就職の質」

多摩大学と親和性のある(多摩大学の卒業生を受け入れていたりする企業など)企業や、 長期的に働ける企業に就職できることを「就職の質」の高まりと考えている。

- ③「多摩パブリック人材」と「多摩企業人材」を輩出する多摩大学を目指す。具体的には、各自治体の市役所、国家・地方公務員、インフラ関連企業、生活協同組合、農業協同組合、病院、信用金庫のほか、主に多摩地域に本社を置き事業展開をする多摩地域の優良企業や「多摩ブルー・グリーン倶楽部」(「基準A」参照)会員企業などを指す「資料 2-3-104]。
- (2) 令和 4(2022) 年度は、「就職委員会」〔資料 2-3-101〕を教員 8 人、職員 3 人の委員で運営した〔資料 2-3-105〕。
- (3) 令和 4(2022) 年度就職活動結果
 - ①就職希望者 275 人のうち、98.2%にあたる 270 人が就職決定者となった [資料 2-3-106]。

- ②11人の「多摩パブリック人材」を輩出した〔資料 2-3-104〕。
- ③「多摩ブルー・グリーン倶楽部」の企業に4人が入社した〔資料2-3-104〕。
- (4) 教職協働の就職支援活動
 - ①キャリア職員が書類、進路相談、面接練習等の個別対応を行っている〔資料 2-3-107〕。
 - ②個別の面談に関しては、外部委託の「相談員」2人〔資料2-3-108〕含めた就職担当職員と学生の二者面談を中心に、必要に応じてゼミ担当教員が加わる三者面談を行っている。令和4(2022)年度は、学生が提出した「進路希望カード」〔資料2-3-119〕に基づき、3年生314人と二者面談(一部教員を交えての三者面談)を行った。面談率は87.7%であった〔資料2-3-110〕。
 - ③保証人向け就職セミナー「親時代から新時代へ~よりよい就活をするためにできることは何か~」を、対面形式で開催した(12月4日)。51組75人の保証人と学生の参加があった〔資料2-3-111〕。
 - ・同日、文化放送キャリアパートナーズ就職情報研究所から講師を招聘し、「2023 年卒の現状から見た 2024 年卒の就職・採用戦線」を題目に講演を実施した。
 - ・当日のアンケートでは、59人から回答を得た。
 - ④就職委員会主催「学内業界研究セミナー」を、教職協働で開催した(10 月 30 日)〔資料 2-3-112〕。
- (5) キャリア支援講座(2、3、4年生対象)

学生に対する各種の就職支援講座を開催した。コロナ禍の影響が徐々に縮小傾向になることにあわせ、オンラインと対面を分けた対応を行った。

- ①4 年生に対する学内合同企業説明会等は、学生と企業のニーズ双方を勘案し、対面とオンライン開催を併用した。学内業界セミナー・合同企業説明会、IT 業界企業説明会を計 15 回開催した〔資料 2-3-113〕。
- ②求人紹介エージェントのオンライン Web 面接会は、事前ガイダンスやオンライン研修を含めて5月に6回行った[資料2-3-114]。
 - ・事前ガイダンス(5月11・12日)
 - ・オンライン研修(5月16・17日)
 - ·面接会(5月20日)
 - ・不合格者に対する事後の「個別面接対策」(5月24日)
- ③多摩地区 19 大学による「オンライン合同企業説明会」は、9 月 14~16 日の 3 日間に わたり開催し、全日程とも午前 3 ターム、午後 3 タームであった。19 大学全体の参加 者総数 431 人中、本学の参加者は 17 人であった〔資料 2-3-115〕〔資料 2-3-116〕。
- ④今日、社会全体で求人紹介エージェントの存在が大きくなっている。学生にとって適切なエージェントを選択することは困難であろうと考え、適切な新卒エージェントを選択し、「求人紹介会」を1回実施した〔資料2-3-117〕。

(6)3年生への支援

- ①「証明写真撮影会」を3回実施し(6月10日、11月21日、12月16日)、合計133人が写真撮影を行った〔資料2-3-118〕。
- ②「就活ミニセミナー」「個社説明会」を 14 回企画した。内、10 回に学生が参加した〔資料 2-3-119〕。

- ③業界研究セミナーを6回実施した(11月6日、12月16日、2月16日、2月17日、2月22日、2月24日)実施した〔資料2-3-120〕。
- ④「学内業界研究セミナー」を就職委員会主催で開催した(10月30日)(前述)[資料2-3-121][資料2-3-122]。
- ⑤「模擬面接会」を2回実施し(2月7日、3月24日)、44人が参加した[資料2-3-123]。

(7)キャリア正課科目

- ①インターンシップ
 - (ア) いわゆるワンデーインターン(令和 4(2022)年度までの呼称)である公募型インターンシップへの参加を広く呼び掛けた。
 - ・就職情報会社の担当者を招聘し、説明を行った。
 - ・担当教員は、参加する目的の確認、その意味、事後の振り返り、その後の就職活動への有効活用についての授業を実施した。
 - (4) 長期のインターンシップへの参加も強く呼び掛けた。
 - ・「インターンシップ I・II」の履修者は127人(大学推薦型49人、公募型78人)、 単位修得者は99人となった(大学推薦型45人、公募型54人)[資料2-3-124][資料2-3-125]
 - ・日数別の集計では、次のとおりの結果となった。
 - ・10 日以上のインターンシップ参加者 10 人
 - ・5 日以上のインターンシップ参加者 117 人
- ②キャリア支援プログラム

「キャリア・デザイン I」(2 年次春)「キャリア・デザイン II」(2 年次秋)「キャリア・デザイン III」(3 年次春)「キャリア・デザイン IV」(3 年次秋)を配置した。

- ・就職・採用環境の理解、就職環境の全体像、書類作成、面接試験の臨み方、自己表現の仕方、業界理解・企業理解等についての教育に力点を置いた。
- ・「キャリア・デザイン IV」では、教職協働で講義科目を運営した。SPI 模擬試験の体験受検、筆記試験や一般常識試験、自己 PR、就活におけるマナー等に加え、時事的な情報を提供する授業を展開した〔資料 2-3-126〕。
- (8) 令和 4(2022) 年度「学生満足度・学生生活実態調査」

同調査における自由記述では、「就職・キャリアに関する支援体制」に関し、良い評価が 多々記述されており〔資料 2-3-127〕、満足度の高さが感じられた。

- ①個別の丁寧・親身な対応(61件)
- ②手厚い対応(31件)
- ③キャリア講座の充実(17件)

〔グローバルスタディーズ学部〕

(1) 基本方針〔資料 2-3-202〕

学生がグローカルに活躍できる知識と技能を身につけられる教育を提供し、学修成果を 意識しつつ各種プログラムやイベント等を充実し、学生が満足して就職できるよう一人 ひとりに寄り添った支援を行う。

(2) 令和 4(2022) 年度は、「就職委員会」を教員 5 人、職員 2 人の委員で運営した〔資料 2-

3-201]。

(3) 就職支援活動

- ①3 年生に関してはキャリア支援課職員による全学生対象の面談を実施した〔資料 2-3-203〕〔資料 2-3-204〕。また、4 年生早期内定取得者 4 人による「キャリア・サポーターズ」を組織し、学生同士での相互サポートを促進した〔資料 2-3-205〕〔資料 2-3-206〕〔資料 2-3-207〕。
- ②4 年生に関しては、各学生の就職活動状況の把握に努め、進捗にあわせた支援・指導を行った〔資料 2-3-208〕。
- ③学生と企業の接点を強化するために、「業界セミナー」「合同企業説明会」「学内選考会」を実施している〔資料 2-3-209〕。令和 4(2022)年度卒業生に対しては、総計 13 日間実施した。企業のべ 96 社ならびに学生のべ 254 人が参加し、のべ 5 人の学生が内定を取得した〔資料 2-3-210〕。
- ④学生の就職活動を個別に支援する「学内求人フェア」[資料 2-3-211]を3回実施した。
- ⑤進路未決定の卒業生や早期退職した卒業生(卒業後3年以内)にはキャリア支援課で就業支援サービスを提供している〔資料2-3-212〕。令和4(2022)年度は、コロナ禍で進路変更を余儀なくされた卒業生や転職希望の卒業生への支援も行った〔資料2-3-213〕 〔資料2-3-214〕。
- ⑥「就業支援タスクフォース会議」との関係において、全学的な卒業生とのネットワーク構築や在学生・卒業生双方にとって有用な支援の議論に参画し、学生に勧めたい企業や学長の戦略経営塾参加企業とのネットワークを活用した就職・進路支援を検討した〔資料 2-3-215〕。

(4)キャリア支援講座等

- ①3 年生を対象にキャリア支援講座を通年で開講し、具体的な就職活動支援を行った〔資料 2-3-216〕。
 - ・講座への出席が重要だと学生に周知徹底し〔資料 2-3-217〕、キャリア支援講座の開講曜日・時間を固定し、正課科目の時間割に明記して参加を促進した〔資料 2-3-218〕。
 - ・対面、ハイブリッド、オンラインを効果的に活用してプログラムを実施し、コロナ 禍における採用試験に適応できるようオンライン面接対策を加える等、内容も工夫 した〔資料 2-3-219〕〔資料 2-3-220〕。
 - 講座終了時には学生にアンケートを実施した〔資料 2-3-221〕。
- ②秋学期に3年生希望者対象の「ホスピタリティ・ツーリズム・アドバンスコース」を 開催し、13人が受講した〔資料2-3-222〕。
- (5) 正課キャリア科目〔資料 2-3-223〕
 - ①1 年生以上を対象に「キャリア形成論」〔資料 2-3-224〕、「キャリア・アプローチ」〔資料 2-3-225〕、「日本語文章表現法」〔資料 2-3-226〕を設置している。
 - ②2 年生以上には「国内インターンシップ概論」〔資料 2-3-227〕、「国内インターンシップ実習 I」〔資料 2-3-228〕〔資料 2-3-229〕、「グローバル企業とキャリアデザイン」〔資料 2-3-230〕「ホスピタリティ・マネジメント I・II・III・IV」〔資料 2-3-231〕を設置している。
 - ・国内インターンシップ実習におけるインターンシップ先との提携は年度ごとに覚書

- の形で更新している。受け入れ企業・団体・行政機関等と相談・調整を重ね、できるかぎり 10 日間以上実施することとした [資料 2-3-232] [資料 2-3-233]。
- ・令和 4(2022) 年度は学生 36 人が履修登録し、30 人が受け入れ企業・団体で実習した [資料 2-3-234]。
- ・インターンシップが実施できた学生は成果報告会に参加する〔資料 2-3-235〕〔資料 2-3-236〕〔資料 2-3-237〕。
- ③3 年生以上には「Internship Abroad」〔資料 2-3-238〕、「仕事と若者論」〔資料 2-3-239〕、「共通科目特別講義 III(進路のための学力アップ講座)」〔資料 2-3-240〕を設置している。「進路のための学力アップ講座(A)」に関しては、筆記試験の重要性が増すと判断し、秋学期通常科目と同じスケジュールで開講した〔資料 2-3-241〕。

[経営情報学研究科]

「多摩大学大学院院生支援委員会規程」[資料 2-3-301] に基づき「院生支援委員会」を教員 2 人、職員 1 人から組織し、年間 6 回開催している。就職の指導と支援、就職情報の収集に関する事項の審議・実施を教職協働で行っている [資料 2-3-302] [資料 2-3-303]。(1)社会人院生

社会人大学院であるため、キャリア支援は、高度な職業人として「次のキャリアパス」を創造することに主眼を置いている。院生の修了時の学修調査(回収率:73.0%)では、回答者の9割以上の修了生が「修得できた」「どちらかというと修得できた」と回答した「資料2-3-304」。

- (2) 留学生対応
 - ①日本国内で就職を希望する留学生に対しては、東京外国人雇用サービスセンターと連携し、「就職ガイダンス」を年2回実施した〔資料2-3-309〕。
 - ·第1回(6月14日) 参加者数11人
 - ・第2回(11月22日) 参加者数5人
 - ②東京外国人雇用サービスセンターなどの学外の合同説明会を周知している〔資料 2-3-310〕。
 - ③留学生に対して個別就職相談を行った〔資料 2-3-311〕。
 - ④留学生のネットワーク構築のため、留学生のつどいを2回開催し、日本での就業体験などの座談会を実施した〔資料2-3-312〕。
 - ⑤院生の修了時の満足調査(回収率: 73.0%)では、大学の就職支援について9割以上の留学生が、「満足・どちらかというと満足」と回答している〔資料2-3-313〕。

<自己評価>

就職支援体制を整備し、適切に運営している。

- (1) 両学部では、コロナ禍にもかかわらず就職希望者の約98%が就職をした。
- (2)大学院では、日本国内で就職を希望する留学生に対して、様々な支援を行っている。

(3) 2-3 の改善・向上方策(将来計画)

[経営情報学部]

(1) 就職する学生

就職意欲を醸成するとともに、教務・AL・学生委員会と情報を共有し、学生の就職活動「多様化」している現状を踏まえ、より適切な就職支援を行う。

- ①2年生以上を対象に、SPIや玉手箱などの適性検査の勉強会等の支援を行う。
- ②3年生の4月~7月に初回面談を行い、夏のインターンシップ選考対策を行う。
- ③「キャリア・デザイン IV」(3 年生対象)の授業内で「第1回業界セミナー」を秋学期 開始早々に開催し、就職活動のキックオフとして位置づける。
- ④ゼミ教員と担当職員が連携して学生の進路支援を行う。
- ⑤外部の「求人紹介エージェント」の活用を段階的に導入することが妥当かどうか検討する。

(2) 就職先

「出会いがしら就職」を避けるため、教職員が学生と一体となって情報の共有を図り、 支援する。

- ①心から学生を就職させたい企業リストを作成する。「多摩ブルー・グリーン倶楽部」、 大学推薦型インターンシップ参画企業を中心に、本学と良い関係を持つ多摩・神奈川 地域の優良中小企業をデータベース化し、その充実を図る。
- ②「3年以内離職状況調査アンケート」を通じて、離職の少ない企業を抽出する。

(3) インターンシップ

- ①インターシップ先の積極的な新規開拓を行う。
 - ・医療、介護、保育、IT、小売など、比較的長期のインターンシップが可能な企業を 中心に開拓する。
 - ・公募型インターンシップに参加した学生にヒアリングを行い、そのインターシップ 先の企業に大学推薦型インターンシップを提案する。
- ②2・3年生を対象に、インターンシップへの参加を広く呼び掛ける。
- ③大学経由のインターンシップ(さがまち、市役所系、キッザニア、社長の弟子入り等)を「T-NEXT」や掲示板等で積極的に広報する。

(4) その他

- ①証明写真の撮影や「進路希望カード」の回収は、3年生の早い時期に実施する。
- ②「就職先の企業アンケート」を毎年実施する。
- ③保証人に向けたセミナーを効果的に実施する。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)キャリア支援に関する「基本方針」の検証方法を検討する。
- (2) 全学生ならびに卒業生
 - ①キャリア支援に関する「基本方針」に沿って就業支援を実施する。
 - ②卒業生とのネットワークを構築する。また、在学生・卒業生双方にとって有用な支援を議論する。
 - ③本学部が学生に勧めたい企業、学長の「戦略経営塾」参加企業とのネットワークを活用する。
- (3)4年間のキャリア教育

①1 年生

- ・早期からの就業意欲を醸成する。
- ・就職活動の幅を広げる前提として、単位の計画的な修得、国際的な就職で求められる英語力の修得の必要性を意識させる。

②2 年生

- ・国内インターンシップ概論・実習の履修を促し、教職協働で手厚く指導を行う。
- ・3年次からのホームゼミを履修するよう指導する。

③3 年生

- ・キャリア支援講座等の支援プログラムを工夫し、出席を促進する。
- ・就職活動の早期体験の観点から、公募型インターンシップへの積極的な参加を促す。
- ・「ホスピタリティ・ツーリズム・アドバンスコース」を継続開講し、ポストコロナを 見据えて、学生の参加を促進する。

④4 年生

学生一人ひとりの就職活動状況を丁寧に追いながら、必要に応じてフォローアップ講習や個別指導を行う。

(4)企業への対応

インターンシップ先、内定取得先、卒業生在籍企業、湘南地域の企業を中心に、各企業 との良好な関係を深化させるとともに、地元商工会議所等との連携を推進する等、新た な企業開拓も進めていく。

[経営情報学研究科]

院生のキャリア形成の一環として、「MBA 特別講座」等の各種セミナーへの参加を勧める。 また、ジェロントロジーに関する講座を検討する。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

(1) 2-4の自己判定

「基準項目 2-4 を満たしている。」

(2) 2-4の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

<事実の説明>

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部] [経営情報学研究科]

教授会のもと、「学生委員会」〔資料 2-4-100〕〔資料 2-4-201〕、「院生支援委員会」〔資料 2-4-301〕が「学生課」等と連携し〔資料 2-4-101〕、学生生活を安定させる施策を実施している。委員会は、副委員長に職員 1 人を選出し〔資料 2-4-103〕〔資料 2-4-303〕、両学部では原則毎月 1 回委員会を開催している〔資料 2-4-102〕〔資料 2-4-202〕。

(1) 学生サービス・厚生補導

①学生の意見・要望をくみ上げてフィードバックする体制を構築している (「基準 2-6」 「基準 3-3」「基準 4-4」参照)。

- ②学生の学習時間の実態及び学修行動の把握を、「学修状況調査」にて組織的に行っている 〔資料 2-4-105〕 〔資料 2-4-211〕。
- ③両学部では、学生アンケートに、ディプロマ・ポリシー(以下、「DP」と略すこともある。)の「学修成果目標」項目の身につき具合に関する質問を適宜取り込んで実施し、学修成果の検証に役立てている〔資料 2-4-106〕〔資料 2-4-212〕。
- ④「多摩大学学則」に基づき、休学・退学・復学・除籍・転学部の手続きを適切に運用 している [資料 2-4-115] [資料 2-4-208]。
- ⑤懲戒に関しては、「多摩大学学生懲戒規程」〔資料 2-4-209〕に則り、明確に運用している。
 - ・同規程第5条に従い、学部長の指示により、同条第2項に基づき学生委員会で懲戒 の調査を行っている。
 - ・その上で、第7条に基づき教授会で審議を行い、学長が最終承認を行っている〔資料 2-4-116〕〔資料 2-4-210〕。
- (2)心身に関する健康相談、心的支援、生活相談
 - ①「多摩大学における新型コロナウイルス感染症対策指針」に基づき、日頃の対応について注意喚起、授業欠席者の教育的配慮、課外活動の管理強化等により、安全・衛生の対応を行った〔資料 2-4-133〕。
 - ②「多摩大学ハラスメント防止規程」〔資料 2-4-222〕に基づき、学長を委員長とする「ハラスメント防止対策委員会」〔資料 2-4-223〕を設置し、相談員の情報等を大学ホームページに掲載している〔資料 2-4-132〕。
 - ③全学生を対象として「学生教育研究災害傷害保険」に一括して加入している。また、「学研災付帯賠償責任保険(付帯賠責)」は任意での加入を推奨している〔資料 2-4-129〕〔資料 2-4-226〕。
 - ④優良なアルバイト情報を提供している「ナジック・アイ・サポート」の「学生アルバイト情報ネットワーク(aines)」でアルバイト斡旋を行っている〔資料 2-4-130〕〔資料 2-4-227〕。

(3) 経済的支援

- ①本学独自の奨学金として、「特別給費生奨学金」、「成績優秀者奨学金」、「海外留学奨学金」、「多摩チャレンジ奨学金」〔資料 2-4-134〕〔資料 2-4-230〕〔資料 2-4-231〕を設けている。
- ②授業料減免制度として「被災学生学費減免制度」〔資料 2-4-138〕、「私費外国人留学生学費減免制度」〔資料 2-4-139〕を設けている。
- ③「高等教育の修学支援新制度」に基づき、授業料減免を適切に行っている〔資料 2-4-144〕「資料 2-4-235〕。
- ④学外奨学金としては「独立行政法人日本学生支援機構」のほか、地方自治体や民間育 英団体等の奨学金について案内している [資料 2-4-142] [資料 2-4-236]。
- ⑤低金利の教育ローンの紹介をしている〔資料 2-4-237〕。

[経営情報学部]

令和 4(2022)年度は、「学生委員会」を教職員 8 人で構成し、11 回開催した〔資料 2-4-

102]。

- (1) 学生サービス・厚生補導
 - ①「新入生アンケート」〔資料 2-4-104〕、「学生満足度・学生生活実態調査」〔資料 2-4-105〕、「卒業生満足度調査」〔資料 2-4-106〕等を実施し、問題点を把握しその改善・解決に活用している。学生満足度調査の結果の活用に関しては、担当部門による分析・改善策を報告書としてまとめた〔資料 2-4-107〕〔資料 2-4-108〕。
 - ②「アイデア BOX」を多摩キャンパスの 2 箇所に設置している。また、オンラインでも 投稿できるようにしている。令和 4(2022)年度は 10 件の学生投稿があり、担当部門よ り回答を行った〔資料 2-4-109〕。
 - ③学業や社会活動において優れた業績を上げた学生を褒賞する制度を設けている〔資料 2-4-110〕。
 - ・「最優秀学生賞」7人〔資料 2-4-111〕
 - ・「成績優秀学生賞」119 人〔資料 2-4-112〕
 - ・「優秀学生賞」295 人〔資料 2-4-113〕
 - ・「社会・研究活動賞」10人・8団体〔資料2-4-114〕
- (2)心身に関する健康相談、心的支援、生活相談
 - ①「保健室」に看護師資格を有する職員 1 人を置き、平日は 9~17 時に開室している〔資料 2-4-122〕。
 - ・コロナ禍対策では、体調不良者は新型コロナウイルス感染の疑いがあるため、保健 室では療養せずに帰宅または自宅待機させた。そして、届の提出により出席扱いと する教育的配慮を継続した。
 - ・対面授業がメインとなったことから、「保健室」利用回数は令和3(2021)年度比34.0% 増となった [資料 2-4-123]。
 - ②「学生相談室」は臨床心理士のカウンセラー2人を置いている。授業期間中は週4~5日、長期休業期間は週1~2日開室している〔資料2-4-124〕。
 - ③大規模震災に備え、学生の安否確認及び迅速な対応を行うため、安否確認システム利用訓練を実施している〔資料 2-4-126〕。
 - ・春学期は7月12日に実施し、90.2%の学生が参加した〔資料2-4-127〕。
 - ・秋学期は12月20日に実施し、82.7%の学生が参加した〔資料2-4-128〕。
 - ④アパート・マンションに関し、指定学生寮や近隣の不動産会社の資料を大学ホームページに掲載し、案内をしている〔資料 2-4-131〕。
- (3)課外活動支援

多摩大学経営情報学部学生会所属の学生団体が活動しており〔資料 2-4-118〕、学生委員会が支援している〔資料 2-4-146〕。

- ①学生満足度・学生生活実態調査に寄せられた意見を踏まえて〔資料 2-4-119〕、サークル新設に関する告知等を行った結果、新たに6つのサークル団体の設立につながった 〔資料 2-4-120〕。
- ②「多摩祭」(学園祭)は対面で実施し、1,260人の参加があった〔資料2-4-121〕。
- (4) 経済的支援 ~ 令和 4(2022) 年度の実績
 - ①本学独自の奨学金〔資料 2-4-134〕。

- ・「特別給費生奨学金」では、28人に対して695万円を支給した〔資料2-4-135〕。
- ・「成績優秀者奨学金」(前述)では、119 人に対して 775 万円を支給した〔資料 2-4-136〕。
- ・「海外留学奨学金」、13人に対して270万円を支給した〔資料2-4-137〕。
- 「多摩チャレンジ奨学金」では、1人に対して40万円を支給した〔資料2-4-145〕。

②授業料減免制度

- ・「被災学生学費減免制度」では、2人に対して 105万円の学費を減免した〔資料 2-4-140〕。
- ・「私費外国人留学生学費減免制度」では 20 人に対して 409 万円 5,000 円の学費を減免した〔資料 2-4-141〕。
- ③「独立行政法人日本学生支援機構」の奨学金は、給付奨学金 52 人、貸与奨学金(第一種) 38 人、貸与奨学金(第二種) 105 人が新規採用となった〔資料 2-4-143〕。
- ④「高等教育の修学支援新制度」(授業料減免)では 125 人が採用され、7,558 万 2,000 円の学費を減免した〔資料 2-4-144〕。

[グローバルスタディーズ学部]

令和 4(2022) 年度は、「学生委員会」を教職員 6 人で構成し、計 10 回開催した〔資料 2-4-202〕。

(1) 学生サービス・厚生補導

- ①「学生満足度・学生生活実態調査」「学修状況調査」「卒業生アンケート」等を実施し、 組織的に問題点を把握し、その改善・解決に活用している〔資料 2-4-203〕〔資料 2-4-204〕「資料 2-4-205〕。
- ②在学生とのコミュニケーションとして「Suggestion Box」を設置している。令和4(2022)年度は1件の学生投稿があった。その要望をくみ上げ、ギア付きの自転車を学生用に導入した〔資料 2-4-206〕。
- ③1年生の学生生活の不安解消を目的に、1年生必履修科目「プレゼミ」の導入に合わせて、担当教員に「アドバイザー」機能を付与した。授業と連動させる形で、学生の面談等を通じて相談に乗れる体制を整えている〔資料 2-4-207〕。
- ④褒賞に関しては、卒業時に、4年間を通じて学園祭・学生自治会・サークル活動・ボランティア活動等で活躍が顕著な学生を「課外活動賞」にて表彰している〔資料 2-4-238〕。
- (2)心身に関する健康相談、心的支援、生活相談
 - ①「保健室」に看護師資格を有する職員1人を置き、平日8:50~17:30で開室している 〔資料2-4-218〕。令和4(2022)年度の利用者はのべ227人であった〔資料2-4-219〕。
 - ②学生相談室「カウンセリングルーム」は「保健室」と連携し、臨床心理士のカウンセラー2人を置いている〔資料2-4-220〕。
 - 週3日のカウンセリングを実施している。
 - ・令和2(2020)年度以降は、オンライン・電話での対応も行っている。
 - ・ 令和 4(2022) 年度の利用者はのべ 126 人であった 〔資料 2-4-221〕。
 - ③ハラスメント防止に向けて学内にポスターを掲出し〔資料 2-4-224〕、日本語・英語併記のリーフレット〔資料 2-4-225〕を作成し、配布している。

- ④ホームページ上の「学生アルバイト情報ネットワーク」(前述)に加え、「アルバイト掲示板」〔資料 2-4-228〕に情報を掲示している。
- ⑤1 人暮らしの学生については、指定学生寮の情報提供を行っている〔資料 2-4-229〕。

(3)課外活動支援

学部の学園祭「SGS Festa」運営や、サークル活動等の課外活動は、「学生会」が中心となって運営している。学生委員会・学生課が課外活動の活性化を積極的に支援しており 〔資料 2-4-213〕、資金援助も行っている〔資料 2-4-214〕。

- ①課外活動の中心である「学生会」は、イベントの企画運営や他大学との交流、そして、 地域貢献活動を進めている〔資料 2-4-215〕。
- ②学園祭「SGS Festa」は、「実行委員会」が中心となり、「地域に根付いた大学」というコンセプトで運営している。令和 4(2022)年度は新型コロナウイルスワクチンの普及等を鑑み、飲食提供を行わないことを条件に、対面で実施した〔資料 2-4-216〕。
- ③サークル活動は、各サークル代表からなる「サークル連合」が統率している。令和 4(2022)年度は、15 サークルが活動した〔資料 2-4-217〕。
- (4)経済的支援 ~ 令和 4(2022)年度の実績
 - ①本学独自の奨学金は、116人に対し、合計 1,655万円を支給した〔資料 2-4-233〕。
 - ②「被災学生学費減免制度」は、1人に対し45万円を支給した〔資料2-4-234〕。
 - ③「高等教育の修学支援新制度」の採用者は 58 人であった。そのうち、継続採用が 41 人、新規の高校採用が 15 人、新規の在学採用が 2 人であり、3, 253 万 4,600 円の学費を減免した〔資料 2-4-235〕。

[経営情報学研究科]

教職協働で運営する「院生支援委員会」を6回開催した〔資料2-4-302〕。

- (1)院生サービス・厚生補導
 - ①「ダイレクト・コミュニケーション」を年2回実施している〔資料2-4-307〕。
 - ・各入学期の院生代表及び副代表より大学への意見・要望をくみ上げている。
 - ・改善の実施状況を院生にフィードバックし、また、改善後の満足度や意見を聞くことにより、PDCAサイクルを構築している。
 - ②編入、転入学生は、令和5(2023)年5月1日時点で在籍していない。
- (2) 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談
 - ①「保健室」「学生相談室」は、経営情報学部と共用し、「衛生委員会」を通じて情報を 共有している〔資料 2-4-319〕。
 - ②品川サテライトでの緊急時は、近隣のクリニックへ誘導している〔資料 2-4-320〕。
 - ③品川サテライトにおいても、「新型コロナウイルス感染対策ガイドライン」に基づき、 安全面・衛生面の対策を講じた。
 - ・授業は、対面式とオンライン式で参加するハイフレックス授業を展開している〔資料 2-4-321〕。
 - ・ソーシャルディスタンスを保つため、教室定員を設け、対面式で受講する院生を制限している〔資料 2-4-322〕。
 - ・ラウンジ入り口に検温器、消毒液を設置するとともに、各教室出入り口に消毒液を

設置し、来校する院生に検温・消毒を徹底している〔資料 2-4-323〕。

・各教室、ラウンジに抗ウイルスの空気浄化装置を設置している〔資料 2-4-324〕。

(3) 経済的支援

- ①厚生労働省の「専門実践教育訓練給付金」の指定講座になっている〔資料 2-4-311〕。
- ②「特待生奨学金」制度を導入し、入学試験時の成績優秀者に対して 2 年間で 100 万円の授業料を減免している [資料 2-4-312]。令和 4(2022)年度は、希望者 22 人に対して4 人を該当者とした [資料 2-4-313]。
- ③「学部卒業生奨学金」「修士課程修了生奨学金」制度を導入し、多摩大学学部卒業生や 多摩大学大学院修了生に対して入学金 30 万円を免除している〔資料 2-4-314〕。令和 4(2022)年度は、該当者がいなかった。
- ④コロナ禍で収入が減った院生に関して、「学生等の学びを継続するための緊急給付金 (10万円給付)」の申請を「独立行政法人日本学生支援機構」に対して行った〔資料 2-4-315〕。令和 4(2022)年度は、希望者 1 人に対して 1 人を該当者とした〔資料 2-4-316〕。
- ⑤「私費外国人留学生学費減免制度」を導入し、私費外国人留学生に対して授業料の3 割(30万円)を減免している〔資料2-4-317〕。令和4(2022)年度は、希望者14人に対 して9人を該当者とした〔資料2-4-318〕。

<自己評価>

学生サービス、厚生補導のための組織を設置し、様々な支援を適切に行っている。

(3) 2-4 の改善・向上方策(将来計画)

[経営情報学部]

「手作り感」のある多面的な指導・教育により、学生の満足度を高める。

- (1) 学生の課外活動や社会活動を積極的に支援し、自主的・組織的な運営につなげる。
- (2) 学生満足度では、「満足・やや満足」で86%以上を目指す。
- (3)日本学生支援機構や奨学金・授業料減免制度等の活用により、経済的サポートの充実を図る。
- (4) 学生相談室を再整備し、利用促進を図る。

[グローバルスタディーズ学部]

相談しやすい環境づくりを進め、学生の意見をくみ上げ、満足度を高める。

- (1)「保健室」、「学生相談室」、教員、「アドバイザー」、「ピアサポーター」や他部門との連携をより強化する。
- (2) 学生課外活動を活性化し、学生の自律を支援する。特に、新規のサークル数の大幅増を目指す。
- (3) カウンセラーや保健室の利用率を向上させる。
- (4)学生満足度調査の「入学後の満足度」に関して、「満足」のみで 50%以上、「満足」と「やや満足」を合わせて 75%以上を目指す。

[経営情報学研究科]

院生のニーズに対応し、きめ細かな支援を充実させて行く。

- (1) 各期の院生代表との「ダイレクト・コミュニケーション」、留学生との「院生のつどい」を毎期開催する。
 - ①提起された課題を、迅速に、可能な範囲で実現する。
 - ②提起された課題に関しての結果を次回の会議で発表し、PDCA サイクルを回す。
- (2) 専門実践教育訓練給付サポートを継続実施する。
- (3) 教員も含めた交流会の開催を毎期開催し、院生同士の親交を深める。また、同窓会と現役生の交流会の開催を検討する。
- (4)院生サービスの満足度では、「満足+どちらかというと満足」で80%以上を維持する。

2-5. 学修環境の整備

- 2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理
- 2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用
- 2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性
- 2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理
 - (1) 2-5の自己判定

「基準項目2-5を満たしている。」

(2) 2-5の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

2-5-(1) 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

<事実の説明>

- (1)2 学部 1 研究科が、2 つのキャンパスと 2 つの都心サテライト [資料 2-5-101] で展開している。
 - ①多摩キャンパス:経営情報学部、経営情報学研究科を設置している。
 - ②湘南キャンパス:グローバルスタディーズ学部を設置している。
 - ③品川サテライト:経営情報学研究科が授業に使用している。
 - ④九段サテライト:大学運営会議や「インターゼミ」等、全学で利用している。
- (2) 校地、校舎、体育施設、研究室等の施設設備を、法令を遵守し、施設・設備計画〔資料 2-5-102〕に基づき適切に整備し、かつ有効に活用している。
- (3) 学生・教職員の安全性・快適性・利便性の向上を図っている。コロナ禍対策は、令和 2(2020) 年度以降、適切に実施している。
- (4) 校地~本学全体の校地面積は44,913 m²である「資料2-5-103」。
 - ①多摩キャンパスの校地面積は30,538 ㎡、そのうち屋外運動場敷地は8,631 ㎡である。
 - ②湘南キャンパスの校地面積は14,375 m²、そのうち屋外運動場敷地は1,618 m²である。

(5)校舎

両キャンパスの概要については資料のとおりである〔資料 2-5-104〕。

両キャンパスの校舎は、平成元(1989)年以降の建築であり、新耐震基準を満たしている [資料 2-5-105][資料 2-5-201]。

- ①多摩キャンパスの校舎は、教室、教員研究室、図書館、アリーナ、学生食堂、コンビニ及び学生サークル棟で構成している〔資料 2-5-106〕。
 - ・A 棟に屋内スポーツ「アリーナ」(1,294 ㎡)を整備している。
 - ・B棟3~4階に図書館を配置している。図書館内にALの支援環境を整えている。
 - ・学生交流スペースとして「T-Studio」を設けている。「T-Studio」の1階はセブン-イレブン、2階は講義スペースとしている。
 - ・年に1回、教職員幹部協働でキャンパス内を視察し、点検・課題発見を行い〔資料 2-5-107〕、施設・整備計画を作成している〔資料 2-5-102〕。
 - ・ 令和 4(2022) 年度は次のとおり整備を行った〔資料 2-5-108〕。
 - ・キャンパス外構アスファルト舗装
 - ・スクールバス乗り場屋根設置
 - ·D 棟エレベータリニューアル
 - ・教室操作卓更新(22室の教室)
 - 出席管理端末更新
 - ・243~245 教室ガラス入り扉更新
 - ・守衛棟、構内エレベータ、構内各所防犯カメラ、Web カメラ設置
 - 防災備蓄品補充
- ②湘南キャンパスの校舎は、教室、教員研究室、図書館、体育館及び学生食堂で構成している「資料 2-5-202」。
 - ・メイン入り口の左右に、図書館と「アゴラ」(学生交流スペース)を配置している。
 - ・学生の交流促進、情報提供
 - ・教室以外の場所に大型液晶モニターを設置し、学内配信システムを運用している。
 - ・空きスペースに机椅子を設置している。
 - ・令和4(2022)年度は次のとおり整備を行った〔資料2-5-203〕。
 - ・研究室エアコン更新
 - ·E棟·W棟の共用部改装
 - ・W 棟 2・3 階トイレ改装
 - ・W棟2階バルコニー防水
 - 学生食堂(中庭側)防水
 - ・E 棟天井材更新
 - ・テニスコート周りのフェンス設置
 - ・情報処理室(W201・202 教室)更新
 - ・学内ネットワークシステム更新
 - ・学生貸し出し用パソコン及び保管庫整備
- (6)運動場・体育施設
 - ①多摩キャンパスに、テニスコート2面と芝生のグラウンドと屋内「アリーナ」がある 「資料2-5-109」。
 - ②湘南キャンパスに、885 ㎡の体育館と、テニスコート2面がある〔資料2-5-202〕。
- (7) 教員研究室
 - ①多摩キャンパス〔資料 2-5-110〕

- ・教員の研究室は、個室及びブース形式の共同研究室となっている。
- ・教員と学生との対話や教職員相互の交流場所として、「ラウンジ」がある。
- ・共同研究室入り口には「FD コーナー」を設け、教員の情報スキルの向上に努めている。パソコンやプリンタを設置している。

②湘南キャンパス〔資料 2-5-202〕

- ・教員の研究室として、専任教員には個室、非常勤講師には非常勤講師室(「Faculty Corner」)を設けている。
- ・教員同士、教員と学生が交流しながら学修を推進できるように「Faculty Corner」 及び「学生ラウンジ」を設置している。「Faculty Corner」にはパソコンやプリンタ を設置している。

(8)環境への配慮

- ①多摩キャンパスでは、アリーナの照明の LED 化を推進し、既存の照明台数を 3 割削減、年間のエネルギー使用量を半減させつつ、各種競技大会等で求められる基準以上の照度の確保を達成するなど高効率化等、省エネ化を進めている〔資料 2-5-111〕。
- ②湘南キャンパスでは、効率化、省エネ化のために空調機の更改を行っている〔資料 2-5-203〕。

(9) 防火防災

①多摩キャンパス

- ・消防計画〔資料 2-5-112〕に基づき、避難訓練を実施している〔資料 2-5-113〕。
- ・大規模地震対策では、緊急地震速報装置〔資料 2-5-114〕を設置している。
- ・「防災マニュアル」〔資料 2-5-115〕を整備し、帰宅困難になった学生のために保存水・乾パン・アルミブランケット・防災トイレ等を 2 日分備蓄している〔資料 2-5-116〕。

②湘南キャンパス

- 緊急地震速報装置〔資料 2-5-204〕を設置している。
- ・「防災マニュアル」[資料 2-5-205] を整備し、非常用の保存水・乾パン・アルミブランケット・防災トイレ等を備蓄している [資料 2-5-206]。
- ・自衛消防訓練を実施している〔資料 2-5-207〕。

<自己評価>

学修環境整備の基礎として、また、施設・設備の安全性確保のため、老朽化した設備の 修繕、更新を計画的に進めている。

2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

<事実の説明>

「アクティブ・ラーニングセンター(ALC)」は、全学的な AL 活動の支援・推進を目的とし、「AL 企画部門」「FD 部門」「図書館部門」「メディア・サービス・セクション」の 4 部門で構成される〔資料 2-5-401〕。ここ「基準 2-5」では、「図書館部門」と「メディア・サービス・セクション」について次のとおり記述する。

《図書館部門》

図書館部門では、従来の図書館機能に加え、学生の自律的な学習(個人学習、共同学習)の支援に注力している。

[多摩キャンパス]

- (1) 令和 4(2022) 年度の概略 [資料 2-5-402]
 - ①総入館者数 3 万 7,543 人、学生入館者数 3 万 4,678 人、学生一人当たりの入館数 23.2 回。
 - ②総貸出冊数 4,537 冊、学生への貸出総数 3,645 冊、学生一人当たりの貸出冊数 2.4 冊。
 - ③開館時間は、月~金8:50~19:50、土8:50~16:50である〔資料2-5-403〕。
 - ④機関リポジトリ「Tama 蔵」のアクセスは1万1,959件、ダウンロードは3万2,580件であった〔資料2-5-404〕。
 - ⑤学生アルバイトは 11 人が登録している。平日 17:00-20:00、土曜日 8:50-16:50 に各日 2 人が図書館業務を行っている「資料 2-5-405」「資料 2-5-406」。
- (2) 令和 4(2022) 年度の主たる取り組み
 - ①図書館利用の促進を目的として次のイベントを実施した。
 - ・書評コンクール (1年生部門・上級生部門) [資料 2-5-407]
 - ・大手書店が開催した、学生アルバイトによる「選書ツアー」〔資料 2-5-408〕
 - ・福袋イベント [資料 2-5-409]
 - ・貸出冊数上位学生の表彰〔資料 2-5-409〕
 - ②利用しやすい環境作りに努めた。
 - ・資格、就職活動、準新着図書など各種コーナーの設置〔資料 2-5-410〕〔資料 2-5-411〕
 - ・オンラインワークブースの運用〔資料 2-5-405〕
 - ・4 階の食堂側入り口の開放〔資料 2-5-405〕
 - ・館内に設置したインタラクティブディスプレイにて、常時、DVDを上映した。
 - ・ウォーターサーバーの設置 [資料 2-5-410] [資料 2-5-411]
 - ③近隣住民およびリレー講座外部受講生への図書館開放を再開した〔資料 2-5-405〕。
 - ④図書館関連の規程を改訂した〔資料 2-5-412〕。

[湘南キャンパス]

- (1)令和 4(2022)年度の概略
 - ①総入館者数1万1,565人、学生入館者数7,430人、学生一人当たりの入館数11.9回。
 - ②総貸出冊数 4,734 冊、学生への貸出総数 3,652 冊、学生一人当たりの貸出冊数 5.8 冊 [資料 2-5-501]。
 - ③開館時間は、月~金 8:50~18:00、土8:50~14:00 である〔資料 2-5-502〕。
 - ④機関リポジトリ「Tama 蔵」のアクセスは1万6,620件、ダウンロードは2万7,414件であった「資料2-5-503」。
- (2) 令和 4(2022) 年度の主たる取り組み
 - ①学生の図書館利用促進のため、次のサービス及び施設整備を行った〔資料 2-5-504〕。
 - ・デジタルサイネージによる広報と情報配信

- ・期間限定特設コーナーの設置
- ・学生選書ツアーの実施
- ・卒業研究に取り組む学生に対する図書館からの特別支援
- エントランス側ガラス面へのブラインド設置
- ・カウンター席(8 席)及び個室型ブース席(2 席)の設置
- ・プリンタ及びコピー複合機(白黒・カラー)の入れ替え
- ・学生用パソコン4台の設置
- ・飲料自動販売機1台の設置
- ②業務効率化及び利用者便宜向上を目的とする次の改善を実施した〔資料 2-5-505〕。
 - ・必要な論文を個別に入手・提供する DDS(ドキュメント・デリバリー・サービス)を 導入した。
 - ・藤沢市民の図書館利用証の発行手数料を無料とした。
- ③新入生必修のプレゼミにて「ライブラリー・セミナー」を実施した〔資料 2-5-506〕。
 - ・春学期「図書館(資料)の使い方」(4月20日):参加者148人
 - ・秋学期「オンライン・データベースの使い方を学ぶ」(10月12日):参加者126人
- ④鎌倉湘南地区の神奈川県立高等学校が実施する「鎌倉湘南地区高校生インターンシップ」(就業体験)について、8月3~5日の3日間、高校生2人を受け入れた〔資料2-5-507〕。
- ⑤図書館の利用に関する規程を改定した〔資料 2-5-508〕。

《「メディア・サービス・セクション」(情報サービス)》

[面キャンパス]

両キャンパスのそれぞれの情報センター等の状況は〔資料 2-5-601〕のとおりである。

- (1)授業・AL を支援するため、動画を利用した講義の実施に必要なマルチメディア装置を 整備している。
- (2) 学生向けポータル・学修支援サイト「T-NEXT」を構築、整備している〔資料 2-5-602〕。 また、必要な操作マニュアルを学生に提供している〔資料 2-5-701〕。
- (3)ネットワーク、セキュリティの管理・運営に継続的に注力している。学内のネットワーク環境は、「学内 IT 環境メンテナンス計画」に基づき定期的にメンテナンスしている〔資料 2-5-603〕。
- (4) 学内外に高速インターネット回線を整備している。また、無線 LAN 基地(最大 1,300Mbps) を多数設置し、学内全域で常時ネットワークを通じて学修できる環境を提供している。 無線 LAN には「WPA2」通信方式を採用、また、ネットワークセグメントごとにファイアウォールを設置している〔資料 2-5-603〕。
- (5) レポート作成や課題提出を支援するため、オンデマンドで印刷可能な「学生プリントシステム」を導入している [資料 2-5-604] [資料 2-5-702]。

[多摩キャンパス]

(1)令和4(2022)年度に、全教室を対象に操作卓のリプレイスを実施した。大・中教室14教室に共通操作のマルチメディア操作卓、小教室9教室に共通操作のインタラクティブデ

ィスプレイを導入し、プレゼンテーション等を簡単に行えるよう整備した〔資料 2-5-605〕。

- (2) 学生の情報リテラシー資格の取得支援として、学内資格受験環境を整備している。令和 4(2022) 年度は「MOS」試験をのべ39人が受験した。「Jobpass」試験は、のべ46人が受験した〔資料2-5-606〕。
- (3)令和元(2019)年度より、VDI 環境(リモートデスクトップシステム)を整備し、ノートパソコン配布サービスに代わる新たな ICT 環境の構築を行った。VDI 環境とは、デスクトップ環境を仮想化させて、パソコンのデスクトップ環境をサーバ上に集約してサーバ上で稼働させる仕組みのことである。
 - ①VDI 環境へのアクセスで、学内外を問わないパソコン環境が可能となっている。
 - ②自宅に持ち帰り可能なパソコン20台のレンタルも実施している〔資料2-5-607〕。
- (4) パソコン教室は2 教室あり、241 教室は30 台のハイスペックパソコンを配備し、242 教室はシンクライアント環境で通常スペックで80 台を配備している。なお、242 教室に関しては、令和3(2021)年度に、40 台分の0Sのバージョンアップ及び老朽化対策のためのシステムリプレイスを実施している〔資料2-5-608〕。

[湘南キャンパス]

- (1)授業・AL を支援するため、教室備え付けのパソコンを整備している。そして、ディスプレイもしくはプロジェクタを設置している [資料 2-5-703]。
- (2) 令和 4(2022) 年度に、学生向け印刷環境「Cloud On-Demand Print」システムを更改した[資料 2-5-702]。
- (3) ネットワーク、セキュリティ等の IT 管理・運営に継続的に注力している。キャンパス 内の IT 環境は、「湘南キャンパス学内 IT 環境メンテナンス計画(2021~)」に基づき定期 的にメンテナンスしている [資料 2-5-704]。令和 4(2022) 年度は、次を実施した。
 - ①「情報処理室」である W201、W202 教室のパソコンをリプレイスした〔資料 2-5-705〕。
 - ②ネットワークシステムの更改を行い、フロアスイッチの入れ替えを実施した〔資料 2-5-706〕。
- (4) オンラインの有効性を活用するため、「Zoom Education ライセンス」の契約を継続した 〔資料 2-5-707〕。併せて、Zoom 使用方法等に関するマニュアルを活用した〔資料 2-5-708〕。
- (5) 令和 4(2022) 年度入学生から配布パソコンを廃止し、パソコン自己準備(BYOD (Bring Your Own Device)) 化を実施した [資料 2-5-709]。
 - ①入試合格者に対し、パソコン必携、パソコン購入及び推奨スペック等に関する事項に ついて連絡した。
 - ②新入生向けに、パソコン及び各種システム取扱説明書を準備した。
 - ③パソコン必携による学修を推進した。

[品川サテライト]

地方在住者や、コロナ禍や勤務先の都合により対面受講できない院生のために、ハイフレックス授業(オンラインと対面の同時進行型授業)を行っている。オンライン受講の院生

も対面受講しているときと同じような教育効果を得られるよう ICT 環境を整備している [資料 2-5-301]。

<自己評価>

- (1)図書館の施設を十分に整備し、運営・管理が適切になされていると評価している。
 - ①自発的学修に取り組む学生に向けた適切かつ有意義な自習環境を提供している。
 - ②利用者ニーズに配慮したきめ細かいサービスを提供している。
- (2) セキュリティが確保された情報サービス施設設備を適切に整備し、学生や教員の教育研究活動環境を恒常的に改善し、その機能を有効に活用している。
- (3) 資格支援の支援、ICT 教育支援及び学生の自主性を促す ICT 環境の構築について、適切かつ計画的に実施できている。

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

<事実の説明>

- (1) 多摩キャンパスはバリアフリー化している〔資料 2-5-801〕。
- (2) 湘南キャンパスの E 棟は平成 19 (2007) 年度開学時建築のため、バリアフリー化している。 開学前よりある W 棟はバリアフリー化対策として、車椅子昇降装置を設置している [資料 2-5-851]。
- (3) バリアフリー以外の施設・設備の利便性については、「2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理」、「2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用」にて上述。

<自己評価>

バリアフリーをはじめとして、施設・設備の利便性を向上させている。

2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理

<事実の説明>

授業を行う学生数を、組織的に検証、改善してきた。

[経営情報学部]

- (1) きめ細かい学修指導を実施するため、演習科目(「ホームゼミ」、「プレゼミ」)、語学科目の一部(「English Expression」)、実技系科目(「スポーツ」)の1クラス当たりの学生数を概ね20人以内とし、少人数単位でクラスを編成した〔資料2-5-901〕。
- (2) 上述以外の授業の状況については、50 人以下が全授業の約 33.3%、200 人以上の大人数での授業は全授業の17.6%となっている [資料 2-5-902]。
- (3) 多クラス展開している科目は、全体の約33.3%である〔資料2-5-903〕。

[グローバルスタディーズ学部]

少人数でクラスを編成し、教育効果の向上につなげている「資料 2-5-951]。

- (1)1年次必修科目「AEP(英語集中講義)」では、1クラス当たりの履修者数を原則20人以下としている。
- (2) 履修者 50 人以下の授業の割合は、96.1%となっている。

〔経営情報学研究科〕

教育効果を十分に上げられるよう、少人数教育を実践している。

- (1) 履修者数の上限は、選択必修科目の論文演習で20人、論文演習以外の選択必修科目で30人、一般科目に関しては25人と設定している〔資料2-5-302〕。
- (2) コロナ禍から、各授業の定員〔資料 2-5-303〕を独自に設けている。各授業担当教員が 対面授業希望の院生を事前調査し、定員を厳守している〔資料 2-5-304〕。

<自己評価>

教育効果を十分上げられるような適切な学生数管理及び授業数管理を行っている。

(3) 2-5 の改善・向上方策(将来計画)

(1)校地、校舎、設備等

両キャンパスとも、校舎完成後から30年以上が経過し、施設・設備の修繕工事が必要になってきている。定期的に巡視を行い、施設・設備計画に基づき、校地、校舎、設備、実習施設等の教育環境を適切に整備し、学生・教職員の安全性・快適性・利便性の維持・向上及び、学生満足度の向上を図る。また、コロナ禍が収束したとしても、引き続き学内の衛生環境の整備に努める。

- ①多摩キャンパスでは、令和 4(2022)年度より開始した新コースに所属する学生、附属 校特待生が優先的に利用できる教室改修(243、244 教室)を予定している。
- ②湘南キャンパスでは、E棟のエアコン更新を予定している。
- (2) 図書館部門

図書館サービスの強化及び学修環境の整備を行い、貸出冊数の増加を図り、学生の情報 収集力の向上及び能動的学修を支援する。

- ①多摩キャンパス
 - ・図書館、データベース、電子図書の利用方法を学生に説明する機会を設ける。
 - ・教員と連携し、学部の授業の特色に合った蔵書を増やす。
 - ・メディアサービス、学修サービスと協働しながら、学生生活全般のサポート機能を 強化する。
 - ・学生アルバイトを活用し、学生にとってより魅力的な図書館を目指す。
- ②湘南キャンパス

キャンパス内で最も快適で自学自修に集中できるスペースを目指す。

- (3)「メディア・サービス・セクション」(情報サービス)
 - ①多摩キャンパス
 - ・「学内 IT 環境メンテナンス計画」に従い、環境整備を実施する。
 - ・ 令和 5(2023)年度に、学生プリントシステムをリプレイスする。
 - ②湘南キャンパス
 - ・E201 教室・E301 教室、W202 教室・W203 教室の AV 機器を更改する。
 - ネットワークシステムのコアスイッチを更改する。
- (4)授業を行う学生数の適切な管理

教育効果を十分上げられるよう、適切な管理を行う。

- ①経営情報学部では、多クラス展開により、1授業の少人数化を推進する。
- ②グローバルスタディーズ学部では、教育効果を十分に上げられているかの検証を進める。
- ③経営情報学研究科では、少人数教育を行いながらも、院生の希望に応じられるようクラスサイズの検討を継続する。

2-6. 学生の意見・要望への対応

- 2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用
- 2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の 意見・要望の把握・分析と検討結果の活用
- 2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用
 - (1) 2-6の自己判定

「基準項目2-6を満たしている。」

(2) 2-6の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

[全学]

<事実の説明>

少人数教育を標榜している多摩大学の特徴は学生と教職員の距離が近く、コミュニケーションが良好な点にあり、事務局の窓口だけではなく、指導教員や身近にいる教職員に気軽に相談したり、意見を言えたりできる雰囲気が醸成されている。また、学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用は、学生委員会・学生課による様々な学生アンケート等が起点になっているケースが多く、各部門における実施・活用状況は次のとおりである。

[経営情報学部]

<事実の説明>

次の調査を実施し、その結果を基礎資料に現在の問題点を把握し、その改善・解決に向けて各種委員会等で活用している。

- (1)新入生の健康状況、学生生活、入学意識について調査する「新入生アンケート」を「T-NEXT」で実施している〔資料 2-6-101〕。
- (2)「学修状況調査」を「T-NEXT」を活用して全学年に対してオンラインで実施している〔資料 2-6-102〕。
 - ①教育施策の成果と課題を検証するため、学修状況に加え、DPの5つの「学修成果目標」の身につき具合等を調査した。
 - ②分析後、関係部門へ分析・改善検討の依頼を行った〔資料 2-6-103〕。
- (3)「学生満足度・学生生活実態調査」を「T-NEXT」で実施している〔資料 2-6-104〕。
 - ①大学生活の実態を調査した。
 - ②大学生活に対する満足度を調査した。
 - ③関係部門へ分析・改善検討を依頼し〔資料 2-6-105〕、各部門の分析結果を報告書として学生にフィードバックした。

- (4)「卒業生満足度調査」を「T-NEXT」で実施している〔資料 2-6-106〕。
 - ①どのような点に満足を感じ(あるいは不満を感じ)卒業していくのかを調査した。
 - ②教育施策の成果と課題を検証するため、DP の 5 つの「学修成果目標」の身につき具合等を調査した。
- (5)「アイデア BOX」を多摩キャンパスの 2 箇所に設置している。併せて、オンラインでも 投稿できるようにしている〔資料 2-6-107〕。

<自己評価>

各種調査等を活用し、学生の意見・要望の把握・分析を行っている。また、学生からの 意見、要望について、各部門が適切に対応し、フィードバックしている。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

教員によるアドバイザー制度やゼミ制度、職員の窓口対応等を中心に、小規模な学部の特性を活かし、きめの細かい要望のくみ上げや、学生支援を行っている。かかる風土において、「学生満足度・学生生活実態調査」、「学修状況調査」、「Suggestion Box」、「卒業生アンケート」等を実施している。

- (1)「学生満足度・学生生活実態調査」と「学修状況調査」を併せて、11 月から 1 月にかけて「T-NEXT」で実施している [資料 2-6-201]。
 - ①「学生満足度・学生生活実態調査」では、在校生の大学に対する満足度及び学生生活の実態を調査した。
 - ②「学修状況調査」〔資料 2-6-202〕では、在校生の学修状況を明らかにした。また、DPの「学修成果目標」等の達成状況を盛り込んで実施した。
 - ③多くの学生の意見を聞くためには回答率のアップが必要となる。
 - ・専任教員が学生の回答を促す工夫を行っている〔資料 2-6-203〕。
 - ・未回答者に関しては、個別に電話をし、また、ゼミ等を通じた働きかけを教員に依頼した[資料 2-6-204]。
 - ④調査実施後、関連部署にフィードバックを要請し、大学ホームページにて公開した [資料 2-6-205] [資料 2-6-206]。
- (2)「Suggestion Box」を校内入り口に設け、随時受け付けている。
 - ①大学に対する幅広い不満、疑問、意見をくみ上げるために実施している。
 - ②意見等を関連部署に送り、1 カ月を目安に結果を公表し、フィードバックしている〔資料 2-6-207〕。
- (3)「卒業生アンケート」を実施している〔資料 2-6-208〕。
 - ①大学生活や就職活動の満足度を調査するアンケートである。
 - ②DP の「学修成果目標」の達成状況を盛り込んで実施した。
 - ③実施時期は、秋卒業生対象は9~10月、春卒業生対象は2~4月であった。
 - ④調査実施後、フィードバックとして、大学ホームページにて公開した[資料2-6-209]。

<自己評価>

各種調査を活用し、学生の意見・要望の把握・分析を行い、主体的に改善やフィードバックを行っている。

[経営情報学研究科]

<事実の説明>

院生の意見・要望等を次の方法でくみ上げ、改善を実施した。

- (1)年2回「VOICE」(院生による授業評価)を実施している。
 - ①令和 4(2022)年度回収率:春学期:95.2%、秋学期:93.2%〔資料 2-6-301〕。
 - ②学内のフィードバック:教務委員会やカリキュラム小委員会にて分析し、以降のカリキュラム編成等に活用している[資料2-6-302]。
- (2) 「院生満足度調査」「学修調査」を 12~1 月に「T-NEXT」上で実施し〔資料 2-6-303〕、 回答率は、修士課程 85.3%、博士課程 50.0%〔資料 2-6-304〕となった。
 - ①「院生満足度調査」では、大学院全体に対する満足度、授業関係、研究指導、学生生活、施設関係等に関する満足度を調査した。院生支援委員会で分析し、項目ごとに、 各委員会と共有した。
 - ②「学修調査」では、DP に沿った各項目の修得度、キャリア形成度、学修時間を調査した。教務委員会で分析し、改善につなげている。
- (3)「修了者アンケート」を「T-NEXT」上で実施し〔資料 2-6-305〕、回収率は修士課程 73.0%、博士課程 0%となった〔資料 2-6-306〕。
 - ①「満足度調査」では、修了予定者の大学院全体に対する満足度、授業関係、研究指導、 学生生活、施設関係等に関する満足度を調査した。
 - ②「学修調査」では、DP 項目の修得度、キャリア形成度、学修時間等を調査した。
 - ③教務委員会でこれらの調査結果を分析し、改善につなげている。
- (4)「ダイレクト・コミュニケーション」を、オンラインで2回実施した[資料2-6-307]。
 - ①各入学期の院生代表及び副代表から、意見・要望をくみ上げている。
 - ②提案された事項を、院生・支援委員会にて状況把握し、項目ごとに各委員会と共有している。
 - ③改善可能な案件に関しては、直ちに改善を実施している [資料 2-6-308] [資料 2-6-309]。

<自己評価>

院生の評価や意見を適切に把握し、その分析結果を検証し、学修支援、院生生活、学修 環境の改善につなげる組織体制を整えている。

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

[経営情報学部]

<事実の説明>

コロナ禍の令和 2(2020)年度は、コロナ禍によって、授業を含む学事運営のほぼ全てを変更することになったことから、「学生満足度・学生生活実態調査」の「学修支援」「研究

支援」「教室」に関しては、満足度が低下する傾向が見られた。令和 4(2022)年度は、次のように、不満が解消しつつある〔資料 2-6-108〕。

- (1)「学修支援(授業・履修など)」に関する支援体制
 - ①令和3(2021)年度は過去4年と比較し、「満足」+「やや満足」の割合が最も低くなった。令和3(2021)年度までは、コロナ禍対策による教室定員の縮小より不満が増えたと分析していた。
 - ②令和 4(2022)年度はやや上昇した。
 - ・コロナ禍前の令和元(2019)年度の水準までには戻っていない。
 - ・履修方法に対する不満のコメントは半減しており、主たる不満要素は解消できているものと考えている。
- (2)「研究支援(ゼミ・論文指導)」に関する支援体制
 - ①コロナ禍においては、上記「学修支援」と同様、「研究支援」においても、学事運営が 影響していたと考えられた。
 - ②令和 4(2022) 年度は、令和 3(2021) 年度と比較し、やや上昇した。しかし、コロナ禍前の令和元(2019) 年度の水準までには戻っていない。
 - ③個別コメントでは、「満足」に関する意見が多く見られた。
- (3) 設備「教室」

教室定員を約半分にしたコロナ禍対策が終了したことや、定員 100 人前後の教室を 2 教室増やしたことから、満足度の向上を見込んでいた。しかしながら、「満足」+「やや満足」の割合が低下した。

- (4)「図書館」に関する支援体制
 - ①「満足」+「やや満足」の割合が83.2%と、令和3(2021)年度よりもさらに高評価を 得た。
 - ②満足の理由では、「蔵書が充実している」、「環境が良い・居心地が良い」、「設備・サービスが充実している」が多かった〔資料2-6-109〕。
- (5)「学修サービス」
 - ①学生の相談窓口として、平成29(2017)年4月に「学修サービス」を設置し、学修に限らず「よろず相談」を受け付けている。
 - ②令和4(2022)年度の「学修サービス」利用件数はのべ141件となった。
 - ③令和 3(2021)年度に「学修サービス」内に設置した「資格支援サービス」の利用者数 (SPI 講座受講者数)は 113 人となり、令和 3(2021)年度の 62 人から大きく上昇した [資料 2-6-110]。
- (6)「メディア・サービス」
 - ①学生の IT 関連の相談窓口として、「メディア・サービス」を設置している。
 - ②令和 3(2021)年度と比較し、「満足」+「やや満足」の割合はほぼ同数の 77.4%だった。
 - ③個別対応について「満足」との意見がある一方、「不満」の意見も一定数存在した〔資料 2-6-111〕。
- (7)学生による授業評価「VOICE」による、授業に対する満足度調査
 - ① 令和 3(2021) 年度秋学期の VOICE の平均値は 4.30 となった [資料 2-6-112]。
 - ②令和 4(2022)年度春学期の「VOICE」の平均値は 4.23 となり、令和 2(2020)年度春学

期、令和 3(2021)年度春学期と比べ、ほぼ同数値となった。令和 2(2020)年度春学期は完全オンライン授業、令和 3(2021)年度春学期及び令和 4(2022)年度春学期は完全対面授業と授業実施形態に変化があるものの、「VOICE」の数値に大きな変更はなかった [資料 2-6-113]。

<自己評価>

- (1) 令和 3(2021) 年度と比較し、「学修サービス」、「メディア・サービス」、「図書館」、「VOICE」 において良好な結果を得られた。
- (2)「学修」「研究」「教室」では、令和3(2021)年度より改善した部分はあるものの、コロナ禍以前の水準には戻っていない。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

「学生満足度・学生生活実態調査」結果〔資料 2-6-210〕等を、次のように活用した。

- (1)「学修(授業・履修等)」に関する支援体制
 - 令和 4(2022)年度は、教室の机の間隔を令和 3(2021)年度の 1.2mから 1mに緩和する等により、教室定員の増加を図ったことから〔資料 2-6-211〕、教室に関する不満が解消しつつある。
- (2)「研究(ゼミ・論文指導等)」に関する支援体制 令和 3(2021)年度に、各ゼミで実施している内容の部内広報を強化したことが、不満の 減少につながった。
 - ①「アゴラ」内にゼミ掲示板を新設し、運用した〔資料 2-6-212〕。
 - ②ゼミ選抜サイトを作成し、運用した〔資料 2-6-213〕。
- (3) 設備「情報処理室」
 - ①「情報処理室」のパソコン・什器等は、前回のリプレイス後8年以上が経過していた ため、学生から不満が表明されていた。
 - ②令和 4(2022)年度夏に「情報処理室」の改修が完了した〔資料 2-6-214〕。
 - ③電源等、細かな不具合についても対応した〔資料 2-6-215〕。
- (4) 学生による授業評価「VOICE」により、授業に対する満足度や評価を調査している。「VOICE」 の集計結果は、学生の自由記述とともに授業担当教員に連絡し、授業改善等の対応に活用している [資料 2-6-216]。
 - ①令和 4(2022)年度は、春学期及び秋学期、全てマークシートにて実施した〔資料 2-6-217〕〔資料 2-6-218〕。
 - ②「VOICE」平均値は、令和 4(2022)年度春学期 4.41、令和 4(2022)年度秋学期 4.49 であった(令和 3(2021)年度春学期 4.35、令和 3(2021)年度秋学期 4.37)[資料 2-6-219]。
 - ③「VOICE評価に対する教員からの応答」を学生にフィードバックしている。
 - ・同「応答」に関し、令和3(2021)年度春学期の「VOICE」からは、これまでの図書館での配架に加え、「T-NEXT Webシラバス」での公開を開始している。
 - ・学生がより迅速かつ複数チャンネルで「応答」を確認できることを可能とし、次学期以降の履修計画立案等に資することを目的としている〔資料 2-6-220〕。

・満足度調査において「学修支援(授業・履修)」に関する満足度が他の項目に比べ低いことから、本施策により学生の声への迅速な対応を実施することで、改善を図っている「資料 2-6-221」。

<自己評価>

「学生満足度・学生生活実態調査」、「VOICE」等により、学修支援に関する学生の意見等をくみ上げ、学修支援の体制改善に反映できている。

- (1)「学生満足度・学生生活実態調査」の「学修(授業・履修等)」、「研究(ゼミ・論文指導等)」に関する事項は、いずれも過年度の改善施策が機能し、満足度を維持できた。
- (2) 令和 4(2022) 年度の「VOICE」結果は、令和 3(2021) 年度数値を両学期とも上回った。また、新たなフィードバック方法の運用を開始できた。

[経営情報学研究科]

<事実の説明>

- (1)研究支援~「満足」+「どちらかというと満足」の回答比率 院生満足度調査では93.0% [資料2-6-310]、修了生満足度調査では88.9% [資料2-6-311]。
- (2)院生による授業評価「VOICE」
 - ①「VOICE」を年2回実施し、授業に対する満足度を調査している。
 - ②春学期の平均値は 4.77 [資料 2-6-312]、秋学期の平均値は 4.79 [資料 2-6-313] であり、高い満足度で推移している。
- (3) 論文に関する多摩大学院専用の指針等があると良いという提案が院生からあり、令和 3(2021) 年度に、教務委員会が中心となり、多摩大学院式論文指導ガイドブック「実践知論文作法」を作成した〔資料 2-6-314〕。

<自己評価>

- (1) 意見・要望をくみ上げる組織体制を構築している。
- (2) 高い満足度で推移している。

2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

<事実の説明>

[経営情報学部]

「学生満足度・学生生活実態調査」「アイデア BOX」等を活用し、学生の意見・要望の把握・分析を行い、フィードバックしている。

- (1)「学生満足度・学生生活実態調査」の結果において、支援体制では「課外活動」は「不満」・「やや不満」の比率が高めであり〔資料 2-6-114〕、分析・改善策を調査報告書に掲載した〔資料 2-6-115〕。
- (2) 「アイデア BOX」

令和 4(2022) 年度は 10 件の学生投稿があり、担当部門より回答を行った。公開の希望が

あったため、ホームページ上に公開した〔資料 2-6-107〕。

[グローバルスタディーズ学部]

「学生満足度・学生生活実態調査」「Suggestion Box」の実施・分析を起点に、学生の意見・要望の把握・分析を行い、改善やフィードバックを行っている。

(1)課外活動・サークル活動

「サークルが少ない」「興味を惹かれるサークルがない」等の意見が見られたため〔資料 2-6-222〕、サークルの作り方を分かりやすく解説したポスターを掲示し、新しくサークルを立ち上げる機運を醸成した〔資料 2-6-223〕。

(2) 奨学金等の経済的支援に関し、国の支援策も含めた経済的サポート制度の周知の要望があった〔資料 2-6-224〕。情報をポスター形式にまとめ、掲示した〔資料 2-6-225〕。

〔経営情報学研究科〕

学生生活に関する調査結果において、高い満足度で推移している〔資料 2-6-315〕。

- (1)健康管理・精神的悩み・ハラスメントその他生活上の問題に関し、「満足・どちらかというと満足」との回答は94%であった。
- (2)院生同士のコミュニケーションに関し、「大変・どちらかというとうまくいっている」との回答は90%であった。
- (3)日本人の院生とのコミュニケーションに関し、「大変・どちらかというとうまくいっている」との留学生の回答は88%であった。

<自己評価>

「学生満足度・学生生活実態調査」「アイデア BOX」「Suggestion Box」等による学生生活に関する意見・要望をくみ上げる体制を構築し、改善に活用し、適宜フィードバックしている。

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

<事実の説明>

[多摩キャンパス]

ゼミに所属する学生が実施したアンケート調査の結果〔資料 2-6-116〕を踏まえ、キャンパス内のスクールバス乗り場に照明付きの屋根を設置し、雨天時、猛暑時におけるスクールバス待ち時間の負担を軽減した〔資料 2-6-117〕。

[湘南キャンパス]

- (1)「学生満足度・学生生活実態調査」での意見を踏まえ、情報処理室の改修を行った〔資料 2-6-226〕。
- (2)「Suggestion Box」での提案をくみ上げて、キャンパス中庭に設置しているベンチの更新を行った〔資料 2-6-227〕。

[品川サテライト]

- (1)施設設備に関する満足度の調査結果は次のとおりであった〔資料 2-6-316〕〔資料 2-6-317〕〔資料 2-6-318〕。
 - ①院生満足度調査で「満足・どちらかというと満足」との回答が 88.0%であった〔資料 2-6-310〕。
 - ②修了生満足度調査で「満足・どちらかというと満足」との回答が 85.2%であった〔資料 2-6-311〕。
- (2) これまでの院生からの意見に基づき、オンライン受講の院生も対面受講と同じ学修効果を得ることができるよう、ハイスペックパソコン、ワコム(電子ホワイトボード)を導入した〔資料 2-6-319〕。

<自己評価>

学生の意見・要望をくみ上げ、課題を把握し、それに伴う予算措置を講じ改善している ことは評価できる。

(3) 2-6 の改善・向上方策(将来計画)

- (1) 学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用
 - ①建設的な意見・要望を引き出すアンケートに向けて、工夫・改善を行う。
 - ②学生の意見・要望の把握・分析を行い、検討結果の活用や関係者へのフィードバック ができるよう、組織横断的な運営を迅速に行う。
 - ③具体的な結果を学生にフィードバックし、満足度向上につなげる。
- (2)学修支援に関する PDCA
 - ①経営情報学部
 - ・「研究支援」や「ホームゼミ」の満足度向上を図る。
 - ・「教室」等に関しては、抜本的な施設改善に向けて、中長期的な計画を策定する。
 - ②グローバルスタディーズ学部

令和 5(2023)年度に予定している E301・E201・W202・W203 教室の改修においては、不便な点を改善するだけではなく、学修者本位の学修を推進できるように取り組む。

(3)学修環境に関する PDCA

学生・院生の意見・要望も踏まえ、施設設備等修繕及び更改計画の確認・更新を常に行い、中長期的に予算化の上、実行して行く。

[基準2の自己評価]

経営情報学部、グローバルスタディーズ学部及び大学院経営情報学研究科が、それぞれにアドミッション・ポリシーを定め、その周知を十分に行っている。アドミッション・ポリシーの周知は十分に行われている。同時に、学部の定員を着実に充足し、在籍者数を適切な範囲で管理している。

教職協働による学生への学修支援の計画立案を組織的に行い、実施体制を適切に整備・

運営している。

キャリア支援については教職協働で密に連携をとり、情報提供による相談・助言体制を 適切に整備・運営している。

学生生活の安定のため、大学独自の奨学金制度、健康相談、心的支援等の体制を整備し 適正に運営されている。また、適切な規模の図書館を有しており、十分な学術情報資料を 確保している。

学生の意見・要望を把握し、多面的な分析を行い、フィードバックを行う体制が構築され、学生満足度の向上が図られている。

基準 3. 教育課程

- 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
- 3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知
- 3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、 修了認定基準等の策定と周知
- 3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用
 - (1) 3-1 の自己判定

「基準項目3-1を満たしている。」

- (2) 3-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- 3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

<事実の説明>

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部] [経営情報学研究科]

学則上の教育目的を踏まえ、教育目標に沿って、育成する人材、学位授与方針を明確にし、平成28(2016)年度に両学部・大学院のディプロマ・ポリシー(以下、「DP」と略すこともある。)を改定した。

学則第1章 総則

(目的)第1条 多摩大学(以下「本学」という。)は、永年に及ぶ産業教育における経験を 基盤とし、国際化・情報化時代に即応して、学生に高度な外国語能力と世 界に通用する教養・最新の経営知識及び的確な情報処理能力を修得せしめ、 国際的ビジネスの場で活躍できる人材の育成を目指すとともに、わが国の 産業社会の健全たる発展に寄与する指導的人材を育成することを目的と する。

この育成する人材を、「学位授与方針」として DP にて明確に定め、学則第 40 条により学位を授与している。また、達成すべき「学修成果目標」を DP に明記している。

周知に関しては、本学のホームページで広く開示している。また、「学生ハンドブック」 等に記載している。

[経営情報学部]

本学部で育成する人材につき、学則第5条第2項で「経営情報学部は、企業経営、情報科学に関する学術と応用を教育研究し、高度の経営情報知識と、これを支える豊かな教養とを合わせ備えた創造的、実践的な問題解決能力を有する人材を育成することを目的とする。」と定めている。これに基づき、学則第40条第1号にて「学士(経営学)」を授与している。

- (1)学科ごとに DP を制定している [資料 3-1-101]。令和 4(2022)年度は、新カリキュラム にあわせて学科 DP を改定した [資料 3-1-102]。
- (2) 本学のホームページ [資料 3-1-103] や「学生ハンドブック」 [資料 3-1-104] にも掲載し、広く周知している。

(3) DP の「学位授与方針」は次のとおりである。

経営情報学部の教育課程においては、以下の学修成果目標を達成し「志」を実現できる力すなわち「学士力」を備え、学則に定める単位数などの卒業要件を満たした者に卒業を認定し、学位を授与する。

- (4) DP の「学修成果目標」は次のとおりである(項番は DP の原文のママ。)。
 - (1)知識と理解【グローカル社会に対する理解】基礎的な学力を養い、グローバルとローカルの関係性を意識しながら産業社会で発生する様々な問題に対処していける専門的能力を体系的に修得する。
 - (2)思考と判断【考え抜く力】現状を分析して課題を明らかにできる課題発見力、課題解決に向けたプロセスを明らかにして準備できる計画力、課題に対して新たな価値や解決方法を生み出せる創造力を修得する。
 - (3)関心と意欲【社会の発展に貢献する力】物事に積極的に取り組む主体性や目的に向かって周囲の人を動かしていける巻き込み力、失敗を恐れずに粘り強く行動していける実行力を身につけ、国際的ビジネスの場で活躍するとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に貢献できるようになる。
 - (4)表現と技能【役割分担により組織目標の達成に貢献する力】自分の意思をわかりやすく伝えることができる発信力や、聞き上手になって積極的に相手の意見を受け止められるようになる傾聴力、組織の中で自分がどのような役割を果たすべきなのかが理解できる状況把握力や協調性を身につけることで、コミュニケーション能力を高め、所属する組織や社会の活動に貢献できるようになる。
 - (5)高い志【環境対応能力と先進性】社会における多様な価値観や文化的な背景に対する理解や配慮ができる多様性や、社会のルールや約束を守ることができる規律性を 身につけ、社会の発展に積極的に関与していくという高い志を確立する。

[グローバルスタディーズ学部]

本学部で育成する人材につき、学則第5条第3項で「グローバルスタディーズ学部は、 文明・歴史・経済・多文化交流などに関する学術と応用を教授研究し、語学力を活用した コミュニケーション能力とグローバルな問題を解決できる能力を持ち、国際基準の知識と これを支える教養をもとにグローバルな舞台で活躍できる人材を育成することを目的とす る。」と定めている。「学位授与方針」をDPにて明確に定め、学則第40条第2号により学 位「学士(グローバルスタディーズ学)」を授与している。

(1) DPの「育成する人材」からの抜粋

グローバルスタディーズ学部では、「多摩グローカル人材」の具体像として、文化・社会・経済・多文化交流などに関する学術と応用を教育研究し、語学力を活用したコミュニケーション能力とグローバルな問題を解決できる能力を持ち、国際基準の知識とこれを支える教養をもとにグローバルな舞台で活躍できる人材を育成する。

- (2) DP を「学生ハンドブック」(Student Handbook) [資料 3-1-201] に記載し、また、大学ホームページ上で公表している [資料 3-1-202]。
- (3) DPの「学位授与方針」は次のとおりである。

グローバルスタディーズ学部の教育課程においては、以下の学修成果目標を達成し「志」

を実現できる力すなわち「学士力」を備え、学則に定める単位数などの卒業要件を満た した者に卒業を認定し、学位を授与する。

(4) DPの「学修成果目標」は次のとおりである(項番は DPの原文のママ。)。

(1)知識と理解【グローカル社会に対する理解】

基礎的な学力を養い、湘南地域や日本の文化・歴史・風土を学び、日本とは何かを説明するための専門的知識を修得する。また、日本とは異なる文化や習慣・価値観について、専門的知識を体系的に修得するだけではなく、これらを理解し受け入れることができる。

(2)思考と判断【考え抜く力】

現状を分析して、グローバルな課題を明らかにできる課題発見力、課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力、課題に対して新たな価値や解決方法を 生み出せる創造力を修得する。

(3)関心と意欲【社会の発展に貢献する力】

物事に積極的に取り組む主体性や目的に向かって周囲の人を動かしていける巻き込み力、失敗を恐れずに粘り強く行動していける実行力を身につけ、グローバルな舞台で活躍するとともに、国際社会の発展に貢献できるようになる。

- (4)表現と技能【役割分担により組織目標の達成に貢献する力】 日本語だけではなく、グローバルな共通語としての英語によるコミュニケーション 能力を修得し、情報や知識を複眼的、論理的に分析し表現できるようになる。
- (5)高い志【環境対応能力と先進性】

大学卒業後も自律・自立して学習できる生涯学習力と、グローバルな課題解決の一端を担い、地球社会の未来に貢献しようとする姿勢を身につけ、自らを律しながら 湘南地域からグローバルな舞台まで活躍し、地球社会の未来に貢献できるようにな る。

[経営情報学研究科]

本研究科は、「広い視野に立って精深な学識を授け経営情報学の研究教授を通じて創造的問題解決能力を有する高度な専門的職業人の育成」を使命・目的としている(大学院学則第1条〔資料3-1-301〕)。また、本研究科が育成する人材像を、「イノベーターシップ人材」と定義した。「イノベーターシップ人材」とは、「現代の志塾」という教育理念に基づき、現在の課題に正面から向き合い、持続可能な未来の社会を創造する高い志を見出し、それを実現できる高い専門能力のある人材である。この人材像に沿って、令和元年(2019)年度に、教授会を経て、大学運営会議〔資料3-1-302〕にて新たなDPを制定した。

- (1)「学位授与方針」を明確にした DP を、本学のホームページで広く開示している〔資料 3-1-303〕。また、「院生ハンドブック」に掲載し〔資料 3-1-304〕、院生に周知している。
- (2) DPの「学修成果目標」は次のとおりである(項番は DP の原文のママ。)。
 - (1)知識と理解(最新ビジネス環境への理解) 最新ビジネス環境を取り巻く時代認識と世界認識を理解し、ビジネス環境で生じる 課題を発見できる先端的な専門的能力を体系的に修得する。
 - (2)思考と判断(実践知考具をもとにした知的課題解決力)

常に変化するビジネス環境での課題を解決するために、デジタル技術を活用して、ありうる社会を考える未来構想力、課題に対して新たな価値や解決方法を生み出せる戦略力・創造力を修得する。

(3)関心と意欲(社会を変革しようとする力)

最新ビジネス環境の変革に積極的に取り組む主体性やビジネスでの目的・目標達成のために社会や企業を変革しようとするイノベーターシップをもとに種々の状況でも粘り強く考え突破できる実行力を身につけ、ビジネスの場で活躍するとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に貢献できるようになる。

(4)表現と技能(イノベーションを創り出す力)

高度の情報収集能力と分析能力をもとにして、自分の意思を論理的に表現できる発信力や、積極的に相手の意見を取り入れることができる傾聴力、組織の中での自分の役割を理解できる状況把握力や協調性を身につけることで、コミュニケーション能力を高め、所属する組織や社会の活動が継続的に発展すること貢献できるようになる。

(5)志(環境理解力と関与力)

多様な価値観を理解しながら、より幸福な社会を実現するために、社会の発展に積極的に関与していくという高い志を確立する。

<自己評価>

教育目的を踏まえた DP を策定し、周知している。

- 3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了 認定基準等の策定と周知
- 3-1-③ **単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用** [経営情報学部][グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

単位認定、進級及び卒業認定等は「多摩大学学則」(第31、32、34、38、39条)[資料3-1-001]、「多摩大学学則別表第1」[資料3-1-002]、「多摩大学履修規程」[資料3-1-003]に定めている。そして、シラバス[資料3-1-105][資料3-1-203]にも記載している。

- (1) 履修及び成績については、「学則」第31、34条に定め、単位修得の認定は、「学則」第32条〔資料3-1-001〕に定めている。詳細は、「多摩大学履修規程」〔資料3-1-003〕に定めている。教員は、シラバス〔資料3-1-106〕〔資料3-1-204〕に科目ごとの評価方法・基準を記載し評価を行っている。
- (2) 進級及び卒業は、「学則」別表第1 [資料 3-1-002] に定めている。
 - ①経営情報学部

「学則」別表第1に基づいた「カリキュラム表」〔資料3-1-107〕で周知している。

- ②グローバルスタディーズ学部
 - •「シラバス」[資料 3-1-203] 及び「Student Handbook」で学生に周知している。
 - ・ 令和 4(2022)年度カリキュラムにおいて、3 年次への進級要件を定めた [資料 3-1-205]。

(3) 早期卒業は、「学則」第39条第2項〔資料3-1-001〕に定めている。早期卒業について 必要な事項は、「多摩大学早期卒業規程」〔資料3-1-004〕、両学部の「早期卒業細則」〔資 料3-1-108〕〔資料3-1-206〕に定めている。

(4) GPA の幅広い活用

- ①経営情報学部では、成績優秀者奨学金や、早期卒業、退学勧告、学科選択の学生選考、ホームゼミ選抜、教職課程の履修許可等に GPA を活用している [資料 3-1-109]。成績優秀者奨学金制度は、特に学力が優れている者に対する奨励を目的としており、各学期の評定平均 GPA 上位者 20 人に対して奨学金を支給する制度である。
- ②グローバルスタディーズ学部では、成績優秀者奨学金・海外留学奨学金の選考、早期卒業希望者の認定要件及び卒業時成績優秀者表彰等及び一部の科目履修条件等に GPA を活用している〔資料 3-1-207〕〔資料 3-1-208〕。

<自己評価>

単位認定、進級及び卒業認定等の基準を適切に定め、成績評価と併せ、厳正に適用している。また、GPAは、積極的に運用している。

〔経営情報学研究科〕

<事実の説明>

学位の授与方針・授与基準は、「多摩大学大学院学位規程」〔資料 3-1-305〕に定めている。同規程等に基づき、教授会での審査の評価方針を定め、各教員へ周知徹底している〔資料 3-1-306〕。修了要件の基準等に関しては、次のとおりである。

- (1)単位認定、修了要件の基準を「多摩大学大学院学則」第34条、第37条〔資料3-1-307〕 にそれぞれ適切に定め、「院生ハンドブック」〔資料3-1-308〕にも記載し、厳正に適用 している。
- (2) 修了要件は、「学則」別表第1〔資料3-1-309〕に適切に定めている。
- (3)「学則」別表第 1 に基づいた「カリキュラム表」を院生に配り周知している〔資料 3-1-310〕。
- (4)シラバス内の記述・評価基準等を、研究科長や教務委員が厳重に第三者チェックしている「資料 3-1-311〕「資料 3-1-312〕。
- (5)修士課程の学位論文には、「修士論文」と「特定課題研究論文(実践知論文)」の2種類を設けている〔資料3-1-313〕。
 - ①学位論文の評価基準を定め、ホームページにて公表している〔資料 3-1-314〕。
 - ②学位論文に必要な実践的アドバイスを院生が数多く受けられる仕組みを構築している。
 - ・1 人の主査教員(専任教員)、1 人以上の副査教員(専任教員)から「論文指導」を受けることを院生に徹底している〔資料 3-1-315〕。
 - ・副査教員は、専任教員の他、研究科教授会の議を経て客員教授からも選出することができる(学則第32条第4項第5項)[資料3-1-316]。
 - ③「論文審査」は、予備審査〔資料 3-1-317〕と最終審査〔資料 3-1-318〕の 2 段階からなっている。最終審査の結果をもとに教授会内の「審査委員会」で審議・決定している〔資料 3-1-319〕。

- ④論文審査の客観性・透明性を高めるために、「予備審査会」での指導項目を本人へフィードバックし、その結果を指導教員へ報告している〔資料 3-1-320〕。
- (6) GPA は、私費外国人留学生学費減免の選考〔資料 3-1-321〕に活用している。

<自己評価>

DP を踏まえた単位認定、学位論文の評価基準、修了要件等について、適切に定め適用している。

(3) 3-1 の改善・向上方策(将来計画)

設定している単位認定、進級及び卒業認定等の基準に基づき、厳正に運用する。経営情報学部では、令和5(2023)年度カリキュラム改定に伴い、DPを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を必要に応じて検討する。

3-2. 教育課程及び教授方法

- 3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知
- 3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性
- 3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成
- 3-2-④ 教養教育の実施
- 3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施
- (1)3-2の自己判定

「基準項目3-2を満たしている。」

(2)3-2の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

<事実の説明>

[全学]

- (1) 基準 3-1 にて記述したとおり、本学の教育目的、そして、両学部・大学院の教育目的、 育成する人材像を学則で明確に定めている [資料 3-2-001] [資料 3-2-301]。学則の目的 及び DP [資料 3-2-002] を踏まえて、カリキュラム・ポリシー(以下、「CP」と略すこと もある。)を策定した [資料 3-2-003]。
- (2) CP の策定やカリキュラム編成は、教授会が定める方針に基づき「教務委員会」[資料 3-2-004] [資料 3-2-302] にて審議する事項となっている [資料 3-2-201]。
- (3) 平成 28 (2016) 年度に両学部・大学院の CP を大学運営会議で改定した「資料 3-2-303」。
- (4)経営情報学部では、令和元(2019)年度以降、学科ごとに CP を策定している [資料 3-2-101]。令和 4(2022)年度には新カリキュラムにあわせて学部・学科 CP を改定し [資料 3-2-102]、学生が修得すべきスキル・能力とカリキュラムの関係をより明確にした。
- (5) CP の明示・周知は、大学ホームページ等で行っている [資料 3-2-003]。また、「学生ハンドブック」 [資料 3-2-101]、「Student Handbook」 [資料 3-2-202]、「院生ハンドブック」 [資料 3-2-304] 上で明示・周知している。

(6)シラバスを電子データ化し、学修支援システム「T-NEXT」にアップし、学生の利便性を 高めている。

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部]

令和元(2019)年度に「第三期中期計画」〔資料 3-2-005〕を策定し、年度ごとにブレイクダウンした「事業計画」〔資料 3-2-006〕〔資料 3-2-103〕の達成を念頭に、CP に沿った委員会運営、教育課程運営を行っている。

[経営情報学研究科]

基準 3-1 で記述した DP の「イノベーターシップ人材」を育成し、5 つの「学修成果目標」を達成するための CP を策定した。

(1)CP からの抜粋

持続可能な未来の社会を創造する高い志を見出し、それを実現できる高い専門能力のあるイノベーターシップを学修できる包括的な科目群を展開する。

(2)全ての科目において、DP の 5 つの「学修成果目標」に挙げられるスキル・能力の何れかと紐づけて、シラバスに明記している〔資料 3-2-305〕。

<自己評価>

教育理念、教育目標に沿った CP の明確化を組織的に行っている。また、CP をホームページ、学生ハンドブック等で明示し、周知している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

<事実の説明>

CPとDPの一貫性を「見える化」するため、両学部では「カリキュラム・マトリックス」を作成している。なお、「カリキュラム・マトリックス」は、DPの「学修成果目標」について、各科目の単位修得との整合性を「見える化」した表でもある。「カリキュラム・マトリックス」等に関連する工夫は、次のとおりである。

[経営情報学部]

「教務委員会」が中心となり、令和 5(2023)年度カリキュラムにおける「カリキュラム・マップ」[資料 3-2-104] 及び「カリキュラム・マトリックス」[資料 3-2-105] を作成した。

[グローバルスタディーズ学部]

「カリキュラム・マップ」[資料 3-2-203] を作成し、学修内容の順次性と科目間の関連性を明示している。学生と教職員がカリキュラム全体の構造を俯瞰できるようにすることで、体系的な履修を促している。

[経営情報学研究科]

各科目のシラバスの到達目標において、当該科目の修得がどの学修成果目標の達成に寄与するかが記述されている[資料 3-2-305]。CP に基づいて科目の新設や廃止等のカリキュ

ラム編成が行われている〔資料 3-2-306〕。

<自己評価>

両学部では、「カリキュラム・マトリックス」・「カリキュラム・マップ」を作成し、CP と DP の関連性、整合性、一貫性を客観的に「見える化」している。大学院では、各科目のシラバス中の到達目標にある学修成果目標を介して、DP と CP の関連性が示されている。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

<事実の説明>

〔全学〕

- (1)シラバス [資料 3-2-106] [資料 3-2-307] は、本学専任教員によるチェックを実施し、 適切に整備している [資料 3-2-107] [資料 3-2-308]。
- (2)「教室外学修の指示」については、シラバスの記載項目に「準備学習の時間(予習・復習等 1.5 時間以上)及び具体的な内容」を設けている〔資料 3-2-106〕〔資料 3-2-307〕。
- (3) 履修登録単位数の上限を設定する「キャップ制」を設け、学生の自発的な学修時間の確保を促し、単位制度の実質化を図っている〔資料 3-2-108〕〔資料 3-2-204〕〔資料 3-2-309〕。
- (4) 令和 4(2022) 年度は、TAC 株式会社、京王観光株式会社、株式会社小田急不動産、昭島市役所に意見聴取を実施した。各部門の学位授与方針や教育方針についての意見交換を行った〔資料 3-2-109〕。
- (5)「教学マネジメント会議」を開催し、IR 情報を利用した教育課程(カリキュラム等)の 適切性等について検証している〔資料 3-2-110〕。

[経営情報学部]

- (1) 新カリキュラム
 - ①令和 4(2022)年度までのカリキュラムでは、「産業社会科目群」・「問題解決学科目群」に分類し、科目の位置付けを明確にしてきた〔資料 3-2-111〕。令和 5(2023)年度新カリキュラムでは、「基礎科目群」・「専門科目群」に分類を変更した〔資料 3-2-112〕。
 - ②学科 CP [資料 3-2-101] に沿った科目群「情報デザイン」「分析」「開発」「アジアユーラシア」「地域」「経営」等を用意し、体系的に科目を配置した〔資料 3-2-104〕。
- (2) 平成 31(2019) 年度カリキュラム以降、ホームゼミを必修科目化し、プレゼミ・ホームゼミ・インターゼミからなる4年間を通じてのゼミ教育を徹底している[資料3-2-113]。
 - ①学部 CP の「ゼミを中心とした体系的な履修カリキュラム」の具体的実践である。
 - ②2年次から4年次までの3年間は、担当教員の指導のもと、特定の専門分野を深堀りするための演習を行っている。
- (3) 学部 CP の「実践的知識獲得のための講義カリキュラム」実現のため、以下を実施した [資料 3-2-114]。
 - ①大学での学修に必要とされる基本的なスキルや態度を身に付けるため、主に 1、2 年生を対象とする「基礎教育科目群」内に「準必修科目群」を用意し、履修必須とした 〔資料 3-2-114〕。

- ②2年生以降の学科所属後における専門教育の強化のため、「専門科目群」内に「系」を用意し、体系的な履修が可能となるように科目を配置した〔資料 3-2-114〕。
- ③「アクティブ・ラーニングプログラム」を分野別、体系的に構築した〔資料 3-2-115〕。
- ④キャリア科目を体系的に配置した〔資料 3-2-114〕。

[グローバルスタディーズ学部]

「基礎教育科目」と「専門教育科目」の二つから、教育課程を体系的に編成している。

- (1)「基礎教育科目」はグローバル時代を理解するための基礎的な知識・技能を身に付けること等を目的としている。初年次において「AEP(英語集中教育)」(Academic English Program) [資料 3-2-205] を全員必修とし、英語によるコミュニケーション能力の「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つの要素のバランス良い修得を目指している。
- (2)「専門教育科目」では、「ホスピタリティ・マネジメントコース」と「国際教養コース」 の2つのコースがあり、それぞれコースに科目を配置している「資料 3-2-205」。
- (3)ゼミ教育は学生の育成に大きな効果があるだけではなく、就職支援としても重要であることから、履修者の増加等、充実を図っている〔資料 3-2-206〕。

〔経営情報学研究科〕

CPで明示しているとおり、持続可能な未来の社会を創造する高い志を見い出し、それを 実現できる高い専門能力のある「イノベーターシップ」を学修できる包括的な科目群を展 開している。

- (1)「教務委員会」〔資料 3-2-302〕の下位組織である「カリキュラム小委員会」が中心となり、DP・CP をもとに、院生による授業評価「VOICE」や履修者人数等を検証し、令和 5(2023)年度のカリキュラム編成・科目編成を行った〔資料 3-2-310〕。
 - ①「教育群」は、6フィールドからなる「実践知考具」、5フィールドからなる「最新ビジネス実践知」、3フィールドからなる「教養基盤」で構成している〔資料 3-2-311〕。
 - ②実践知の基本を修得させるため、選択必修科目を12科目設定している[資料3-2-312]。
 - ③特に専門性が高い3つのフィールドとそのフィールドと関連性が高い他フィールド科目をまとめ、それぞれ「データサイエンス専門」、「ソーシャルインパクトビジネス専門」、「ルール形成戦略専門」として「専門認定」を設定している〔資料3-2-313〕。
- (2)学位論文には「修士論文」と「実践知論文(特定課題研究論文)」がある。修了要件として全院生に学位論文を課し、指導を行っている。DPを修得したビジネスパーソンを育て上げる集大成として位置付けている〔資料 3-2-314〕〔資料 3-2-315〕〔資料 3-2-316〕。

<自己評価>

- (1)教育課程を、CPを踏まえて体系的に編成している。
- (2)シラバスを適切に整備している。
- (3) CAP 制を導入し、単位制度の実質化を図っている。

3-2-④ 教養教育の実施

<事実の説明>

「学則」第1条、第5条で謳われている「教養」を両学部のDP・CPへ展開している。

[経営情報学部]

令和 5(2023)年度新カリキュラムの策定において、教養教育科目の体系化及び充実のために学科ごとに教養教育を検討し〔資料 3-2-116〕、「基礎教育科目群」内に「教養科目群」を設定した〔資料 3-2-117〕。

- (1)本学部での教養教育のあり方は、他大学で見受けられる「一般教養教育」とは一線を画している。「実学」を志向していることから「一般教養」は最小限に収め、経営情報学による課題解決能力の基盤を身に着ける科目で教養教育を組み立てている。CPで明示しているとおり、本学部のカリキュラムは、「豊かな人格形成の基礎となる教養と産業社会に関する基礎的な理解を得ることを目的とする「基礎科目群」と、特定の専門領域に関する問題を探求する「専門科目群」によって構成」されている〔資料 3-2-112〕。
- (2)令和5(2023)年度新カリキュラムより、「教養科目群」は「人文・歴史系」「社会科学系」「特別講座」「語学」「スポーツ」にて構成し、「豊かな人格形成の基礎となる教養」を養うための科目を配置している〔資料3-2-117〕。

[グローバルスタディーズ学部]

教務委員会において、カリキュラム編成について継続的に検討を行い〔資料 3-2-207〕、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育を実施している〔資料 3-2-208〕。教養教育科目担当教員 2 人を中心に、教養教育科目の体系化及び充実を専門的に検討している〔資料 3-2-209〕。

〔経営情報学研究科〕

大学在学時に教養教育を受けている院生に対しても、教養教育を提供している。

- (1) 教養教育科目として、教養基盤群に24科目を配置している〔資料3-2-317〕。
- (2) 専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養する科目として、主に「実践知考具群」に選択必修科目を配置しており〔資料 3-2-318〕、基礎的な内容の共通理解が得られるようにしている。
- (3)イノベーターシップにふさわしい時代認識を持てるよう、教養基盤をさらに充実し、本学の「知の再武装」の輪郭を明確化するため、令和3(2021)年度に、科目「21世紀の日本の社会課題」を設置した。
- (4) 令和 4(2022) 年度は、「問題解決学 I・II」を廃止し、「ビジネスリーダーのための実践的課題解決」、「実践リベラルアーツ論」を配置した〔資料 3-2-317〕。

<自己評価>

教養教育が体系的に実施されるよう、カリキュラムは整備されていると評価している。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

<事実の説明>

[全学組織]

全学組織として、「多摩大学アクティブ・ラーニングセンター」を設置し、アクティブ・ラーニング(以下、「AL」と略すこともある。)を中心に、教授方法の工夫・開発と効果的な実施に努めている。「多摩大学アクティブ・ラーニングセンター規程」〔資料 3-2-007〕では、第3条第2号で、「AL企画部門は、ALに関する教授内容及び教授方法に関する開発、並びにALに関する設備企画を行う。但し、その具体化に関しては、教務委員会と連携し、教務委員会が決定する。」と規定している。また、同8条により、「多摩大学アクティブ・ラーニングセンター運営委員会細則」を定め〔資料 3-2-008〕、「運営委員会」が全学的な審議を行っている。

令和 4(2022)年度は、年 2 回の「アクティブ・ラーニングセンター運営委員会」を開催し、全学の「VOICE」の分析と対策を議論した〔資料 3-2-009〕。本委員会における議論の結果を教授会等にて授業担当教員へフィードバックすることで〔資料 3-2-118〕、授業の改善に寄与している。

学部における授業内容・方法の工夫等、具体的な内容の審議や実行は、アクティブ・ラーニング委員会にて行っている。

[全学横断]

(1)「インターゼミ(社会工学研究会)」

本学の特色の一つとして、各々の学部・研究科がその特色を活かした専門分野の教育を 行うだけではなく、全学的に連携して課題解決を探求する「インターゼミ(社会工学研究 会)」を実施している。

- ①学長直轄のもと、通年で毎週土曜日に九段サテライトで開講している〔資料 3-2-401〕。 所属、学年を問わず参加可能である。
- ②令和4(2022)年度は、経営情報学部生20人、グローバルスタディーズ学部生4人、大学院経営情報学研究科生15人が履修した。これに加え、学部卒業生・大学院修了生9人が卒業後も参画し、計48人が4チームに分かれ、チームごとに研究テーマを定めて文献研究とフィールドワークを行った〔資料3-2-402〕。これを学部・研究科の教員15人が担当チームを定めて指導に当たり、チームとして研究論文を書き上げた〔資料3-2-403〕。
- ③活動内容及び成果物を、本学ホームページにて公開している。
- ④令和 4(2022)年度は、これまでに蓄積し続けてきたアジアダイナミズム班の教育研究 業績を「モンゴル帝国とユーラシア史」として出版し、その成果を外部へ公表した〔資料 3-2-404〕。
- ⑤インターゼミは学部生から大学院卒業生までが年齢差を超えて一つのチームとして活動しており、縦社会の人間関係を学ぶ場としても機能している。
- (2)学長監修「現代世界解析講座(リレー講座)」~「特別講座 I・II」
 - 全学のみならず対象を拡大した地域横断教育への取り組みとして「現代世界解析講座(リレー講座)」を開講している。これは、学長監修のもと各界の碩学を講師として招き、現代社会が抱える問題意識を提起し、時代認識を深めるものである〔資料 3-2-405〕。
 - ①地域住民も聴講する公開講座であるが、学部生及び大学院生も受講し、通常講義では 得難い学習経験を提供している。学生は単に講演を聴講するだけでなく、内容のまと

- めやレポートの提出を行い、学長及び担当教員が評価とフィードバックを行い、教育効果を高めている [資料 3-2-406]。
- ②令和 4(2022)年度は、多摩キャンパス講堂にて、地域住民とともに学生も受講した。 コロナ禍対策として、講堂で受講する学生をローテーションで入れ替え、別教室でリ アルタイム配信を実施しながら、春学期 2,874 人、秋学期 1,592 人、計 4,466 人の学 生が受講した「資料 3-2-407」。

[両学部]

教授方法の工夫・開発と効果的な実施により、教育の質を向上させるために、「アクティブ・ラーニング委員会」と「教務委員会」を設置している [資料 3-2-010]。

- (1) AL 委員会は、「多摩大学アクティブ・ラーニング委員会規程」第8条第1号第2号第7号 [資料 3-2-011] に基づき、AL、FD等、教育の質向上に努めている。
- (2) 教務委員会は、「多摩大学教務委員会規程」第8条第3号第10号〔資料3-2-012〕に基づき、授業運営等、教育の質向上に努めている。

[経営情報学部]

- (1)1年次の「プレゼミ I・II」
 - ①学生のレベル、個性に沿った授業運営が可能となるよう、「入試種別」「男女比」「入試時の特記事項」「オリエンテーション時のプレイスメントテスト結果」等を用いてクラス分けを行っている〔資料 3-2-119〕。
 - ②教育コンテンツや教育方法、評価方法・評価基準を包括的に共有し、プログラム全体で統一した運営を行っている〔資料 3-2-120〕。
- (2)1 年次の「ビジネス数学基礎」「English Expression I・II」では、習熟度テストにて クラス分けを行い、学生のレベルに沿った授業を運営している〔資料 3-2-121〕 [資料 3-2-122]。
- (3)「ゼミ」活動では、地域企業・団体と共同で多くの地域プロジェクトを実施している。これらは AL を地域活動に応用したものであり、本学では「プロジェクト型地域学習」と呼んでいる。令和 4(2022)年度は 48 件のプロジェクトを実施した。代表的なプロジェクトとして、「多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」や「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2022」が挙げられる〔資料 3-2-123〕(「基準 A」参照)。
- (4) ゼミ活動の成果の見える化、またゼミでの学修指導を目的に、ゼミ研究発表会「SRC」 (Student Research Conference) を年2回開催した。発表数は春学期44件、秋学期112件となった[資料3-2-124]。
- (5)様々な工夫を凝らした「AL プログラム」として、認定プログラムを企画・実施している。令和 4(2022)年度は 26 プログラムの実施、のべ 351 人が参加、のべ 349 人に単位を付与した「資料 3-2-125」。
- (6) 各授業におけるアクティブ・ラーニング手法の導入とその成果を、より学生にわかりやすく伝えるため、令和 4(2022) 年度シラバスから、新たに AL 入力欄を設け 150 字程度で「AL の内容」を明記した「資料 3-2-126]。
- (7)授業運営を円滑に進めるため、「授業マネジメント」として授業マナー等、授業担当教

員が授業内に注意すべき項目を列挙し、教授会にて周知している〔資料 3-2-127〕。

- (8) 教員各自が授業内容・方法について独自の工夫を凝らしている具体例を以下に列挙する [資料 3-2-128]。
 - ①ケース・スタディを中心として、問題解決力、論理的思考力、分析力の養成に努めた。
 - ②活発な質疑応答や議論等、AL を意識した双方向型授業など教育方法の工夫を行い、学 生満足度の向上を図った。
 - ③学生による授業評価「VOICE」において「もう少し学生にも話す機会を増やして欲しい」 という声があったため、グループワークの時間を設ける等、主体的な学生の学びにつ なげられる講義を行った。
 - ④コメントシートへのフィードバックを行い、双方向の授業となるように努めた。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)初年次教育の「AEP(英語集中教育)」(Academic English Program)
 - ①「AEP」では一般的な英語力に加え、積極的にグループディスカッションを指導し、かつアカデミックプレゼンテーションを英語で行うなど、統合的なスキル向上を目指している〔資料 3-2-210〕。
 - ②クラス分けの際、「TOEIC IP」スコアを活用して、1 クラス 20 人程度の習熟度別編成を行い、英語力の応じた指導を実施している〔資料 3-2-211〕。
 - ③「AEP」には専任教員の「コーディネーター」を配置し、教材の選定を含む教育方法や評価方法・評価基準、レベル別・スキル別の週間予定を非常勤講師も含めて包括的に共有し、プログラム全体で統一した運営を行っている〔資料 3-2-212〕。
- (2)「グローバルスタディーズのための数学入門」では、自習用の解説動画、予習振り返りアンケート、復習課題、演習課題、講義振り返りアンケート、講義録画等のリソースをGoogle Classroom上で一括管理し、学修の助けとしている。予習振り返りアンケートと講義振り返りアンケートを毎週実施し、講義開始前にアンケートを確認することで学生の理解度を確認しながら毎週の講義内容に反映させることができた〔資料 3-2-213〕。
- (3)「統計学入門」では、統計ソフト「R」や「RStudio」を利用したデータ分析をグループ ワークとして行った。グループワークの課題は学生ごとに異なった数値を用いたものを 配り、他の学生の課題を丸写ししても提出できないようにした。これによって、グルー プの他のメンバーと分析手法等の情報の共有を可能としつつ、各自が自分の課題に自主 的に取り組むことができた〔資料 3-2-214〕。
- (4) 令和 4(2022) 年度から「プレゼミ」を実施した。
 - ①「プレゼミ」に関する教授方法の認識共有を図るため、担当教員と教務課職員で打ち合わせを行い「資料 3-2-215〕、授業を実施した。
 - ②大学で必要なライティングやリーディングをはじめとする学修方法の基礎を学ばせた。
 - ③図書館ツアーを実施し、講義に図書館の利用方法を取り入れた〔資料 3-2-216〕。
- (5)3年次以降の2年間に渡る「ホームゼミ」では、プレゼンテーションやディスカッション等のALが展開されている〔資料3-2-217〕。

[経営情報学研究科]

「教務委員会」〔資料 3-2-302〕が、カリキュラム・AL・FD 等の、教育の質向上に関する 審議を担当し、教育方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施を行っている。

- (1)全ての授業で AL 技法をシラバスに記載し、学修効果を上げるようにしている [資料 3-2-319]。
- (2) 一般科目では履修人数最大 25 人、選択必修科目では履修人数最大 30 人と、少人数教育を徹底した授業運営を行っている [資料 3-2-320]。
- (3) 品川サテライトでは、全教室の机、椅子をキャスター付きにしており、ディスカッションやグループワーク等をしやすい環境を提供している〔資料 3-2-321〕。
- (4)授業で、Google Classroomを活用している〔資料 3-2-322〕。
- (5) コロナ禍を契機に Zoom を導入し、オンライン授業と対面授業を同時進行で行うハイフレックス授業を行っている。また、オンラインで受講している院生に対し、対面式授業に近い環境を提供している [資料 3-2-323]。
 - ①授業では、Zoom のブレイクアウトセッション機能を頻繁に使用し、ディスカッションを行っている〔資料 3-2-324〕。
 - ②教室に「ミーティングオウル」(360°カメラ)を導入している〔資料 3-2-325〕。

(6)担当科目報告書

- ①院生による授業評価「VOICE」における科目ごとの評価や、担当教員が授業を通して感じた院生の修得度などを踏まえ、担当教員自身が担当科目報告書を作成し、報告書の中で「以降の授業を教授する時の具体的な工夫」を記載している〔資料 3-2-326〕。
- ②担当科目報告書と「VOICE」の結果を元に、フィールド長は非常勤教員も含めたフィールドミーティングを開催し、フィードバックを行っている。
- ③各フィールドのフィールドミーティングの内容は、教務委員会に報告されている。
- (7) 教務委員会主催で FD 勉強会を開催し、教育の質向上に向けた取り組みを行っている〔資料 3-2-327〕 〔資料 3-2-328〕。

<自己評価>

教授方法の改善を進めるために組織体制を整備・運営している。そして、本学独自の教授方法や教授内容を工夫して効果的に実施している。

(1)全学

- ①教授方法の改善を進めるための全学組織が整備されている。
- ②「インターゼミ」において全学的教育リソースを纏め上げ活用し、蓄積された研究成果を書籍として出版したこと、「現代世界解析講座」において企画から実施運営に至る全てを大学独自で行っていること、どちらも学長のリーダーシップの下で、コロナ禍で途切れることもなく長期にわたり継続実施している。独特で有意義な教育となっている。

(2)経営情報学部

教授方法の工夫と開発に努めている。

- ①入学時のデータや習熟度テスト結果を利用したクラス分けを行っている。
- ②「AL プログラム」「プロジェクト型地域学習」等、本学部独自の学修機会を提供して

いる。

- ③シラバス上の項目の変更や授業マネジメント等の工夫も行っている。
- (3) グローバルスタディーズ学部
 - ①初年次教育の「AEP」において、習熟度別のクラス分け、コーディネーターによる包括 的な授業運営を実施している。
 - ②「プレゼミ」により、初年次に大学で必要なライティングやリーディングをはじめと する学修方法の基礎を学ばせることができた。
 - ③ICT を活用し授業運営をスムーズに行い、学生が主体となる時間を増やすことで、授業への参加意識を高め、AL を活性化している。
- (4) 経営情報学研究科
 - ①多数のAL技法を効果的に実施している。
 - ②ディスカッション、グループワーク、ゲスト講師との対話等、多彩な授業方法を取り入れ、効果的な授業を展開している。
 - ③Zoom の活用等を工夫し、対面式授業に近い環境を提供している。

(3)3-2の改善・向上方策(将来計画)

[CPに沿った教育課程の体系的編成]

- (1) 全学
 - ①教学マネジメント会議を定期的に開催し、IR 情報を利用した教育課程(カリキュラム等)の適切性等について検証していく。
 - ②自己点検・評価結果を活用し、CP に沿った体系的な教育課程編成の検討を行う。
- (2) 経営情報学部
 - CP を学生に広く明示すると共に、CP に沿った教育課程運営を行う。
 - ①三つのポリシーの実質化を前提とした令和 5(2023)年度カリキュラム用に「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・マトリックス」を学科ごとに更新し、「学生ハンドブック」等で広く明示する。また、科目のナンバリングルールを決定し、学科別カリキュラムツリーを策定する。
 - ②「準必修科目」の運用では、クラス分け・指定、時間割作成等を丁寧に行う。
- (3) グローバルスタディーズ学部
 - CP に基づき「基礎教育科目」と「専門教育科目」を調整し、カリキュラムの体系化を進める。
 - ①長期的かつ体系的に、英語教育を充実する。
 - ②初年次教育を充実する。
- (4) 経営情報学研究科
 - ①令和5(2023)年度入学生から履修登録できる上限を16単位とする。
 - ・平日夜間の大学院であることを踏まえ、大学院設置基準第 15 条(大学設置基準第 21 条)にある 1 単位 45 時間の学修時間を確保する。
 - 一部科目への履修登録者数定員超過による履修抽選発生を軽減する。
 - ②科目の隔年開講に関しては、院生の意見等も踏まえて、科目配置の整合性やバランス について検討し、カリキュラムに反映する。

③ジェロントロジーに関するカリキュラム内容を検討する。

〔教養教育の実施〕

社会の要請に応えるために必要な教養教育を構築していく。

〔教授方法の工夫・開発と効果的な実施〕

(1) 全学

- ①全学の「VOICE」の分析と対策を議論し、教授会等にて授業担当教員へフィードバックすることで、授業改善を実現する。
- ②インターゼミでは、継続して複数の研究グループを組成し、各グループが最新の社会 動向を踏まえた問題設定を行った上で研究活動を発展させるように導く。
- ③「現代世界解析講座」では、継続してオンライン展開を強化し、多様な広報施策を試みながら、幅広い地域・年代へ受講を訴求していく。

(2) 経営情報学部

- ①学生のレベル、個性に沿った授業を運営するため、効果的なクラス分けを継続する。
- ②授業内容は、基礎教育を徹底する一方、最前線の知識・情報や最先端の研究成果・理論も盛り込み、高度かつ深い内容をわかりやすく教授する。
- ③学部 CP にて謳っているように「問題解決に役立つかを中心に教える実学教育プログラムを展開」するため、ゼミ活動を中心とした教育プログラムを構築・実施する。
- ④教育実態に合わせて 16 個の AL 技法を導入し、選択してシラバスに明記し、授業の AL 化を推進する。
- ⑤AL プログラムを大きく「座学型」と「プロジェクト型」に分類し、単位の実質化に注力する。また、AL プログラム参加学生の学修成果を見える化するため、「学修ポートフォリオ」への記録を行う。
- (3) グローバルスタディーズ学部
 - ①初年次教育の「AEP」、「プレゼミ」、「日本語文章表現法」、「グローバルスタディーズの ための数学入門」では、習熟度別クラス編成を継続する。
 - ②各教員が講義で行っている AL の事例や工夫等を共有する FD セミナーを実施する。
 - ③教職課程をはじめとして、電子黒板を使った授業を実践する等、学修における ICT 活用を推進する。

(4)経営情報学研究科

- ①ディスカッション主体の講義やグループワーク等により、実践的な授業を行う。
- ②企業での最先端課題を解決できるよう、実践的な論文作成を重視し、論文演習の指導を充実する。

3-3. 学修成果の点検・評価

- 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用
- 3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

(1) 3-3の自己判定

「基準項目3-3を満たしている。」

(2) 3-3の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 <事実の説明>

三つのポリシーを踏まえ、点検評価方法として「アセスメント・ポリシー」を定め、種々のアンケート、調査、外部テスト等を実施し、学修成果の点検・分析・評価結果のフィードバックを行っている。アセスメント・ポリシーに記載されている項目である「学修状況調査」「卒業生満足度調査」「PROG」「TOEIC」「VOICE」等を活用した点検・評価方法の確立とその運用は次のとおりである。

《学修成果の明示》

令和4(2022)年度から、本基準における「学修成果」の定義等に着手している。

〔両学部〕

- (1) DP 上の「学修成果目標」を本基準の「学修成果」としている。
 - ①知識と理解:グローカル社会に対する理解
 - ②思考と判断:考え抜く力
 - ③関心と意欲:社会の発展に貢献する力
 - ④表現と技能:役割分担により組織目標の達成に貢献する力
 - ⑤高い志:環境対応能力と先進性
- (2) 本基準の「学修成果」である「学修成果目標」をホームページ上で明示している〔資料 3-3-001〕。
- (3)各授業のシラバスにおいて「ディプロマ・ポリシーとの対応」という欄を設け、上記5つの学修成果目標のどれに該当するかを示している〔資料3-3-101〕〔資料3-3-201〕。また、その一覧である「カリキュラム・マトリックス」を作成し、学生に明示している〔資料3-3-102〕。これらにより、学生はDPの学修成果を科目履修前に知ることができる。
- (4)「T-NEXT」上の「学修ポートフォリオ」機能を活用している。
 - ①科目に紐づけた DP 学修成果目標をポイント化し、5 つの項目ごとに修得科目で獲得したポイントを積み上げ、「ディプロマポリシー学修成果目標」という欄を設け、レーダーチャートグラフで「見える化」している〔資料 3-3-103〕〔資料 3-3-202〕。
 - ②学生はこれを見ることによって DP のどの分野を多く学修しているかを把握することができる。
 - ③教員も学生のデータを閲覧できるので、学生指導にも有効に活用できる。

〔経営情報学研究科〕

(1)本学の学位を授与するにふさわしい学修成果を学位授与方針に要件として明示している [資料 3-3-301]。「学則に定める単位数などの修了要件」と学位授与方針にあるが、 学則別表第1において、科目区分ごとの必要単位数や合計の必要単位数取得に加え、必 要な研究指導を受けた上、修士の学位論文審査、最終試験合格を義務付けている〔資料 3-3-302〕。

- (2)学修成果目標は、次の5項目である。
 - ①知識と理解:最新ビジネス環境への理解
 - ②思考と判断:実践知考具をもとにした知的課題解決力
 - ③関心と意欲:社会を変革しようとする力
 - ④表現と技能:イノベーションを創り出す力
 - ⑤志:環境理解力と関与力
- (3)博士課程の学修成果は、学位論文である。

《学修成果の点検・評価方法》

[経営情報学部]

- (1)学修状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するため、全学年を対象に「学修状況調査」を「T-NEXT」上で実施した。質問項目には DP 学修成果目標を盛り込んだ。 結果を関係部門で共有し、分析・検討を行った〔資料 3-3-104〕〔資料 3-3-105〕。
- (2) どのような点に満足を感じ(あるいは不満を感じ)卒業していくのかを調査するため「卒業生満足度調査」を「T-NEXT」上で実施した〔資料 3-3-106〕。質問項目には DP 学修成果目標を盛り込んだ。
- (3)外部試験「PROG」の実施

「PROG」とは、ジェネリックスキルの評価・育成プログラムである。「PROG」テストを1 年次と3年次に実施している[資料3-3-107]。

(4) 学生による授業評価「VOICE」

「VOICE」〔資料 3-3-108〕は毎学期末に開講科目を対象として行い、5 段階評価のマークシートにて実施し、結果を図書館にて公開している〔資料 3-3-109〕。

- ①「VOICE」は次のように活用している。
 - ・平均点を分析することによる授業・カリキュラムのモニタリング
 - ・自由記述の分析による授業改善、学修支援改善
 - ・点数が高い教員の顕彰
 - ・点数が低い教員への授業改善指示
- ②「VOICE」内の自由記述の分析
 - ・「VOICE」内の自由記述の分析を授業改善、学修支援改善につなげ、授業マネジメントの徹底、授業手法の改善、授業内容レベルの調整等で、学修成果の向上に結びつけている [資料 3-3-110]。
 - ・自由記述の分析結果は、AL センター運営委員会を経て、教授会にて報告することで、 対策を全教員で共有した〔資料 3-3-111〕。
- (5)新入生の健康状況、学生生活、入学意識について調査する「新入生アンケート」を「T-NEXT」上で実施している〔資料 3-3-112〕。
- (6) 学生の大学生活に対する満足度の現状を把握すると同時に大学生活の実態を調査する ため、「学生満足度・学生生活実態調査」を「T-NEXT」上で実施している。結果を関係部 門で共有し、各部門の分析結果を報告書として学生にフィードバックした〔資料 3-3-

- 113〕 〔資料 3-3-114〕。
- (7) 卒業する直前の卒業予定者に対して就職状況の調査を実施し、「就職先の満足度」等を 把握した「資料 3-3-115]。
- (8) 企業への「卒業後アンケート調査」

卒業生が就職した企業を対象に、「卒業後アンケート調査等(新卒3年以内離職状況調査)」 を実施した〔資料3-3-116〕〔資料3-3-117〕〔資料3-3-118〕〔資料3-3-119〕。

- ①新卒3年以内の離職状況を調査することに加え、調査結果を大学の就職支援・キャリア教育等のさらなる充実に活かすという目的である。
- ②調査期間は令和4(2022)年10月3~31日。
- ③対象企業は、192社をピックアップした。
- ④本学卒業生の離職状況だけでなく、仕事をする上で学生時代に身につけておいて欲しい知識や能力、本学の教育活動や人材育成等についての意見や要望を募った。
- ⑤59 社から回答を得、回答率は30.7%であった。
- (9) 学生への「卒業後アンケート調査」

大学時代の学びの効果を卒業生に尋ねるアンケートである。教育内容改善のため、学修効果を図る指標の一つとして活用している〔資料 3-3-120〕〔資料 3-3-117〕〔資料 3-3-118〕〔資料 3-3-119〕。

- ①調査期間:令和4(2022)年10月3~31日。
- ②平成 30(2018)年度の卒業生のうち 199 人に対して、QR コード付きのアンケート依頼 をメールで送付した。
- ③アンケートの回答は Web 上での入力を求めた。
- ④アンケートでは、所属していた学部、性別、卒業後の進路の他、転職回数、大学で学 んでおいてよかったことや役立ったことを尋ねた。
- ⑤12人から回答を得、回答率は 6.0%であった。回答者数は少なかったが、得られた結果を教授会にて報告した。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)2つの学生アンケートを併せて、「T-NEXT」上で実施している。
 - ①「学生満足度・学生生活実態調査」〔資料 3-3-203〕では、学生の大学生活に対する満足度の現状を把握すると同時に大学生活の実態を調査している。
 - ②「学修状況調査」〔資料 3-3-204〕〔資料 3-3-205〕では、学修状況等を把握・分析し、 課題の発見や、教育施策の成果の検証につなげている。
 - ③質問項目には DP 学修成果目標を盛り込んでいる。
 - ④関係部門で共有し、分析・改善を行い〔資料 3-3-206〕、結果を学生にフィードバックした〔資料 3-3-207〕。
- (2) 本学が目指す教育や、学生自身が入学時に掲げた「志」に対する達成度を調査するため、「卒業生アンケート」を実施した。質問項目には DP 学修成果目標を盛り込んだ〔資料 3-3-208〕。
- (3)「TOEIC」を用いて、英語教育の学修成果を検証している。
 - ① 令和 2(2020) 年度はオンラインでテストを実施したが、令和 3(2021) 年度以降はマー

クシート形式に戻してテストを実施している。

- ②「AEP(英語集中教育)」の科目においては、20 クラスの少人数制の習熟度別学習を行うことにより〔資料 3-3-209〕、学生の学修意欲を高めるようにしている。
- ③「T-NEXT」の「学修ポートフォリオ」機能で入学以降の「TOEIC」スコアを時系列で表示するように設定し、学生がいつでも確認できるようにしている「資料 3-3-210」。
- (4) 平成 30 (2018) 年度から「PROG」を1年次と3年次に実施している。「T-NEXT」の「学修ポートフォリオ」機能で「PROG」スコアを表示するように設定し、学生がいつでも確認できるようにしている[資料 3-3-211]。
- (5) 学生による授業評価「VOICE」
 - ①学生からの授業評価に対して各教員がシラバス上で「VOICE 評価に対する教員からの 応答」を記述し、授業の改善点等を学生にフィードバックしている〔資料 3-3-212〕。
 - ②「VOICE」内の自由記述の分析による授業改善、学修支援改善に関しては、AL センター運営委員会にて分析結果を審議することで、授業マネジメントの徹底、授業手法の改善、授業内容レベルの調整等で、学修成果の向上につなげている〔資料 3-3-213〕。
- (6) キャリア支援関係では、正課外のキャリア支援講座、「ホスピタリティ・ツーリズム・アドバンスコース」、各種ガイダンスにおいて毎回アンケートを実施し、点検・評価を行っている〔資料 3-3-214〕。

[経営情報学研究科]

- (1) DP の達成度を調査するため、質問項目に DP 学修成果目標を盛り込んだアンケート調査 を実施している〔資料 3-3-303〕。修士課程の修了生アンケート調査においては、学修成 果目標に関する調査と学位論文に関する調査を実施し〔資料 3-3-304〕、研究科教授会に て集計結果と記述欄の記載文章の報告を行った〔資料 3-3-305〕。
 - ①在学生の「学修調査」では、修士課程 85.3%、博士課程 50%の回収率であった〔資料 3-3-306〕。
 - ②修了生の「学修調査」では、修士課程 73.0%、博士課程 0%の回収率であった〔資料 3-3-307〕。
- (2)博士課程の修了生満足度調査において、学位授与方針に定めた要件への調査と学位論文に関する調査を行っている〔資料 3-3-308〕。
- (3)「VOICE」を毎学期実施している。
 - ①回収率は、春学期 95.2%、秋学期 93.2%であった〔資料 3-3-309〕〔資料 3-3-310〕。
 - ②結果は、教務委員会で分析後〔資料 3-3-311〕、教員へフィードバックしている〔資料 3-3-312〕。
 - ③担当教員は、「VOICE」の科目ごとの評価と、授業を通して感じた院生の習得度等を踏まえ、担当教員自身で「担当科目報告書」を作成している〔資料 3-3-313〕。
 - ④各フィールドチーフが、フィールドミーティングにて「VOICE」 結果を共有している [資料 3-3-314]。
 - ⑤各フィールドのフィールドミーティングの内容は、教務委員会に報告されている〔資料 3-3-315〕〔資料 3-3-316〕。
- (4)「ダイレクト・コミュニケーション」を年2回実施している。

- ①各入学期の院生代表及び副代表から、意見・要望をくみ上げている。
- ②院生からの提案に関しては、改善内容を文書にてフィードバックしている〔資料 3-3-317〕 〔資料 3-3-318〕。

<自己評価>

三つのポリシーを踏まえた「アセスメント・ポリシー」を定め、多種多様な調査を組織的に行い、点検・評価方法を確立し、運用している。

- (1) DP 上の学修成果目標をホームページ・シラバス・「T-NEXT」で明示している。
- (2)「T-NEXT」上に「ディプロマポリシー学修成果目標」という欄を設け、学修成果目標の 5項目をレーダーチャートで「見える化」している。
- (3)各種アンケート調査を実施することにより、改善やフィードバックを行うことができている。
- (4) アセスメント・ポリシー記載項目の「TOEIC」や「PROG」等を活用し、教育目的の達成 状況を外部客観テストで点検している。また、「学修ポートフォリオ」機能で、「TOEIC」 「PROG」等のスコアを「見える化」している。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

[経営情報学部]

<事実の説明>

- (1)「T-NEXT」上の「学修ポートフォリオ」機能におけるレーダーチャートを活用している (前述) [資料 3-3-103]。
- (2)「卒業生アンケート」における DP 学修成果目標の自己評価 「カリキュラム・マトリックス」におけるウエイト付けと「卒業生アンケート」結果の 関係を検証した〔資料 3-3-121〕。
 - ①「2022 年度卒業生アンケート」における 2019 年度入学生に関する IR レポートによる と、DP 学修成果目標の全てにおいて 98%以上の学生が「身についた」、「ほぼ身についた」、「やや身についた」のいずれかかに回答した。
 - ②同アンケートによると、「身についた」と自己評価した DP 項目の順位は、1 位「表現と技能」、2 位「関心と意欲」、3 位「高い志」、同3 位「思考と判断」、5 位「知識と理解」となっている。
 - ③2019 年度入学生カリキュラムの「カリキュラム・マトリックス」では、DP 項目のカリキュラム内でのウエイトを数値化している。ウエイトの高い順から、1 位「知識と理解」、2 位「思考と判断」、3 位「関心と意欲」、4 位「表現と技能」、5 位「高い志」となっている。
 - ④カリキュラム上最も力を注いだ「知識と理解」(104 ポイント)が卒業生アンケート結果では最下位となっており、「表現と技能」(42 ポイント)が、アンケート結果では1位となっている。
 - ⑤また、学生からの評価が最上位の「ゼミ」に関しては、ゼミ科目における重点 DP 項目は「思考と判断」である。この「思考と判断」は、卒業生アンケートでは3位にとど

まっている。

- ⑥大学側が設計した学修成果のウエイト付けと、学生が自己評価した学修成果とは、必ずしも一致しないことがわかった。
- (3) PROG スコアによる検証
 - ①令和元(2019)年度入学生(令和 4(2022)年度卒業対象学生)のリテラシー・コンピテンシーの平均点は1年次、3年次ともに、それぞれのベンチマークとほぼ同じ水準であった〔資料 3-3-122〕。
 - ②「2022 年度卒業生アンケート」における 2019 年度入学生に関する IR レポートでは、 PROG スコアと「DP 学修成果目標の自己評価」との関連を分析しているが、様々な要因 から、明確な関連性は導き出せていない。
 - ・3 年次 PROG スコアが 1 年次よりも低下した学生であっても、DP 学修成果目標では「身についた」と卒業生アンケートでは回答している例があった。
 - ・DP 学修成果目標は汎用能力であり、また、PROG スコアも汎用能力に関する数値である。汎用能力どうしを相関係数分析しても、重複する項目が多く、「紐づけ」が難しいことがわかった。
 - ③今後は、PROG スコアと「DP 学修成果目標の自己評価」との紐づけは深追いせずに、 PROG スコアの分析結果(社会人基礎力の身につき具合)等と、「DP 学修成果目標の自己 評価」の分析結果とを並べて、レポートを作成していく予定である〔資料 3-3-123〕。
- (4)企業への「卒業後アンケート調査等(新卒3年以内離職状況調査)」
 - ①業種別では、「情報通信業」「製造業」「建設業」の3業種の3年以内離職率が比較的低かった。
 - ②会社所在地別では、「東京都(多摩地区)」「神奈川県」「地方」の3年以内離職率が比較的低かった。
 - ③社員数別では、「300人以下」の中小企業の3年以内離職率が比較的低かった。
 - ④DP 学修成果目標
 - ・「高い志」に関しては、環境対応能力と先進性を求められる中で、ストレス耐性を求める企業が8社と、最多であった。
 - ・仕事をする上で学生時代に身につけておいて欲しい知識や能力として、「表現と技能」 に対応する「コミュニケーション能力」を挙げる就職先が4社あった。
 - ⑤CP に関しては、「語彙力を高める」「簡単なビジネスマナー」「きちんと勉強に取り組むこと」「他学生とのコミュニケーションをとる機会をより多く設けること」等の意見を得ることができた。一方、「科目間の連携による、大きな意味での4年間での大学時代の学び」については確認できていない。
- (5)キャリア支援講座に関する科目レベル(ミクロレベル)の学修成果の定義にも着手した [資料 3-3-124]。

<自己評価>

- (1)「学修ポートフォリオ」のデータが蓄積されつつある。
- (2)「学生の DP 学修成果目標の自己評価」と、「カリキュラム・マトリックス」のウエイト 付けや PROG スコアとの関連を深く検証し、今後の分析・検証のあり方をつかんだ。

(3)企業への「卒業後アンケート調査」から、学修成果等に関する情報が得られた。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

- (1)「学修状況調査」~DP 学修成果目標の身につき具合
 - ①DP 学修成果目標の身につき具合を調査した。
 - ②「知識と理解」において90%以上の学生が「身についた」、「ほぼ身についた」、「やや身についた」のいずれかに回答した〔資料3-3-215〕。
- (2) \[\tag{TOEIC} \]

令和 4(2022) 年度入学生の「TOEIC」スコアの平均点の伸びは次のとおりであった〔資料 3-3-216〕。

- ①3ヶ月後の8月「TOEIC」の平均点:4月比50点増加
- ②9ヶ月後の1月「TOEIC」の平均点:4月比74点増加
- (3) \[\text{PROG} \]
 - 1年次と3年次におけるリテラシー・コンピテンシーのスコアを、それぞれのベンチマークと対比している[資料3-3-217][資料3-3-218]。
- (4)「学修状況調査」

「登校日数」及び「予復習」時間は若干の改善が見られた〔資料 3-3-219〕。

- (5)就職支援、キャリア支援
 - ①「国内インターンシップ概論」「国内インターンシップ実習」では、受け入れ企業ならびに学生からの報告書等で、積極性、柔軟性、協調性等10項目について就業意欲の向上が見られるか確認しており、その結果、多くの学生の就業意欲の向上が見受けられた〔資料3-3-220〕〔資料3-3-221〕。結果を学部運営委員会・教授会で共有した。
 - ②「進路のための学力アップ講座」では、最終授業で試験を実施して学修成果を確認している。
 - ・令和元(2019)年度に 2 クラスに増やし、令和 2(2020)年度に A クラスの時期を早めて授業を実施したところ効果があった。
 - ・令和 4(2022)年度は 2 クラス開講し、A クラスの開始時期をさらに早めて秋学期通常授業と同じスケジュールで開講した。その結果、最終試験ではA クラス平均 78%、B クラス平均 84%と、2 クラスとも 70%を超えた〔資料 3-3-222〕。結果を学部運営委員会ならびに教授会で共有した。

<自己評価>

数々の学修効果が見られるが、検証結果のさらなる活用は今後の課題である。

(3) 3-3 の改善・向上方策(将来計画)

[経営情報学部]

- (1)「カリキュラム・マトリックス」作成時に大学側が設計した学修成果と、学生が自己評価した学修成果との乖離について、カリキュラムでの対処の有無を含め、検討する。
- (2) 学修成果を測るための指標、及び分析結果をカリキュラムへどのように反映するかに

ついての検討を深める。

(3) 就職先の企業アンケート、卒業生アンケートについては、より具体的にカリキュラム編成や就職支援に活用できるよう、見直し・改善を行う。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1) 卒業生アンケートは、より具体的に各委員会・各事務部門が新たな支援策等に活用できるようにアンケート項目の修正を検討する。
- (2)「DP 学修成果目標」に関するデータを活用し、学修成果の向上に努める。
- (3)「PROG」の説明会を充実し、学生が「PROG プログラム」を理解し、「振り返り」のために受験することを奨励する。
- (4)「PROG」各項目の水準・伸びを参考に、学修成果の検証、DP 学修成果目標の検証を行い、カリキュラムや個々の授業科目の内容等を改善していく。
- (5)「VOICE」内の自由記述を分析し、授業マネジメントの徹底、授業手法の改善、授業内容レベルの調整等を行い、学修成果の向上につなげる。
- (6) 就職支援の基本方針に沿った学修成果ならびにその点検・評価方法を検討し、成果を明示できるよう、点検・評価方法の基準を定める。
- (7) 学修成果に関する産業界との協議体制の構築に努める。

[基準3の自己評価]

ディプロマ・ポリシーが、各学部、研究科において策定され、大学ホームページなどで 周知が図られている。

カリキュラム・ポリシーを、各学部、研究科において明確に策定し、各種媒体で十分に 周知している。教育課程については、カリキュラム・ポリシーに沿った編成になっており、 適切な運用を行っている。教授方法については、様々な工夫を凝らしている。

ディプロマ・ポリシーの中に「学修成果目標」を具体的に規定し、アセスメント・ポリシーを定めた上で学生アンケートや外部テストなどを活用して、 学修成果の点検・分析・評価結果のフィードバックを行い、学修指導の改善へつなげている。

基準 4. 教員・職員

- 4-1. 教学マネジメントの機能性
- 4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの 確立・発揮
- 4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築
- 4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性
 - (1) 4-1 の自己判定

「基準項目 4-1 を満たしている。」

- (2) 4-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- 4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

<事実の説明>

本学の意思決定組織は「多摩大学組織図」〔資料 4-1-001〕のとおりであり、以下の体制を整え、学長は教学マネジメントにおけるリーダーシップを発揮している。

- (1)学長の役割は「学校法人田村学園組織運営規程」第8条「学長は校務を掌り、所属職員を統督する」と、明確に規定されている。学長は「学校法人田村学園寄附行為」に基づき理事を兼務しており、理事会に出席し、決定事項に従い大学運営を掌っている。大学の意思決定は、学長が主宰する「大学運営会議」でなされている。この「大学運営会議」は、「多摩大学学則」第8条に基づき、学長、両学部長、研究科長、大学事務局長、学長室長等で構成され〔資料4-1-002〕、年間11回開催されている〔資料4-1-003〕。審議内容は、大学の教学、運営に関する重要事項であり、議長である学長が大学の使命・目的に沿った決定をしている〔資料4-1-004〕。また、この会議では、学部長等の参加メンバーから部門報告がなされ、必要に応じて学長が指示を出している〔資料4-1-005〕。「多摩大学大学運営会議規程」第6条2項で「運営会議の議事は、議長が決する」と規定され、議長である学長に強力なリーダーシップが付与されている〔資料4-1-006〕。
- (2) 学校教育法の改正(平成 27(2015)年4月1日施行)を受け、同年3月までに「学則」をはじめとする内部規則を見直し、「学則」及び教授会規程等を改正し、同年4月1日から施行している〔資料4-1-007〕。
- (3)学生の入学等、学長が教授会等に意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要事項は、「多摩大学教授会規則」第8条等で定め、周知している〔資料4-1-008〕。
- (4) 毎年、正月の仕事始めに、学長が教学を含む大学の運営方針「年頭所感」を述べている。 その内容を学長室がワードファイルに取りまとめ、学内に配布し、大学の方針や学長の 運営方針を全教職員に周知している。この「年頭所感」を、年度事業計画に反映する仕 組みを構築している〔資料 4-1-009〕。
- (5) 学長をサポートするために副学長、「学長室」を設置している〔資料 4-1-010〕。
- (6) 副学長は、本学の運営の円滑化に資するため、学長の職務を補佐している [資料 4-1-011]。私立学校法改正により学長のリーダーシップが大きくなり、副学長についても法律的に役割として明記されている。これを受けて、本学では、学長のリーダーシップの中で副学長の役割を明確に決めて、学長の支援体制として整備している [資料 4-1-012]。

- (7)学長の計画立案及び政策形成並びに意思決定を支援するための情報提供を目的として「IR 推進室」を設置している〔資料 4-1-013〕。データベースや統計解析等の IR に関する知識を有する専門職を配置し、学修成果・学修時間等に関する高度なデータ分析、意思決定に資する提案を行っている〔資料 4-1-014〕。分析は、以下のテーマを中心に、複数の指標を組み合わせて総合的に行っている。
 - ①学修状況等の調査結果を用いた選抜方法の妥当性についての検証 入学前の諸データ、入学後の学生の成績、成績以外の学修成果、「PROG」、「TOEIC」、留 年・中退率、卒業後の進路等
 - ②学生アンケートにおけるディプロマ・ポリシー(以下、「DP」と略すこともある。)の学 修成果目標の達成度
 - ③「PROG」や「TOEIC」等のデータを活用した DP 学修成果目標の達成度
 - ④卒業時のアンケート調査等を活用した、学生の課程全体を通じた成長実感・満足度
 - ⑤学修状況調查、満足度調查

<自己評価>

- (1) 学内のほぼ全ての情報が集約・審議される「大学運営会議」や諸組織を通じて、大学の 使命・目的に沿った形で学長のリーダーシップが発揮される教学マネジメント体制を整 備している。
- (2) 教授会等に意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要な事項を予め規程に定め、周知している。

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築 <事実の説明>

「多摩大学学則」第7条にて教職員組織を定め、第8条にて「大学運営会議」、第9条にて教授会の権限と責任を規定している。さらに、「多摩大学大学運営会議規程」[資料4-1-015]により、本学の教学に係る重要事項について大学内での意思疎通を図り、審議及び決定するために「大学運営会議」を設置している(前述)。

平成 30(2018)年 4 月に「多摩大学教学マネジメント会議規程」〔資料 4-1-016〕を制定し、IR 推進室長や FD を担当するアクティブ・ラーニングセンター長も構成員とする大学全体レベルの「教学マネジメント会議」を大学運営会議の下に設置した。以後、全学的な教学マネジメントに係る方針の策定、検証、評価を行っている。なお、学部(学位プログラム)レベル・授業科目レベルでは、引き続き各委員会、とりわけ「教務委員会」・「アクティブ・ラーニング委員会」がカリキュラム改善や FD 等の活発な活動を行っている。

- (1)「多摩大学内部質保証の方針」を策定し、大学ホームページで公表し、明示している〔資料 4-1-017〕。
- (2) 両学部、大学院からメンバーを選出し、「教学マネジメント会議」を開催している。本会議は、各学部のカリキュラムの現状を把握し、課題点を明確にするとともに、それについての具体的対策を全学的に検討する場となっている。令和 4(2022) 年度は、アセスメント・ポリシーに従ったカリキュラム・ポリシー(以下、「CP」と略すこともある。)、DP の実質化を推進し、また、IR 情報を利用した教育課程の適切性の検証を行った〔資料

4-1-018]

- (3) 学部では、次のように教学マネジメントを構築している。
 - ①学部長は、それぞれの学部において、教授会 [資料 4-1-019]・学部運営委員会 [資料 4-1-020] を、議長として主宰している。
 - ②教授会は、「学則」第9条第3項及び「多摩大学教授会規則」〔資料4-1-019〕に基づき、教学に関する事項を審議している。教授会の結果は、「大学運営会議」に上程され報告、審議されている。また、学長が教授会等に意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要事項は、「教授会規則」第8条等により定められ、周知されている(前述)。
 - ③「教授会規則」第10条に基づき両学部に「学部運営委員会」を設置し〔資料4-1-020〕、 学部長が議長を務める会議を原則毎月開催している。
 - ・学部長が、「大学運営会議」の方針、決定について説明をしている。
 - ・教学に関する事柄を議論し、学部長が「大学運営会議」と「学部運営委員会」・教務 委員会等の橋渡し役となって明確な指示を出している〔資料 4-1-101〕〔資料 4-1-201〕。
 - ④教授会の下には、4 つの「主要委員会」(入試、教務、学生、就職)と 4 つの「サポート委員会」(アクティブ・ラーニング、研究活性化、産官学民連携、国際交流)があり、各規程や事業計画に定めた組織目標に沿って問題解決に当たっている〔資料 4-1-102〕 〔資料 4-1-202〕。
 - ・教員がそれぞれ2つの委員会に所属することで、委員会活動のシナジーを高めている。
 - ・各委員会には職員も参画し、教職協働で審議の上、諸事業を着実に実施している。
 - ⑤毎年、各委員会の次年度方針(事業計画)を審議・共有する「全体方針共有会」〔資料 4-1-103〕〔資料 4-1-203〕を、教職協働で開催している。共有された事業計画は翌年の「全体方針共有会」で各委員会より達成度が報告される。この仕組みにより、学部の活動の全体を俯瞰した PDCA サイクルが回っている。
- (4) 大学院では、次のように教学マネジメントを構築している。
 - ①「多摩大学大学院学則」第6条にて教職員組織を、第7条にて「大学運営会議」を、 第8条にて「研究科教授会の権限と責任」を規定している〔資料4-1-301〕。
 - ②研究科長は、研究科教授会〔資料 4-1-302〕、大学院運営委員会〔資料 4-1-303〕を議長として主宰している。
 - ③「大学院学則」第8条第3項〔資料4-1-304〕に基づき「多摩大学大学院研究科教授会規則」〔資料4-1-305〕を定め、研究科教授会が教学に関する事項を審議している。教授会の結果は、「大学運営会議」に上程され報告、審議されている。また、学長が教授会等に意見を聴くことを必要とする教育研究に関する重要事項は、「多摩大学大学院研究科教授会規則」第8条等により定め〔資料4-1-305〕、周知している。
 - ④「研究科教授会規則」第 10 条 [資料 4-1-306] に基づき「大学院運営委員会」[資料 4-1-303] を設置している。大学院運営委員会は、研究科教授会の下で、各委員会での審議結果を確認し、大学院の運営に係る重要事項を審議しており、研究科教授会への橋渡しを研究科長が行っている。

- ⑤研究科教授会の下には、委員会(教務、院生支援、入試・広報、研究活性化)があり、 学長より当該年度の教学を含む大学運営方針「年頭所感」や、事業計画に定めた組織 目標遂行、諸問題解決のための活動を行っている。各委員会には職員も参画し、諸事 業を着実に実施している〔資料 4-1-307〕。
- ⑥教務委員会の下位組織である「カリキュラム小委員会」が中心となり、DP・CP に沿ったカリキュラム編成・科目編成を行っている〔資料 4-1-308〕。

<自己評価>

- (1)各種委員会をはじめ教授会、「大学運営会議」等の各種会議体の段階的な議を経て、それらを踏まえた上で学長が意思決定を行っており、本学の使命・目的を達成するよう適切に行われている。
- (2) 教学マネジメントに関する、全学レベル、学部・研究科レベルの責任が明確化されており、「大学運営会議」「教学マネジメント会議」「教授会」、教務等の各委員会の各階層での意思決定が適切に行われている。
- (3) 学内の意見や情報のくみ上げや、伝達が十分になされている。
- (4) 教職員協働の運営体制が適切に整備され、権限と責任の明確性や機能性は確保されている。

4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性

<事実の説明>

大学の業務を円滑に効率的に執行するための教学マネジメントの体制及び機能性は次の とおりである。

- (1)法人本部及び大学の事務組織は、使命・目的達成のために「学校法人田村学園組織運営 規程」〔資料 4-1-021〕に基づき整備されている。そして、大学職員の管理体制について は「多摩大学事務分掌規程」〔資料 4-1-022〕に基づき整備されている。
- (2)本学の職員は、令和 5 (2023)年 5 月 1 日現在、専任事務職員 44 人(育児休業 1 人含む)、 非常勤事務職員 33 人、派遣事務職員 14 人(契約職員 7 人含む)、合計 91 人である〔資料 4-1-023〕。
- (3)大学事務局は事務局長の下に一元化されている。教育研究支援の観点から柔軟に対応できるように、課や室を業務ユニットとする組織体制としている〔資料 4-1-001〕。
 - ①多摩キャンパスには、経営情報学部、経営情報学研究科を設置している。湘南キャンパスには、グローバルスタディーズ学部を設置している。
 - ②事務局長は大学運営会議に参加し、積極的に大学運営、教学マネジメントに参画している「資料 4-1-024」。
 - ③大学事務局長の下にそれぞれのキャンパスの管理責任者である事務長を配置し、その下に課や室がある。上述の2規程等で、課長、係長、主任等につき職制及び分掌を規定している。
 - ④両キャンパス合同での事務局幹部による「事務局運営会議」を年間 5 回開催し、事務局部門間の情報交換、新規提案等を行い、業務の改善につなげている[資料 4-1-025]。
 - ⑤両キャンパスの事務局では、ほぼ毎月「事務連絡会議」〔資料 4-1-026〕を開催し、教

授会の審議事項の確認、各課の報告事項や案件の審議を行っている(多摩キャンパス年間 10回、湘南キャンパス年間 11回)。また、理事会や「大学運営会議」での審議事項等の報告を行い、教学マネジメントの情報を共有している。

- (4)大学の教育研究支援のための諸活動を支えている各種委員会には、教員だけではなく 課長等の職員も副委員長等の構成員として参画し、教職協働で教学運営を行っている〔資料 4-1-102〕〔資料 4-1-202〕〔資料 4-1-307〕。
- (5) 事務局が教授会にオブザーバーとして参加している〔資料 4-1-104〕。

<自己評価>

- (1)業務執行の教学マネジメント体制は適切に機能している。
- (2)権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編成及び職員配置により組織を活性化し、大学の使命・目的達成のための効果的な教学マネジメント体制の構築、必要に応じた人材の確保ができている。

(3) 4-1 の改善・向上方策(将来計画)

- (1) 教学マネジメントにより、学生の学修成果、ひいては満足度を向上させて行く。
- (2)職員全体の資質や能力の向上を図るため、一人ひとりが成長できる仕組みを今後も構築して行く。
 - ①ジョブローテーションに伴う両キャンパス間の人事交流や人員補充採用は、今後とも 推進する。
 - ②職員の資質・能力の向上を図る一方で、業務の効率化・迅速化を図るため、適宜、事 務組織改編を行っていく。

4-2. 教員の配置・職能開発等

- 4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置
- 4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施
 - (1) 4-2 の自己判定

「基準項目4-2を満たしている。」

(2) 4-2 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置 〈事実の説明〉

《専任教員数》(令和5(2023)年度5月1日現在)

- (1) 学士課程 [資料 4-2-001]
 - ①学士課程における大学設置基準上の必要専任教員数は 57 人である。専任教員の配置 は 58 人で、必要数を充足している。
 - ②学士課程における大学設置基準上の必要教授数は29人である。教授の配置は34人であり、必要数を充足している。

(2)修士課程、博士課程

大学院の専任教員は5人、兼担教員は6人である〔資料4-2-301〕。

- ①修士課程における大学院設置基準上の必要な研究指導教員 6 人及び研究指導補助教員 3 人である。研究指導教員が 6 人、研究指導補助教員 4 人であり、基準を満たしている〔資料 4-2-302〕。
- ②博士課程における大学院設置基準上の必要な研究指導教員 6 人及び研究指導補助教員 3 人である。研究指導教員が 6 人、研究指導補助教員 4 人であり、基準を満たしている [資料 4-2-303]。

《教員構成の特色》

本学の基本理念である「国際性」「学際性」「実際性」を十分に考慮し、次のとおりの特色となっている。

[経営情報学部]

- (1)「国際性」:「アジア・ダイナミズム」に関する教育充実のため、韓国系教員 1 人、中国系教員 1 人を配置している〔資料 4-2-101〕。
- (2)「学際性」: グローバルビジネス、地域ビジネス、ビジネス ICT のそれぞれの学びの分野に対応できるように教員を配置している〔資料 4-2-102〕。
- (3) 「実際性」: 38 人中 11 人の専任教員が産業界出身である〔資料 4-2-103〕。
- (4)年齢構成は、70歳代1人、60歳代12人、50歳代11人、40歳代10人、30歳代4人であり、平均年齢は53.0歳となっている〔資料4-2-104〕。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)「国際性」: 外国籍の専任教員7人、海外経験豊かな日本国籍の専任教員7人を配置している「資料4-2-201」。
- (2)「学際性」: 文化人類学、観光学等の人文科学、経済学、国際政治等の社会科学、語学、情報処理等、幅広い分野の担当教員を配置し、「国際教養」と「観光サービス」の学際的な教育・研究を展開している〔資料 4-2-202〕。
- (3)「実際性」: 21 人中 4 人の専任教員が産業界等における実務経験を有している。その経験を授業に十分に活かし、実践的教育を行っている〔資料 4-2-203〕。
- (4)年齢構成は、60歳代3人、50歳代8人、40歳代6人、30歳代3人となっている。平均年齢は50.3歳である〔資料4-2-204〕。

〔経営情報学研究科〕

大学院の教育目的を踏まえ、産業界出身の教員を配置している。

- (1) 「国際性」: 大学院専任教員 5 人中 3 人の国際性は次のとおりである〔資料 4-2-304〕。
 - ①外資系企業の勤務経験者
 - ②海外勤務経験者
 - ③海外での MBA 取得者
- (2)「学際性」:
 - ①経営学と情報学の「学際性」の教育理念に基づき、今の時代に求められているデータ

の力と AI の力を活用し、経営の課題解決力を身につける「データドリブン経営」のフィールドを展開し、教員を配置している〔資料 4-2-305〕。

- ②高度の専門性を持つ専任教員の他、様々な専門領域を持つ非常勤教員を採用し、特定 の専門領域に捉われない幅広い分野の知見を院生に提供している。
- (3)「実際性」: 大学院専任教員 5 人全員が産業界出身である。兼担教員、客員教員も大半が産業界出身である〔資料 4-2-306〕。

《教員の採用・昇任等》

- (1)教員の人事については、学長のリーダーシップの下、「大学運営会議」[資料 4-2-002] を意思決定機関とし、学部長又は研究科長をトップとする「人事委員会」の方針を審議、 承認している。学長は、大学運営会議の審査結果に基づき、理事長に候補者を推薦する。
 - ①具体的な規程等は次のとおりである。
 - ・「多摩大学人事委員会規程」〔資料 4-2-003〕
 - •「多摩大学大学院人事委員会規程」「資料 4-2-307]
 - ②関連規程は次のとおりである。
 - •「多摩大学再任候補者審査部会細則」〔資料 4-2-004〕
 - •「多摩大学採用候補者選考部会細則」〔資料 4-2-005〕
 - •「多摩大学昇格候補者審査部会細則」〔資料 4-2-006〕
 - •「多摩大学大学院採用候補者選考部会細則」〔資料 4-2-308〕

(2)採用

各学部並びに研究科が全体の方針を共有した上、それぞれのカリキュラムの改善や学術 的方向性に沿って、教員を採用し、配置や昇格を適切に行っている。

(3) 昇格(助教から専任講師、専任講師から准教授、准教授から教授への昇格) 教員の昇格については、規程に基づき組織され開催される人事委員会〔資料 4-2-003〕 において、議長又は委員より提出された昇格案件について審議し、昇格審査対象とする かどうかを決定している〔資料 4-2-105〕。

①経営情報学部

令和 4(2022)年に、昇格候補者の推薦基準として「経営情報学部専任教員昇格審査選 定基準規程」を策定した「資料 4-2-106]。

②グローバルスタディーズ学部

候補者の推薦基準として「Description of Promotion Criteria」があり、「Promotion Evaluation Sheet」と併せて運用している〔資料 4-2-205〕。

(4) 両学部での人事の実績

①採用

令和 4(2022)年度採用(令和 5 年(2023)4 月 1 日より勤務)において、グローバルスタディーズ学部では 1 人を新規採用した「資料 4-2-206]。

②昇格

令和 4(2022)年度昇格(令和 5 年(2023)4 月 1 日より昇格)において、経営情報学部では 2 人が〔資料 4-2-107〕、グローバルスタディーズ学部では 2 人が昇格した〔資料 4-2-207〕。

③再任

令和 4(2022)年度再任において、着任後 3 年での任期満了に伴う再任候補者に関し、 グローバルスタディーズ学部では 1 人を再任した〔資料 4-2-208〕。

4)異動

令和 4(2022)年度は異動が無かった。

(5)経営情報学研究科での人事の実績

令和 4(2022)年度の採用は、専任教員が 3 人、退職後に特任教授となった教員が 3 人となった。専任教員採用は全て公募にて行われた〔資料 4-2-309〕。特任教授の採用に関しては、退職する専任教員が、退職後も非常勤教員として継続して講義を担当するという形で行われた〔資料 4-2-310〕。

《教員業績評価》

「多摩大学教育職員業績評価規程」「資料 4-2-007」に則り、業績評価を行っている。

[経営情報学部]

- (1) 教員は、年度が始まる前に「教員活動計画書」〔資料 4-2-108〕を、12 月には「教員活動報告書(中間報告)」を学部長に提出する。それを受けて人事委員会が評価を行い、学部長に報告を行う〔資料 4-2-109〕。
- (2) 教育業績、学生による授業評価「VOICE」において優秀な教員に対して顕彰を行っている [資料 4-2-110]。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1) 教員は、年度末に提出する「教員活動報告書」により、「教育」「研究」「社会貢献」「管理運営」の各項目で自己の実績を報告する〔資料 4-2-209〕。
- (2) 学部長がそれらを総合的に判断の上、評価を行っている。
- (3)評価は理事長に報告されている。
- (4)「VOICE」のスコアが高い教員に対して、顕彰を行っている〔資料 4-2-210〕。

[経営情報学研究科]

- (1)研究科長が、教員業績表の項目(教育活動、研究、社会貢献、業務内容)に基づき、専任教員と面談をした上で、総合的に判断し、給与改定に活かしている。
- (2)「VOICE」スコアが高い教員に対して、顕彰を行っている〔資料 4-2-311〕。

<自己評価>

- (1)教育理念、教育目的及び教育課程に即した教員の適切な配置を行っている。
- (2) 諸規程に基づき、採用、昇格、再任の手続きを適切に行っている。
- (3) 教員業績評価を適切に行っている。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

<事実の説明>

「多摩大学アクティブ・ラーニングセンター規程」に基づき、全学組織「多摩大学アクティブ・ラーニングセンター」〔資料 4-2-008〕が FD 活動の推進を行っている。なお、「アクティブ・ラーニング」は、以下、「AL」と略すこともある。

[経営情報学部]

- (1)「AL 委員会」〔資料 4-2-009〕にて「教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な 実施」を目的に、FD 勉強会、「AL プログラム」、「AL 発表祭」、「高大接続 AL 研究会」を 実施した。
 - ①令和 4(2022)年度の FD 勉強会は、「他委員会との連携および授業力向上の取り組み」等をテーマに、計9回開催した〔資料 4-2-111〕〔資料 4-2-112〕。
 - ②「AL プログラム」として認定プログラムを企画・実施している。令和 4(2022)年度は 26 プログラムを実施し、のべ 351 人が参加、のべ 349 人に単位を付与した〔資料 4-2-113〕。
 - ③AL の成果を学内外に広く発表する機会として、「AL 発表祭」を開催している。令和 4(2022)年度は、帝塚山大学、東京経済大学からの招待発表 2 件、多摩大学附属聖ヶ丘 高等学校からの「高大接続 AL プロジェクト」発表 1 件、多摩大学目黒高等学校からの「高大接続 AL プロジェクト」発表 5 件を含む、合計 20 件の発表を行った〔資料 4-2-114〕。参加者は、486 人となった〔資料 4-2-115〕。
 - ④多摩大学目黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校とともに、平成 29(2017)年度 4 月に「高大接続 AL 研究会」を立ち上げ、「AL 技法」の研究、「AL プログラム」の開発、教員力向上の研究等を高大連携というスキームで推進している。
 - ・令和4(2022)年度は、「初年次教育学会」大会を本学に誘致した〔資料4-2-116〕。
 - ・高大連携 FD 勉強会として、多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校の教諭が参加した。
 - ・「探求学習」に関する取り組みに関し、同校教諭が、事例報告・総括討論の場で登 壇した。
 - ・「高大接続 AL プロジェクト」は、「投資戦略スタディーグループ」「プログラミング スタディーグループ」「起業体験スタディーグループ」の3プロジェクトを実施し、 66人の多摩大学目黒高等学校の高校生が参加した〔資料 4-2-117〕。
- (2)「教務委員会」〔資料 4-2-010〕では、「教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施」を目的に、「共通教育プロジェクト」や「SRC(Student Research Conference)」を実施した。
 - ①「ゼミカの多摩大」として「ホームゼミ」でのアクティブな活動を広く支援するため、「共通教育プロジェクト」の申請制度を設け、教育改革のための各教員の教育裁量経費として活用している(「基準 4-4」参照)。令和 4(2022)年度の申請は 24 件となった〔資料 4-2-118〕。
 - ②主にゼミ活動での研究成果を学生自らが発表する学生研究発表会「SRC」を2回開催し

た。発表数は春学期44件、秋学期112件となった〔資料4-2-119〕。

[グローバルスタディーズ学部]

AL 委員会 [資料 4-2-009] が FD をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施を計画する体制を取っている。年間計画を策定し [資料 4-2-211]、令和 4(2022)年度は、科研費に関する FD 研修を開催した(7月 20日) [資料 4-2-212]。

[経営情報学研究科]

教務委員会〔資料 4-2-312〕が、FD をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施を行っている。

- (1)大学院専任教員はもちろんのこと、大学院科目を担当している全ての教員を対象に研修等を実施した。
 - ①FD 勉強会を開催した。「教育の DX 化」をテーマに、教員 25 人が参加した〔資料 4-2-313〕。
 - ②「FRC」(研究発表会)を1回実施した〔資料4-2-314〕。
 - ③教員 SD を実施した[資料 4-2-315]。「院生指導を含むハラスメント全般の傾向と対策」 をテーマにし、教員 28 人が参加した。
- (2)各フィールドの「フィールドミーティング」を実施し、「VOICE」結果をもとに、授業の 改善につなげている〔資料 4-2-316〕。

<自己評価>

「FD 勉強会」等を通じて、教授方法の工夫・開発への取り組みを実施し、独自の教授方法を構築している。FD 勉強会等から、次の成果が生まれている。

- (1)学修結果を「AL 発表祭」「SRC」等のイベントにて学内外へ積極的に発信している。
- (2)「AL プログラム」やゼミ活動を活性化させる支援制度によって「ゼミカの多摩大」を 実現している。

(3) 4-2 の改善・向上方策(将来計画)

(1) 全学

採用に関しては、高い専門性や研究能力だけでなく、本学の教育理念を深く理解し、粘り強く学生を育てる意思を兼ね備えた人材を見極める。採用、昇格ともに透明性・公平性を保ちつつ必要とされる人材の確保に努める。

(2)経営情報学部

- ①令和 5(2023)年度より開始する新たなカリキュラム及びコースの展開を踏まえ、必要とされる人材を適切に獲得できるよう採用活動及びその準備を推進する。
- ②教員評価の方法や基準について検証し、より公平でかつ有効な評価方法につなげる。
- ③「FD 勉強会」を年9回開催する。
- ④「AL プログラム」を、大きく「座学型」と「プロジェクト型」に分類し、単位の実質 化に注力する。
- ⑤「AL プログラム」参加学生の学修成果の見える化のため、「学修ポートフォリオ」へ

- の記録を行う。
- ⑥附属校以外の高校との高大接続を実現し、拡大を図る。
- ⑦「共通教育プロジェクト」の成果を「SRC」を通じて公開して行く。
- (3) グローバルスタディーズ学部
 - ①教員業績評価においては、「教育」「研究」「社会貢献」「管理運営」各項目の評価基準 をよりきめ細かくする。
 - ②FD 研修・勉強会等 FD の推進を通じて授業力・教育力・教員力の向上を図る。
 - ③FD 勉強会等、テーマを設定して計画的に行う。
 - ・授業における問題
 - ・授業での電子黒板の活用
 - ・非常勤講師に対する勉強会 本学の教育理念を説明し、授業の質の担保とクラスマネジメント、単位付与基準等 について話し合う。
- (4) 経営情報学研究科
 - ①FD 実施計画を作成する。
 - ②教員が最新ビジネス現場での変化を踏まえた講義などを実施できるように、FD 勉強会を実施する。
 - ③教員 SD を開催する。情報セキュリティ等の大学運営に関する事項を学ぶ。

4-3. 職員の研修

- 4-3-① SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上 への取組み
 - (1) 4-3の自己判定

「基準項目 4-3 を満たしている。」

- (2) 4-3 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- 4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上 への取組み

<事実の説明>

SD(Staff Development)の目的は、学内諸活動や学外の研究会、研修会を通じて、職員が業務に必要な知識と変化に柔軟に対応して行く力を身につけることにある。

- (1)職員の資質・能力向上を推進するために「多摩大学事務職員研修規程」〔資料 4-3-001〕 を制定している。
- (2) 本学では、法令や就業規則等に基づくSDの実施にとどまらず、両キャンパスの総務課が連携して全学的な「職員研修計画」[資料 4-3-002]を作成し、「事務局運営会議」にて審議承認の上、学内のSDプログラム等を提供する他、外部研修会、他大学の同じ部門職員との勉強会にも職員を派遣している〔資料 4-3-003〕。主たる研修や支援策は以下のとおりである。
 - ①SD 全体合同研修会〔資料 4-3-004〕

両キャンパスの職員が一堂に会して、丸一日の「SD 全体研修」を実施している。

- ・令和 4(2022)年度は「情報セキュリティポリシー施行について」、「ハラスメント研修」、「学生満足度向上方策」をテーマとし、職員の相互啓発、能力向上を促した〔資料 4-3-005〕~〔資料 4-3-008〕。
- ・他大学からの参加も募り、複数大学の共同研修として実施することで、人的交流や 情報交換の場ともなっているが、令和 4(2022)年度も、コロナ禍により、学内の職 員のみで実施した。
- ②初任者研修〔資料 4-3-009〕

新入職員に対し、数日間にわたる計画的なプログラムを実施し、職員としての基礎能力の形成を行っている。

③海外研修

学生に対する AL 教育の一環である「アジアダイナミズム研修」等に職員を引率として 参加させ、海外研修の機会としている。令和 4(2022)年度も、コロナ禍から催行でき なかった。

④外部研修参加・研修参加費等の経費補助〔資料 4-3-003〕

「日本私立大学協会」、民間の研修機関等が主催する専門的研修に毎年計画的に参加させている〔資料 4-3-010〕。これらの研修成果を日常の職務に活用して専門的職能を発揮させるよう、積極的に支援している。また、職員の経済的負担の軽減を目的に、参加費等の経費補助を行っている。研修及び講習等を受講した職員に対しては「研修出張報告書」の提出を義務付けている。

- ⑤「大学行政管理学会」への参加〔資料 4-3-011〕 「大学行政・管理」の多様な領域を理論的かつ実践的に研究することを通じて全国の 大学が横断的な「職員」相互の啓発と研鑽を深めるための専門組織である「大学行政 管理学会」に職員が参加している。
- ⑥資格取得奨励制度〔資料 4-3-012〕業務に必要な資格取得(MOS 資格等)を奨励する制度を設けている。令和 4(2022)年度、MOS 資格試験を 3 回実施し、のべ 10 人が受験した。
- ⑦「全体方針共有会」〔資料 4-3-013〕 両学部では、毎年度末に当該年度の事業報告及び翌年度の事業計画を発表・共有し、 教職員のベクトル合わせと相互啓発を行い、協働を推進する「全体方針共有会」を開催している〔資料 4-3-014〕。
- (3)職員の資質・能力向上に向けて、目標管理制度「業績評定」を導入している。課の部門目標をもとに課員の個人目標を設定し、年度末に実績等を基準に自己評価と上司による業績評価を行い、次年度へ活かすとともに、「期末特別手当」に反映している〔資料 4-3-015〕。

<自己評価>

職員の能力開発及び資質向上のための充実した研修等が組織的に実施されている。研修項目は充実していると考えている。

(3)4-3の改善・向上方策(将来計画)

活発なSD活動を推進し、「もう一歩前に外に出る」ことを心掛け、現場力をもう一段高いレベルに上げて行く。

- (1)職員を体系立てて育成するシステムとして、何らかの得意分野を持ちながらの、複数分野の業務に精通するマルチタスク型能力の開発を、各種研修等を通じて実施して行く。
- (2) 私学を取り巻く環境の変化への対応や、学生サービス満足度の向上等を図るため、組織横断的なタスクフォースを立ち上げるノウハウを蓄積して行く。

4-4. 研究支援

- 4-4-① 研究環境の整備と適切な運営・管理
- 4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用
- 4-4-③ 研究活動への資源の配分
 - (1) 4-4の自己判定

「基準項目4-4を満たしている。」

(2) 4-4の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

4-4-① 研究環境の整備と適切な運営・管理

〔全学〕

<事実の説明>

(1)「研究活性化センター」

学長をセンター長とする全学組織「研究活性化センター」〔資料 4-4-001〕〔資料 4-4-002〕 を平成 28(2016)年度に設置した。同年に設置した「研究活性化センター事務課」には専 任職員を配置し、研究方針策定と研究推進のためのマネジメントを行っている。

(2)「研究活性化委員会」

同じく平成 28(2016)年度に、研究環境を制度面、資金面からサポートする目的で、「研究活性化委員会」[資料 4-4-003][資料 4-4-301]が発足した。両学部・大学院の「研究活性化委員会」では、本学の研究の基本方針に関する事項、研究紀要編集に関する事項、「共同研究」に関する事項、科学研究費補助金獲得に関する事項、外部資金導入に関する事項等を審議・決定することで、研究環境の整備、運営・管理を担っている。

(3)「教員の教育・研究等環境の整備に関する方針」 令和元(2019)年度には、「教員の教育・研究等環境の整備に関する方針」〔資料 4-4-004〕 を策定した。

<自己評価>

「研究活性化センター」の設置、「教員の教育・研究等環境の整備に関する方針」の策定 等、研究環境整備に努めている。

《教員の研究環境》

<事実の説明>

専任・非常勤教員に対して、研究室を割り当てている〔資料 4-4-101〕。

[経営情報学部]

(1)「共同研究」

平成 24(2012)年度から「共同研究費枠」を設けている。異なる専門分野を持つ教員が多角的に「共同研究」の課題に立ち向かうことにより、研究の幅が広がっている。「共同研究」で構築した連携や関係が基礎になり、さらなる研究活動への意欲が高まる形ができている。令和 4(2022)年度は、「共同研究」として 12 件を選定した〔資料 4-4-102〕。

(2)FD 等〔資料 4-4-103〕

- ①科研費(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)獲得に向けた FD 勉強会を開催し、申請書の書き方を共有した。30人が参加した(7月30日)[資料4-4-104]。
- ②「共同研究」に向けた FD 勉強会として「FRC」を 2 回開催した〔資料 4-4-105〕。
 - ・「第1回 FRC 2021 年度共同研究発表」(9月21日):参加者32人
 - ・「第2回 FRC 2023 年度共同研究キックオフ」(2月7日):参加者30人
- (3) 研究紀要「経営情報研究 No. 27 2023」〔資料 4-4-106〕を発行した。
 - ①「特集論説」のテーマは「新しい時代に求められる起業家精神」とした。
 - ②5本の「特集論説」の他、査読付きの「研究論文」2本、「実践知論文」1本、「研究ノート」11本、「共同研究報告」15本、そして「書評」1本の計35本を掲載した。
- (4) 専任教員を対象に、研究環境に関する満足度調査を毎年実施し、改善につなげている [資料 4-4-107]。
 - ①令和3(2021)年度の調査では、「全体的な教員の研究・教育動向の共有」という要望が 出た。
 - ②アイデアを教員間で共有する場として、「研究サロン」という研究活動の情報共有の場を設け、令和4(2022)年度は、計9回の「研究サロン」を開催した〔資料4-4-108〕。
- (5) 教員業績「Research Map」の更新を全教員で実施した〔資料 4-4-109〕。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1) 科学研究費補助金採択を増やすため、FD 勉強会を実施した(7月20日)[資料4-4-201]。 また、経営情報学部研究活性化委員会が開催した科研費 FD にも本学部教員1人がオンラインで参加した[資料4-4-202]。
- (2)「共同研究」に関し、「共同研究進捗状況報告書」を改訂した〔資料 4-4-203〕〔資料 4-4-204〕。
- (3)「多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要第 15 号」を 3 月に発行した。専任教員 6 人、非常勤講師 3 人の執筆があり、計 6 本の論文と、「多摩大学共同研究」の成果として 2 本の報告書を掲載した〔資料 4-4-205〕。
- (4) 非常勤講師室に、科研費申請、研究倫理に関する書籍、ならび「SGS Bulletin(紀要)」の創刊号から最新号を配架し、専任及び非常勤教員に研究倫理教育の一層の普及、外部研究費獲得への奨励、そして紀要投稿を呼びかけた〔資料 4-4-206〕。

[経営情報学研究科]

(1)「多摩大学研究紀要 No. 27」に、専任教員と博士課程後期院生の共作による実践知論文

を投稿した〔資料 4-4-302〕。

- (2) 大学院専任教員同士が、専門性を相互に学べる機会として「教員研究会(FRC)」を開催した「資料 4-4-303]。
- (3) 多摩キャンパスと品川サテライトとをインターネットで接続し、サテライトにおいて も多摩キャンパスにおける教員研究室同等に各種助成事業募集要項が閲覧できるように 整備している「資料 4-4-304」。
- (4) 科研費等の助成金の募集に関する情報を共有している〔資料 4-4-305〕。
- (5) 品川サテライトにテーブル付きブース〔資料 4-4-306〕を用意し、インターネット接続や研究資料の印刷の便宜を図っている。
- (6) 令和 4(2022) 年度に、リサーリアシスタントとティーチングアシスタントを採用できるよう、基盤を整備した〔資料 4-4-307〕。

<自己評価>

- (1)研究環境を適切に運営・管理している。
- (2) 科研費獲得支援等が毎年着実に行われている。

《学生の研究環境》

<事実の説明>

[経営情報学部]

- (1)ホームゼミ活動における研究を推進するため、D棟にゼミ室を配置している〔資料 4-4-110〕。複数のホームゼミで共同使用し、学生の研究活動に寄与している。
- (2) 学生が直接教員と授業や研究について相談・議論する場として B 棟 3 階に「ラウンジ」、「教育サポート室」を配置している [資料 4-4-110]。
- (3) 学生アンケート
 - ①「学生満足度・学生生活実態調査」において、「研究(ゼミ・論文指導など)に関する支援体制」の質問項目を設け、満足度を調査している〔資料 4-4-111〕。
 - ・令和 3 (2021) 年度と比較し、「満足」+「やや満足」が 79.7%へと微増した。しかし、 コロナ禍前の令和元(2019) 年度の水準までには戻っていない。
 - ・意見に関しては、「満足」についての意見が多くみられる。
 - ②「卒業生満足度調査」においては、「ホームゼミ」の満足度が94.4%に上昇した(令和3(2021)年度86.0%)[資料4-4-112]。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)「アゴラ」、W 棟教員研究棟 2 階の「ラウンジスペース」では静穏な環境を保ち、学生が学習、研究に集中できる環境を整えている〔資料 4-4-207〕。
- (2) W 棟教員研究棟 1 階の「ミーティングスペース」において、学生が研究課題等について 話し合いを行えるスペースを設けている〔資料 4-4-208〕。
- (3)「Career Honors Program(特別専修プログラム)」の学生のために「CHP」ルームを設置し、課題等を共有し問題解決に活用できる環境を整えている〔資料 4-4-209〕。
- (4) 教職課程の学生のために「教職支援室」を設置し、中学校・高等学校の学習指導要領、

同解説書、教員採用試験問題集ほか、教育研究に関する書籍等を利用できる環境を整えている〔資料 4-4-210〕。

- (5) 卒業研究に取り組む学生を支援している〔資料 4-4-211〕。
 - ①卒業研究テーマに関する資料情報提供と優先購入
 - ②卒業研究用資料の学期貸し出し制度
 - ③オフィスアワーの設置〔資料 4-4-212〕
- (6)「学生満足度・学生生活実態調査」において、「研究(ゼミ・論文指導など)に関する支援体制」の質問項目を設け、満足度を調査している。令和 4(2022)年度の満足度は、令和 3(2021)年度のレベルを維持し、83%が満足の回答であった〔資料 4-4-213〕。

〔経営情報学研究科〕

- (1) 研究 ICT 環境の一環として、VPN 接続を活用している [資料 4-4-308]。
 - ①「日経テレコン」、「聞蔵 II」等の有料データベースが無料で利用できる。
 - ②多摩大学学術情報リポジトリ「たま蔵」閲覧等のサービスが利用できる。
- (2)論文作成の便を図るために、過去の論文の閲覧(持ち出し禁止)等のサービスを提供している〔資料 4-4-309〕。
- (3)研究環境に関する院生満足度調査〔資料 4-4-310〕、修了生満足度調査〔資料 4-4-311〕を実施した。研究支援・研究設備に関して、8割以上の院生より「満足・どちらかというと満足」という回答結果を得ている。

<自己評価>

「学生満足度・学生生活実態調査」を起点とする PDCA を回し、学生の研究に関する支援 体制を改善している。

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

<事実の説明>

- (1) 研究倫理を確立し、厳正な運用を実施するため、「多摩大学における研究活動及び公的研究費に関する行動規範」「資料 4-4-005」「資料 4-4-006」を定め、高い倫理観を求めている。
- (2) 文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づき、必要な事項を「多摩大学競争的資金等の公的研究費の管理・監査に関する規程」[資料 4-4-007] に定めている。
 - ①学長を「最高管理責任者」、事務局長を「統括管理責任者」、両キャンパス事務長を「研究倫理教育責任者」、両キャンパス総務課を「内部監査部門」と定め、管理・運営体制を整えている。
 - ②競争的資金に関する間接経費の使用方針及び取扱について「多摩大学競争的資金等の公的研究費に係る間接経費取扱規程」〔資料 4-4-008〕にて定めている。
- (3)公的研究費等の管理については、法令等を遵守するとともに、本学が定める「多摩大学競争的資金等の公的研究費の管理・監査に関する規程」に基づいて、適切な運営・管理を行っている〔資料 4-4-007〕。

- (4)公的資金を用いた研究活動において、研究活動上の不正行為の防止及び不正行為が生じた場合における適正な対応について、「多摩大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」[資料 4-4-009]を平成 29(2017)年度から施行している。
 - ①研究活動における捏造、改ざん、盗用等の不正防止を図るための体制は、学長を「最高管理責任者」、副学長を「統括管理責任者」、学部長・研究科長を「研究倫理教育責任者」と定めている。
 - ②定期的に研究倫理に関する教育を行うことを規定している。
- (5)上記の規程に則り、専任教員全員に「研究者倫理学習」を課し、「研究成果報告書」の 提出を義務付けている
 - ①経営情報学部では、文部科学省が提供している「コンプライアンス教育用コンテンツ」 を利用している〔資料 4-4-113〕〔資料 4-4-114〕。
 - ②グローバルスタディーズ学部では、新規に日本学術振興会が制作した倫理学習用オンライン教材「eLCoRE」(研究倫理 e ラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics))を活用している [資料 4-4-214] [資料 4-4-215]。
 - ③経営情報学研究科では、「eLCoRE」や「研究倫理教育教材 科学の健全な発展のために 〜誠実な科学者の心得〜」を活用している〔資料 4-4-312〕。
- (6)修士課程の院生対象に論文基礎講座内において、利益相反や人権に関する研究倫理教育を行った〔資料 4-4-313〕。
- (7)博士課程の院生を対象に、学習教材の「THE LAB」を使用し、倫理的な判断能力や問題解決能力を身につけることも目的とした研究倫理教育を行った〔資料 4-4-314〕。

<自己評価>

- (1)研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用できている。全教員に対して研究者倫理学習を実施し、研究倫理確立の意識が行き届いている。
- (2) 競争的資金等の公的研究費の管理・運営・監査体制が整っている。

4-4-③ 研究活動への資源の配分

<事実の説明>

研究活動のための資源として、「個人研究費」〔資料 4-4-115〕〔資料 4-4-315〕、「共同研究費」、外部資金がある。それぞれの部門の目的に合わせて、有効に活用している〔資料 4-4-216〕。「共同研究費」に関しては、「多摩大学共同研究費運営細則」〔資料 4-4-010〕に則り運営している。外部資金に関しては、各種助成事業募集要項をホームページ上に掲載し、情報を周知している〔資料 4-4-116〕〔資料 4-4-217〕〔資料 4-4-304〕〔資料 4-4-305〕。

- (1)共同研究費
 - ①経営情報学部では、12件の「共同研究」が選定された(前述)〔資料 4-4-102〕。
 - ②グローバルスタディーズ学部では、4件の応募が全て選定され、適切に執行された〔資料 4-4-218〕。
- (2)外部資金
 - ①経営情報学部での科研費申請を含む競争的資金の応募件数は、8 件となった〔資料 4-4-117〕。

②グローバルスタディーズ学部での科研費申請は、3件となった〔資料 4-4-219〕。

<自己評価>

- (1)個人研究費と共同研究費が適切に運用されている。
- (2)外部資金の情報共有も図られている。

(3) 4-4 の改善・向上方策(将来計画)

学内各部門の一層のシナジーを図り、そして教育に反映していく。

- (1) 教員の研究環境
 - ①「紀要」の充実を図る。
 - ②研究環境満足度調査を着実に実施し、研究環境の満足度の向上を目指す。
 - ③大学院
 - ・「共同研究」を1件行う。
 - ・多摩大出版会を活用した出版物を1本、各教員が出版物を1本刊行する。
 - ・専任教員による研究発表会を年に1回開催する。
- (2) 学生の研究環境

「学生満足度調査」の結果等をもとに、ゼミ室・空き教室・空きスペースをさらに活用 するよう働きかける。

- (3)研究倫理
 - ①研究倫理に関する規則の厳格な運用を継続する。
 - ②研究者倫理の維持・向上に向けて、引き続き倫理学習を推進する。
 - ③グローバルスタディーズ学部では、研究者倫理学習に関し、日本語・英語の両言語で 提供できる教材の選定を継続する。
 - ④大学院では、修士課程及び博士課程の院生に「研究者倫理学習」を行う。
- (4)外部資金

科研費申請件数を増やす。

- ①経営情報学部では、科研費の目標件数は、申請目標12件、採択目標5件。
- ②グローバルスタディーズ学部では、5件以上の申請、内2件は採択されることを目指す。科研費申請に関する書籍の充実、日本語・英語での科研情報の発信、FD実施等により、科研費を獲得するメリットを広める。
- ③大学院では、1件申請する。

[基準4の自己評価]

大学の意思決定と教学マネジメントにおいて、学長がリーダーシップを適切に発揮する ための体制を整備している。また、教学マネジメントの業務遂行に必要な職員を適切に配 置し、教職協働で教学運営を行っている。

大学及び大学院ともに設置基準上の必要専任教員数及び必要教授数を充足し、教員を適切に配置している。教員の採用等の手続きについては、関連諸規則に基づき、適切に運用

多摩大学

している。職員の資質・能力向上を図るため、全学合同の SD 研修会を開催する等、各種研修会を計画的に開催している。

研究活性化センターの設置等、研究環境整備に努めている。研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用している。個人研究費、共同研究費を適切かつ有効に運用している。また、科学研究費助成事業等の外部資金獲得支援を積極的に行っている。

基準5 経営・管理と財務

- 5-1. 経営の規律と誠実性
- 5-1-① 経営の規律と誠実性の維持
- 5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力
- 5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮
 - (1) 5-1 の自己判定

「基準項目 5-1 を満たしている。」

(2) 5-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

<事実の説明>

昭和12(1937)年創立の本学園は、寄附行為〔資料5-1-001〕第3条において、法人の目的を「教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、学園建学の精神である『質実清楚・明朗進取・感謝奉仕』を礎とし、豊かな個性を伸ばし、新しい時代に活躍できる人材を育成すること」と定め、理事会及び評議員会を開催し、関係諸規程に基づき、誠実にコンプライアンス経営を実践している。

寄附行為は、令和 3(2021)年の学校法人寄附行為作成例の改正等に伴い、私立学校法第 45 条第1項の規定によって認可申請を行い、文部科学大臣から寄附行為変更を認可された [資料 5-1-002]。

本学園は、寄附行為に則り、理事と評議員を任命、理事長を選任し、理事会及び評議員会を適切に運営し、理事長のリーダーシップの下、大学では学長に教学の権限を与え、大学設置基準等諸法令に基づき誠実に経営を行っている。

- (1)役員の規律と誠実性の維持に関しては、寄附行為第11条に役員の解任に関する条項を 定め、法令及び寄附行為の遵守を意識した職務の遂行を役員に求めている。また、同第 17条第13項に「特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない」と定 め、利益誘導やその疑義の発生を防いでいる。さらに、同第19条第3項に「利益相反取 引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければなら ない」と定め、当該利益相反取引に賛成した理事等も損害賠償責任を負うことになるこ とを明確化したことから、役員はより厳正な規律の維持に努めている「資料5-1-003」。
- (2) 教職員の規律と誠実性の維持に関しては、就業規則〔資料 5-1-004〕〔資料 5-1-005〕に「誠実にこの規則を遵守しなければならない」と規定し、禁止行為に「職務上知り得た秘密及び個人情報を漏らすこと。その職を退いた後も同様とする」等を明記し、違反した場合は懲戒に処することを具体的に定め〔資料 5-1-004〕〔資料 5-1-005〕、遵法精神に基づいた職務の遂行を教職員に求めている。研究倫理については、「基準 4-4-②」参照。
- (3)「公益通報規程」〔資料 5-1-006〕を整備し、経営の規律と誠実性を担保している。
- (4) 寄附行為等及び、いわゆる教育情報 9 項目や教職課程 6 項目、財務状況等、法令等で義務付けられた項目に限らず、大学ホームページ等で情報を公開している [資料 5-1-007]。

<自己評価>

学園は寄附行為に則り、理事と評議員を任命、理事長を選任し、理事会及び評議員会を

適切に運営し、経営の規律と誠実性の維持を明確に表明すると共に、組織倫理に関する規則等に基づき、適切に経営を行っている。

情報の公表については、ホームページ等を利用し、適切に行っている。

理事長の管理の下、学長のリーダーシップによる大学運営は適切に行われており、使命・ 目的の達成における経営の規律と誠実性は維持されている。

5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

<事実の説明>

平成元(1989)年の大学創設以来「国際性、学際性、実際性」を基本理念とし、時代の変化に対応するため「現代の志塾」を教育理念として、使命・目的の達成に邁進している。 法人は、次のように使命・目的の実現へ向けて継続的な努力を行っている。

- (1)「組織運営規程」〔資料 5-1-008〕等により組織、職務権限及び事務分掌について必要な事項を定めている。
- (2) 学園の使命・目的を計画的に達成するため、寄附行為第22条に則り中期計画を策定し、 各年度の事業計画や予算に反映させている。「学校法人田村学園中期計画(第3期)」〔資料5-1-009〕は、令和2(2020)年4月1日~令和7(2025)年3月31日までの5ヶ年計画 とし、認証評価の結果を踏まえ、財務計画を含めて策定した。
- (3) 毎年、中期計画に基づき事業計画 [資料 5-1-010] を策定している。また、年度終了後は事業報告書 [資料 5-1-011] を作成し、理事会・評議員会に報告すると共に、大学ホームページで公開している [資料 5-1-007] [資料 5-1-012]。

<自己評価>

法人及び大学は、使命・目的の実現へ努力を継続的に行っている。

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

<事実の説明>

労働安全衛生法等の諸法令に基づき、教職員・学生等の事故・労働災害・健康障害等の 防止に努め、環境保全、人権、安全への配慮をしている。

(1)「地球温暖化対策実施計画(第二次)」〔資料 5-1-013〕を策定し、地球温暖化対策への積極的な取組みを行っている。また、毎年、理事会・評議員会で電力使用実績〔資料 5-1-014〕及びガス使用実績〔資料 5-1-015〕を報告し〔資料 5-1-016〕、環境保全意識の高揚に努めている。大学では、学生・教職員が地域住民と協力して環境に配慮した教育・研究活動を行うことを「多摩大学環境宣言」にまとめ、大学ホームページに掲載している〔資料 5-1-017〕。

(2)人権

- ①「個人情報保護規則」〔資料 5-1-018〕、「特定個人情報取扱規程」〔資料 5-1-019〕を定め、適切に運用している。
- ②ハラスメントの防止及び適切な対応を行うための措置等について「ハラスメント防止規則」〔資料 5-1-020〕を定めている。大学での運用状況は、「基準 2-4」参照。
- ③大学におけるバリアフリーについては、「基準2-5-③」参照。

- (3)安全衛生については、労働安全衛生法によるほか、安全衛生管理規程〔資料 5-1-021〕に基づき、衛生委員会〔資料 5-1-022〕〔資料 5-1-023〕の下、事故の未然防止、安全衛生の確保を図っている。また、ストレスチェック実施規程〔資料 5-1-024〕に基づき、ストレスチェックを実施して〔資料 5-1-025〕、教職員の心理的な負担の程度を把握し、心の健康づくり及び活気のある職場づくりに取組んでいる。
- (4) 防火防災については、消防法に定めるもののほか、防火防災管理規程〔資料 5-1-026〕 を定め、火災の未然防止、災害等発生時の安全の確保を図っている。大学においても、 防火防災管理規程を整備し〔資料 5-1-027〕、避難訓練等を着実に実施している〔資料 5-1-028〕(詳細は「基準 2-5-①」参照)。

<自己評価>

環境保全、人権、安全について配慮し、危機管理の体制を整備している。これらが適切 に機能している。

(3) 5-1 の改善・向上方策(将来計画)

学園の建学の精神「質実清楚、明朗進取、感謝奉仕」に基づき、大学の理念である「国際性、学際性、実際性」を実現するため、法令を遵守する体制・組織を整備しながら、規律ある経営を行っていく。

5-2. 理事会の機能

- 5-2-① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性
 - (1) 5-2 の自己判定

「基準項目5-2を満たしている。」

(2) 5-2 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

5-2-① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性 <事実の説明>

理事を適切に選任し、理事会を寄附行為に基づき適切に運営し、良好な出席状況の中で 十分な審議を行っている。また、「大学経営会議」が理事会の補佐体制として機能している。

- (1) 学園の管理運営体制は、理事会、評議員会及び監事から成り、それぞれの役割は寄附行 為の中で明確に示されている。理事、評議員及び監事の選任は寄附行為第6条〔資料5-2-001〕、学長選考は学長選考規程〔資料5-2-002〕に則り、厳格かつ適切に行われてい る。令和5(2023)年3月31日で多摩大学学長の任期が満了することに伴い、学長の任期 を令和7(2025)年3月31日まで延長し、理事及び評議員として選任(再任)した〔資料5-2-003〕
- (2) 寄附行為第17条第1項で理事会を置き、理事会は、第2項で「学校法人の業務を決し、 理事の職務の執行を監督する」とし、理事会の議題は寄附行為に則って評議員会の諮問 を経ている「資料5-2-004」。
- (3) 理事会の役員は理事 6 人と学外監事 2 人との計 8 人で、教育に知見のある有識者で構

成している [資料 5-2-005]。理事 6 人の内訳は、学内理事は多摩大学目黒高等学校校長 (理事長)、多摩大学学長、多摩大学目黒高等学校教頭(常務理事)の 3 人、そして学外理 事の 3 人となっている。

- (4) 令和 4(2022) 年度は、定例 4 回理事会を開催した。理事及び監事の出席率は高く〔資料 5-2-006〕、議題に従い活発な議論、審議が行われている。令和元(2019) 年度時〔資料 5-2-007〕との比較では、出席率が 87.5%から 91.7%へと、4.2 ポイント改善した。理事会開催日・審議内容は〔資料 5-2-008〕のとおりである。なお、理事会の案内送付時に議事内容を事前に送付している。欠席者が出たとしても、委任状ではなく、議決権行使書〔資料 5-2-009〕の返信送付を得ており、欠席理事の意思は反映されている。
- (5)大学の重要案件は「大学経営会議」〔資料 5-2-010〕に上程されている。大学経営会議は、理事長、常務理事及び学長の常勤理事で構成し、大学運営会議との合同で開催している〔資料 5-2-011〕。

<自己評価>

使命・目的の達成に向けて、戦略的に意思決定ができる体制は整備され、的確に機能している。

(3) 5-2 の改善・向上方策 (将来計画)

理事会は、学園運営全般について審議している。今後とも幅広い教育の見地から審議を 深化させる。大学の重要事項については大学経営会議(合同会議)をさらに有効活用し、理 事会とのコミュニケーションを高め、大学の戦略的経営に活かして行く。

- 5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック
- 5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化
- 5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性
 - (1) 5-3 の自己判定

「基準項目 5-3 を満たしている。」

(2) 5-3の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

<事実の説明>

理事長と学長に関しては、寄附行為等により、それぞれ法人と大学を代表する権限と責任を明確に規定している。また、教学マネジメント体制(「基準 4-1-②」参照)、及び内部質保証体制を確立している。

- (1)理事長は、寄附行為第12条の「法人を代表し、その業務を総理する」という規定〔資料5-3-001〕に従って職務を遂行し、リーダーシップを発揮している。
- (2) 理事会(「基準 5-2」参照)
- (3)学長は、組織運営規程第8条で「校務を掌り所属職員を統督する」という規定〔資料5-3-002〕で大学の運営を任されている。法人の理事も兼ねており、大学の方針や大学運営

会議・教授会の意向を理事会で表明すると共に、理事会の決定事項を大学に指示する等、 法人と大学の意思の疎通も円滑に行われている。

- (4)大学の運営に関する重要事項について審議するために「大学経営会議」(合同会議)〔資料 5-3-003〕を置き、理事会と大学をつなぐ重要な役割を果たしている。
- (5)大学の最高意思決定機関である「大学運営会議」〔資料 5-3-004〕を原則毎月開催している。教授会からの情報・提案、事務局管理部門からの報告等を確認し、全学的な判断をしながら使命・目的の実現に尽力している〔資料 5-3-005〕。
- (6) 法人と大学事務局の「定例会議」を原則月 1 回開催している〔資料 5-3-006〕。メンバーは、理事長、法人本部事務局長、大学事務局長、両キャンパス事務長で、教職員の人事、予算執行状況、補助金申請、規程改定、その他学生の状況等多岐に亘り、コミュニケーションを図り、教職員の意見や提案等を確認する場となっている。

<自己評価>

法人と大学のコミュニケーションは、各階層において行われており、意思決定も円滑である。大学内のコミュニケーションについても教職協働体制が構築されており極めて良好である。

5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

<事実の説明>

管理部門(理事長・理事会)と教学部門(学長・大学運営会議)の両部門でのコミュニケーションは円滑に図られており、両部門の相互チェックによりガバナンスも機能している。

- (1)評議員会は、諮問機関として有効に機能している。
 - ①寄附行為第20条で「評議員会を置く」、第22条で「理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない」と規定し、諮問機関としての役割を果たしている「資料5-3-007」。
 - ②評議員会は、広い分野からの 14 人で構成されており [資料 5-3-008]、その選任は寄附行為第 24 条に従って行われている。令和 2(2020)年 7 月 29 日以降欠員となっていた評議員 1 人を、令和 4(2022)年 2 月 1 日付で選任した [資料 5-3-009]。
 - ③評議員の出席状況は良好である〔資料 5-3-010〕。令和元(2019)年度時〔資料 5-3-011〕 と比較し、出席率は 90.7%から 91.1%へと、0.4 ポイント改善した。
 - ④寄附行為に則り評議員会を開催している。評議員会が理事会に先立ち予め審議しているのは、寄附行為第 22 条に規定する事項である。令和 4(2022)年度の評議員会開催日・審議内容は〔資料 5-3-012〕のとおりである。予算及び事業計画については、予め評議員会の意見を聴いている〔資料 5-3-013〕。決算等については、評議員会に報告し、意見を求めている〔資料 5-3-014〕。
- (2)監事は、私立学校法及び寄附行為に定められた監事の職務を執行している。
 - ①監事は、現在2人で、共に学外の非常勤監事である。寄附行為第8条に従って、理事、 教職員、評議員又は役員の配偶者若しくは三親等以内の親族以外の者で監事の独立性 を確保しており、利益相反を適切に防止することができる高い知見がある者を選任し ている〔資料5-3-015〕。令和4(2022)年1月末日での監事1人の任期満了に伴い、同

年2月1日に後任の監事が就任した〔資料5-3-016〕。

- ②寄附行為第 16 条に監事の職務を規定しており、監事は、理事会及び評議員会へ出席し、業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行状況等の監査を行っている。法人本部事務局等から業務状況及び財産状況の報告を受け、状況を把握すること等により、学校運営が適切に行われているかを監査している。さらに、業務若しくは財産の状況、又は理事の業務執行の状況等について理事会に出席して意見を述べている〔資料 5-3-014〕。
- ③監事の理事会等の出席状況は良好である〔資料 5-3-010〕。
- ④監事は、令和 4(2022)年度は、大学キャンパスを 3 回実査した。6 月 19 日と 10 月 18 日に湘南キャンパス、3 月 6 日に多摩キャンパスを訪問し、大学事務局長等と令和 4 年(2022)年度の事業・予算の執行状況等を確認すると共に、教学面の状況等についてもヒアリング及び意見交換を行った〔資料 5-3-017〕。
- (3) 監事と公認会計士との意見交換

監事は、毎年度、会計監査会場に立ち会いして公認会計士監査の状況把握を行い、その場において公認会計士からの意見聴取及び情報交換を行っている。令和 4(2022)年度の公認会計士監査では、財産及び業務の状況について直接確認し、公認会計士と意見を交換した(12月19日)[資料5-3-018]。

(4)大学経営会議(合同会議)(前述)

<自己評価>

法人及び大学の各管理運営機関により、相互にチェックする体制が整備され、適切に機能している。

- (1)理事及び監事の理事会への出席状況は良好で、役員間で充分な議論がなされている。
- (2) 監事と公認会計士との連携を深める面談は、情報交換、実態把握に役立っている。

(3) 5-3 の改善・向上方策 (将来計画)

- (1)大学と法人間では、大学経営会議(合同会議)、定例会議等で、意思の疎通をさらに図る。
- (2)「私立大学版ガバナンスコード」に沿って、管理部門と教学部門のガバナンスをさらに 改善して行く。

5-4. 財務基盤と収支

- 5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立
- 5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保
 - (1) 5-4の自己判定

「基準項目5-4を満たしている。」

(2) 5-4 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

<事実の説明>

- (1)「学校法人田村学園中期計画(第3期)」〔資料5-1-009〕は、令和元(2019)年の私立学校法改正に則り、施設・設備計画及び財務計画も加えた5ヶ年の中期計画として策定している(「基準5-1-②」で前述)。
- (2) 令和 4(2022) 年度の事業計画の「I-5 施設設備整備の事業計画」〔資料 5-4-001〕は、上記中期計画の「I-5 施設設備整備の中期計画」〔資料 5-4-002〕を踏まえた上、コロナ禍の状況も考慮し、施設、設備及び修繕計画を立案している。
- (3) 緊急性のある修繕計画等にも対処するために、学生生徒等納付金、補助金等の変動にも対応した補正予算の策定や、国庫補助金等を活用した計画的な財務運営を実施している。
- (4)第2号基本金の組入れに係る計画に基づき、令和9(2027)年まで毎年度1億円の積み立てを「多摩大学目黒中高等学校校舎の建替資金」として実行中である〔資料 5-4-003〕。 令和5(2023)年3月31日現在、第2号基本金の残高は24億円になっている。

<自己評価>

中長期的な計画に基づく適切な財務運営が確立されていると判断している。

5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

<事実の説明>

現在の収容定員は、大学(2 学部、1 大学院)、2 中学校、2 高等学校、3 幼稚園の合計 4,554 人で構成されている〔資料 5-4-004〕。

- (1)本学園の学生生徒等納付金については、学校ごとに入学定員、収容定員の確保、適切化に尽力しており、安定した収入を得ている。平成30(2018)年度以降の学生生徒等納付金比率は70%前後、納付金収入も39億円前後で安定的に推移している〔資料5-4-005〕。
- (2) 基本金組入前当年度収支差額については、平成 30(2018)年度に多摩大学多摩キャンパス、多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校の校舎外壁大規模修繕工事等を行った年度も含めて黒字で推移しており、安定した財務状況である〔資料 5-4-005〕。
- (3)予算変更については、寄附行為の定めに基づき補正予算を策定して、理事会(3月27日) で承認、実行している〔資料5-4-006〕。
- (4)資金運用については、「学校法人田村学園資金運用規程」「資料 5-4-007」に基づき、事業の運営及び支払計画に支障のない範囲で、安全性を第一に資金の運用を行っている。その結果、受取利息・配当金は、平成 30(2018)年度以降の資金運用により安定的に推移している「資料 5-4-008」。総資産に対する金融資産の割合も、4 号基本金に対する現金預金の割合も、この 5 年間増加傾向である [表 5-5]。

<自己評価>

財務基盤については、長年にわたり借入金もなく安定した運営を維持しており、収入及び支出のバランスの取れた状況である。

(3) 5-4 の改善・向上方策(将来計画)

(1)令和7(2025)年度から適用される「第4期中期計画」を、「第3期中期計画」を踏まえて策定する。

- (2) 学生生徒等納付金収入は、経常収入の約70%と安定的である。しかし、少子高齢化による若年人口の減少を考慮すると、今後とも入学定員確保が最重要課題の一つである。
- (3)大学 2 キャンパス、多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校の校舎については、竣工から約 30 年を経過していることから、学園全体としての長期建替資金計画策定を検討する。

5-5. 会計

- 5-5-① 会計処理の適正な実施
- 5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施
 - (1) 5-5の自己判定

「基準項目5-5を満たしている。」

- (2) 5-5の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- 5-5-① 会計処理の適正な実施

<事実の説明>

本学園の会計処理は、各学校の会計担当者が実務を行っており、各学校を統括している 法人本部と連携を取りながら、学校法人会計基準に準拠、その趣旨を踏まえた「学校法人 田村学園経理規程」〔資料 5-5-001〕に従って、正確かつ適正な処理を行っている。

- (1)予算執行管理については、幼稚園、中学校及び高等学校では、法人本部と連携を図り、 学園の「学校会計システム」[資料 5-5-002]を活用している。大学では、各部門の予算 管理を図るために予算管理システム「ドクター・バジェット」[資料 5-5-003]を導入し て、期中での予算配分の見直し、補正予算及び翌年度予算策定にも活用している。
- (2)決裁手続きについては、業務遂行上の各職制の権限と責任の所在を明示した「学校法人田村学園稟議規程」〔資料 5-5-004〕に基づき、稟議(伺)書の申請により行っている。

<自己評価>

学校法人会計基準、経理規程、稟議規程等に基づき、適正な会計処理の維持・向上が行われている。

5-5-2 会計監査の体制整備と厳正な実施

<事実の説明>

- (1)会計監査については、法人本部事務局会計部が担当し、公認会計士による会計監査を適正に行っている。同監査は公認会計士3人、税理士1人、計4人体制により、令和4(2022)年度は「定例監査」14回、「現物監査」1回、「リスクアプローチ監査」2回、合計17回実施した。
 - ①「定例監査」では、公認会計士により諸帳簿・伝票・領収証等の確認・照合及び会計 処理の正当性について、一日かけて各学校会計担当者との質疑応答等を含めて詳細に 行っている「資料 5-5-005」。
 - ②「現物監査」では、機器備品、図書等の当該年度取得固定資産の実物と帳簿との綿密

な照合を行っている〔資料 5-5-006〕。

- ③「リスクアプローチ監査」では、会計処理に係る手続きフロー、マニュアル等の改善及び会計監査の適正確認等を実施している。財務諸表の重要な虚偽記載につながるリスクのある項目の監査を重点的、効果的に実施している〔資料 5-5-007〕。
- (2)監事監査については、本学園では2人の非常勤監事を選任して、「私立学校法」第37条第3項及び「寄附行為」第16条の規定に基づき、業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況等の監査を行っている。そして、大学のホームページで「監事の監査報告書」を情報公開している〔資料5-5-008〕。
- (3)監事監査と会計監査の連携については、会計監査人と監事が業務若しくは財産の状況を相互確認するための情報交換や、会計監査会場に立ち会うことにより会計監査の状況 把握等を行っている。令和4(2022)年度は、5月10日[資料5-5-009]と12月19日[資料5-5-010]に、法人本部も同席して情報交換を行った。

<自己評価>

会計監査等を行う体制は整備され、厳正に実施している。

(3) 5-5 の改善・向上方策(将来計画)

会計業務については、大学では「予算管理システム」等を通して効率化を推進、幼稚園、中学校及び高等学校では学校会計システムを活用した会計処理の統一化を図ることにより、さらに効率化を推進する。

会計監査については、令和 5(2023)年の私立学校法改正にも対応した体制を構築するため、会計監査人と監事及び法人本部の連携をさらに進め、支援体制を強化する。

[基準5の自己評価]

法人は寄附行為に則り、理事会及び評議員会の運営については、理事長のリーダーシップのもと、関連法令等に基づき適切に運営されており、使命・目的の実現に向けた継続的な努力を行っている。学内外に対する危機管理の諸規則を整備し、環境保全、人権、安全への配慮についても、法令に従い取組んでいる。

法人と大学のコミュニケーションについては、大学経営会議、大学運営会議、理事長定例会議等を実施し、法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化は十分に図られ、相互チェックの体制が整備されており適切に機能している。

事業活動収支計算書の基本金組入前当年度収支差額において収入超過が確保されており、 収支バランスは安定し、健全な財務運営が確立している。また、「学校法人田村学園経理規 程」に基づき会計処理は適正に行われている。

Ⅲ:大学が独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 産官学民連携

基準 A-1. 産官学民連携

- A-1-① 産官学民連携の方針の明確化
- A-1-② 産官学民連携の組織・体制の整備
- A-1-③ 産官学民連携の提携先の整備
- A-1-④ 産官学民連携の活動実績
- A-1-⑤ 産官学民連携の活動の検証
 - (1) A-1 の自己判定

「基準項目 A-1 を満たしている。」

(2) A-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

A-1-① 産官学民連携の方針の明確化

<事実の説明>

- (1)「産官学民連携ポリシー」〔資料 A-1-001〕に沿って、令和 4(2022) 年度の活動方針を定め、各事業を実施した。
- (2) 令和 3(2021) 年度から継続して検討している産官学民連携の成果・KPI 及び報奨制度については、次の指標を用いて、量的・質的に評価を検討することとなった [資料 A-1-002] [資料 A-1-003]。
 - ①産官学民連携プロジェクト数(年間 120~130 件)
 - ②入試と就職に関するプロジェクト数(年間2件)
 - ③窓口~橋渡し~具体化の数
 - ④私立大学等改革総合支援事業タイプ3の選定
 - ⑤学内コラボ数

<自己評価>

- (1)「産官学民連携ポリシー」により、統一的な事業の推進ができた。
- (2) 成果指標の設定はできたが、評価については継続検討中である。

A-1-② 産官学民連携の組織・体制の整備

<事実の説明>

〔産官学民連携センター〕

令和 3 (2021) 年に「産学官民連携センター運営委員会細則」〔資料 A-1-004〕に基づく全学的な取り組みが可能な体制を整備した。取り組みの具体的な実践として、令和 4 (2022) 年度は以下を検討・実施した。

- (1)経営情報学部とグローバルスタディーズ学部の情報交換会を実施した〔資料 A-1-005〕。
- (2)産官学民連携活動の成果評価について「数」、「質」、「プロセス」の項目に沿って意見交換を行った。産官学民連携のブランディングには、中期計画方針のとおり、大学運営にとって重要な「入」(入試)と「出」(就職)に重点を置くことが肝要であることを共有し

た [資料 A-1-002]。

- (3) 大学院、経営情報学部及びグローバルスタディーズ学部に共通した事業である共同プロジェクト立案に関し、情報を交換した「資料 A-1-002」。
- (4)連携協定数の増加があるものの、連携内容の質やインパクトが重要であり、協定締結の 基準を明確にすることが必要となってきた〔資料 A-1-002〕。

[経営情報学部]

産官学民連携にあたっては、「産官学民連携センター」と「多摩大学総合研究所」が窓口となっている。両者の情報を一体的に把握するため、本学部の「産官学民連携委員会」〔資料 A-1-101〕は、統合的な機能を果たすことに努めている。

- (1)「産官学民連携委員会」の立ち上げ
 - ①令和元(2019)年度に全学組織である「地域活性化マネジメントセンター」を「産官学 民連携センター」に改組した際に、学部レベルの「地域活性化マネジメント委員会」 と「産学連携部会」を統合し、「産官学民連携委員会」〔資料 A-1-102〕を設けた。
 - ②基本的な役割は、産官学民との連携の「窓口」、学内への「橋渡し」、「情報発信」であり、他の委員会・部署・研究所との連携を主要な業務としている〔資料 A-1-103〕。
 - ③本学の「外」との関係を「産官学民連携」という文脈で構築、推進することで、大学の様々な活動(就職、入試、教育、研究、広報)に貢献し、成果を出すことを目的としている。
- (2)「産官学民連携委員会」の運営

メンバーを教職員 12 人(教員 10 人、職員 2 人)で構成し〔資料 A-1-104〕、原則、月に 1 回委員会を開催している〔資料 A-1-105〕〔資料 A-1-106〕。

- ①教職協働で、迅速な意思決定と意思統一を図り、活動内容について進捗報告と意見交換を行い、活発な活動を行っている。
- ②特に、大学運営の「入り口」(入試)と「出口」(就職)について、産官学民連携のブランディングを目指し、新しい方向性を打ち出す委員会運営を行っている。
- ③委員会の活動等に関し、学部運営委員会及び教授会にて情報共有を行っている〔資料 A-1-107〕〔資料 A-1-108〕。

[グローバルスタディーズ学部]

- (1)「事業推進室」
 - ①令和元(2019)年度に、「多摩大学産官学民連携委員会規程」第9条に基づき、本学部事務局内に「事業推進室」を設置した〔資料 A-1-201〕。
 - ②職員2人を配置し、産官学民連携委員会の担当部署として地域活動を支援している。
 - ③湘南地区の自治体のみならず、様々な団体、企業との連絡窓口の役割を担っている〔資料 A-1-202〕。
- (2)「産官学民連携委員会」は、令和 4(2022)年度は教員 5 人(特任教授 1 人を含む)、事業 推進室の職員 2 人の体制で、原則、月に1回委員会を開催した〔資料 A-1-203〕。

<自己評価>

- (1)「産官学民連携センター」では、全学的な産学連携活動に関する情報交換を定期的に実施している。
- (2) 両学部では、運営体制の整備により、活動がより円滑に行われ、活動の幅も広がった。

A-1-③ 産官学民連携の提携先の整備

<事実の説明>

[経営情報学部]

- (1)令和4(2022)年度の包括連携協定の新規締結
 - ①相互が持つ人的資源及び知的資産を活用した教育・研究及び社会貢献活動や社会課題解決に寄与するため、小田急グループ(小田急電鉄株式会社・小田急不動産株式会社)と包括連携協定を締結した(4月14日)[資料A-1-109]。
 - ②相互の連携を通じて、自然豊かな奥多摩町を軸とした地域社会への貢献を図るため、 奥多摩町と包括連携協定を締結した(9月22日)[資料A-1-110]。
- (2)連携協定締結先は以下のとおりである(締結日順)。
 - ①多摩市・多摩信用金庫(締結日:平成22(2010)年10月26日) [資料A-1-111]
 - ②株式会社ファンケル(締結日:平成27(2015)年5月1日) [資料 A-1-112]
 - ③株式会社現代文化研究所(締結日:平成28(2016)年5月31日)[資料A-1-113]
 - ④多摩市(締結日:平成28(2016)年8月31日)[資料A-1-114]
 - ⑤昭島市(締結日:平成30(2018)年4月10日)[資料A-1-115]
 - ⑥よい仕事おこしフェア実行委員会(城南信用金庫)(締結日:令和元(2019)年 10 月 18 日)[資料 A-1-116]
 - ⑦多摩信用金庫(締結日: 令和 2(2020)年 10 月 28 日) [資料 A-1-117]
 - ⑧京王観光株式会社(締結日:令和2(2020)年10月31日)[資料A-1-118]
 - ⑨TAC 株式会社(締結日:令和 4(2022)3 月 9 日) [資料 A-1-119]
 - ⑩小田急グループ(締結日:令和4(2022)年4月14日)[資料A-1-109](上述)
 - ① 奥多摩町: (締結日: 令和 4(2022)年9月22日) [資料 A-1-110] (上述)

[グローバルスタディーズ学部]

- (1) 令和 4(2022) 年度の包括連携協定の新規締結 鎌倉市・鎌倉市観光協会と包括連携協定を締結した〔資料 A-1-204〕。
- (2)連携協定締結先は以下のとおりである(締結日順)。
 - ①藤沢市・藤沢市観光協会(提携日:平成27(2015)年11月4日) [資料 A-1-205]
 - ②寒川町観光協会(提携日:令和3(2021)年6月10日)[資料A-1-206]
 - ③株式会社ショーナン(提携日:令和3(2021)10月1日) [資料 A-1-207]
 - ④鎌倉市・鎌倉市観光協会(提携日:令和4(2022)年11月1日)(上述)
- (3) 提携先の自治体・観光協会からの受託事業
 - 令和 4(2022)年度の受注額は計 48 万 4,000 円となった。
 - ①藤沢市観光協会から受託している「外国人観光実態調査」(詳細後述)に関しては、令和 2(2020)年度以降はオンライン・アンケート調査に切り替えて実施している〔資料

A-1-208

②藤沢市から受託している「市民講座」(詳細後述)では、「グローバルな視点を持って地域を考える(全3回)」を開催した〔資料 A-1-209〕。

[経営情報学研究科]

- (1)連携協定締結先は以下のとおりである(いずれも令和3(2021)年度締結)。
 - ①株式会社セルム(10月1日)
 - ②株式会社編集工学研究所(10月1日)
 - ③株式会社マイナビ(10月1日)
 - ④サイエストホールディングス株式会社(3月1日)
- (2)包括協定の内容は以下のとおりである。
 - ①共同で実施する事業に関する事項
 - ②学術振興、教育及び人材育成に関する事項
 - ③人的交流に関する事項
 - ④その他、相互に合意した連携事業に関する事項

<自己評価>

包括連携協定件数を着実に増やし、連携協定締結先との事業を推進している。

A-1-④ 産官学民連携の活動実績

[全学]

<事実の説明>

大都市郊外である多摩・湘南地域の広域「多摩」の地域社会を知り、企業・自治体・大学等の課題を共に解決して行くことが、本学の地域・社会貢献の基本姿勢である。地域連携を通じ、グローカル人材育成のための教育基盤・社会基盤・社会貢献基盤を築き、本学のメッセージ発信力、ひいてはブランドを高めることに尽力している。

(1)「現代世界解析講座(リレー講座)」

平成 20(2008)年より継続している「現代世界解析講座(リレー講座)」は、計 24 回開講した。

- ①対面の多摩キャンパス会場では、コロナ禍対策から、参加人数を制限しつつ開講した。
- ②インターネットを通じたオンデマンド配信も併せて行った〔資料 A-1-006〕。
- ③令和4(2022)年度の一般受講者数はのべ1万6,068人(うち、多摩キャンパス4,512人、 湘南キャンパス708人、九段サテライト720人、オンライン視聴1万128人)
- ④14年間にわたる 360 回の講演の累積人数は、一般受講者でのべ 15 万 628 人、学生を含めた受講者数でのべ 21 万 7,626 人となった〔資料 A-1-007〕〔資料 A-1-008〕。
- ⑤広報用のプロモーション動画を制作し、SNS 等を通じ配信を強化した〔資料 A-1-009〕。 オンデマンド視聴は受講者増と受講地域拡大が進んだ。
 - ・オンデマンド受講登録者は春学期のべ5,052人、秋学期のべ5,076人に達した。
 - ・受講者居住地も、北海道から沖縄、海外にまで広がった〔資料 A-1-010〕。

(2)公開講座

「現代世界解析講座」開講日に地域の情報発信拠点「T-Studio」で公開講座を開催している。24回開催し、のべ613人が出席した〔資料 A-1-011〕。

- (3) 学長の活動を原動力とする企業連携が拡大した。
 - ①多摩信用金庫の多摩ブルー・グリーン賞の選考委員長〔資料 A-1-012〕
 - ②外部有識者により構成された「アドバイザリーボード」の運営〔資料 A-1-013〕
- (4) 地域住民との関わり
 - ①令和 4(2022)年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、令和元(2019)年度に 実施していた学生と地域高齢者の交流サロンは行えなかった。
 - ②地域高齢者の社会参画ツアーに関しては、第一次産業に触れる機会を提供するとともに知的刺激をもたらすことを狙いとして、山梨県南アルプス市への「ジェロントロジー企画ツアー」[資料 A-1-014]を復活させた。2回実施し、計52人が参加した〔資料 A-1-015〕。

<自己評価>

学長のリーダーシップのもとに企業連携を拡大するとともに、「現代世界解析講座」を途切れることなく開催して近隣地域住民に臨場感を持った知的刺激を与えている。また、広報動画を活用し、オンデマンド視聴にて全国全世代に対して現代世界を捉える視座を与えるコンテンツを提供することで、有意義な地域・社会貢献活動をさらに進化させている。

[経営情報学部]

<事実の説明>

- (1) 連携協定締結先との連携事業の推進
 - ①多摩市
 - ・多摩市「こども・若者の権利を保障し、支援と活躍を推進する条例」の副読本素案 を担当ホームゼミの学生 12 人(3 年生)が作成した(9~11 月) [資料 A-1-120]。
 - ・「健幸!ワーク宣言」〔資料 A-1-121〕が開催され、代表職員 1 人が宣言式に参加した(7 月 24 日)。
 - ・多摩市、稲城市、八王子市、日野市、京王観光株式会社との連携事業「2022 多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」を実施し、担当ホームゼミの学生 6 人が企画運営担当として参加した〔資料 A-1-122〕〔資料 A-1-123〕。参加人数・開催日等は、次のとおり。
 - 事前説明会:32人(学生:22人、教員:10人)(5月7日)
 - ・マッチング会: 72人(企業・自治体22人、学生50人)(6月11日)
 - · 一次審査会: 55 人(学生 45 人、教員 10 人)(7 月 9 日)
 - ・プレゼン講習会:36人(学生32人、教員4人)(11月19・20日)
 - ・報告会・ドラフト会議: 129人(企業・自治体 71人、学生 58人)(12月 17日)

②昭島市

- ・意見交換会を実施し、教職員6人が参加した(3月15日) [資料A-1-124]。
- ・「昭島市産業まつり」の一企画で担当ホームゼミの学生1人(4年生)が昭島市産業振興係とバーチャル「AKISHIMA Water World」を共同制作し(11~12月)、感謝状が贈

呈された(3月15日) [資料 A-1-125]。

- ③多摩信用金庫(「多摩ブルー・グリーン倶楽部」)
 - ・年春学期 AL プログラムとして、学生 7 人が「多摩ブルー・グリーン倶楽部」の会員 企業 8 社を取材し(5~9 月)、レポートを作成した〔資料 A-1-126〕。
 - ・「多摩ブルー・グリーン倶楽部」会員企業 4 社の社長が講義へ登壇した(7 月 1・8 日、10 月 12 日、11 月 2 日) 〔資料 A-1-127〕。
- ④城南信用金庫(「よい仕事おこしフェア実行委員会」) 「よい仕事おこしフェア」に学生 1 人、教職員 4 人が参加した(12 月 6・7 日)〔資料 A-1-128〕。

⑤京王観光株式会社

- ・意見交換会を実施し、教職員7人が参加した(12月13日) [資料A-1-129]。
- ・「観光に関する発表会 2022」を開催し、担当ゼミの学生 3 人が企画運営を担当した。 4 つのホームゼミが発表を行い、学生 15 人、教職員 7 人が参加した(3 月 1 日)〔資料 A-1-130〕。
- ⑥TAC 株式会社

意見交換会を実施、教職員5人と学生1人が参加した(12月2日)〔資料A-1-131〕。

⑦小田急電鉄株式会社

多摩大学、相模女子大学、東海大学と小田急電鉄株式会社主催の3大学リレー式オンラインシンポジウム「Odakyu Innovation Roots」を開催し、担当ゼミの学生4人が企画運営担当として参加した〔資料 A-1-132〕〔資料 A-1-133〕。参加人数・開催日等は、次のとおり。

- ・多摩大学(グルーバルスタディーズ学部):会場 45 人、オンライン 162 人参加(2 月 7 日)
- ・相模女子大学: オンライン 139 人参加(2 月 27 日)
- ・東海大学: オンライン83人参加(3月23日)
- ⑧小田急不動産株式会社
 - ・意見交換会を実施、教職員 4 人が参加した(1 月 23 日) [資料 A-1-134]。
 - •「マチカドこども大学」をプレ開校した(全 10 回)。担当した 3 ホームゼミの学生(の べ 51 人)が講座運営に携わった(6~10 月) 「資料 A-1-135」。

⑨奥多摩町

- ・奥多摩町の河川敷のごみ拾い活動を実施し、担当ホームゼミの学生 13 人と地域の 方を合わせて、計 25 人が参加した(5 月 29 日) [資料 A-1-136]。
- ・奥多摩町の 5 人の方々と意見交換を実施し、担当ホームゼミの学生 16 人、教員 2 人、卒業生 1 人、企業の方 1 人が参加した(9 月 22 日) [資料 A-1-137]。
- ⑩大学コンソーシアム八王子

令和 3 (2021) 年度に採択された「学生企画事業補助金」に関し、2 つのホームゼミの代表者が、報告会で成果を発表した(2 月 19 日) [資料 A-1-138]。

⑪さがまちコンソーシアム事業の活用

ユニコムプラザさがみはら「第 10 回まちづくりフェスタ交流展示会」(10 月 $1\sim31$ 日) にて、本学の地域活動(ゼミ、AL プログラム、ボランティア等)を紹介するポスターを

展示した〔資料 A-1-139〕。

- (2) 自治体との連携
 - ①稲城市、八王子市、日野市

「多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」にて連携し、地域の観光産業を支援した(前述) [資料 A-1-122]。

②相模原市

「プレゼミ II」の授業でシリアスゲーム試遊会「さがみはら 18 のゲーム」を開催し、相模原市・神奈川県・UR 都市機構・橋本商店街協同組合・株式会社日建設計・京王電鉄株式会社・一般社団法人 CSV の 13 人が来校し、学生 97 人、教員 6 人が参加した(1月 11日) [資料 A-1-140]。

③小田原市

高校生や大学生と地元事業所の交流促進を図る「おだじぎょ」プロジェクトを実施、 地元の高校生2人と企業3社が参加し、担当ゼミの教授と学生2人が企画運営を担当 した(8~1月)[資料 A-1-141]。

- ④八王子市、立川市、昭島市、東村山市、国分寺市、西東京市、瑞穂町 「福祉×産業で実現する Well-being なまちづくり研究会」を公益社団法人日本フィ ランソロピー協会と共催し、本学の教員 6 人、学生 1 人含む自治体、企業、大学関係 者等 49 人が参加した(2 月 14 日) 〔資料 A-1-142〕。
- ⑤自治体等への講師派遣
 - ・多摩市「関戸地球大学院」〔資料 A-1-143〕
 - ・八王子市「いちょう塾」〔資料 A-1-144〕
 - ・稲城市「いなぎ IC カレッジ」〔資料 A-1-145〕
 - ・相模原市「さがまちカレッジ」〔資料 A-1-146〕
- ⑥自治体等への委員等の派遣

本学の教員が自治体等の委員として専門的な知識・経験などを必要とする課題が生じた場合に、専門的・具体的な助言及び支援を行う役割を担っている〔資料 A-1-117〕 〔資料 A-1-148〕。

- (3)産業界の課題解決等の産学連携
 - ①中堅・中小企業の会社見学会、インターンシップ等での連携 3年生全員を対象に「業界研究セミナー」を開催し、28社の企業、261人の学生が参加した(10月30日)[資料A-1-149]。
 - ②大企業及び大企業事業所との地域や社会の課題解決活動協創 京王電鉄株式会社と連携し、「ロボット大集合! in アリオ橋本」のイベントを開催し、 ホームゼミ担当教員と学生5人が参加した(12月3・4日)「資料A-1-150」。
- (4)地域社会からの要望への対応
 - ①多摩市聖ヶ丘小学校との連携
 - ・「GIGA スクール」の取り組みの一環で、多摩市聖ヶ丘小学校の ICT 授業支援を行い、 学生 10 人、職員 2 人が参加した(5 月 25・26 日) [資料 A-1-151]。
 - ・北京オリンピック冬季大会スキー・フリースタイル女子モーグル日本代表選手の本 学部生が講演を実施した(12月22日)[資料A-1-152]。

- ②「社会福祉法人多摩市社会福祉協議会」との連携 「パソコンお困り相談会」を開催し、教員1人と学生1人が講師となり、地域住民の べ9人が受講した(8月24・25日)[資料A-1-153]。
- (5) 教職員の産官学民連携の意識向上
 - ①産官学民連携プロジェクト数は 129 件となった〔資料 A-1-154〕。この数値や関連資料 〔資料 A-1-155〕は、学外との連携協議等の際に、本学のシーズを示す一覧としても 活用している。
 - ②教職員会社見学会を 5 回開催し、教職員のべ 29 人、学生 7 人が参加した [資料 A-1-156]。
 - ③企業や行政などの外部講師招聘 自治体・企業などの方々を外部講師(ゲストスピーカー)として招聘し、30 授業でのべ 8,335 人が聴講した [資料 A-1-157]。
 - ④産官学民連携 FD 研修の実施 産官学民連携委員会主催の教員研修を実施し、教職 25 人、職員 4 人が参加した(2 月 1 日) [資料 A-1-158]。
- (6)新しい学びの機会創出
 - ①ボランティア・課外活動に関する支援を継続し、学生の新しい学びの場の機会を創出している〔資料 A-1-159〕。
 - ・学生社会ボランティアコーナーの来場者:のべ23人
 - ・学内イベント: のべ49 人が参加
 - ・学外イベント: のべ34人が参加
 - ②現代の新しいコミュニケーションツールの一つとして、デジタルテクノロジーを活用 した地域課題解決の活動を行い、情報発信の可能性と有効性について地元の高校生に 示した〔資料 A-1-160〕。
- (7) 地域の社会人向け教育プログラムの試行

TAC 株式会社との連携で、「次世代事業開発人材育成プログラム (全 8 回講座)」を開催し、中小企業 3 社の社員 4 人と信用金庫 3 庫の職員 4 人、計 8 人が受講し、本学の教員 2 人が登壇した〔資料 A-1-161〕。

(8) 地域への独自広報の強化

連携実績の収集・編集・コンテンツ化を行い、学外への情報発信を強化した。

- ①産官学民連携パンフレット 1,000 部を作成した〔資料 A-1-162〕。
- ②産官学民連携ホームページをオープンした(7月11日) [資料 A-1-163]。
- (9) 体制整備

外部からの相談案件を、教員と協働し、学内へ展開し、地域課題解決を図った〔資料 A-1-164〕。

<自己評価>

地域の発展に貢献するため、自治体、産業界等との連携推進を図り、「私立大学等改革総合支援事業」等の大学運営の戦略を策定しながら、企業、行政、市民等の課題解決を行っている。

[総合研究所]

<事実の説明>

- (1)「未来の大学」「未来のビジネス」のあり方を研究するという第3期中期計画の基本的な方向性に基づき、広域多摩地域をフィールドに「多摩学・ジェロントロジーのシンクタンク」という輪郭を明確にし、全学的な産官学民連携に寄与することを意識して、事業を展開した〔資料 A-1-165〕〔資料 A-1-166〕〔資料 A-1-167〕。
 - ①研究:広域多摩地域をフィールドにした共同研究の推進
 - ・中小企業の経営支援、創業支援
 - 産業振興、観光振興
 - ・ジェロントロジー
 - ②教育:大学の新しいターゲット層向け教育プログラムの開発
 - ・地域中小企業・地域金融機関向けプログラム
 - ・卒業生向けプログラム
- (2)住友金属鉱山、小田急電鉄、日立製作所、パーソルテンプスタッフ等、多摩地域に立地 している大手企業において、新しい地域貢献のあり方や地域におけるイノベーション創 造に関する調査やプロジェクトが増えた〔資料 A-1-168〕~〔資料 A-1-172〕。
- (3) 八王子市・日野市と取り組んでいる「産官学民連携によるイノベーション創出事業」のように、上記等の企業と自治体との連携をコーディネートする役割を果たした。
- (4) 自治体向けの教育事業への展開も可能になってきた。共通するテーマとして、「Wellbeing」や「SDGs」というビジョンをどう具体的に実現し、社会的価値と経済的価値を両立させるか、手法としての協創(産官学民連携)・広域連携をどうマネジメントするかが問われている〔資料 A-1-173〕〔資料 A-1-174〕〔資料 A-1-175〕。
 - ①八王子市の「産業イノベーションプラン」や「EBPM 調査」
 - ②2年目の「多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」(前述)
 - ③日本フィランソロピー協会主催の自治体職員向けの「福祉×産業で実現する Wellbeing なまちづくり研究会」の支援
- (5)教育分野では、TAC 株式会社と取り組んでいる NGP「次世代事業開発人材育成プログラム (Next Generation Program)」は、地域金融機関とその取引先企業とが一緒に受講するプログラムである。2回目のプロトタイププログラムを実施し、そのニーズや教育効果を検証した〔資料 A-1-176〕。

<自己評価>

- (1)ホームページのリニューアルや、産官学民連携センターと連携した広報によって、発信力を強化した。
- (2) 増加する案件に対して、客員研究員を活用する運営を進めた。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

多摩大学の基本理念である「国際性」「学際性」「実際性」を涵養する上で、産官学民 連携活動は有効な手法の一つであると考えている。

(1) 市民講座

- ①藤沢市から受託している「市民講座」(13年目)を3回開催した。のべ159人が参加した(9月3・10・17日)[資料A-1-210][資料A-1-211]。
- ②共立女子大学国際学部の菅野敦志教授のゼミ生 12 人と本学部生 15 人によるプレゼン 大会形式で、市民講座を開催した(10 月 29 日) [資料 A-1-212]。
- (2)「SGS シンポジウム」を開催し、151人が参加した(10月31日) [資料 A-1-213]。
- (3) 湘南キャンパスにおいて、リレー講座「現代世界解析講座」をライブビューイング形式で実施した〔資料 A-1-214〕 〔資料 A-1-215〕。
 - ①本学部生は、春学期 21 人、秋学期 43 人、計 64 人が履修した。
 - ②一般受講者は、春学期 262 人、秋学期 307 人、計 569 人が参加した。

(4) 地域関連講座

- ①藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町を含む湘南地域についての造詣を深め、グローバルに発信することのできる人材の育成を目的とする科目「Discover 藤沢・湘南 II」を秋学期に開講し、内、10 講座を一般にも公開した(10 月 13・20・27 日、11 月 17・24 日、12 月 1・8・15・22 日、1 月 12 日) [資料 A-1-216] [資料 A-1-217] [資料 A-1-218]。本学部生は41人が履修し、一般では、のべ175人が参加した。
- ②令和 3(2021)年に包括協定を締結した株式会社ショーナンのワイン用ブドウ「メイヴ」 栽培とワインづくりを学べる実習科目を「プロジェクトゼミ XII」として開講した。 12 人が履修した〔資料 A-1-219〕。
- ③ 「Odakyu Innovation Roots」
 - 小田急電鉄株式会社・小田急不動産株式会社との包括協定の締結によるプロジェクトの一つとして、経営情報学部の担当ホームゼミがシンポジウム全体企画・運営を担った。第1回目のシンポジウムの運営に、本学部の学生1人、教職員8人が携わった。当日は、会場で45人、オンラインで162人が参加した(2月7日)[資料 A-1-220][資料 A-1-221]。
- ④ホスピタリティ観光関連講座
 - ・「ホスピタリティ観光セミナーin 藤沢」[資料 A-1-222] を計8回実施し(本学部教員の講演:4回、外部講師の講演:4回)、28人が参加した(6月2・9・16・23・30日、7月7・14・21日)[資料 A-1-223]。
 - ・「ホスピタリティ観光セミナーin 寒川」〔資料 A-1-224〕では、外部講師による講演を計6回実施し、21人が参加した(1月14・21・28日、2月4・18・25日)〔資料 A-1-225〕。

(5)観光関連調査

- ①藤沢市観光協会から受託している「外国人観光実態調査」を実施した。令和 2(2020) 年度以降は、コロナ禍から、対面式調査ではなく、オンラインでのアンケート調査に 切り替えている [資料 A-1-226] [資料 A-1-227]。
 - ・趣旨:藤沢市におけるインバウンドの現状把握及び改善に向けた資料提示
 - ・8月より活動開始し、10月の調査では、学生8人、教員5人が参加した。

- ・回答数は、英語 170、やさしい日本語 14、中国語簡体字 757、中国語繋体字 80、韓 国語 125、タイ語 94 であった。
- ・調査後の意見交換会を3回実施した(11月22日、12月2・6日)。
- ・2月に報告書を提出した。
- ②鎌倉市・鎌倉市観光協会の観光調査
 - ・円覚寺にて実施された観光調査に学生3人が参加した(11月20日) [資料 A-1-228]。
 - ・長谷寺にて実施された観光調査に学生3人が参加した(2月26日) [資料 A-1-229]。

(6) 多言語化支援活動

- ①藤沢市観光協会と連携し、多言語メニュー作成支援「FUJISAWA Foodies」を、8月下 旬から9月上旬にかけて、計15日実施した。学生19人、教職員6人が参加した〔資料 A-1-230〕。
- ②寒川町観光協会と連携し、観光協会ウェブページの観光スポット部分の多言語化作業を行った。学生3人、教員6人が参加した〔資料A-1-231〕。
- ③紅茶専門店「ディンブラ」の多言語化支援を行い、学生6人、教員4人が参加した (主に秋学期)〔資料 A-1-232〕。

(7) 高大連携海外研修

藤沢翔陵高等学校との高大連携プログラムとして、台湾研修を行った。本学部生 11 人、教職員 3 人、藤沢翔陵高等学校生徒 11 人、教員 3 人が参加した(3 月 24~29 日) [資料 A-1-233]。

(8) 教育関連及びその支援

- ①湘南台小学校の日本語指導教室のボランティア活動に、学生 6 人が参加した(9 月~1月)「資料 A-1-234」。
- ②「長後こども食堂」ボランティア活動に、学生 13 人、教職員 3 人が、のべ 143 回参加 した〔資料 A-1-235〕。
- ③「核時代における戦争と平和:広島・長崎の被爆体験の継承」の学内報告会を実施し、 学生4人、教員1人が発表した(3月10日)[資料A-1-236]。
- ④湘南台小学校の学校運営協議会に、教員 1 人がメンバーとして参加した(5 月 27 日) [資料 A-1-237]。

(9) セミナー・ワークショップ、意見交換会

- ①藤沢市観光協会主催のセミナー・ワークショップ「江の島の魅力 歴史と観光」が開催され、学生3人が参加し、市民と意見交換を行った(6月22日)[資料A-1-238]。
- ②藤沢市が主催する「藤沢市地球温暖化対策地域協議会意見交換会」がオンラインで開催された。学生3人、特任教授1人が参加した〔資料 A-1-239〕。
- ③J:COM のプロモーションに関する意見交換会の依頼を受け、学生 12 人、教職員 2 人が参加した(1 月 18 日) 〔資料 A-1-240〕。

(10) 藤沢市広報関連活動

①藤沢市シティプロモーション課の依頼を受け、「観光」をテーマにプロモーション動画を制作した。学生 2 人、教職員 3 人が参加した(6 月 \sim 2 月)〔資料 A-1-241〕。

- ②藤沢市広報番組「ハミングふじさわ」に、学生1人と学部長が出演した(放送日:4月18・19日、11月7・8日)[資料 A-1-242][資料 A-1-243]。ふじさわシティプロモーション委員会の構成団体に藤沢の魅力等を話してもらうことで、市民に改めて郷土愛を感じてもらうとともに、「藤沢市」を身近に感じてもらう機会となった。
- (11)イベントの企画・運営支援等
 - ①藤沢市六会地区にて、「ぶらりゴミ拾い in 六会 2022~ポイ捨て無くして隊ふじさわ 大作戦~」が開催され、学生 20 人、教職員 5 人が参加した(10 月 22 日) [資料 A-1-244] [資料 A-1-245]。
 - ②第2回「中国語スピーチコンテスト」を開催し、高校生9人、大学生4人(内、本学部生3人)が参加し、教職員6人が携わった(2月11日)[資料A-1-246]。
 - ③「ふじさわ産業フェスタ」では、株式会社ショーナンと連携して多摩大学として出展 し、「プロジェクトゼミ XII」履修学生 12 人が参加した(5 月 28・29 日)〔資料 A-1-247〕。

④SDGs 関連活動

- ・「SDGs マルシェ in 湘南 Vol. 4」に学生 19 人が参加し、SDGs 関連商品の展示・販売を行った(5 月 28 日) [資料 A-1-248]
- ・「元気バザール」に学生のべ 12 人が参加し SDGs 関連商品の委託販売を行った(6 月 11 日、10 月 8 日) [資料 A-1-249] [資料 A-1-250]。
- ⑤藤沢 JC 杯小・中学生サッカー大会 一般社団法人藤沢青年会議所が主催する「藤沢 JC 杯 小・中学生サッカー大会」(7 月 29~31 日)の企画・運営に、学生 3 人、職員 1 人が携わった〔資料 A-1-251〕。
- ⑥「ふじさわ国際交流フェスティバル」では、「浮世絵館」が出展したブースのスタッフとして学生3人が参加した(10月30日)[資料A-1-252]。
- ⑦「茅ヶ崎アロハマーケット」が茅ヶ崎市公園野球場周辺の「うみかぜテラス」(体験学習センター)にて開催され、学生2人が出店の支援をした(5月14日)[資料A-1-253]。
- ⑧小出川「彼岸花祭り」
 - ・イベント準備のため、小出川両岸の草刈りに、学生1人、教員1人が参加した(5月7日)[資料 A-1-254]。
 - ・日本大学ゼミ生の出店ブースを、学生1人が支援した(9月25日)[資料A-1-255]。
- ⑨藤沢市北部の遠藤・御所見地域の魅力を再発見する観光イベント「ONSEN ガストロノミー・ウォーキング in 藤沢」に関して、イベントの準備に、主に学生 1 人が携わった (12 月 18 日) [資料 A-1-256]。
- ⑩エノシマ・フィッシャーマンズ・プロジェクトの依頼を受け、「海藻シンポジウム」(12月 11日)に学生 6人が参加した〔資料 A-1-257〕。
- ①藤沢市デジタル推進室から依頼を受け、湘南大場公民館にて開催された「スマホ何でも相談窓口」に学生2人が参加した(9月7日)[資料A-1-258]。
- ① 「藤澤七福神めぐり」では、学生7人(のべ17人)がイベントを支援した(1月) [資料A-1-259]。

- ⑬寒川町観光協会主催の「さむかわ冬のひまわり 摘み取り体験会」では、学生 2 人が イベントを支援した(11月27日) [資料 A-1-260]。
- (A)NPO 法人紙芝居プロジェクトの要請を受け、「紙芝居プロジェクト」に学生 7 人が参加した(9 月 22 日、11 月 5・12 日) [資料 A-1-261]。
- (12) JA さがみの依頼を受け、農業体験に学生3人が参加した(9月5日) [資料 A-1-262]。

<自己評価>

参加した学生の成長を促すことができた。

[経営情報学研究科]

<事実の説明>

- (1) 品川サテライトキャンパスとその周辺にて、多摩大学大学院が中心となり以下のイベントや交流の場を設けることにより、近隣の革新志向の企業・個人のネットワーク構築を支援している。
 - ①「品川塾」〔資料 A-1-301〕では、「包容する都市(The Embracive City)~レジリエントな都市のためのソサエイタル・イノベーション」をオンラインで 6 回開催し、のべ132 人が参加した〔資料 A-1-302〕。
 - ②「イノベーターシップ&ライフシフト・フォーラム」をオンラインで8回開催し、の べ523人が参加した〔資料 A-1-303〕。
- (2) リカレント教育の有料プログラムである「ライフシフト大学プログラム」を開発し、文部科学大臣により職業実践力育成プログラムとして認定されている〔資料 A-1-304〕。令和4(2022)年度の修了生は春学期5人、秋学期3人であった「資料 A-1-305〕。

<自己評価>

「知」や施設等の教育研究資源を有効に地域社会に提供している。

A-1-⑤ 産官学民連携の活動の検証

[経営情報学部]

<事実の説明>

- (1) 外部連携プロジェクト数は、共同研究 14 件、教育 56 件、教育連携(小中高大) 14 件、 社会貢献・産学連携 45 件となった〔資料 A-1-154〕〔資料 A-1-155〕。年度ごとにカテゴ リー分けをして、件数を比較し、随時更新している。
- (2)外部からの相談 53 件のうち、具体化したコラボレーションは 24 件となった〔資料 A-1-177〕。
- (3)2年に1度実施される日経リサーチ「大学地域貢献度調査」〔資料 A-1-178〕では、本学は、平成29(2017)年度、38.5点/100点(162位/514大学)、令和元(2019)年度、42点/100点(154位/548大学)、令和3(2021)年度53.3点/100点(87位/514大学)と点数と順位が上がっている。

<自己評価>

- (1)外部の調査結果や外部連携のプロジェクト数や相談・学内橋渡し・コラボレーション数を見える化し、学内に情報共有することで本学の産官学民連携推進の相乗効果を図っている。
- (2) 定量的な評価においては一定の数値を確保したと考えられるものの、定質的な評価については今後の課題である。連携活動及び活動に至る業務処理についての評価も検討する必要がある。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

(1)活動件数の検証

藤沢市内での活動 34 件、藤沢市外湘南地域での活動 5 件、大学間連携・高大連携 1 件と、活動件数は増加した「資料 A-1-252」「資料 A-1-253」。

- (2) 地域活動の数の増加、幅の広がりが見られたが、その受け皿・支援体制に対する議論を深める必要性があり、委員会で数回議論を行った〔資料 A-1-263〕~〔資料 A-1-265〕。
- (3)活動に関わった学生の成長
 - ①語学力を活用する地域活動に参加した学生の英語力の向上を図る判断材料として、活動前後の TOEIC スコアの検証を行い、19 人のうち 14 人のスコアの向上が確認できた [資料 A-1-266]。
 - ②韓国語の翻訳に関わった学生1人の韓国語能力試験(TOPIK)5級(6級が最上級)合格等の語学能力の向上が確認できる事例もあった〔資料 A-1-267〕。
 - ③PROG による検証では、「周囲の状況に上手に対応するために身につけた、意思決定・ 行動指針」を確認するためコンピテンシーテスト結果を活用した。
 - ・データが確認できる 13 人の学生の結果を見る限り、概ねコンピテンシーの成長が 見られた。
 - ・しかし、PROG テストが 1 年次と 3 年次との 2 回のみであることから、伸びの計測に課題を残している〔資料 A-1-268〕。
 - ④活動に参加した学生の感想等のアンケート調査〔資料 A-1-269〕
 - ・地域活動の参加満足度は「非常に満足している」(12人)、「満足している」(2人) が多数を占めた。
 - ・イベント活動参加を通して感じたこと、成長できたと思う点は次のとおりであった。
 - ・コミュニケーション力が向上した。
 - ・柔軟性・対応力が向上した。
 - ・観光課という部署の仕事への理解が深まった。
 - ・別の視点から物事を考える機会になった。
 - ・海外にルーツを持つ小中学生に日本語を指導する際のコツをつかんだ。
 - ・「イベントの改善点・気づいた点」では、具体的な提案や参加しやすい環境づくりへ の要望等が見られた。

<自己評価>

検証を具体的に実践することにより、活動の課題、検証方法の課題が明確化できた。

- (1)地域活動件数の増加のみならず、活動の幅も広がった。
- (2) 多言語化活動に参加した多くの学生の語学力向上が確認できた。
- (3) PROG コンピテンシーのスコアからは、概ね、学生の成長が見られた。
- (4) 地域活動に参加した学生を対象にしたアンケート調査を継続し、学生の意見を聞いたことは、今後の活動方法を考える上で有益である。

(3) A-1 の改善・向上方策(将来計画)

- (1) 策定したポリシーをもとに、中期計画の具体化と改革総合支援対策を兼ねた 4 つの重点施策をそれぞれの学部・大学院で展開する。
 - ①「4. 社会実装を意識した研究の推進」を図り、企業や自治体と連携した実践的な研究を推進する。
 - ②産官学民連携に関する成果・KPI 及び報奨制度を検討する。
 - ③連携協定締結にかかるスキームとルールを策定する。
- (2)事業活動の展開
 - ①全学

「現代世界解析講座」の広報活動をより強化させ、オンライン受講者数や受講地域のさらなる拡大を目指す。

- ②経営情報学部
 - ・高校の探究授業や小中学校などとの連携強化(入試委員会や AL 委員会との連携)
 - ・近隣大学や高専との連携強化
 - ・受託研究費等の総額 500 万円以上
 - ・地域のマスコミ等との連携強化
- ③グローバルスタディーズ学部
 - ・高大連携の方向性を検討する。
 - ・活動のサポート体制に関する議論を深める。
- ④総合研究所

外部人材を活用するとともに、教員の参画を促進する制度を検討する。

- ⑤経営情報学研究科
 - ・履修証明プログラムの拡大を図る。
 - ・新しい学びの機会創出として、企業からの寄附講座を1講座以上増やし、計4講座 以上を展開する。
 - ・社会実装を意識した研究の推進として、外部研究団体「知識創造プリンシプル」と の連携を通じた知識創造経営に関する共同研究を目指す。
 - ・スターバックスジャパン株式会社との共同で開発した授業を展開する。

(3)活動の検証

- ①経営情報学部
 - ・学生の就職先や入学者の増加への効果等への寄与についての検証を行う。
 - ・産学連携活動に関わる学生数を意識しながら、学生の学びの機会を作ることによる

休退学対策への効果を測定する。

- ・産官学民連携活動のマスコミへの露出数を増やし、検証の指標とする。
- ②グローバルスタディーズ学部
 - ・地域活動に参加した学生の成長を図る方法・尺度を改善する。
 - ・参加学生へのアンケート調査(感想、気付き等)を継続する。
 - ・地域活動に参加した学生の感想等を、連携した学外組織・団体にフィードバックする。

[基準 A の自己評価]

「社会・地域貢献」から「社会・地域の課題解決」へと転換するために「産官学民連携センター」を設立してから4年が経ち、その体制が確立しつつある。産官学民連携を教育につなげることは、講義やゼミ、「AL プログラム」、「高大接続プログラム」、インターシップ等へと広がり、参画する学生、教職員の増加につながっている。また、実践的な課題解決型の研究で連携する自治体や企業も増え、包括連携協定の締結数も増加した。その内容も多彩であり、成果が出始めている。

次の目標は、産官学民連携のさらなる全学的な推進と質の向上、活動と成果を評価・検証・改善するための仕組みづくりとなる。また、このような産官学民連携活動を本学の特徴としてブランディングに活かす広報活動に注力して行くことも重視する。

基準 B. 国際交流

- B-1. 国際交流
- B-1-① 国際交流の方針の明確化と体制の整備
- B-1-② 海外提携校との連携体制の整備と充実
- B-1-③ 学生の送り出し体制の整備と適切な運営
- B-1-④ 学生の受け入れ体制の整備と適切な運営
- B-1-⑤ 学内の国際交流活性化のための活動
 - (1) B-1 の自己判定

「基準項目 B-1 を満たしている。」

- (2) B-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)
- B-1-① 国際交流の方針の明確化と体制の整備

<事実の説明>

[全学]

- (1) 平成元(1989)年の本学創立以来の基本理念は、「実際性」「学際性」「国際性」である。 その一つである「国際性」をさらに充実・発展させ、グローバルに通用する大学を目指 し、平成21(2009)年に、「多摩大学国際交流センター規程」〔資料B-1-001〕を制定し、 全学組織である「多摩大学国際交流センター」を発足した。本センターでは本学で学ぶ 留学生の受け入れ促進、学生の海外留学促進、教職員の海外提携大学又は機関との交流、 地域の国際化への貢献を主たる業務としている(同規程第1条第2項)。
- (2) 平成 30(2018) 年度に、状況の変化と本学の国際交流活動の実情を鑑み、新たに「多摩大学国際化ビジョン」を策定した〔資料 B-1-002〕。
- (3) 令和元(2019) 年度に、「多摩大学国際化ビジョン」に基づき、「第3期中期計画」(令和2(2020) 年4月~令和7(2025) 年3月) を策定した〔資料 B-1-003〕。
- (4)東京出入国在留管理庁より、留学生在籍管理の「適正校」として選定されている〔資料 B-1-004〕。
- (5) 令和 4(2022) 年度は、「国際交流センター運営委員会」〔資料 B-1-005〕を、両学部・大学院の教職員 14 人(教員 8 人、職員 6 人) で構成し〔資料 B-1-006〕、会議を 3 回開催した〔資料 B-1-007〕。
 - ①「多摩大学国際化ビジョン」と「第3期中期計画」に沿って「アジア・ダイナミズムに正面から向き合えるプロジェクトマネジメント人材」「多摩グローカル人材」の育成を全学の国際交流活動の方針として交流体制の整備と充実を図った〔資料 B-1-002〕。
 - ②コロナ禍における新たな国際交流の在り方や課題を検討し、オンライン留学やインターンシッププログラムの充実、既存協定校とのオンライン交流、新規協定校の開拓、日本人学生と留学生との交流促進、学生の学修機会の増加等により、国際活動を積極的に推進した〔資料 B-1-007〕。
- (6) 令和 4(2022) 年度の全学の実績
 - ①新規に提携校を 1 校増やし、全学の累計で 42 校となり、中期目標を前倒しで達成した [資料 B-1-008]。
 - ②全学の目標の内、学生の海外派遣目標 144 人と、留学生の受け入れ目標 143 人は未達

となったが、次の実績を残した〔資料 B-1-009〕〔資料 B-1-010〕。

- ・学生の海外派遣88人(含む、オンライン留学・インターンシップ)
- ・留学生の受け入れ138人(含む、オンライン交換留学生)
- ③海外滞在中の在籍学生の学修支援、留学生の生活・学修・就職支援にも注力した。

[経営情報学部] [グローバルスタディーズ学部]

両学部の「国際交流委員会」は、「多摩大学国際交流委員会規程」〔資料 B-1-011〕に基づき、国際交流に関する事項を審議し、中期計画・年度計画に基づき交流体制の整備と充実を図り、「国際交流センター事務課」と連携し業務を遂行している。

- (1)経営情報学部では、「国際交流委員会」を教員 6人、職員 2人の計8人で構成し、原則毎月1回開催している〔資料 B-1-101〕。
- (2) グローバルスタディーズ学部〕では、「国際交流委員会」を教員 5 人、職員 4 人の計 9 人で構成し、原則毎月 1 回開催している〔資料 B-1-201〕。職員の内 1 人は外国籍(台湾)である〔資料 B-1-202〕。令和 3(2021)年度は、11 回の委員会を開催した〔資料 B-1-203〕。

<自己評価>

- (1)明確な方針に基づき、諸事業を実施している。
- (2) 規程等に基づき、国際交流を推進する組織体制を整備している。
- (3)環境変化に対しても適切に対応し、一定の成果を収めることができた。

B-1-② 海外提携校との連携体制の整備と充実

[経営情報学部]

<事実の説明>

- (1)令和4(2022)年度の経営情報学部の海外協定校数は、15校である。令和4(2022)年度事業計画における新規協定校1校開拓の目標に対し、実績0校となった〔資料B-1-008〕。
- (2)提携校の広東財経大学(中国)とのオンライン共同研究を実施した〔資料 B-1-102〕。本学から教員1人、学生18人が参加した〔資料 B-1-103〕。
- (3)協定校専用のウェブサイトで、交換留学生の受け入れが円滑に進むよう努めている〔資料 B-1-104〕。

<自己評価>

コロナ禍によりオフラインでの国際交流活動が制限される中、提携校の新規開拓は実現しなかったが、既存提携校との交流体制の整備と充実は図れている。令和 5(2023)年度に計画しているオンラインとオフラインを組み合わせた交流の弾みになっている。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

(1) 地元藤沢市のニーズに沿って提携校を増やしている。令和 4(2022) 年度は、インドの JAWAHARLAL NEHRU 大学と新規協定を結び [資料 B-1-204]、提携校は 26 校となった [資料 B-1-205]。

(2) 提携校からの「Study Tour」受け入れを、オンラインで継続している〔資料 B-1-206〕。 また、提携校の協力を得て、「Study Tour」に本学の学生がオンラインで参加した〔資料 B-1-207〕。

<自己評価>

事業計画に基づき提携校を増やし、交流体制の整備と充実が図れている。

[経営情報学研究科]

<事実の説明>

現在、提携校は、哈爾濱工業大学(中国)の1校である〔資料 B-1-301〕。

<自己評価>

海外提携校との連携体制を整備している。

B-1-③ 学生の送り出し体制の整備と適切な運営

<事実の説明>

海外派遣においては、引率付きの研修プログラム(HOP)、個人で参加する語学研修・海外インターンシップ(STEP)、長期留学(JUMP)へのステップアップを企図した運営を行っている。

[経営情報学部]

- (1) 令和 4(2022) 年度は、コロナ禍により、予定されていた留学 プログラムの多くが中止 となり、海外派遣者数は中期計画の年度目標値 44 人に対し、実績 36 人となった〔資料 B-1-105〕 [資料 B-1-106]。
- (2) 留学前のサポート
 - ①留学制度を周知するため、留学パンフレット〔資料 B-1-107〕を配布している。
 - ②短期留学説明会2回、長期留学説明会を1回、実施した〔資料B-1-108〕。
 - ③留学の目的意識を明確にさせるため、申込時に留学の目的をまとめた上で国際交流委員との面談を行わせている〔資料 B-1-109〕。
- (3) 留学効果の「見える化」
 - ①留学を終えた学生には、授業内にて「海外留学体験報告会」を課し、留学プログラムの認知拡大を図っている〔資料 B-1-110〕。また、学生の「留学体験記」を、大学ホームページに掲載している〔資料 B-1-111〕。
 - ②留学前後には、「海外留学アンケート」や修了報告書を課し、留学体験による意識の変化の「見える化」に努めている。
 - ・修了報告書の提出を義務付けており、留学体験の言語化、プログラムの実態把握、 現地での生活把握、新規プログラム導入、サポート体制の見直しの際に参考にする 等、次回以降の募集に活用している。
 - ・令和 4(2022)年度に実際に提出された報告書によると、学生が参加した留学プログラムへの満足度は高かったことが伺える〔資料 B-1-112〕〔資料 B-1-113〕。
 - ・満足度の高いプログラムは継続する。

- ・何らかの理由でプログラムが継続不可となった場合には、同様の新規プログラムを 導入し、積極的に募集をかけていく。
- ③サポート体制についても全体として「満足」+「やや満足」が 73%(令和 3(2021)年度 71.3%)と、満足度が高い結果であった〔資料 B-1-114〕。
- ④語学(英語)研修参加者に留学前と留学後の計 2 回、CASEC(英語検定試験)受験を課している〔資料 B-1-115〕。

(4) 経済的支援

多摩大学奨学金規程に基づき、奨学金を支給している。

- ①奨学金は、長期留学 7 人に 210 万円(1 人 30 万円)、短期留学 6 人に 60 万(1 人 10 万円)を支給した〔資料 B-1-116〕。
- ②オンライン留学・インターンシップへの参加者 5 人に、補助金 10 万円を支給した(1人 2 万円) [資料 B-1-117]。
- ③オンライン英会話受講費補助は、4人の利用があり、6万円を支給した(1人1万5,000円)[資料B-1-118]。
- (5)安全確保のための施策

渡航者の安全確保のため、危機管理を継続している。

- ①出発前オリエンテーションを実施し、アイラックから提供されている危機管理動画を 視聴させ、渡航中の危機管理を徹底している〔資料 B-1-119〕。
- ②学生派遣中は、各学生の緊急連絡先を学部長、国際交流委員長、学生課長と共有している「資料 B-1-120」。
- ③留学参加者には、大学で包括契約を結んでいる 24 時間体制の事故対策サービスが付与されている保険への加入を義務付けている〔資料 B-1-121〕。
- ④令和 3(2021)年度に引き続き、万が一、現地で新型コロナに感染した場合は、症状の 重症度に関わらず、学部対策室を設置することとした〔資料 B-1-122〕。

<自己評価>

コロナ禍において海外渡航が制限される中、新しい取り組みとして、提携校とオンライン形式で共同研究を実施しながら、短期留学、長期留学プログラムを実施した。実際に海外留学に派遣することができたことは、人数目標未達とはいえ、大きな成果である。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

- (1)令和 4(2022)年度は、海外留学派遣者数は中期計画の年度目標値 100 人に対して、実績は 52 人であった「資料 B-1-208」。
 - ①夏休み海外研修は、渡航制限のためオンライン海外研修に変更し、提携校のナンヤンポリテクニック(シンガポール)で実施し、学生を計17人派遣した(詳細は後述)〔資料B-1-209〕。
 - ②春休み海外研修は、コロナ後初めての渡航型海外研修を開催し、台湾の提携校の東呉大学に11人を派遣した〔資料B-1-210〕。
 - ③短期留学においては、オンラインと渡航型を両方開催した。

- ・オンラインプログラムの参加者は1人であった。
- ・渡航型プログラムでは、ハワイ大学(ハワイ)に3人、クライストチャーチ工科大学 (ニュージーランド)に4人、グリフィス大学(オーストラリア)に4人、ビクトリア 大学(カナダ)5人、合計16人が参加した〔資料B-1-211〕。
- ④長期一般留学では、春学期はビクトリア大学プログラムに2人、秋学期はビクトリア大学のプログラムに2人、計4人が参加した〔資料B-1-212〕。
- ⑤長期交換留学を秋学期から再開した。台湾の義守大学に2人、タイの泰日工業大学に1人、計3人を派遣した〔資料 B-1-213〕。
- (2) 留学前のサポート
 - ①留学に興味のある学生に対しては、「留学プランニングシート」を元に、具体的な個別相談を実施し〔資料 B-1-214〕、留学プランを提案した〔資料 B-1-215〕。年度を通じて、計 24 人の留学相談に対応した〔資料 B-1-216〕。
 - ②留学制度を周知するために、留学資料〔資料 B-1-217〕を作成し、学生に配布すると 共に、説明会を実施した。
 - ・留学プログラム申込時、英語で参加理由と留学で達成したいこと [資料 B-1-218] を提出させ、留学の目的意識を向上させている。
 - ・留学の効果を高めるために、担当教員との面談〔資料 B-1-219〕を行っている。
 - ③学期始めのオリエンテーションでは、年次別に国際交流と留学についての説明を行った。春学期4回、秋学期は5回、計9回実施した〔資料B-1-220〕。
 - ・春学期は、計63人が参加した〔資料B-1-221〕。
 - ・プログラム別のオンライン海外研修説明会(4月18日) [資料B-1-222]
 - 長期留学説明会(4月20日)「資料B-1-223〕
 - ・短期留学説明会(4月21日) [資料B-1-224]
 - ・交換留学説明会(6月22日) [資料B-1-225]
 - ・秋学期は、計81人が参加した。
 - ・長期留学説明会(9月20日) [資料B-1-226]
 - ・短期留学説明会(9月21日) [資料B-1-227]
 - ・地域別の交換留学説明会(12月5・7・9日) [資料B-1-228]
 - ④後援会総会にて、保証人向けの留学説明を実施した「資料 B-1-229」。
 - ⑤留学に関する情報は、常に更新し、事務所前の掲示板に掲示している〔資料 B-1-230〕。
 - ⑥オンラインシンガポール研修を強化するために外部の講師を招聘し、17人が参加した 〔資料 B-1-231〕。
- (3) 高大連携台湾研修を開催し、本学部生 11 人と藤沢翔陵高等学校の生徒 11 人及び教諭 3 人を台湾に引率し、研修を行った(3 月 24~29 日) [資料 B-1-232]。
- (4)相互受け入れの「Study Tour」
 - 提携校ナンヤンポリテクニック(シンガポール)と共同開催で相互に学生を送り合い、オンラインで「Study Tour」を開催した。
 - ①9月5~8日に、先方のプラグラムに本学部生17人がオンラインで参加した〔資料B-1-233〕。
 - ②10月3~7日に、本学のプログラムに先方の学生が17人参加した〔資料B-1-234〕。学

生交流として「キャンパスツアー」「風呂敷文化教室」(10月3日)、「ランチ会」(10月4日)、「日本語教室」(10月5日)などのイベントを開催した。本学部生のべ34人が参加した〔資料B-1-235〕。

(5) 留学効果の確認

- ①留学プログラム(含む、オンライン)の参加学生に、アンケート調査票の提出と成果発表等の課題を課し[資料 B-1-236]、「Study Abroad」の単位を付与した[資料 B-1-237]。
- ②留学後、「留学報告会」〔資料 B-1-238〕を行っている。
- ③留学後の TOIEC スコアでは、約8割の学生の英語力の向上が確認できた。
- ④学生が提出した「留学感想文」からは、留学を経験したことにより、英語の学習意欲の向上、就職活動への前向きな取り組み等、自身の成長を実感できていることが伺える〔資料 B-1-239〕。
- ⑤研修及び留学後にはアンケート〔資料 B-1-240〕を実施し、実際のプログラム参加者のクラス環境や授業前後の予習復習の状況、プログラム参加前後の気持ちの変化や今後の目標等を調査している〔資料 B-1-241〕。
 - ・プログラムやサポート体制について、学生の満足度が高かった。
 - ・留学を通じて学生が成長したことが確認できた。
 - ・プログラムの詳細内容や感想等の報告を、以降の留学募集に活用している。

(6) 経済的支援

- ①短期留学した学生 13 人に「多摩大学短期留学奨学金」計 130 万円を支給した〔資料 B-1-242〕。
- ②後援会は、海外研修 1 万 5,000 円/人、短期留学 2 万円/人、長期留学 2 万 5,000 円/人の補助金を支給している。留学(含む、オンライン)した学生 37 人に計 73 万円の補助金を支給した〔資料 B-1-243〕。
- ③留学を希望している学生への支援として、「IELTS」と「TOEFL」等の英語試験を受けた 学生に補助金1万円を出す制度を導入している〔資料 B-1-244〕。
- ④出発前と留学後、大学負担での「TOEIC」受験を奨励している〔資料 B-1-245〕。

(7)安全確保のための施策

- ①最新情報を収集するために積極的に外部開催の危機管理セミナーに参加している〔資料 B-1-246〕。
- ②留学参加者全員に「海外留学危機管理ハンドブック」を配布している〔資料 B-1-247〕。
- ③出発前に危機管理セミナーを実施し、渡航中の危機管理を徹底している〔資料 B-1-248〕。
- ④24 時間 365 日サポート体制付きの海外旅行保険の加入を義務付けている [資料 B-1-249]。
- ⑤渡航する学生に対し、3回の事前学習会を実施した。留学先の最新コロナ情報を共有し、関連対策を指導した〔資料 B-1-250〕。
- ⑥留学派遣中、参加学生の緊急連絡先を関係教職員で共有している〔資料 B-1-251〕。

<自己評価>

申し込みから報告会までサポート体制を確立し、コロナ禍における制約の中ではあった

が、学生が海外留学を経験する機会を確保することができた。

B-1-④ 学生の受け入れ体制の整備と適切な運営

[経営情報学部]

<事実の説明>

経営情報学部では海外協定校専用ウェブサイトを作成し、交換留学生受け入れ手続きを 円滑にしている [資料 B-1-104]。

(1) 留学生の受け入れ実績

令和 4(2022)年度の留学生の受け入れ数は、事業計画目標値の 70 人に対し、私費留学生 37 人、交換留学生 1 人・研修生 1 人(オンライン受講)の計 39 人であった〔資料 B-1-123〕〔資料 B-1-106〕。

- (2) 留学生用ウェブサイト更新により、留学生が知るべき情報を周知している [資料 B-1-124]。
 - ①在留カードの取り扱い
 - ②在留資格の更新
 - ③卒業・休学・退学に関わる在留資格
 - ④奨学金・授業料減免制度
- (3) 留学生への生活支援では、各学期に 2 度の職員による個別面談を必須とし〔資料 B-1-125〕〔資料 B-1-126〕〔資料 B-1-127〕、学修(単位修得状況)・生活状況把握、連絡事項の周知を図っている。併せて、卒業後の在留資格変更に関する指導も行っている〔資料 B-1-128〕「資料 B-1-129〕。
- (4)経済的支援として、20人に対し、計 409万5,000円の授業料減免を行った〔資料 B-1-130〕。
- (5) 就職・大学院進学支援の一環として、日本語能力試験1級の受験料補助制度を導入している。令和4(2022)年度は、1人が受験した[資料B-1-131]。
- (6) 令和 4(2022) 年度は、入国制限のため、4 人の新入生の 4 月入国が間に合わず〔資料 B-1-132〕、オンライン受講等の個別対応を行った〔資料 B-1-133〕。

<自己評価>

厳格な入国制限により、とりわけ交換留学生・研修生の受け入れができなかった。国際 交流センター事務課と国際交流委員会が中心となって、在籍留学生、特に新入生に対し親 身な受け入れ体制を整備し、適切な支援と管理運営を行った。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

ウェブサイトの改修を行い〔資料 B-1-252〕、積極的に留学情報を発信し、留学生受け入れ手続きの円滑化を進めた。

(1) 留学生の受け入れ実績

令和 4(2022)年度の留学生の受け入れ実績は、私費留学生 17 人、交換留学生 6 人の計 23 人であった〔資料 B-1-253〕。

(2) 留学生への支援

- ①留学生用新入生オリエンテーションを実施した〔資料 B-1-254〕。
- ②教員が留学生を支援する「留学生アドバイザー」制度を活用し、担当教員が電話やメールを用いて個別相談を行った〔資料 B-1-255〕。
- ③経済的支援では、授業料の3割(27万円)を減免する「私費外国人留学生学費減免制度」 を導入している。10人に対し計270万円の授業料減免を行った〔資料B-1-256〕。
- ④職員による相談受付 [資料 B-1-257]、学生寮の手配 [資料 B-1-258]、在留カード更新の手伝いを実施した [資料 B-1-259]。
- ⑤卒業した留学生からの留学・進学相談、在留資格相談などに対応した〔資料 B-1-260〕。

<自己評価>

留学生へのサポートは充実しており、十分に機能している。

[経営情報学研究科]

<事実の説明>

(1) 留学生の受け入れ実績

留学生は、令和 4(2022)年 5 月 1 日時点の在籍者数が 37 人 [資料 B-1-302]、令和 4(2022)年 10 月 1 日現在の在籍者数が 35 人となった [資料 B-1-303]。

- (2) 留学生への支援
 - ①留学生用新入生オリエンテーションを実施した〔資料 B-1-304〕。
 - ②日本語能力検定「N1」取得支援の模擬試験を実施した〔資料 B-1-305〕。
 - ③日本語能力向上と日本企業での就職のための教養科目として、7科目を配置している。 科目名は、「留学生のための日本経済・経営基礎」、「ビジネスジャパニーズ I・II」、 「論文スタートアップ I・II」、「留学生のためのビジネス日本地理・日本史 I・II」である〔資料 B-1-306〕~〔資料 B-1-309〕。
 - ④留学ビザの取得・更新の支援[資料 B-1-310]を行っている。
 - ⑤留学生に対して履修相談〔資料 B-1-311〕を行った。
 - ⑥私費外国人留学生に対して授業料の3割(30万円)を減免する「私費外国人留学生学費減免制度」〔資料B-1-312〕を導入している。令和4(2022)年度は、希望者14人に対して9人を該当者とし、減免総額は270万円になった〔資料B-1-313〕。
- (3)日本で就職希望をする留学生に対して以下のサポートを行った。
 - ①留学生に対して個別就職相談を行った〔資料 B-1-314〕。
 - ②東京外国人雇用サービスセンターと連携し、「就職ガイダンス」を 2 回実施した〔資料 B-1-315〕。
 - ·第1回(6月14日) 参加11人
 - ・第2回(11月22日) 参加5人
 - ③東京外国人雇用サービスセンター等の学外の合同説明会を周知している〔資料 B-1-316〕。

<自己評価>

留学生の受け入れ体制の整備を行い、教職員協働で留学生の学修・生活状況を把握している。支援は充実しており、十分に機能している。

B-1-⑤ 学内の国際交流活性化のための活動

[経営情報学部]

<事実の説明>

日本人学生と留学生との交流はゼミを中心に行われている。ゼミ以外では、令和 4(2022) 年度は、以下の活動を行った。

- (1) 新入生留学生歓迎会を開催した(4月4日)。新入生14人(うち4人はオンライン参加)、 教職員13人、在校生1人、計28人が参加した〔資料B-1-134〕。
- (2)「留学生によるミニ文化講座」を計5回実施した(10~12月)。
 - ①のべ参加者数は87人であり、構成比率は教職員43%、1年生37%、2年生5%、3年生10%、4年生5%となった。
 - ②アンケート調査では、「非常に良かった」「良かった」は合計 95%と好評であった〔資料 B-1-135〕。
- (3) 多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校の授業に留学生が参画した。

<自己評価>

コロナ禍による活動制限がある中、交流推進に精力的に取り組んだ。

[グローバルスタディーズ学部]

<事実の説明>

(1)地域協働の国際交流イベント

日中国交正常化 50 周年記念事業の一環として、藤沢市人権男女共同平和国際課の依頼を受け、昆明西南連合大学研究院付属高校、藤沢市の高校 4 校、本学でオンライン交流会を開催した〔資料 B-1-261〕。

- (2) 多摩大学目黒高等学校と海外の学校とのオンライン文化交流支援
 - ①多摩大学目黒高等学校と次の2校をつなげ、オンライン交流会を開催した。
 - 台湾の家斉高校(6月6日、12月1日) [資料B-1-262]
 - ・タイのスワンクラーブウィッタヤーラノンタブリー高校(6 月 24 日、11 月 21 日) 〔資料 B-1-263〕
 - ②本学部生はサポーターとして参加した。
- (3) 留学生と日本人学生との交流イベント
 - ①1日交流ツアー

春学期に「鎌倉江の島一日ツアー」、秋学期に「高尾山へ紅葉を見に行こうツアー」を開催した「資料 B-1-264」。

- ②五月人形飾り会〔資料 B-1-265〕、歌舞伎鑑賞会〔資料 B-1-266〕、文楽鑑賞会〔資料 B-1-267〕を開催した。
- (4) 学園祭の留学説明会

学園祭に留学説明会を開催し、留学ポスターの掲示と交換留学生による母校紹介を行っ

た〔資料 B-1-268〕。

(5) 中国語スピーチコンテスト

第2回「中国語スピーチコンテスト」を本学湘南キャンパスで開催した。本学部生4人が参加した〔資料B-1-269〕。

<自己評価>

コロナ禍での制約はあったものの、国際交流活性化のための活動を充実させている。

〔経営情報学研究科〕

<事実の説明>

- (1) 留学生の修了生と現役院生とのネットワーク構築のため、「留学生のつどい」を 2 回開催した [資料 B-1-317]。日本での就業体験などの座談会を実施した。
- (2) 「多摩大学大学院 MBA グローバル・フェロートーク」では、「パーパスでビジネスモデルをデザインする~なぜ今日、パーパスを持ったビジネスモデルが決定的に重要なのか?」「資料 B-1-318」を開催した。

<自己評価>

留学生の修了生と現役留学生の交流する機会を提供している。

(3) B-1 の改善・向上方策(将来計画)

〈国際交流の方針の明確化と体制の整備〉

学生に海外体験や異文化理解による経験と成長の場を提供し、国際化の「量」から「質」 への転換を全学で進めていく。

- (1)全学レベルの各目標の達成を目指す。学生の海外派遣 155 人、留学生の受け入れ 143 人、提携校数類型 43 校。
- (2) 全学にて危機管理シミュレーションを実施し、より一層危機管理体制の整備・強化を図る。

〈海外提携校との連携体制の整備と充実〉

- (1)経営情報学部
 - ①年度事業計画に基づき、提携校を新規で1校開拓する。
 - ②既存提携校との関係維持、交流の深化を図る。 広東財経大学(中国)と開南大学(台湾)をはじめとして、海外研修プログラムを現地に て実施する。共通のテーマに基づいた事前に研究調査を行った上、現地にて研究成果 の発表会を実施する等、学生同士の直接交流を促進する。
- (2) グローバルスタディーズ学部
 - ①提携校の存在しない国・地域を含め、新規提携や学生派遣の可能性を探究する。
 - ②令和 4(2022)年度よりスタートした「特別専修プログラム」の参加学生の留学先の確保を念頭におきながら、提携校との関係を強化し、本学部よりの交換留学生の送り出し拡大を目指す。

(3)経営情報学研究科

- ①オンラインのみでの交流を可能とする提携候補校の開拓を目指し、情報収集を行う。
- ②提携校である哈爾濱工業大学との共同プログラムの検討を再開する。

〈学生の送り出し体制の整備と適切な運営〉

コロナ前の留学水準に戻すことを念頭に、コロナ禍で中断された各種渡航型プログラム を再開する。

(1) 経営情報学部

- ①学生の海外への派遣:目標55人
 - 単位取得を伴う引率付き海外研修留学参加者 30 人、短期留学・インターンシップ参加者 20 人(オンラインを含む)、長期留学参加者 5 人を含む計 55 人。
- ②入学時から、留学を意識付ける。
 - ・留学に関する資料を入学式やオリエンテーションで保証人・学生に配布する。
 - ・留学の意味や、人間的成長等の効果を丁寧に説明し、海外への関心度を高める工夫 をする。
- ③「T-NEXT」等へ留学関連情報を常時掲示する。
- ④説明会、学生による体験報告会を語学の授業を中心に随時開催する。
- ⑤単位取得を伴うオンライン留学・インターンシッププログラムの種類と内容をより充 実する。
- ⑥渡航を伴う海外留学実施の前後にオンライン留学を組み合わせることで、留学の効果 をさらに高める仕組みを検討する。
- (7)オンライン英会話受講費用補助を通年で行い、学習機会を拡充する。
- ⑧学生の成長の見える化を推進する。
 - ・留学による内面変化を測るアンケートの実施を継続する。
 - ・語学力、単位修得状況、成績、外部試験・資格の取得状況、就職先等による検証を 行う。
- (2) グローバルスタディーズ学部
 - ①短期・長期留学「Study Abroad」を 35 人、海外研修「Discover Asia Study Tour」を 65 人、計 100 人の派遣を目標とする。
 - ②本学部の留学制度の見せ方や説明方法を工夫し、学生の留学意欲の醸成、早期からの 留学計画の作成を促進し、実際の留学に結びつける。
 - ③送り出しにあたって、グローカルな学びを目的とする留学の意識付けに注力し、単なる海外見聞に終わらせない。
 - ④観光・ホスピタリティ、海外で働くこと、世界遺産等のテーマについて、事前学習、 研修先での調査やプレゼンテーションを実施する。
 - ⑤提携校のナンヤンポリテクニックとの共催
 - ・8月下旬に海外研修「Discover Asia Study Tour」をナンヤンポリテクニックの協力のもとで開催する。
 - ・9月にナンヤンポリテクニックから「Study Tour」を受け入れる予定である。

〈学生の受け入れ体制の整備と適切な運営〉

- (1) 留学生の受け入れ目標:経営情報学部70人、グローバルスタディーズ学部33人。
- (2) 留学生用のウェブサイトを活用し、国内外へ向けて積極的に情報発信を行う。
- (3)優秀な留学生を安定的に受け入れる。
- (4) 在学留学生の現状把握に努め、学習面・生活面・経済面のサポートを継続して行う。
- (5) 留学生の入学から卒業(就職) に至るまでの一貫したサポート体制を構築する。 大学院では、日本での就職希望者に対する支援を継続して行い、留学生の日本国内就職 率の向上を目指す。また、「留学生のつどい」を通じて外国籍の修了生とのネットワーク を構築する。

〈学内の国際交流活性化のための活動〉

- (1)経営情報学部
 - ①「国際交流委員会」主催で各種イベント等を実施し、交流を深める。
 - 留学生歓送迎会、日本文化体験、「多摩祭」等
 - ・「語学パートナー」等、留学生による語学・文化講座の実施で、日本人学生と留学生 の交流・相互学習の機会を増やす。
 - ・地方自治体、地域住民、附属聖ヶ丘中学高等学校と留学生との交流活動
 - ②地域との交流を行うゼミや「学生会」やと連携し、留学生と日本人学生及び地域との 交流を促進する。
 - ・日本人学生と留学生の交流を促進する各種イベントの企画・運営を、年間を通じて 行う。
 - ・地域連携活動を行っているゼミとコラボレーションをしながら、留学生と日本人学 生、留学生と地域住民との交流を促す。
- (2) グローバルスタディーズ学部

産官学民連携委員会と連携し、学部として湘南地域の国際交流活動に積極的に参画・協力し、地域への貢献を図る。

- ①留学生と日本人学生との交流を促進し、交流イベントを開催する。
- ②藤沢市外国人市民会議への参加等、留学生を地域のフォーラム、イベント、高等学校等に派遣し、相互理解の深化を図る。
- ③地元の高等学校に海外研修などのリソースを提供し、高大連携を推進する。
- (3)経営情報学研究科
 - ①「留学生のつどい」を継続する。
 - ②グローバル・フェローのイベントを継続する。

[基準Bの自己評価]

本学の「国際化ビジョン」と「第3期中期計画」に沿って、「アジア・ダイナミズムに正面から向き合えるプロジェクトマネジメント人材」「多摩グローカル人材」の育成を全学の

多摩大学

国際交流活動の方針として、国際交流センター運営委員会を中心に本学の国際交流体制の整備と充実化を図ってきた。

令和 4(2022)年度は、渡航型海外留学を再開した。また、オンライン留学や協定校とのオンライン共同研究会・文化交流を行う等により、各種国際交流プログラムを充実した。受け入れた留学生の生活・学修・就職支援と日本人学生との学内交流を積極的に行い、地域の国際交流活動にも制限がある中でも積極的に参画した。

令和 5(2023)年度は、引き続き全学の国際化の「量」から「質」への転換を図る。コロナ 禍等を通じて見出された課題や問題点を解決し、業務の改善・効率化を図りながら、学生 に海外を体験し成長する場を提供する。また、留学生と日本人学生との交流を促し、相互 学習の機会を増やす等して、学内の国際交流の活性化を推進する。

Ⅳ:エビデンス集一覧

エビデンス集(データ編)一覧 目次

| 資料No. | 該当する資料名(ファイル名) | ページ |
|-------|---------------------------------|-----|
| 表5-2 | 事業活動収支計算書関係比率 (法人全体のもの) | 126 |
| 表5-3 | 事業活動収支計算書関係比率 (大学単独) | 127 |
| 表5-4 | 貸借対照表関係比率(法人全体のもの) | 128 |
| 表5-5 | 要積立額に対する金融資産の状況(法人全体のもの)(過去5年間) | 129 |

表5-2 事業活動収支計算書関係比率(法人全体のもの)

| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------|-----------------|------------|--------------|----------------|---------------------|---------------------|--------------|---------------|--------------------|---------------|--------------------|--------------|------------|------------|---------------------|
| 令和4年度 | 54.7% | %6.67 | 28.8% | 9.4% | 0.0% | 6.7% | %6.66 | 68.5% | 1.2% | 1.1% | 22.7% | 22.6% | %9.9 | 8.0% | 7.0% | 6.2% |
| 令和3年度 | 54.1% | 77.2% | 29.5% | 8.8% | %0.0 | %0.6 | 95.1% | 70.1% | 1.1% | 1.1% | 21.7% | 21.9% | 4.3% | 8.3% | 7.8% | 7.1% |
| 令和2年度 | 25.0% | %0.62 | 29.0% | 8.3% | 0.0% | 7.7% | %6:96 | %9.69 | 1.3% | 1.1% | 21.8% | 21.8% | 4.8% | 8.0% | 7.6% | 6.8% |
| 令和元年度 | 53.9% | 75.9% | 28.7% | 9.1% | 0.0% | 8.3% | 96.1% | 71.0% | 1.1% | 1.1% | 20.8% | 20.6% | 4.6% | 8.0% | 8.2% | 7.4% |
| 平成30年度 | %0.92 | %9.08 | 27.4% | 8.7% | %0.0 | %9'. | 127.7% | 69.4% | 1.2% | 1.2% | 22.2% | 21.9% | 27.6% | 8.1% | 7.3% | %9.9 |
| 計算式 | 人件費 経常収入 | 人件費 学生生徒等納付金 | 教育研究経費経常収入 | 管理経費 経常収入 | 借入金等利息 経常収入 | 基本金組入前当年度収支差額事業活動収入 | 事業活動支出事業活動収入一基本金組入額 | 学生生徒等納付金経常収入 | 寄付金 事業活動収入 | 教育活動収支の寄付金 経常収入 | 補助金 事業活動収入 | 教育活動収支の補助金 経常収入 | 基本金組入額事業活動収入 | 減価償却額 経常支出 | 経常収支差額経常収入 | 教育活動収支差額 教育活動収入計 |
| | 人件費比率 | 人件費依存率 | 教育研究経費比率 | 管理経費比率 | 借入金等利息比率 | 事業活動収支差額比率 | 基本金組入後収支比率 | 学生生徒等納付金比率 | 客付金比率 | 経常寄付金比率 | 補助金比率 | 経常補助金比率 | 基本金組入率 | 減価償却額比率 | 経常収支差額比率 | 教育活動収支差額比率 |
| | 1 | 73 | 6 | 4 | 29 | 9 | 7 | œ | O | 9 | Ç | OT | 11 | 12 | 13 | 14 |

「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を記載すること。 なお、法人として当該大学のみを運営している場合は、表5-2のみを作成し、表5-3には記載しないこと。 ただし、医・歯学部などで附属病院を併設している場合には、表5-3も作成すること。 Θ

表5-3 事業活動収支計算書関係比率(大学単独)

| | | | | | | Т | | - | 夕学ノ | · 1 | 1 | | 1 | 1 | | Т |
|--------|-------------|-----------------|----------------|--------------|----------------|---------------------|---------------------|------------------|---------------|--------------------|---------------|--------------------|--------------|------------|-------------|------------------|
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和4年度 | 45.3% | 55.8% | 33.2% | 9.5% | %0.0 | 12.3% | 92.2% | 81.3% | 1.8% | 1.8% | 10.5% | 10.5% | 4.9% | 8.1% | 12.2% | 11.6% |
| 令和3年度 | 44.4% | 54.1% | 34.5% | 8.0% | %0.0 | 12.9% | %6'.28 | 82.2% | 1.8% | 1.8% | %9.6 | 9.5% | %6.0 | 8.6% | 12.8% | 12.2% |
| 令和2年度 | 45.9% | 56.2% | 34.8% | 8.2% | %0.0 | 11.0% | 91.6% | 81.6% | 1.8% | 1.7% | %9.6 | 9.5% | 2.8% | 8.2% | 11.0% | 10.4% |
| 令和元年度 | 46.0% | 54.6% | 34.4% | 8.8% | %0.0 | 10.5% | 91.0% | 84.3% | 1.8% | 1.7% | 7.1% | 7.1% | 1.6% | 7.8% | 10.7% | 10.1% |
| 平成30年度 | 49.0% | %9'69 | %8'08 | 8.1% | %0.0 | 11.1% | %2.68 | 82.1% | 1.9% | 1.9% | 9.2% | %7.6 | %6:0 | %6'.2 | 11.1% | 10.5% |
| 計算式 | 人件費 経常収入 | 人件費 学生生徒等納付金 | 教育研究経費 経常収入 | 管理経費 経常収入 | 借入金等利息 経常収入 | 基本金組入前当年度収支差額事業活動収入 | 事業活動文出事業活動収入一基本金組入額 | 学生生徒等納付金 経常収入 | 寄付金 事業活動収入 | 教育活動収支の寄付金 経常収入 | 補助金 事業活動収入 | 教育活動収支の補助金 経常収入 | 基本金組入額事業活動収入 | 減価償却額 経常支出 | 経常収支差額 経常収入 | 教育活動収支差額 教育活動収入計 |
| 比 | 人件費比率 | 人件費依存率 | 教育研究経費比率 | 管理経費比率 | 借入金等利息比率 | 事業活動収支差額比率 | 基本金組入後収支比率 | 学生生徒等納付金比率 | 寄付金比率 | 経常寄付金比率 | 補助金比率 | 経常補助金比率 | 基本金組入率 | 減価償却額比率 | 経常収支差額比率 | 教育活動収支差額比率 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 57 | 9 | 2 | œ | c | n. | Ç | OT | 11 | 12 | 13 | 14 |

「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を記載すること。 大学単独のものを記載すること(医、歯系学部を有する大学の場合、附属病院などを除外すること)。 $\bigcirc \otimes$

表5-4 貸借対照表関係比率(法人全体のもの)

| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------------|---------------|----------|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------------------|----------------|-------------------|-------------|------------------|--------------|--------|--------|----------|-----------------------|--------|-------------------------------------|-----------|
| 令和4年度 | 82.8% | 66.8% | 8.2% | 17.2% | 1.7% | 4.1% | 24.3% | 1.7年 | 94.2% | -19.9% | 87.9% | 86.4% | 418.4% | 5.8% | 6.2% | 691.8% | 0.0% | %6.66 | 63.1% | 62.8% |
| 令和3年度 | 80.7% | %6:99 | 7.9% | 19.3% | 1.6% | 5.3% | 24.7% | 1.8年 | 93.1% | -20.0% | %9.98 | 85.2% | 366.5% | 6.9% | 7.4% | 602.8% | 0.0% | %8'66 | 62.5% | %9'.29 |
| 令和2年度 | 81.9% | 68.7% | 7.7% | 18.1% | 1.5% | 5.3% | 23.2% | 1.7年 | 93.2% | -21.3% | 87.9% | 86.5% | 341.9% | 6.8% | 7.3% | 536.3% | 0.0% | %6.66 | 61.3% | 65.1% |
| 令和元年度 | 83.4% | 71.0% | 7.5% | 16.6% | 1.6% | 4.5% | 22.0% | 1.6年 | 93.9% | -22.4% | 88.8% | 87.4% | 367.9% | 6.1% | 6.5% | 250.6% | %0.0 | 100.0% | %0.09 | 61.4% |
| 平成30年度 | 85.4% | 73.0% | 7.3% | 14.6% | 1.5% | 4.4% | 19.2% | 1.4年 | 94.1% | -23.5% | %2.06 | 89.3% | 332.6% | 5.9% | 6.3% | 437.8% | 0.0% | %8'66 | 58.7% | 55.7% |
| 計算式 | 国定資産 総資産 | 有形固定資産 総資産 | 特定資産総資産 | 流動資産 総資産 | 固定負債 総負債十純資産 | 流動負債 総負債+純資産 | 運用資産一総負債 総資産 | <u>運用資産-外部負債</u> 経常支出 | 純資産 総負債十純資産 | 繰越収支差額 総負債十純資産 | 国定資産 純資産 | 国定資産 純資産+固定負債 | 流動資産 流動負債 | 総負債総資産 | 総負債純資産 | 現金預金 前受金 | 退職給与引当特定資産 退職給与引当金 | 基本金 | 減価償却累計額(図書を除く) 減価償却資産取得価額(図書を除く) | 運用資産 要積立額 |
| 比棒 | 固定資産構成比率 | 有形固定資産構成比率 | 特定資産構成比率 | 流動資産構成比率 | 固定負債構成比率 | 流動負債構成比率 | 内部留保資産比率 | 運用資産余裕比率 | 純資産構成比率 | 繰越収支差額 構成比率 | 固定比率 | 固定長期適合率 | 流動比率 | 総負債比率 | 負債比率 | 前受金保有率 | 退職給与引当 特定資産保有率 | 基本金比率 | 減価償却比率 | 積立率 |
| \dashv | 1 | 2 | ಣ | 4 | r0 | 9 | 7 | œ | 6 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |

① 「学校法人会計基準」に基づく貸借対照表を用いて、表に示された計算式により、比率を記載すること。

要積立額に対する金融資産の状況(法人全体のもの)(過去5年間)

92,280 32.5%190,747 30,478,617 1559.1%2,400,000 5,488,025 1,732,1689,903,220 金融資産 **令和4年度** 92,2801,600 215,533 507,562 11,611,700 2,400,000 352,000 15,180,675要積立額 92,2802,300,000 1,606,962 9,858,017 30,418,258 32.4%5,734,865 123,910 1629.2% 金融資産 **令和3年度** 486,097 2,300,000 1.350188,984 14,744,533 11,323,822 92,280352,000 要積立額 92,2802,200,000 9,153,114 30.7% 4,896,373 1,771,193 193,268 29,862,777 1391.0% 金融資産 **令和2年度** 92,280 352,000 1,3502,200,000 140,916 461,914 11,011,067 14,259,527要積立額 8,280,876 2,100,000 92,280 112,73428.4%1,571,132 29,150,402 1251.3% 4,404,730 金融資産 令和元年度 242,318 92,280 352,000 1,150451,676 10,661,972 2,100,00013,901,396 要積立額 26.4%2,000,000 7,552,756 92,2803,931,788 1,371,056 157,632 28,605,133 1117.0% 金融資産 平成30年度 426,536 1,200173,810 2,000,000 92,280 352,000 13,426,303 10,380,477 要積立額 4号基本金に対する現金預金の割合 総資産に対する金融資産の割合 その他引当特定資産 2号基本金引当資産 3号基本金引当資産 退職給与引当金 咸価償却累計額 **卡払金・割賦金** 号基本金 現金預金 未収入金 有価証券 借入金 総資産

学年年徐笙数付金に係ん学年数

| 135名 |
|--------|
| 2,205名 |
| 846名 |
| 351名 |
| 381名 |
| 342名 |
| 284名 |
| 207名 |
| 204名 |
| 1,955名 |

[「]学校法人会計基準」に基づく貸借対照表を参照して記載すること。 「学生生徒等納付金に係る学生数」の欄には大学及び大学院のほか、同一法人内の他の学校も含めて記載すること。 \bigcirc

エビデンス集(資料編)一覧

| 海塔No. | 資料名 |
|---|--|
| -1. 手生の支入 -1-① | |
| 資料2-1-101] | 多摩大学学則第1条第1項 |
| [資料2-1-102] | |
| 資料2-1-201] | 7 |
| (東科2-1-30I) (海州6 + 406) | ・日野 |
| (資本2-1-103) | インコン・ドラ |
| (資料2-1-202) | 沢藤おより枠宮情報子部 |
| 資料2-1-203] | |
| [資料2-1-302] | / اعد |
| (資料2-1-303) (然期6:1:104) | 人戦・広報を貝伝職事験(アト、シンヨン・ボリンー) 13. 東路井田店 |
| (資料2-1-104) | - 1 |
| 資本2-1-204] | 2023年度人子有速放安場 / トハツンヨン・ホリン 1-1-2023年度 / 1-20-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2 |
| [資料2-1-304] | ッション・ボリ |
| [資本2-1-105] | ドミッションドリシー |
| [資料2-1-205] | ارة ارت |
| [資料2-1-305] | ムページ アドミッション・ボリ |
| 資料2-1-306〕 | r 7 ř |
| 資料2-1-307] | 会資料 アドミ |
| [資料2-1-206] | アドミッションポリシー オープンキャンパス投影資料 |
| 2-1-2 | |
| [資料2-1-106] | 多摩大学組織図 |
| 資料2-1-207] | 2002年度運営方針 |
| [答料2-1-107] | 今和4(2022)年度第1回教授会議事録 |
| [答料2-1-108] | 1.14 (1.55元) - 文分117人(1.88 + 28) 年間計画 年間計画 |
| [谷数2-1-208] | 2002年 年 年 計画 |
| [衛歩2-1-109] | 第1回人就参昌会議事録 |
| [答料2-1-110] | |
| 資料2-1-209] | 入試委員会メンバー SGS人試委員会議事録 |
| [管料2-1-210] | |
| [管料2-1-211] | 868 2023年度入試 小論文課題 |
| 答料2-1-212] | 2023年度入試用 |
| 答料9-1-913] | 9093証価書 |
| [資料2-1-111] [答料2-1-111] | 15 |
| [答料2-1-214] | 1252 2022年度第1回(4日) 教授会議事録 |
| | 1+ |
| (海数9-1-915) | 10.50 |
| 本記 1 218 本記 本記 本記 本記 本記 本記 本記 本 | (5003) |
| 東州4 1 110) ※転り 1 016] | 13450 (2029) 十夜八十百 送灾 观文 |
| [東本2-1-210] (※率10-1-017] | 2023年及入武溥权- |
| (東本2 1 211) | 202 2020中夜不成二百万里,年三万万二,珍女施士十十分上午 |
| M-Z-1-114 | ш/ |
| 資本2-1-218] | ハシンコン・万十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二 |
| 貸料2-1-219〕 | - > 1 |
| [資料2-1-220] | 2018入学 |
| [資料2-1-221] | SGS 2023年度 2018年年代記SGS人試委員会議事錄 |
| [資料2-1-115] | 初年次学修指導申し送り事項 |
| [資料2-1-308] | 多摩大学大学院 入試,広報委員会規程 |
| [資料2-1-309] | 委員会構成委員 2022年度 |
| 資料2-1-310] | 干 |
| (資料2-1-311) | 2022年度入試検証整理表 |
| 「答料2-1-312」 | 1 卦, 广 和 米 目 へ 間 傑 口 拍 の の の |
| | 人] , 人 |

| | 游戏No. | |
|---|---|--|
| | [資料2-1-314] | 事前課題シート2022 |
| | [資料2-1-315] | 事前課題2022 |
| | [資料2-1-316] | 面接評価シート2022 |
| | [資料2-1-317] | 課題・評価検証 |
| | [資料2-1-318] | 留学生一次試験シート |
| | [資料2-1-319] | L. |
| | 2-1-3 | |
| | [資料2-1-116] | 多摩大学学則抜粋第5条 |
| | [資料2-1-222] | 多摩大学学則第5条 収容定員(グローバルスタディーズ学部) |
| | [資料2-1-117] | 様式901_ファクトデータ |
| | [資料2-1-118] | |
| | [管料2-1-223] | 面学部 2022年度資料請求者数 |
| | [後数2-1-119] | 1 |
| | [俗料2-1-120] | 7. 参加体数比較 7. 多加体数比較 |
| | [後来2-1-191] | マーン・・アバニ ※記念 |
| T | (次本) 1 101) | 1449 (2029) 中区語ンヨと右 |
| | [第742-1-122] | 1 |
| | (資料2-1-123) | |
| | [資料2-1-124] | 111 |
| | [資料2-1-224] | SGS 2023年5月1日の学生数 |
| | [資料2-1-225] | SGS 專任教職員高校訪問 |
| | [昝料2-1-226] | ScS 車任教職員日本語学校訪問 |
| | [後数2-1-227] | |
| | [後来19-1-998] | 1 |
| | (WANTO 1 000) | 51 |
| | (東本2-1-229) | ₹. |
| | [資料2-1-230] | ķ |
| | [資料2-1-231] | SGS オープンキャンパス開催回数 |
| | [管料2-1-232] | 868 オープンキャンパス参加者人数 |
| | [答料2-1-233] | + |
| | 「体料シー1ー934」 | 1 |
| | (教表) 1 20年) (教表) 1 99日) | 2000年年 |
| | (007-1-7-1) | DVD 2020年夜又七八十石数据记录中,第178年中探察中报》(1915年) |
| | (資料2-1-236) | 滕沢翔陵高等学校新3年生回げスプリンクスクール |
| | [資料2-1-320] | 大学院収容定員_20230501 |
| | [資料2-1-321] | 院生名簿20230501 |
| | [資料2-1-322] | 2023年度4月入学大学院入討結果 |
| | [答料2-1-323] | アクセスオンライン容録者数 |
| | 「答約9-1-394」 | 学内イベント申込・参加老数 |
| | [谷米10-1-395] | コニー・一・ から から かんしょ から アンドー・ 一 がっかい アン・ 一 がっかい アン・ 一 ・ から アン・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ |
| | (気料で 1 996) | |
| | (後歩) 1 950) | 八十四四月月四 子癸年 五三五 |
| | (海村2-1-321) | 人 字 店 人 宣 的 在 聚 形 上 乳 防 异 伯 之 。 、 、 、 |
| | (海本2-1-328) | |
| | (資本2-1-329) | 大平院ヘルスケア対象イベント |
| | [資料2-1-330] | 大学院地方入学者イベント |
| | 〔資料2-1-331〕 | 大学院日本語学校教員向けイベント |
| | [資料2-1-332] | 大学院学外のイベント |
| | [資料2-1-333] | ホームページのコンテンツ更新 |
| | [資料2-1-334] | Facebookでの情報発信 |
| | [資料2-1-335] | Nontabeイベント配信・広告 |
| | [管料2-1-336] | Beatixイベント価独 |
| | [答料:9-1-337] | ************************************ |
| | (体表)5-1-338 | 1745 (2025) + 177 / ト 176 女 次 |
| | (0000-1-7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1 | 中本月 (2023) 中4月 八子4ノ / 1ノ 国扱対応 |
| | 2-7. 字修支援 | |
| | 2-2-(I) | A company of the state of the s |
| | (資料2-2-301) | 多摩大学大学院 教務委員会規程 |
| | (資料2-2-101) | AL委員会業務分担 |
| | [資料2-2-201] | 令和4(2022) 年度AL委員会 副委員長指名 |
| | | |

| 養料No. [資料2-2-310] [資料2-2-311] [資料2-2-312] | 対数 ク数室利 ナン・ |
|---|---|
| (資料2-2-310) (資料2-2-311) (資料2-2-312) (海網2-2-312) | 54期生院生ハンドブック 教室利用 54期年院年ハンドブック 本コ / 3 ア |
| (資料2-2-311 <u>)</u> (資料2-2-312 <u>)</u> (海網8-6-312 <u>)</u> | Man |
| [資料2-2-312] | 54 栁生阮生ハントノック オノイヘ) |
| (010 0 013h24/) | 令和4(2022) 年度 第1回教務委員会議事録 障害学生対応 |
| 〔寅 7平2-2-313〕 | ΙΨ |
| [資料2-2-314] | 令和4(2022)年度 院生個別面談記錄 |
| [資料2-2-315] | 章2 |
| 1/m/ | 今和4 (2022) 年度 院生個別面談記錄 |
| 2-3. キャリア支援 | |
| 2-3-① | |
| [資料2-3-101] | 田村学園規程集 |
| [資料2-3-201] | 2022年度_委員会構成_委員会議事録 |
| [資料2-3-102] | SMIS就職委員会第00回議事錄 |
| [801-8-7 [801] | 多摩大学・就業支援タスクフォース報告書 |
| (資料2-3-104) | パブリック人材実績 |
| [管料2-3-105] | 2022年度委員会名簿 |
| [参料2-3-106] | |
| [答料2-3-107] | 2022岁》:拍当《共和二》(2022岁》:扫到一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个 |
| 「衛歩2-3-108」 | |
| [答料2-3-109] | 望力一 |
| [衛料9-3-110] | MA 1 1 1 1 1 1 1 1 1 |
| [衛松9-3-111] | - 7.1 十 日 次 X 過 H 1.5 日 A 日) 1.5 日 A 日 1.5 日 A 日 日 A 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 |
| (海和2-3-119) | 上が上 |
| (衛制2-3-113) | 出る |
| (海州2-3-114) | / 75E |
| (海州2-9-115) | フィーノンの7.5v = #eb 国1次以 (2020十) |
| (後継) 115] | 多等地区19人子口可比米克内式 夕睡地区10十岁久巨人装器田公(4号) |
| (海位2-3-110) | 多等地区19人子口 印建売的元 (東訂) パネート:チェコンm 1 十 1 留 4 人 |
| (海本2-3-117) | へ イット1 ナイッノ Web 水 人 揺 / |
| (資料2-3-118) | 与具(((取) ボナブン 133人 |
| (資料2-3-119) | 個社説明会全10回実施 |
| (資本2-3-120) | (6回分) |
| (資料2-3-121) | 字内楽界研究セミナー企業リスト10月30日 ※4 西土締返く ※ - 摩 (中北十二 - 117) |
| (資料2-3-122) | 子生門巾買朴正業一覧(事業17分・FKU) 再版上译《74章1、 |
| (資料2-3-123) | 模様面接会(集計) |
| (資料2-3-124) | インターンシッフ1・II(合む) |
| (資料2-3-125) | 大学推薦型インターンシップ参加学生リスト(実績) |
| (資料2-3-126) | キャリア科目 |
| (資料2-3-127) | 2022年度字生滿足度·字生生枯実厭調査 |
| (資料2-3-202) | キャリア支援に関する基本方針 |
| (資料2-3-203) | 3年生全員面談 |
| [資料2-3-204] | 全員面談実施結果 |
| [資料2-3-205] | 火_キャリアサポ |
| [資料2-3-206] | 2022年度_キャリサポポスター |
| [資料2-3-207] | |
| [資料2-3-208] | 2022年度_4年生支援他 |
| [資料2-3-209] | 学内合説等チラシ |
| [資料2-3-210] | 2022年度卒向け学内説明会等参加状况 |
| [資料2-3-211] | 学内求人フェア |
| [資料2-3-212] | 卒業生支援について 大学ホームページ |
| [資料2-3-213] | 卒業生支援の台帳 |
| (資料2-3-214) | 卒業生とのやり取り |
| [資料2-3-215] | タスクフォース最終報告書 |
| (資料2-3-216) | 2022年度_キャリア支援講座スケジュール |
| (資料2-3-217] | 2022年度 キャリア支援講座 学生への案内 |
| [資料2-3-218] | 2022年度_春秋学期時間割 |
| [資料2-3-219] | オンライン模擬面接会ポスター |

| | 文員会構成交員 2022年度 |
|--|---|
| | # 7445.022/ 中及も士列山市小化1/15日列ルの # 学者一覧 # 学学ンクート分析 多摩大学2022年度事業計画 220325 大学院 54期生院生ハンドブック 研究計画書 令和4(2022)年度秋季論文基礎講座 停士論文、実践知論文、最終試験成績結果・成績優秀論文 + 学院 54期生院生ハンパブック 図書41日 |

| 資料No. (資料2-4-210) (資料2-4-112) (資料2-4-112) | 養料名 学生保險 |
|---|-----------------------------|
| (資料2-4-210) (資料2-4-112) (資料2-4-211) | 学生保険 |
| (資料2-4-112) (資料2-4-211) | |
| [資料2-4-211] | アルバイト等の紹介 |
| | アルバイト求人情報 |
| [答料?-4-113] | 母学 会制度 |
| [管料2-4-212] | <u> </u> |
| [資料2-4-213] | 多摩大学被災学生学費減免規程 |
| [資料2-4-114] | 多摩大学被災学生学費減免規程 |
| [資料2-4-115] | 多摩大学私費外国人留学生授業料減免規程 |
| [資料2-4-116] | 修学支援授業料減免 |
| [資料2-4-214] | 修学支援制度 |
| [資料2-4-117] | 日本学生支援機構奨学金 |
| [資料2-4-215] | 奨学金制度(本学、外部団体) |
| [資料2-4-216] | |
| [資料2-4-118] | 2022年度 新入生アンケート 結果報告書 |
| [資料2-4-119] | 学生満足度・ |
| [管料2-4-120] | 佻 |
| [資料2-4-121] | 30X |
| [昝料2-4-122] | 泰 賞制度 |
| [資料2-4-123] | 2022年度最優秀学生賞 |
| [資料2-4-124] | 2022年度成績優秀学生賞 |
| [資料2-4-125] | 2022年度優秀学生賞 |
| [資料2-4-126] | 2022年度社会・研究活動賞 |
| [資料2-4-127] | 保健室 |
| [資料2-4-128] | 保健室利用状況 |
| [資料2-4-129] | 学生相談室 |
| [資料2-4-130] | 防災訓練 |
| [資料2-4-131] | 2022年度春学期 安否確認システム利用訓練の実施報告 |
| [資料2-4-132] | 2022年度秋学期 安否確認システム利用訓練の実施報告 |
| [資料2-4-133] | アペート・マンションの紹介 |
| [資料2-4-134] | 学生会規程・団体設立・監査について |
| [資料2-4-135] | 学生会執行部長 |
| [資料2-4-136] | 2022年度_学生満足度・学生生活実態調査報告_抜粋 |
| [資料2-4-137] | 学生団体一覧 |
| [資料2-4-138] | 2022年度多摩大学多摩祭最終報告書 |
| [資料2-4-139] | 特別給費生奨学金_2022年度 |
| [資料2-4-140] | 成績優秀者奨学金_2022年度 |
| [資料2-4-141] | 梅外留学奨学金_2022年度 |
| [資料2-4-142] | 多摩チャレンジ奨学金_2022年度 |
| [資料2-4-143] | 被災学生奨学金_2022年度 |
| [資料2-4-144] | 私費外国人留学生授業料減免_2022年度 |
| [資料2-4-145] | 日本学生支援機構2022年度採用者 |
| [資料2-4-217] | 2022年度湘南キャンパス_学生満足度調査結果 |
| [資料2-4-218] | 2022年度湘南キャンパス学修状況調査結果 |
| [資料2-4-219] | 2022年度卒業生アンケート結果報告書 |
| [資料2-4-220] | SUGGESTION BOX |
| [資料2-4-221] | アドバイザー制度 |
| [資料2-4-222] | 褒章制度 |
| [資料2-4-223] | 保健室 |
| [資料2-4-224] | 2022年保健室利用状況 |
| (資料2-4-225) | カウンセリングルーム |
| (資料2-4-226) | カウンセリングルーム利用状況 |
| (資料2-4-227) | トボス ドボス |
| (資料2-4-228) | ハラスメントリーフレット |
| [資料2-4-229] | アルバイト告知掲示 |
| [資料2-4-230] | 指定学生寮 |

| 2002年度 キャリア支援講座アンケート 2002年度 アドバンスコース 事前説明会 講座スケジューフ 2022年度 アドバンスコース 事前説明会 講座スケジューフ 2022年度 アドバンスコース 事前説明会 講座スケジューフ 2022年度 アドバンスコース 事前説明会 講座スケジューフ シラバス キャリア・アプローチ シラバス インターンシップ展論 シラバス インターンシップ機能 シラバス ボンターンシップ機能者 シラバス ボンターンシップ機能者 メラバス ボンターンシップ機能者 メラバス ボンターンシップ機能者 メラバス ボンターンシップ機能者 アローバルスタディーズ学部 2022年度 カリキュラム表 アラバス ボンターンシップ機能者 アローバルスタディーズ学部 2022年度 カリテザイン シラバス ボセンターンシップ機能者 実習者 インターンシップ機を 第一年報告者 インターンシップ機能者 実習者 インターンシップ機能者 実習者 インターンシップ機能者 実習者 インターンシップ機能者 実習者 インターンシップ機能者 (インターンシップ機能者) (1022年度 インターンシップ機能者) (1022年度 インターン学生報告書 原生主義性の方をの学力アップ講座ストジュール を算会機能を負金の学力アップ講座ストジュール (インターン学生報告書 第一年報報の子 (1022)年度春修了生満足度・学生生活実施調査 (2022年度 一学生生活定様の手書 (全様大規調を必要項目 2022年度 本業生満足度・学生生活実施調査 (2022年度 本業生満足度・学生生活実施調査 (2022年度 本業生満足度・学生生活実施調査 (2022年度 本業生満足度 (2022年度 本業生満足度 (2022年度 本業生満足度調査 結果報告書 学程展勘・変更 (2024年度 本業生満足度調査 結果報告書 (2022年度 本業生満足度調査 結果報告書 (2022年度 本業生満足度調査 結果報告書 (2022年度 本業生満足度調査 指足 (2027年度 本業生満足度調査 指足 (2027年度 本業生満足度調査 指足 (2027年度 本業生満足度調査 (2027年度 大学生活足 (2027年度 (2027年度 大学生活足 (2027年度 (2027年 | 資料2- 3-220] | 資料名 キャリア支援講座実績 |
|--|--|--|
| 科や-3-222 2002年度 アドンスコース 事前説明会 講座スケジュー7 科や-3-223 正確キップを対している。 科や-3-223 正確キップを利用 | [資料2-3-221] | キャリア支援講座アン |
| 科や2-3-233 正葉キャリア科目 AP2-3-2243 正葉キャリア・アブローチ 科や2-3-2243 上ティス キャリア・アブローチ 科や2-3-2243 シライス 日本語文章表現法 科や2-3-2243 シライス インターンシップ集圏 科や2-3-2293 グローバルス東ライーズ学館 2022年度カリキュラム表 科や2-3-239 グローバルス東ライーズ学館 2022年度カリキュラム表 科や2-3-239 グローバルス東ライーズ学館 2022年度カリキュラム表 科や2-3-239 グローバルス東ライーズ学館 2022年度カリキュラム表 科や2-3-239 ブライス インターンシップ業器 科や2-3-239 インターンシップ実置 2022年度 インターンシップ実置 2022年度 インターンシップ実置 2022年度 インターンシップ実置 2022年度 インターンシップ実置 2022年度 インターンシップ実置 2022年度 インターンシップ実置 2022年度 2022 日本記書 2023 インターンシップ実置 2022年度 2022 日本記書 2023 インターンシップ実置 2022年度 | [資料2-3-222] | アドバンスコース_事前説明会_講座スケジ |
| Phys. 2-203 シラバス キャリブ・アブローチ Phys. 2-204 ソラバス キャリブ・アブローチ Phys. 2-205 シラバス キャリブ・アブローチ Phys. 2-205 シラバス キャリブ・アブローチ Phys. 2-205 シラバス インターンシップ報酬 Phys. 2-203 シラバス インターンシップ共配 Phys. 2-203 シラバス インターンシップ共配 Phys. 2-203 シラバス アンシップ機製 Phys. 2-203 アンターンシップ機製 Phys. 2-203 Phys. 2-20 | (資料2-3-223) | 正課キャリア科目 |
| 科2-3-226 シンパスーイマリン・ブ展論 日本2-226 シンパスーイングーンング展論 科2-3-227 シラバスーイングーンング展論 科2-3-229 シラバスーイングーンング展離 科2-3-229 シラバスーイングーンが変数 シラバスーイングーンング度 オ科2-3-229 シラバスーイングーンシブ度 オ科2-3-239 シラバスーケンシブ度 オ科2-3-239 シラバスードボル オイングーンシップ オ科2-3-239 カンジャ オイングーンシップ 大学 オ科2-3-239 カンジャ オースクーンシップ 大学 オ科2-3-239 カンジャ オースクーンシップ 大学 オ科2-3-239 カンジャ オースクーンシップ 大学 オ科2-3-239 カンジャ オースクーンシップ 大学 オースクーンシップ 大学 オースクーンシー オースクーンシー オ科2-3-239 カンジ オースクーン学 オースクーン学 オースクーン学 オースクーン学 オースクーンシー オースクーン オースクーン学 オースクーン学 オースクーン学 オースクーン オース | [資料2-3-224] [※型6.9.905] | ンフパス エヤリノ 悪名謡(エケリノ 杉风謡) シルスト チャコア 地名 にんしょ オミニシ・レルエ・チ |
| 特別 | (海本2-3-225) | 1 |
| 科Pc-3-228 シラバス_インターンシップ実習 | [資料2-3-226] [答集19-3-997] | 日本部と |
| Abc-3-203 | [後報9-3-998] | 7 7 7 7 |
| シラバス_グローバル企業とキャリアデザイン お字-3-230 シラバス_ガスーグローバル企業とキャリアデザイン シラバス_ホスピタリティマネジメント1234 オン-3-232 インターンシップ電音 インターンシップ電音 インターンデーが開塞 応業より インターンデーを乗出る インターン学のでは、東京の学力を表現のできた。 インターン学が開塞 に乗より インターン学生報告書 村2-3-239 シラバス Internship Abroad インターン学生報告書 村2-3-239 シラバス Internship Abroad 村2-3-309 原生支援委員会規程 村2-3-309 原生支援委員会用程子を第回を手事を表する。 本担任(2022)年度季修工生委員会規程 村2-3-309 多摩大学組織図 本担任(2022)年度季修工委員会規程 村2-3-309 多摩大学組織図 多摩生機長 本生機成 村2-4-106 学校代、おげる新型コロナウイルスに関連した感染を運用 村2-4-106 学校におげる新型コロナウイルスに関連した感染を運用 村2-4-106 学校における新型コロナウイルスに関連した感染を運用 オ2-4-106 学校における新型コロナウイルスに関連した感染を単生の カウンイシノがル上の ファメント防止 カウンイシント防止 オ2-4-106 カウンイシント防止 オ2-4-106 カウンイシント防止 オ2-4-106 カウンイシント防止 オ2-4-106 カウンイシンが上 | [管料2-3-229] | 、ベーハン・ハンン・米ーバルスタディーズ学部 |
| カライス - ホスピタリティマネジメント1234 カラ-3-233 シラバス - ホスピタリティマネジメンンプ質書 お2-3-233 インターンシップ機能 大型 - 2-33 インターンシップ機能 大型 - 2-3-23 インターンシップ機能 大型 - 2-3-23 インターンシップ機能 大型 - 2-3-23 インターンシップ機能 大型 - 2-3-23 インターンデップ機能 大型 - 2-3-23 インターンデップ 大型 - 2-3-30 大型 - 2-3-3-30 大型 - 2-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3-3 | [衛料2-3-230] | バス グローバル企業とキ |
| 科2-3-232 2002年度 インターンシップ競書 AVターンシップ競響 | (資料2-3-231) | ホスピタリティマネジメン |
| 科2-3-233 | [資料2-3-232] | インターンシッ |
| 科2-3-234 | [資料2-3-233] | ンシップ概要 |
| 科2-3-235 インターンシップ実電 成果報告会 インターン学生報告書 インターン学生報告書 インターン学生報告書 インターン学生報告書 インターン学生報告書 インターン学生報告書 インターン学生報告書 科2-3-239 シラバス 仕事と若者論 科2-3-240 シラバス 仕事と若者論 科2-3-240 シラバス 仕事と若者論 科2-3-301 | [資料2-3-234] | インターンシップ履修者 |
| 科科2-3-236] | (資料2-3-235) | インターンシップ実習_成果報告会 、、 |
| RPA2-3-235] | [資本2-3-236] | ノダーン評言那 |
| RP2-3-238 ンプバス Internship Abroad RP42-3-238 シラバス Internship Abroad SP | (資料2-3-237) | 1 |
| Rhy2-3-249 シラバス 進路と右右編 Rhy2-3-240 シラバス 進路と右右編 Rhy2-3-240 シラバス 進路を Rhy2-3-340 多摩大学大学院 院生支援委員会規程 Rhy2-3-302 院生支援委員会 開催日程2022 Rhy2-3-302 院生支援委員会 開催日程2022 Rhy2-3-303 委員会構成委員2022年度 宇修調查報告 Rhy2-3-306 東京根域 A イダンヌ 報告書 Rhy2-3-306 東京根域 A イダンヌ 報告書 Rhy2-3-306 東京根域 A イダンヌ 報告書 Rhy2-3-306 東京根域 A イダンタ 報告書 Rhy2-3-309 帝和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 Rhy2-3-309 帝和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 Rhy2-4-309 帝和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 Rhy2-4-309 帝和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 Rhy2-4-309 金庫大学学生委員会規程 Rhy2-4-309 金庫大学学生委員会規程 Rhy2-4-309 金庫大学学生委員会規程 Rhy2-4-309 多摩大学学生委員会規程 Rhy2-4-309 多摩大学学生委員会規程 Rhy2-4-309 多摩大学学生委員会議和日程 Rhy2-4-309 シ2022年度学生委員会 Rhy2-4-209 シ2022年度卒業生アンケート結果報告書 Rhy2-4-209 学校状プ期母 Rhy2-4-209 学校、第1日 Rhy2-4-209 学校、第1日 Rhy2-4-209 学校、第1日 Rhy2-4-209 学校、第1日 Rhy2-4-209 学校、第1日 Rhy2-4-209 かラスタント防止規程 Rhy2-4-209 カウンセリングルーム Rhy2-4-209 カウンセリングルーム Rhy2-4-209 カウンセリングルーム | (資料2-3-238) | |
| (科2-3-240) マンス、上面的のためのようとは (科2-3-241) 2022年度 学力ス・プロスターン シンス 海径 ((科2-3-3-241) 2022年度 学力ス 海径 ((科2-3-3-241) 2022年度 学力ス 海径 ((科2-3-3-301) | (演称2-3-239) | ンフハス_仕事と右右牆ション選択ションは、カロションは、カロションは、カロションは、カロションは、カロションは、カロションは、カロションは、カロションのは、カロションのは、カロションのは、カロションの |
| 2022年度 本集上 | [實本2-3-240] [答率[9-9-941] | ンフハス 価格のこのジンチカノッノ 再座 5009年 東土ア・デー からり 年 ホーア・デザボラ ケジューゴ |
| RM2-3-302 RP4-ストナル RM2-RM2-2-302 RP4-ストナル RM2-3-302 RM2-3-303 会員会構成委員2022年度 RM2-3-304 合和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 各科4(2022)年度際生個別面談記録 各科4(2022)年度際生個別面談記録 各科4(2022)年度際生個別面談記録 各科4(2022)年度第1回留学生の之い 全権和告書 各科4(2022)年度第1回留学生の之い 各権大学学生委員会規程 AM2-3-309 合和4(2022)年度第1回留学生の之い 各権大学学生委員会規程 AM2-4-101 各権大学学生委員会規程 AM2-4-102 多権大学学生委員会規程 AM2-4-103 全衛大学学生委員会議事録 AM2-4-103 全衛大学学生委員会議市程度・学生活実施調査 AM2-4-104 2022年度学生委員会議市租 AM2-4-104 2022年度学生委員会議市日程 AM2-4-105 全衛大院院生支援会員会議事務 AM2-4-106 2022年度学生委員会議市日程 AM2-4-106 2022年度卒業生常文方 | (本数9-3-301) | -ナハ・ソノ・時用ベットユーナシ院 院生士婦来自会担告 |
| Php-3-303 委員会構成委員2022年度 Php-3-304 合和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 Php-3-305 留学生就職ガイダンス 報告書 Php-3-306 東京外国人雇用センター主催イベント案内 Fhp-3-307 合和4(2022)年度院生個別面談記錄 Php-3-309 合和4(2022)年度際生個の回数記錄 Php-3-309 合和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 Php-3-3-309 合和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 Php-4-101 多摩大学学生委員会規程 Php-4-101 多摩大学学生委員会規程 Php-4-102 多摩大学学生委員会議報 Php-4-103 多摩大学学生委員会議程 Php-4-103 多摩大学学生委員会議和程 Php-4-104 2022年度学生委員会議市程 Php-4-105 2022年度学生委員会 Php-4-106 2022年度学生委員会 Php-4-106 2022年度卒業生不ンケート結果報告書 Php-4-207 学籍異動等の運用 Php-4-206 学校送时 Php-4-206 学校連程 Php-4-206 学校正却日 Php-4-206 学校正却日 Php-4-206 学校正却日 Php-4-206 学校正却日 Php-4-208 Php-2-209 Php-2-2 | [答称2-3-302] | |
| 科2-3-304 今和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 | [管料2-3-303] | |
| 科学2-3-305] 留学生就職ガイダンス 報告書 | [管料2-3-304] | 会和4(2022)年度春修了生満足度・学修調者報告 |
| 株内2-3-306 東京外国人雇用センター主催イベント案内 特別2-3-307 令和4(2022)年度院生個別面談記録 令和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 李生サービス 今和4(2022)年度第1回留学生のつどい 実施報告書 李生サービス 今和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 李生サービス 多摩大学生委員会規程 (科2-4-101] 多摩大学学生委員会規程 (科2-4-201] 多摩大学学生委員会規程 (科2-4-301] 多摩大学学生委員会規程 (科2-4-301] 多摩大学共学院院生支援会員会議事録 (科2-4-102) 多摩大学大学院院生支員会議事録 (科2-4-104) 2022年度学生委員会 (科2-4-104) 2022年度学生委員会 (科2-4-104) 2022年度学生选展度・学生生活実施調査 (科2-4-104) 2022年度学生选及項目 (科2-4-105) 学権異勤・変更 (科2-4-202) 学年懲戒 (科2-4-203) 学年懲戒 (科2-4-204) 学年懲戒 (科2-4-205) 学性談政 学性談政 学生態政 (科2-4-205) 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に (科2-4-206) 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に (科2-4-207) 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に (科2-4-208) かランセリングルーム (科2-4-209) かランセリングルーム (科2-4-109) かランとりレがルーム (科2-4-109) (科2-4-209) かランとりが止 | [衛料2-3-305] | |
| 特力 | [資料2-3-306] | 東京外国人雇用センター主催イベント案内 |
| Phys. 3-308 令和4(2022) 年度第1回留学生のつどい 実施報告書 学生サービス | [資料2-3-307] | 令和4(2022) 年度院生個別面談記錄 |
| 特別2-3-309 | [資料2-3-308] | ll |
| 学生サービス 関連 少量 (利) 20 (利) 30 (利) 20 (利) 30 (日) | | 令和4(2022)年度春修了生満足度・ |
| **P2-4-101] 多摩大学学生委員会規程 **P2-4-201] 多摩大学学生委員会規程 **P2-4-201] 多摩大学学生委員会規程 **P2-4-102] 多摩大学学生委員会競車級 **P2-4-103] 多摩大学工学院院生支援委員会議事録 **P2-4-103] **S0220413_第01回学生委員会議事録 **P2-4-104] **S022年度学生委員会等施用程 **P2-4-105] **S022年度学生満足度・学生生活実施調査 **P2-4-203] **S022年度学生満足度調査 結果報告書 **P2-4-203] **学権規劃・変更 **P2-4-106] **等機規程 **P2-4-107] **等機規程 **P2-4-107] **等機規程 **P2-4-108] *学性機工 **P2-4-109] *学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に対立・アナー・109 **P2-4-109] *ウンセリングルーム **P2-4-109] *ウンセリングルーム **P2-4-109] *ウラスメント防止規程 **P2-4-109] *ウラスメント防止 **P2-4-109] *ウラスメント防止 **P2-4-109] **P2-4-109 **P2-4-109 **P2-4-109 **P2-4-109 **P2-4-109 **P2-4-109 **P2-4-109 | | |
| 多摩大学子生委員会規程 多摩大学子生委員会規程 多摩大学学生委員会規程 多摩大学組織図 20220413_第01回学生委員会議事録 委員会構成委員2022年度 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 学修状況調查必要項目会 学修状況調查必要項目 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学修状況調查必要項目 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学修状況報程 学籍異動等の運用 学報規格 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に かラスメント防止規程 カウンセリングルーム | -4-(U) | 夕報上兴兴中井市入福台 |
| 多権大学大学院院生支接委員会規程 多権大学社議図 多権大学組織図 20220413_第01回学生委員会議事録 表員会構成委員2022年度 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 学修状況調查 学修状況調查 2022年度 卒業生満足度 等生生活実能調查 学修状況調查 学修状況調查 学修状況調查 学修規程 学権規制 学権規程 学権規程 学権規程 学権規程 学権規程 学権規程 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム | (寅仲2-4-101) (答判:9-4-901) | 多年八十十二分 文麻十 |
| 多摩大学和金典 多摩大学和金典 20220413 第01回学生委員会議事録 委員会構成委員会実施日程 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 学位表」会 学位表」会 学位表」会 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に カウンセリングルーム | (対表)2-4-301〕 (対表)2-4-301〕 | |
| 20220413 第01回学生委員会議事録 委員会構成委員2022年度 2022年度学生委員会実施日程 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 2022年度 卒業生満足度 * 学生生活実能調査 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動・変更 学籍異動等の運用 登成規程 登校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に かラスメント防止規程 カウンセリングルーム | [答料2-4-102] | タ帯ハナバナがルコイ皮を兵力が出るを下学組織図 |
| 委員会構成委員2022年度 2022年度学生委員会実施日程 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動等の運用 整成規程 整成規程 整成地程 かウンセリングルーム ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム | [答料2-4-103] | 20220413 第01回学生秀昌会議事録 |
| 2022年度学生委員会実施日程 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 2022年度学生委員会 2022年度卒業生アンケート結果報告書 2022年度卒業生満足度調査 結果報告書 2022年度卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動等の運用 營成規程 学生監戒 登校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム ハラスメント防止規程 ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム ハラスメント防止 | [管料2-4-302] | |
| 2022年度学生委員会 2022年度学生満足度・学生生活実能調査 学修状況調査必要項目 2022年度卒業生プンケート結果報告書 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動等の運用 学権異動等の運用 登校規程 登校選用 学校成立ける新型コロナウイルスに関連した感染症対策に カウンセリングルーム | [資料2-4-104] | 2022年度学生委員会実施日程 |
| 2022年度学生満足度・学生生活実施調査 学修状況調査必要項目 2022年度卒業生アンケート結果報告書 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学館異動・変更 学籍異動等の運用 懲戒規程 学生懲戒 懲戒規程 学生懲戒 整元進用 学たたおける新型コロナウイルスに関連した感染症対策に カウンセリングルーム ハラスメント防止規程 | [資料2-4-202] | 2022年度学生委員会 |
| 学修状況調査必要項目 2002年度卒業生アンケート結果報告書 2002年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動等の運用 懲戒規程 学生懲戒 懲戒進用 学性懲戒 意亦運用 学なにおける新型コロナウイルスに関連した感染症対策に フタメント防止規程 カウンセリングルーム | [資料2-4-105] | 2022年度学生滿足度・学生生活実態調査 |
| 2022年度卒業生アンケート結果報告書 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動等の運用 懲戒規程 学生懲戒 懲戒進用 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム | [資料2-4-203] | 学修状况調査必要項目 |
| 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 学籍異動・変更 学籍異動等の運用 懲戒規程 学生懲戒 營売運用 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム | [資料2-4-204] | |
| 字籍典別等の運用 懲戒規程 懲戒規程 学生懲戒 懲戒運用 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム | (資料2-4-106) | |
| 登載規制 登載組 学生機成 学生機 整成運用 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム ハラスメント防止 | () () () () () () () () () () () () () (| 子精典則・変見 |
| 等と 学生 整成 整成 要が 学校における 新型コロナウイルスに関連した 成 カウンセリングルーム ハラスメント防止 カウンセリングルーム | (資本2-4-205) (※割り4-006) | 子精典期等の連用機・対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対 |
| マールで を成連番 学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策に ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム ハラスメント防止 | (演杯2-4-206) | 影戏戏程。 |
| 密放車用 密放上 かラスメント防止規程 カウンセリングルーム ハラスメント防止 | [資本2-4-108] [然来[9-4-907] | 子生形成一个生活的一个人,并是一个人,但是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以是一个人,也可以 |
| ナスペンシの利宝ーエノッイルへに関連した密米近々がに ハラスメント防止規程 カウンセリングルーム ハラスメント防止 | [資本2-4-207] | まる 発刑 コロナウイルフに 間浦 |
| | [資料2-4-109] [答料9-4-908] | ゴロノンイバイに選単した松米ボ凶承に抽辞 |
| ハラスメント防止 | [管料2-4-209] | カウンセリングルーム |
| 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | [管料2-4-110] | ント防止 |
| | [答料9-4-111] | |
| | | |

| 其件NO. [答料9-5-407] | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| [海数2-5-408] | トイン計画 |
| [海数2-5-409] | |
| [管料2-5-410] | ○ 答格図書 |
| [管料2-5-411] | 京店「富力」 就活・進新着・DVD |
| (資料2-5-412] | 18 |
| [資料2-5-501] | 2022年度 図書館入館者数及び貸出冊数(湘南) |
| [資料2-5-502] | 2022年度 図書館利用案内(湘南) |
| [資料2-5-503] | 2022年度 学術情報リポジトリTama蔵利用件数(湘南) |
| (資料2-5-504) | 実施サービス及び施設整備 |
| (資料2-2-202) | 業務効率化及び利用者便宜向上 |
| [資料2-5-206] | ライブラリーセミナー開催報告 |
| [資料2-5-207] | 鎌倉湘南地区高校生インターンシップ受入 |
| [資料2-5-508] | 図書館関連規程改正 |
| [資料2-5-601] | (表2-12)情報センター等の状況 |
| [資料2-5-602] | T-NEXT |
| [資料2-5-701] | T-NEXT 授業プロダクト操作マニュアルの学生への恒常的提供 |
| [資料2-5-603] | 1.1環境 |
| [資料2-5-604] | 学生用プリンタシステム |
| [資料2-5-702] | Cloud On-Demand Print |
| [資料2-5-605] | 多摩キャンパス操作卓概要 |
| [資料2-2-606] | 資格取得実績_AL委員会議事録 |
| [資料2-2-607] | VDI等 |
| [資料2-5-608] | |
| [資料2-5-703] | 湘南キャンパス 教室定員・機器一覧 |
| [資料2-5-704] | 湘南キャンパス学内IT環境メンテナンス計画(2021~) |
| [資料2-5-705] | |
| [資料2-2-106] | 湘南キャンパスネットワークシステム更改 |
| [資料2-5-707] | 教員へのZoomに関する連絡 |
| [資料2-5-708] | Zoom使用方法、オンライン授業マニュアル |
| (資料2-5-709) | 湘南キャンパス学生PCのBYOD/K |
| [資料2-5-301] | ハイフレックス型授業の機器 |
| 2-2-3 | |
| [資料2-2-801] | 構内バリアフリー(SMIS) |
| [資料2-5-851] | 湘南キャンパス車椅子昇降装置 |
| 2-5-4 | |
| [資料2-5-901] | - 1 |
| [資料2-5-902] | 2022年度時間割(50人以下、200人以上) |
| [資料2-5-903] | 2022年度時間割(多クラス展開) |
| [資料2-5-951] | 年度春 |
| [資料2-5-302] | 院生ハンドブック T-NEXT通知 |
| [資料2-5-303] | 新型コロナ対策人数制限 |
| t/m/ | 教室定員厳守の教員への依頼 |
| ・学生の意見 | ・要望への対応 |
| 2-6 | Î |
| (資料2-6-101) | 2022年度 新人生アンケート 稲果報告書 |
| [資料2-6-102] | |
| [資料2-6-103] | 学修状況調 |
| [資料2-6-104] | 学生満足度 |
| [資料2-6-105] | - 1 |
| [資料2-6-106] | 2022年度 卒業生満足度調査 結果報告書 |
| [資料2-6-107] | アイデアBOX |
| [資料2-6-201] | 2022年度湘南キャンパス_学生満足度調査結果 |
| [資料2-6-202] | 2022年度湘南キャンパス学修状況調査結果 |
| 「谷米19-6-903」 | アンケート調水回枚を促止工井 |

| 漢末No. |
|-------|
|-------|

| [資料2-6-319] | ハイフレックス型授業の機器 |
|-----------------------------|---|
| 基準3. 教育課程 | グ藻検 |
| f APNO. 単位認定、 | 5.集認定、修了認定 |
| 3-1-① 「答料3-1-101〕 | []bCP策定辭事錄2016年度 |
| [資料3-1-102] | DPCP策定議事錄2022年度 |
| [資料3-1-103] | -7: |
| (資料3-1-104] | 2023多摩大学経営情報学部学生ハンドブック ディプロマポリシー |
| [資料3-1-201] | Hanbook 7 |
| (資料3-1-202) | 大字ボームペーン アイフロマボリンー 本様士追覧部門住女・ロセ |
| [資本3-1-301] [際率[3-1-309] | が、時間 |
| [管料3-1-303] | n 用血口 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I |
| | 生院生ハンドブック |
| 3-1-(2)(3) | 李子 三字 计二十字 |
| (資料3-1-001) | 多摩大字字則_建数件兼示的。 |
| [資本3-1-002] [答率[3-1-003] | 子則別衣(进載・卒業要件) 久麻士學屬依扭鈕 |
| [衛松3-1-105] | 多年八子限彫成性 9093名藤大学経営情報学却受仕ハンドブック 准級広業 |
| (資料3-1-203) | |
| [資料3-1-106] | シラバス例_IT活用法 |
| [資料3-1-204] | SGSシラバス成績評価等 |
| [資料3-1-107] | 令和5(2023)年度カリキュラム表 |
| (資料3-1-205] | 2022年度入学生 進級要件及び卒業要件シラバス抜粋 |
| [資料3-1-004] | 多摩大学早期卒業規程を廃止が必要はおかるというとしているという。 |
| [資料3-1-108] | 多摩八子柱呂信報子部中男午美柚則 |
| [海粉3-1-200] | ローバルベクノイー・学経労情報学部学生 |
| [管料3-1-207] | が対学金、 |
| (資料3-1-208) | 覆修条件 |
| [資料3-1-305] | 11/1 |
| (資料3-1-306) | 最終試験実施要領 |
| (資料3-1-307) | 多摩大学院学則第34条(単位認定)第37条(修了) 上説院 - |
| (資本3-1-308) | 1# |
| [管料3-1-310] | エメリカリス 1 1 1 1 1 1 1 1 1 |
| [資料3-1-311] | 令和4年度シラバス第三者チェック結果一覧 |
| [資料3-1-312] | =度 大学院講義要項(シラバス) |
| (資料3-1-313) | |
| (資料3-1-314) | ホームペーン 字位編又評価毎単定裁 ※ ナセ油 |
| [資料3-1-316] | ■人相等 多麼大学院学則第39条第4項第5項(梅業及び研究指漢) |
| [資料3-1-317] | 2022年度子備審查会実施要領 |
| [資料3-1-318] | 2022年度春最終試験実施要領 |
| [資料3-1-319] | 2022春修了生最終試驗判定 |
| [資料3-1-320] | |
| (資料3-1-321] | [資料3-1-321] 令和4(2022)年度秋学期 私費外国人留学生授業料減免の申請 |
| 3-2. 教育課程及(| *教授方法 |
| 5-2-① 「管料3-2-001〕 | 多 |
| (資料3-2-301) | 多摩大学院学則 使命・目的 |
| [資料3-2-002] | 12 |
| | |

| 「答料2-6-204」 | Control of the contro |
|-----------------------------|--|
| | アンケート調査回答を促す工夫・ゼミ別 |
| (資料2-6-205) | フィードバック依頼 |
| [資料2-6-206] | 学生調査ホームページ |
| (資料2-6-207) | 1 |
| [資料2-6-208] | 2022年度卒業生アンケート結果報告書 |
| [資料2-6-209] | 卒業生アンケート ホームページ |
| [資料2-6-301] | 2022春秋V0ICE結果TGS |
| [資料2-6-302] | VOICE教務委員会分析(低評価・高評価) |
| [資料2-6-303] | 院生滿足度,学修調查案内文 |
| (資料2-6-304) | 令和4 (2022) 年度院生滿足度・字修調査報告 佐ラ』 |
| (資料2-6-305) | 修了生満足英・字修調鱼案内文 |
| (資料2-6-306) | 年度修了生満足度・字修調査報告 |
| (資料2-6-307) | イレクト・コミュニケーシ |
| (資料2-6-308) | 第2回ダイレクト・コミュニケーション議事録 < *** (2002) C C C C C C C C C |
| 〔資料2-6-309〕 | 令和4(2022)年度第12回教務委員会議事録 |
| 2-6-U | |
| [黄作2 0 100] [答帐[9_6_100] | ZVZZ+1次 于江南在次,于江江市天路周旦-3次次 9099年年 沙不进口年,沙子子汗宇能調本 図書館 |
| [谷米2-0-109] | 70757中及 子工側に及・子工工伯天監剛耳 凶音距 砂修井 ア7中緒 11 先目 鉄重線 |
| [442 6 110] | 11.5 |
| [答称2-6-112] | |
| [管料2-6-113] | V01CE2022春 |
| [資料2-6-210] | 学生満足度・学修状況調査結果(学修、研究、施設・設備) |
| [資料2-6-211] | |
| [資料2-6-212] | ゼミ掲示板 |
| [資料2-6-213] | ゼミ選抜サイト |
| [資料2-6-214] | 令和4(2022)年度学生満足度調査・学生生活実態調査フィードバック |
| [資料2-6-215] | 学生満足度・学修状況調査結果(情報処理室) |
| (資料2-6-216) | の教員へ |
| (資料2-6-217) | 7 1 |
| (漢字2-0-218) | 守和4 (2022) 年度秋子朔VULb0/マークンート美加 春年1 (2022) 在第10155年 |
| (※本にので、090) | 〒 454 (2022) 平後 VOICE 指来 NOICE 小体 & W. 1 (** NEX**) (**) (* |
| [| NOICEMS会のMeb(I=MEXI)ンプハスイン掲載について 一連手推口車・途候寺当習木社=(支款) |
| (海村20221) | |
| [管料2-6-311] | 다 |
| [管料2-6-312] | 令和4(2022) 年度春VOICE結果 |
| [管料2-6-313] | 令和4(2022)年度秋VOICE結果 |
| [資料2-6-314] | 実践知論文作法 |
| 2-6-2 | |
| [資料2-6-114] | ١. |
| [資料2-6-115] | 2022年度 学生満足度・学生生活実態調査分析・改善策検討のお願い |
| [資料2-6-222] | サークル活動活性化 学生満足度調査結果 |
| [資料2-6-223] | |
| (資料2-6-224] | 経済的支援 学生満足度調査結果 海渉先に田難とかり356円一巻と中級佐 |
| [資本2-6-225] [答紙9-6-315] | 控消的に困難な子生が活用引能な支援束 |
| 2-6-(3) | 1744(2027) 十次死亡河内及,十岁阿耳我口 |
| [各数2-6-116] | 学バス垂り場屋根(SMIS) 学生アンケート |
| [管料2-6-117] | - デッパン ※ (SMTS) コン・ノーン マンス乗り 場居根 (SMTS) ホームページ 裾田 |
| (資料2-6-226) | 情報処理室改修 |
| [資料2-6-227] | SUGGESTION SHEET(中庭ベンチ) |
| [資料2-6-316] | 令和4 (2022) 年度院生滿足度・学修調查報告 |
| [資料2-6-317] | 令和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 |
| [答料2-6-318] | П |

| 養料No. [資料3-2-402] [資料3-2-403] [資料3-2-403] [資料3-2-404] | ユーダハ |
|---|--|
| (資料:3-2-402) (資料:3-2-403) (資料:3-2-404) (資料:3-2-404) | 111 11 |
| (資料3-2-403) (資料3-2-404) (資料3-2-405) | 10 |
| 〔資料3-2-404〕 〔資料3-2-405〕 | 2022年 英インターセミ(数員) |
| [資料3-2-405] | ミ(アジア) |
| | 22年度リレー講座 ペンファ |
| [資料3-2-406] | 2022年度特別講座シラバス |
| [資料3-2-407] | 2022年度特別講座履修者数(学生) |
| [資料3-2-010] | 多摩大学組織図20220401 |
| [資料3-2-011] | 多摩大学机委員会規程 |
| [資料3-2-012] | 教務委員会規程 |
| [資料3-2-119] | 2023年度入学生プレゼミクラス分け |
| [香料3-2-120] | プレゼミコンテンツ弊内 |
| [後数3-2-121] | Fire Lish Expression I クラス分け一瞥 |
| (後来(3-9-199) | |
| (気本(3-9-193) | LVT<数十斑碗/ノ<ガサ) 9099年中名麻干学森中学日油柚プロジェカト→臀井 比約 |
| (第43-2-173) | 2027年後夕年八十年日十八年坊ノロンコンドー見水_以作CDC却在 |
| (海科3-2-124) | NKC被占 然ら四:仲ロへ編書位 こよしまれ。 |
| [資本3-Z-IZ5] (参照6.6.456) | ROEAL分員に競争隊「ALノログフセン」 、 に ジェケー Tack 日等 |
| (資料3-2-126) | : : |
| (資料3-2-127) | 第7回MI委員会議事録 授業マネジメント |
| [資料3-2-128] | 2022年度教員活動プレ報告書 |
| [資料3-2-210] | 7 ラス |
| [質料3-2-211] | 2022年度入学生AEPクラス振り分け_20220401 |
| [資料3-2-212] | 7 |
| [資料3-2-213] | 授業内容・方法の工夫(グローバルスタディーズのための数学入門) |
| [資料3-2-214] | 授業内容・方法の工夫(統計学入門) |
| [管料3-2-215] | プレゼミ ティーチングプラン、シラバス検討打ち合わせ |
| [各数3-2-216] | 図書館ツアー |
| [答料3-9-917] | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ |
| [答料3-2-319] | - * に33 今和5(2023)年度大学院講義更頂(シラバス) - 第三者によろ相万権製 |
| (公本)3-2-3-30] | Š |
| (対表) 7 970] | シュガエのエベン こん カフター(中学 古 対 |
| (170 7 CANE) | - 1 |
| (第743-2-322) | Î |
| (黄本3-2-323) | イノアシンス技術 二半時 中間か (単光に)だけ。 |
| (東本3-2-324) (参照) 0 00E) | 和4(2022)年度春・秋字期 ニュンギュウェ |
| (第43-7-323) | |
| (第743-2-326) | 个真巧巧ん_ 伊子对台山牟中被打掉_ 舒固備入右導 465.1.厄莱卡亞 |
| (第743-2-327) | 月314 |
| (1) (1) | 行和5 (2023) 年3月FD即独宗報告書 |
| 3-3. 平移及来の原依・評価。。 | |
| 3-3-① | |
| [海数3-3-101] | レイン ロン・ペント Phan おんた Thy 田谷 Lister は 大田 |
| (201) [201] | アンプロールコンコン 中でなる かんりょう |
| (気米(9-9-109) | ンロイ・パント |
| (東本5-3-102) | 西 三 桜 十 号 十 刊 、 / 、 / 、 / ジ 水 子 田 口 苗 |
| (第45-3-103) | 40000000000000000000000000000000000000 |
| (対43-3-202) | J 紀七 夕靡十述時十一。 |
| (資本3-3-30I) | アイノロン・ホリント 多郷人子売ホーオペーン |
| (文本3-3-30Z) (多型) 0 101) | ₩. |
| (海村3-3-104) | 2022年度 字修花说明鱼 指米粮市事品的农产市等保护的指土的农产品,是多种农产品, |
| (第本3-3-105) | 子修状院調査の分析 |
| (資料3-3-106) | 2022年度 卒業生満足度調金 結果報告書 |
| (海村3-3-107) | |
| (資料3-3-108) | VOLUEマークシート 古事件 |
| (資料3-3-109) | 凶青館でのVOICE結果公開 くま・パニの ヒ 佐 : シェアジ チョ く ※ 士 に |
| [資料3-3-110] | 令和4(2022) 年度ALC運営委員会議事録 |
| [資料3-3-111] | 2022年度教授会議事録_ALC報告 |

| | |
|---|---|
| \$\frac{7.2}{3.02}\$\frac | ム・ボリシー ュラム・ボリシー カリキュラムマトリク で で で |
| 48-2-201 48-2-201 48-2-202 48-2-202 48-2-102 48-2-202 48-2-202 48-2-202 48-2-006 48-2-006 48-2-006 48-2-306 48-2-306 48-2-307 48-2-307 48-2-203 48-2-204 48-2-204 48-2-204 48-2-204 48-2-109 48-2-111 48-2-111 48-2-111 | ム・ボリシー エラム・ポリシー カリキュラムマトリク で で で |
| \$43.2-303 \$43.2-303 \$43.2-101 \$43.2-102 \$43.2-202 \$43.2-202 \$43.2-005 \$43.2-103 \$43.2-104 \$43.2-105 \$43.2-106 \$43.2-107 \$43.2-107 \$43.2-107 \$43.2-107 \$43.2-107 \$43.2-107 \$43.2-109 \$43.2-112 \$43.2-112 \$43.2-112 \$43.2-112 | ム・ボリシー ュラム・ポリシー カリキュラムマトリク で で 履修上限 |
| 43-2-101 48-2-102 48-2-102 48-2-202 48-2-202 48-2-203 48-2-006 48-2-006 48-2-103 48-2-106 48-2-306 48-2-307 48-2-307 48-2-307 48-2-307 48-2-204 48-2-204 48-2-204 48-2-204 48-2-204 48-2-109 48-2-111 48-2-111 48-2-112 48-2-112 | ュラム・ポリシー カリキュラムマトリク で で |
| \$\beta = 2.02\$ \$\beta = 2.202\$ \$\beta = 2.202\$ \$\beta = 2.005\$ | カリキュラムマトリク アリキュラムマトリク で で |
| 48-22-202 48-22-304 48-22-006 48-22-006 48-22-006 48-22-006 48-22-306 48-22-306 48-22-306 48-22-306 48-22-306 48-22-306 48-22-307 48-22-309 48-22-309 48-22-309 48-22-110 48-22-112 48-22-112 48-22-112 | カリキュラムマトリク で で で に限 |
| \$\frac{7}{87.2} \cdot \frac{7}{30.0}\$ \$\frac{7}{87.2} \cdot \frac{7}{10.0}\$ \$\frac{7}{87.2} \cdot \frac{7}{10.0}\$ \$\frac{7}{87.2} \c | カリキュラムマトリク で で で に限 |
| \$\frac{7.2}{43.2-006}\$ \$\frac{7.2}{43.2-006}\$ \$\frac{7.2}{43.2-006}\$ \$\frac{7.2}{43.2-006}\$ \$\frac{7.2}{43.2-106}\$ \$\frac{7.2}{43.2-106}\$ \$\frac{7.2}{43.2-106}\$ \$\frac{7.2}{43.2-106}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-204}\$ \$\frac{7.2}{43.2-211}\$ \$\frac{7.2}{43.2-2112}\$ \$\frac{7.2}{43.2-2112}\$ | カリキュラムマトリク カリキュラムマトリク で で |
| \$\frac{\pmu_3}{\pmu_3} | カリキュラムマトリク カリキュラムマトリク で で で |
| \$\frac{\pmu_3-2-306}{\pmu_3-2-203}\$\$\$\frac{\pmu_3-2-106}{\pmu_3-2-203}\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-106}{\pmu_3-2-106}\$\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-106}{\pmu_3-2-108}\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-108}{\pmu_3-2-204}\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-204}{\pmu_3-2-112}\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-112}{\pmu_3-2-112}\$\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-112}{\pmu_3-2-112}\$\$\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-112}{\pmu_3-2-112}\$\$\$\$\$\$\$\frac{\pmu_3-2-112}{\pmu_3-2-112}\$ | カリキュラムマトリク ア.で 履修上限 |
| \$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_3}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_3}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_2}\$\frac{\pmu_3}{\pmu_3} | カリキュラムマトリク ア、 履修上限 |
| \$\frac{\pmu_{\ku}}\embm_{\pmu}}\emu_{\pmu_{\pmu}}\embm_{\pmu}}\embon'\pmu_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\pmu}\embn_{\embn_{\emu}\embn_{\embn_{\emu}\embn_{\emu}\embn_{\emu}\embn_{\ | カリキュラムマトリク カリキュラムマトリク で で 種修上限 |
| \$\pmu_{\verk\verk\verk\verk\verk\verk\verk\verk | カリキュラムマトリク で で で に 履修上限 |
| \$\frac{\pmu_{\ku}}\vermu_{\pmu_{\pmu_{\emu_{\vermu_{\pmu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\vermu_{\vermu}\vermu_{\vermu_{\verm | |
| \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(6)\$ \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(1)\$ \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(4)\$ \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(4)\$ \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(4)\$ \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(4)\$ \$\frac{8\cdot 2}{8\cdot 2}\$.20(1)\$ | |
| \$\frac{\psi_{\pi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\pi_{\psii\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psii\}\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\psii\}}\psi_{\psi_{\psi_{\psi_{\pii}\psi_{\pii}\psi_{\pii}\psi_{\pii}\psi_{\psi_{\psi_{\psii\tinkbon\pii}\psi_{\psii\psi_{\psii\psi_{\psii\tinketinii\psii\psi_{\pii\psii\psi_{\pii\psii\psii\psii\psi_{\psii\psii\psii\psii\psii\psii\psi_{\pii\psii\psii\psii\psiii\psiii\psiii\psiii\psiii\psii\psiii\psiii\psiii\psiii\psii\psii\pii\p | |
| | |
| | |
| | |
| | 6 |
| | 1 |
| | 記 54期生院生ハンドブック 乳しの季目が極る |
| | 目7 色神田 长春人 |
| | flC 0 / 応 兄 / 家 片 |
| | 2022年度第1回教学マネジメント会議議事録 |
| | 2022経営情報学部シラバス_カリキュラム表_科目群 |
| _ | 27 |
| _ | 100 |
| | 2023経官情報字部字生ハンドブック_実践的知識 へを言くののの ケザニ ぎこう |
| (新村の-Z-115) 市村5((※対6 6 667) 66643 | 守付5 (2023) 年度ALノログブム 555 キリチーコン 丰労都領へ |
| | リネュノム女子問格が「 |
| 1_ | こ、分米 カコタコラ / 確定 第319回研究科教授会議車録 |
| T | パノ (コンニ)語に二から12日かりに13人がJの路を3人 合約4 (2022) 年度カリキュラム表 群・フィールド |
| | ラム表 選択必修 |
| | 令和4(2022)年度入学生 専門認定について |
| [資料3-2-314] 多摩大学 | マ学大学院学則 |
| | 令和4(2022)年度カリキュラム表 <u>_</u> 修了要件 |
| [資料3-2-316] 大学院 | 記 54期生院生ハンドブック |
| | i = y |
| | - 1 |
| | 2023多摩大字経宮情報字部字生ハンドフック_教養教育 1.1.2. こうに 1.1.5 私き 松本に 一松本子 B く 発すに |
| (数数3-2-207) カリギュ (数数3-2-200) セコキュ | カリキュフムにおける教養教育について教務委員会議事録 カコキュラテ・ポコシー(粉差塾会)新田 Ctudowt Douglack |
| | カライゴノゴ・4パラー(教徒教育/記号_Studelit Hallubook 数議数右指出数目 |
| | 公氏なり三コなら 合和4(2022)年度カリキュラム表 教拳某盤 |
| | |
| 1 [| |
| | ノター規程 |
| | ALセンター運営委員会細則 人を イクエス 日本 第11 日本 第1 日本 第1 日本 第1 日本 第1 日本 日本 第1 日本 |
| | 令和4(2022)年度ALC連営委員会議事録 ののの佐 中数44 公業事員 - 11 c如 4- |
| T. | 2022年度教授宗藏事数 ALC報告 ノント にいず用 |
| 【資料3-2-401】 インタ | イート、対数 |

| 174.5 | 4 7 9 |
|------------------------------|--|
| | 一世 小部線 四00000101 |
| (資本4-1-001) | 夕降八字插横图20230401 |
| [黄科4-1-002] [悠報:[4-1-003] | △子連呂云磯の川直づけて傳収(多摩八子子則+多摩八子八子連呂云磯枕柱)毎11日十亭海寺へ藩藩市島 |
| [| 711 四八十甲 日 51 12 13 13 14 15 15 15 15 15 15 15 |
| [答料4-1-005] | 2022年度第6回大学通常会雑雑事録 |
| (資料4-1-006) | 学長の役割(田村学園組織運営規程+田村学園寄附行為+多摩大学大学運営会議規程) |
| [資料4-1-007] | 学則(大学院学則)と教授会規則(研究科教授会規則)の改正 |
| [資料4-1-008] | 教授会審議事項(多摩大学教授会規則+多摩大学大学院研究科教授会規則) |
| [資料4-1-009] | 多摩大学2023年度事業計画 |
| [資料4-1-010] | 学長のサポート(学校法人田村学園組織運営規程) |
| [資料4-1-011] | 学長のサポート(多摩大学副学長選考規程) |
| [資料4-1-012] | 画 |
| [資料4-1-013] | 圕 |
| [資料4-1-014] | IR推進室 令和4(2022)年度のレポート作成実績 |
| 4-1-2 | 7 日子 月上 月上 第一年 7 |
| [資本4-1-015] [※割4-1-016] | 別が |
| [黄科4-1-016] [悠報:4-1-017] | 多寧人子教子マインメント云巌苑住 |
| [真/44-1-017] [答影/4-1-018] | 1 |
| [衛数4-1-019] | 7077十次分1回数十、インイン・内殿破事或人の10分十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数十分数 |
| [答料4-1-020] | ターバナ なくらんが 学売 は |
| [管料4-1-101] | (1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 |
| [資料4-1-201] | 2022年度第2回学部運営委員会議事録 |
| (資料4-1-102) | 2022年度委員会名簿 |
| [資料4-1-202] | 2022年度SGS委員会名簿 |
| [資料4-1-103] | 2022全体方針共有会スケジュール |
| [資料4-1-203] | 令和4(2022)年度SGS全体方針共有会スケジュール |
| [資料4-1-301] | 多摩大学大学院学則6条7条8条 |
| [資料4-1-302] | 多摩大学大学院研究科教授会規則 |
| [資料4-1-303] | 多摩大学大学院運営委員会規程 |
| [資料4-1-304] | 多摩大学大学院学則8条3項 |
| [資料4-1-305] | 多摩大学大学院研究科教授会規則 |
| [資料4-1-306] | 多摩大学大学院研究科教授会規則10条 |
| (資料4-1-307) | 委員会構成委員2022年度 |
| (資料4-1-308) | 第312回議事録 |
| 4-1-3 | I AN THE FOR THE CONTRACT OF THE STATE OF TH |
| [資料4-1-021] | 大学事務組織(学校法人田村学園組織運営規程) |
| [貸料4-1-022] | 多摩大学事務分掌規程 |
| (資料4-1-023) | 事務職員名簿20220501 |
| (資料4-1-024) | 1 選出 |
| (資料4-1-025) | 第5回事務 両連宮会議アシェンタ |
| (資料4-1-026) | 事務理絡会議事録 士売ローガにくみに |
| | 事務局の教授会参加 |
| 4-2. 教員の配置 | - 環影開光等 |
| 4-2-① | 車任 |
| [| 才已狄其数 |
| (資料4-2-301) | 大字院專仕教員・兼担教員 2023年度院教員一覧(コマ数) |
| (資料4-2-302) | 2023年度博士課程前期研究指導教員及び研究指導補助教員 |
| (資料4-2-303) | 2023年度 世課程後期州究指導教員及び研究指導補助教員 |
| (資料4-2-101) | 2023年 |
| (資料4-2-102) | |
| (資料4-2-103) | 2023経営情報学部学生ハンドブック 実務家教員 |
| (資料4-2-104) | 專任教員年齡構成 : |
| [資料4-2-201] | 令和4(2022)年度教員一覧及び分類表 20220501 |
| (000 0 F 13k24/2) | #V. □ → 3.2 mer t.d. |

| | 1878 1978 | | |
|--|--|-------------|--|
| 2022年度 2022年6 | 2022年度 2022年6 2022年 2022年6 2022年 2022 | 資料No. | |
| 2022年度 2022年6 | 2022年度 2022年6 | [資料3-3-112] | 2022年度 新入生アンケート 結果報告書 |
| 2022年度 2022年度 2022年度 2022年度 2028年度 2028年6 202884 | 2022年度 2022年度 2022年度 2022年度 2028年度 2028年8 20288 20288 20288 20288 20288 20288 202888 202888 202888 202888 202888 20288 | [資料3-3-113] | |
| 株子-3-115 株子-3-115 株子-3-115 株子-3-115 株子-3-116 株子-3-116 株子-3-203 株子-3-303 株子-3-303 株子-3-303 株子-3-303 株子-3-315 株子-3-315 株子-3-315 株子-3-315 株子-3-315 株子-3-315 株子-3-215 株子-3-221 株子-3-222 株子 | 株子-3-115 株子-3-115 株子-3-115 株子-3-116 株子-3-116 株子-3-117 株子-3-119 株子-3-203 株子-3-204 株子-3-205 株子-3-206 株子-3-206 株子-3-206 株子-3-206 株子-3-206 株子-3-206 株子-3-209 株子-3-3-213 株子-3-3-215 株子-3-215 株子-3-215 株子-3-215 株子-3-215 株子-3-215 株子-3-221 株子-3-222 株子- | [資料3-3-114] | 2022年度 学生満足度・学生生活実態調査分析・改善策検討のお願い |
| 株式 3-3-116 | 株式 3-2-116 株式 3-2-116 株式 3-2-116 株式 3-2-117 株式 3-2-120 株式 3-2-120 株式 3-2-120 株式 3-2-120 株式 3-2-120 株式 3-2-120 株式 3-2-2-13 株式 3-3-2-13 株式 3-3-2-2-13 株式 3-3-2-2-2-13 株式 3-3-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2 | [資料3-3-115] | 就職先の満足度(経年)20230512 |
| 株式 3-117 株式 3-117 株式 3-117 株式 3-118 株式 3-203 株式 3-303 ********************************* | 株式 | [資料3-3-116] | 2018年度就職先企業アンケート |
| 株式 3-2-118 株式 3-2-118 株式 3-2-118 株式 3-2-120 株式 3-2-120 株式 3-2-204 株式 3-2-206 株式 3-2-206 株式 3-2-210 株式 3-3-210 株式 3-3-220 株 | 株式 - 3-118 18 18 18 18 18 18 18 | [資料3-3-117] | 卒業後アンケー |
| 株式 - 3-119 株式 - 3-203 株式 - 3-203 株式 - 3-204 株式 - 3-205 株式 - 3-213 株式 - 3-215 株 | 株式 - 3-19 19 19 19 19 19 19 19 | [資料3-3-118] | 事慾 |
| 株式 - 3-120 株式 - 3-120 株式 - 3-120 株式 - 3-204 株式 - 3-205 株式 - 3-211 株式 - 3-211 株式 - 3-212 株式 - 3-215 株式 - 3-225 ********************************* | 大学 - 3-120 | [資料3-3-119] | ンケ |
| 株式 | April | [資料3-3-120] | 2018年度卒業生アンケート 2018年度本業生アンケート 2018年度 2018年6 2018年度 2018年6 2 |
| 株式 3-204 株式 3-204 株式 3-204 株式 3-205 株式 | 海3-3-204 海3-3-206 海3-3-206 海3-3-206 海3-3-209 海3-3-219 海3-3-219 海3-3-309 海3-3-309 海3-3-319 海3-3-310 ———————————————————————————————————— | [資料3-3-203] | フィードバック依頼 |
| 株式 - 3-205 株式 - 3-210 株式 - 3-220 株 | 株式 | [資料3-3-204] | 2022年度湘南キャンパス学修状況調査結果 |
| 株式 3-2.06 株式 3-2.06 株式 3-2.06 株式 3-2.09 株式 3-2.10 株式 3-2.10 株式 3-2.10 株式 3-2.10 株式 3-2.10 株式 3-3.04 株 | 株式 | [資料3-3-205] | 2022年度湘南キャンパス_学生満足度調査結果 |
| 株式 - 3-207 株式 - 3-207 株式 - 3-207 株式 - 3-209 株式 - 3-209 株式 - 3-219 株式 - 3-229 株 | 株式 | [資料3-3-206] | 学修状況調査の分析・改善策検討のお願い |
| 株式 - 3-208 株式 - 3-208 株式 - 3-209 株式 - 3-210 株式 - 3-210 株式 - 3-211 株式 - 3-213 株式 - 3-223 株 | 株式 - 3-208 株式 - 3-208 株式 - 3-208 株式 - 3-209 株式 - 3-210 株式 - 3-210 株式 - 3-213 株式 - 3-221 株 | [資料3-3-207] | 47 |
| 株式 | 株式 | [資料3-3-208] | 2022年度卒業生アンケート結果報告書 |
| 株式 | 株式 | [資料3-3-209] | 2022年度入学生AEPクラス振り分け_20220401 |
| 株式 3-211 株式 3-212 株式 3-212 株式 3-212 株式 3-3-213 株式 3-3-304 株式 3-3-305 株式 3-3-305 株式 3-3-315 株式 3-3-215 株式 3-3-225 株式 3-3 | 株式 | [資料3-3-210] | I-NEXT学修ポートフォリオ機能 TOEICスコアの可視化 |
| 株式 - 3-212 株式 - 3-212 株式 - 3-213 株式 - 3-305 株式 - 3-305 株式 - 3-305 株式 - 3-313 株式 - 3-213 株式 - 3-213 | 株式 - 2-212 株式 - 3-212 株式 - 3-213 株式 - 3-213 株式 - 3-213 株式 - 3-304 株式 - 3-306 株式 - 3-306 株式 - 3-313 株式 - 3-213 株式 - 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 ・ 3-223 | [資料3-3-211] | |
| 株式 - 1.213 大学 - 2.213 大学 - 3.214 大学 - 3.214 大学 - 3.205 大 | 株式 | [資料3-3-212] | VOICE評価に対する教員からの応答シラバス |
| 株式 | 株式 | [資料3-3-213] | ALC運営委員会議事録 VOICE分析 |
| 株式 - 1903 | 株式 | [資料3-3-214] | |
| 株式 1982 | 株式 | [資料3-3-303] | 今和4(2022)年度院生満足度・学修調査報告 |
| 株式 | 株式 | [資料3-3-304] | 令和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 |
| 株式 | 株式 | [資料3-3-305] | 第315回議事録 |
| 株式 - 3-307 株式 - 3-307 株式 - 3-308 株式 - 3-308 株式 - 3-309 株式 - 3-311 株式 - 3-315 株式 - 3-215 株式 - 3-225 株式 - 3-225 | 株式 - 2-307 大学 - 3-307 大学 - 3-308 大学 - 3-309 大学 - 3-309 大学 - 3-311 大学 - 3-21 大学 - 3-22 大学 - 3 | [資料3-3-306] | 令和4(2022)年度院生満足度・学修調査報告 |
| 株式 | 海3-3-308) | [資料3-3-307] | 今和4(2022)年度春修了生満足度・学修調査報告 |
| 株式 | 海3-3-309) (1983-3-310) (1983-3-310) (1983-3-313) (1983-3-313) (1983-3-316) (1983-3-316) (1983-3-122) (1983-3-216) (1983-3-216) (1983-3-216) (1983-3-219) (1983-3-219) (1983-3-221) (19 | [資料3-3-308] | 博士課程修了生滿足度調查 |
| 株式 3-310 株式 3-310 株式 3-310 株式 3-313 株式 3-312 株式 3-321 株式 3-220 株式 | 株式 | [資料3-3-309] | 令和4(2022) 年度春VOICE結果 |
| 株式 | 株式 | [資料3-3-310] | 令和4(2022) 年度秋V0ICE結果 |
| 株式 3-3-212 株式 3-3-312 株式 3-3-315 株式 3-3-315 株式 3-3-315 株式 3-3-318 株式 3-3-215 株式 3-2-215 株式 3-3-2-215 株式 3-2-215 株式 3-3-2-215 株式 3-3 | 株式 | [資料3-3-311] | |
| 大学 - 3-313 13 14 14 15 15 15 15 15 15 | 大学 - 3-213 大学 - 3-313 大学 - 3-313 大学 - 3-316 大学 - 3-316 大学 - 3-318 大学 - 3-123 大学 - 3-215 大学 - 3-221 大 | [資料3-3-312] | 授業評価通知メール |
| A3-3-314 フィールドミーティングのお願 A3-3-315 今和4(2022)年度 第6回教務を A5-3-315 今和4(2022)年度 第6回教務を A5-3-315 第1回ダイレクト・コミュニケーショ 第2-3-312 第2回ダイレクト・コミュニケーショ ディブロマ・ポリシー項目とカ A5-3-3-122 | A3-3-314 フィールドミーティングのお願 A3-3-315 合和1(2022)年度 第6回教務を | (資料3-3-313) | 本質的思考_令和4(2022)年度春学期担当科目報告書_徳岡論文指導 |
| 18-3-315 合和4(2022)年度フィールドミー | 18-3-315 合和4(2022)年度フィールドミース | (資料3-3-314) | イングのお願 |
| Proceedings | PROC | (資料3-3-315) | アイールドドドー |
| 143-3-318 第1回タイレクト・コミュニケーション議事録 | (科3-3-318) 第1回タイレクト・コミュニケーション議事録 (2) 第2回ダイレクト・コミュニケーション議事録 (2) 第3-3-121 ディブロマ・ポリシー項目とカリキュラムマトリック (料3-3-122) PRO結果 (料3-3-123) ディブロマ・ポリシー項目とPROG (料3-3-124) シラバス(キャリア・デザインIV) (料3-3-215) IR レボーマー・ポリシー検証 (料3-3-216) 教務委員会 TUBIC平均 (料3-3-217) PROG分析1年生 (料3-3-218) 学修状況調査 (料3-3-219) 学修状況調査 (料3-3-220) インターン学生報告書 (料3-3-221) インターン学生報告書 (料3-3-221) インターン学生報告書 (料3-3-222) インターン学生報告書 (本義)・職員 (本教員・職員 | (実計の9747) | おり回数粉後 コップ・コップ・コップ・ファ |
| 2) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (5) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7 | 2) (お3-3-121] ディブロマ・ボリシー項目とカリキュラムマトリック | [衛松3-3-318] | ・ロハドーグ |
| お3-3-121 ディブロマ・ボリシー項目とカリキュラムマトリック お3-3-122 PROG結果 | お3-3-121 ディブロマ・ボリシー項目とカリキュラムマトリック | 1-3-(2) | |
| お3-3-122] PROG結果 | PROG | [資料3-3-121] | プロマ・ポリシー項目とカリキュラムマトリック |
| お3-3-123 ディブロマ・ポリシー項目とPROC お3-3-124 シラバス (キャリア・デザインIV) 料3-3-215 MR 大道トディブロマ・ポリシー検討 料3-3-216 MR 交員会 TOEIC平均 MR 3-3-213 PROG分析1年生 料3-3-219 学修状況調査 料3-3-219 インターン学生報告書 料3-3-220 インターン学生報告書 料3-3-220 インターン学生報告書 料3-3-220 インターン学生報告書 科3-3-220 インターン学生報告書 教3-3-220 インターン学生報告書 科3-3-220 Argunda Argun | 18-3-123 ディブロマ・ポリシー項目とPR0G 18-3-124 シラバス(キャリア・デザインIV) 18-3-215 IR Lボートティブロマ・ポリシー検菌 18-3-216 教務委員会 TOEIC平均 1873-3-218 学修状況調査 1870分析1年生 1873-3-219 学修状況調査 1873-3-219 学修状況調査 1873-3-220 インターン学生報告書 1873-3-221 インターン学生報告書 1873-3-221 インターン学生報告書 1873-3-222 | [資料3-3-122] | PROG結果 |
| お3-3-124 | お3-3-124] シラバス(キャリア・デザインIV) お3-3-124] IR レポートティブロマ・ポリシー検菌 料3-3-216] 製 | [資料3-3-123] | |
| #8-3-215 IRレボートネイブロマ・ボリシー検遣 #8-3-216 #86を舞台 TOEIC平均 #87-3-218 PR06分析1年生 #8-3-219 学修状記調査 #83-3-220 インターン学生報告書 #83-3-221 インターン学生報告書 #83-3-221 インターン学生報告書 #83-3-222 2022年度秋 学力アップ講座 統計 # 教員・職員 # 教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教員・教 | #8-3-215 | [資料3-3-124] | ザインIV |
| 243-3-216 教務委員会 TOEIC平均 | 25-216 | [資料3-3-215] | ・ポリン |
| #8-3-217 | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # | [資料3-3-216] | 教務委員会_TOEIC平均 |
| Als. 3-218 | Al | (資料3-3-217) | PROG分析1年生 |
| 本学・219 子修状が調査 企業より 子修状が調査 (大き 221) インターン学生報告書 本学・221 インターン学生報告書 本学・3-221 2022年度秋 学力アップ講座 統計 | ************************************ | (資料3-3-218) | PROG分析3年生 ※佐作に記載す |
| 787-3-220] インターン評価票・近来より 787-3-221] インターン学生報告書 483-3-222] 2022年度秋 <u>学</u> サアップ講座_統計 4. 教員・職員 資料No. | 14 | (資料3-3-219) | 子修状沈調査 |
| 145-5-221 | 1 | (漢本3-3-220) | 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 |
| | | (資本3-3-221) | 7.生報古書 |
| 4. 教員・職員 資料No. 教学マネジメントの機能性 | 4. 教員・職員 資料No. 教学マネジメントの機能性 | 〔資料3-3-222〕 | 字カアップ講座 |
| 資料No. 教学マネジメントの機能性 | 資料No. 数学マネジメントの機能性 | 基準4. 教員・職 | |
| | | | |
| | (+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + | | |
| | | | |

| | 244 |
|---|--|
| 音奏4-3-006 (| レキュリティポリシー ハラスメント 宇学士福足度 IR 宇学士福足度 IR 宇学会 正会員年会費納入 1分 申込 1分 申放 東本 東大の提出 1分 中 15会 出欠確認 15会 出欠確認 15会 相欠確認 15会 相次確認 15会 相談 15会 相談 |
| 第84-3-007] (2番4-3-008) (2番4-3-009) (2番4-3-010) (2番4-3-011) (2番4-3-011) (2番4-3-011) (2番4-4-001) (2番4-4-002) (2番4-4-102) (2番4-4-102) (2番4-4-103) (2番4-4-203) | (学生満足度IR と者所修計画 と者所修計画 た者所修計画 が加申込 日学会 正会員年会費納入 1分 1分 1分針 1位 研究活性化委員会 1分針 1位所表わよび内線表 1分針 1位所表わよび内線表 10所発費20220420 2度 研究活性化委員会 10分針 10分針 10分針 10分針 10分針 10分針 10分割 10分 10分 10分 10分 10分 10分 10分 10分 |
| 第44-3-008] (| 学生満足度1R - 2者研修計画 2 |
| 第44-3-009] 電路4-3-009] 電路4-3-010] 電路4-3-010] 電路4-3-013] 電路4-3-013] 電路4-3-013] 電路4-3-013] 電路4-4-002] 電路4-4-103] 電路4-4-104] 電路4-4-105] 電路4-4-106] 電路4-4-106] 電路4-4-201] 電路4-4-203] 電路4-4-203] 電路4-4-303] 電路4-4-303] 電路4-4-303] 電路4-4-303] 電路4-4-303] 電路4-4-303] 電路4-4-303] 電路4-4-203] | |
| 章称4-3-010] 電報4-3-010] 電報4-3-011] 電報4-3-011] 電報4-3-014] 電報4-3-014] 電報4-3-014] 電報4-4-002] 電報4-4-103] 電報4-4-104] 電路4-4-105] 電路4-4-106] 電路4-4-207] 電路4-4-208] 電路4-4-208] 電路4-4-208] 電路4-4-208] 電路4-4-208] 電路4-4-209] 電路4-4-209] 電路4-4-209] 電路4-4-209] 電路4-4-209] | 19 (2 元会員年会費納入 19 (2 元会員年会費納入 19 (2 元会員年会費納入 19 (2 元会員年会費納入 19 (2 元会員年代化でより 19 (2 元金) (2 元 |
| | 12学会 正会員年会費納入 51分資料 15分資料 15分資料 15分子 15分子 15日性化センター運営委員会細則 15日性化を員会 15日性化を員会 15日時間を表および内線表 10日所究費20220420 13日本 |
| 第44-3-012] 第74-3-013] 第74-3-013] 第74-3-013] 第74-3-013] 第74-3-013] 第74-4-003] 874-4-003] 874-4-103] 874-4-104] 874-4-105] 874-4-106] 874-4-107] 874-4-106] 874-4-107] 874-4-106] 874-4-107] 874-4-107] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-303] 874-4-305] 874-4-305] 874-4-305] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] 874-4-203] | 15会資料 15会資料 15会性化電影 大事考課表の提出 25活性化センター運営委員会細則 25活性化委員会 25活性化委員会 25活性化委員会 25活性化委員会 25分分 10研究費20220420 37分 10研究費20220420 25歳事録上70勉強会 37分 37分 37分 37分 37分 37分 37分 37分 37分 37分 |
| 第44-3-013] (1) (2) (4) (4) (4) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7 | 1会資料 (事考課表の提出 (計考課表の提出 2括性化センター運営委員会細則 2括性化を員会 2括性化委員会 2所で費20220420 会議事録 FD始強会 PD 1世化委員会議事録 2型No. 27 1世代委員会議事録 2型No. 27 2202222 2202222 220222222222222222 |
| 中央大学 1975 | 1会 出ケ確認 、事考課表の提出 (主考課表の提出 EY活性化シター規程 EX活性化委員会 EX活性化委員会 1分針 1位完養 1位完養 1位完養 1位完養 1分針 1位完養 1位完養 1位完養 100 100 100 100 100 100 100 10 |
| 研究支援 | (事考課表の提出 (正任化センター規程 ET活性化を引きる ET活性化を引きる ET活性化を引きる ETが発生化を引き を読まおよび内線表 可研究費20220420 会議事録、IDも強会 会議事録、IDも強会 ETが 27 ETが 27 |
| 研究支援 (少) (少) (少) ((少) ((少) ((少) ((少) ((少) (| 2. |
| \$\frac{\psi_44-4-001}{\psi_44-4-003}\$\$\$4-4-001\$\$\$4-4-003\$\$\$4-4-103\$\$\$4-4-103\$\$\$4-4-103\$\$\$4-4-106\$\$\$4-4-106\$\$\$4-4-106\$\$\$4-4-203\$\$4-4-203\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$\$4-4-203\$\$4-4-203\$\$4 | 2 |
| | 2括性化センター規程 2括性化センター運営委員会細則 25括性化委員会 25括性化委員会 25分子 3座席表および内線表 3座席表および内線表 3座席表および内線表 30子子 30子子 30子子 30子子 30子子 50220420 52 52 52 52 54 54 54 54 54 54 54 54 54 54 |
| | |
| | Lift性化委員会規程 1)方針 1)方針 1)方針 1)所究費20220420 2会職事級-FDも強会 会職事級-FDも強会 会職事級-FDも強会 日要No. 27 日本る教員の満足度調査2022 日本の表別の満足度調査2022 日本の表別の満足度調査2022 日本の表別の第年書 記要 記要 25 27 実技知論文(竹村・河野) |
| | 2院 研究活性化委員会規程 5万針 1條席表および内線表 3條階級, FD勉強会 会議事録, FD勉強会 5要No. 27 14次報告書 25大兄妻人会議事録 25大兄妻人会議事録 25人表別の、27 実投知論文(竹村・河野) 25人表別の、27 実投知論文(竹村・河野) |
| | 5方針 3度席表および内線表 3研究費20220420 会議事録 FD勉強会 研費 5要No. 27 19寸る教員の満足度調査2022 19寸る教員の満足度調査2022 18寸る教員の満足度調査2022 18寸を員会議事録 22 23 24 |
| | 1座席表および内線表 会議事録_FD勉強会 会議事録_FD勉強会 研費 研費 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 17-5教員の満足度調査2022 |
| | 1研究費20220420 会議事録 FD勉強会 研費 12要No. 27 19寸る教員の満足度調査2022 19寸る教員の満足度調査2022 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 |
| | 会議事録_FD勉強会 研費 12要No. 27 19する教員の満足度調査2022 19する教員の満足度調査2022 18世化委員会議事録 24状況報告書 紀要 25個募集案内 25個募集案内 25個募No. 27実践知論文 (竹村・河野) |
| | 研費 19ずる教員の満足度調査2022 19する教員の満足度調査2022 22 14代次報告書 24状況報告書 252要No. 27実数知論文 (竹村・河野) |
| | 2要No. 27 引する教員の満足度調査2022 19 22 22 24代次報告書 24代次報告書 24成要事業 25度要取。27 実数知論文 (竹村・河野) |
| | 1要No. 27 19する教員の満足度調査2022 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 4 3 4 3 4 4 4 5 4 5 4 5 6 6 7 6 7 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 |
| | 19する教員の満足度調査2022 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 3 2 3 |
| | D 性化委員会議事録 5状況報告書 紀要 2橋募集案内 5記要No.27実践知論文(竹村・河野) |
| | 2 性化委員会議事録 紀要 記要 L紀要No. 27 実践知論文(竹村・河野) |
| | 2 性化委員会議事録 記要 統職募集案内 記報要10.27実践知論文(竹村・河野) |
| | 性化委員会議事錄 5状況報告書 紀要 7橋募集案内 12紀要No. 27実践知論文(竹村・河野) |
| | 性化委員会議事録 5状況報告書 紀要 指稿募集案内 5紀募集案内 5紀發集案内 5.紀要如 27.1 (竹村・河野) |
| | b状況報告書 紀要 投稿募集案内 記紀要No.27実践知論文(竹村・河野) |
| | 紀要 技精夢集案内 記紀要の10.27実践知論文 (竹村・河野) |
| | <u>と稿募集案内</u> 記記報の2.27実投知論文 (竹村・河野) TROD BON IT IND (世 E IT |
| | 記紀要No. 27実践知論文(竹村・河野) 伝の日のFiro(独月研究へ)のお売させ |
| | 在9月99日FDC/粉目正なく/ のかから |
| 教育・研究 | 〒イル2(2023/平5月23日FKC(教員研先芸)のわ知りで |
| 2023年度 ラーブルイ 第308回離 学生の研究 2022年度 卒業生満 本業生満 808 学生 808 等生 808 等年 808 等年 80 | 5動支援 - リンク集 |
| デーブルイ 第308回職 学生の研究 2位全の研究 2位を実生商 本業生商 868 学生 868 学生 CHPルーム 教職支援 教職支援 2005 学生 | 研費公募のご案内 |
| 第308回 特生の研究 2022年度 卒業生満 を業生満 868 学生 868 学生 (HPルーム 教職支援 教職支援 を業数支援 | ドブース |
| 学生の研究 2022年度 2022年度 卒業生満り SGS 学生 SGS 学生 (HP/L-LA) 教職支援 A A 教職支援 A A 教職支援 A A A A A A A A A A A A A A A A A A A | 録 |
| 2022年度 卒業生満5 SGS 学生 SGS 学生 CHPルーム 教職支援会 存業論文係 | 景境の整備 |
| | 学生満足度・学生生活実態調査_研究 |
| | <i><u></u> 調査</i> ゼミナール |
| | 学生の自習学修環境 |
| | 自習学修環境(W1階スペース) |
| | |
| T | 7.棚 |
| 11000 | 卒業論文の特別支援_教員向け案内_2022 |
| _ | スアワー |
| T | 学生満足度・学修状況調査結果(学修、研究、施設・設備) |
| | |
| | 論文の貸し出し(持ち出し禁止)等のサービス |
| Ì | 令和4(2022)年度院生満足度・学修調査報告 |
| ¥4-4-311J | 令和4(2022)年度春修了生滿足度・字修調査報告 |
| | いよフ II など 針 II ごじい |
| T | 多摩大学における研究活動及び公的研究質に関する行動規範に共産が重る漢字を確立が揮命された。これ中に関して正行等に対している。 |
| 【資料4−4−006】 公旳研究費の適」 |)適止管理及び研究活動における不止行為への対応に関する取組み |

| 資料No. [管料4-2-203] | 資料名 |
|--|--|
| [| |
| Control of the Contro | 実務経験教員一覧 |
| (資料4-2-204) | # 1 |
| (資本4-2-304) | 囲歌角 大連ネンノアシト 小野子 小野子 |
| [漢本4-2-305] | 子家 大子広ハノノアツト 日軽声 十沙陸 パンプレット |
| [答称4-2-002] | スナ版 シップ |
| (資料4-2-003) | 大字 左 日 五 mxxx 上 |
| [資料4-2-307] | 多摩大学大学院人事委員会規程 |
| [資料4-2-004] | 多摩大学再任候補者審査部会細則 |
| [資料4-2-005] | 多摩大学採用候補者選考部会細則 |
| [資料4-2-006] | 多摩大学昇格候補者審査部会細則 |
| (資料4-2-308) | 多摩大学大学院採用候補者選考部会細則 |
| (資料4-2-105) | |
| (資料4-2-106) | 2022年度第8回教授会議事錄_昇格候補者選定基準 日临6二十二 |
| (資料4-2-205) | 昇格眷査基準 Promotion Evaluation Sheet_format |
| [| 柳 江秋貝 休 陇井事 |
| [答料4-9-907] | 人子庙口以破破于然二年间当———————————————————————————————————— |
| [答料4-2-208] | 次只/TITI 由五版字》。 教目再任客者(禁事録 |
| [資料4-2-309] | 令和4(2022) 年度 第2回人事委員会議事録 |
| [資料4-2-310] | 令和4(2022)年度 第3回人事委員会議事録 |
| [資料4-2-007] | |
| [資料4-2-108] | 2021年度 教員活動報告書および2022年度 教員活動計画書 |
| [資料4-2-109] | 2022年度 教員活動報告書および2023年度 教員活動計画書 |
| [資料4-2-110] | 2022年度第2回教授会議事錄_教員顕彰 |
| (資料4-2-209) | 2022年度教員活動報告書 |
| (資料4-2-210) | 令和4(2022)年度春学期学期 授業評価(VOICE) 結果による顕彰の実施について posseに由言語に執目事業上に語に執旨であった。特に |
| (資料4-Z-311) 1-9-® | 2022年度尚評価教員衣彫と低評価教員の取り扱い |
| 14 2 (2000) | サール・チェー |
| (海米4-2-008) | NL アノター |
| [算件4-2-009] [容約4-9-111] | 和安貝云死性 指的同机 委員会業事録 印 |
| (答称4-9-119) | No Jim 文 文 改 子 な - J |
| [答料4-2-113] | 2025年校元安良五字末町岡 第0回AI 委員会議事録 AI プログラム |
| [答料4-2-114] | 1002/年度 発表 悠 プロ ゾ ラ ム |
| [資料4-2-115] | 第9回AI 委員会議事録 AIプログラム |
| [資料4-2-116] | 初年次教育学会第15回多摩大学大会 |
| [資料4-2-117] | 2022年度高大接続プログラム参加者 |
| [資料4-2-010] | 教務委員会規程 |
| (資料4-2-118) | 2022年度共通教育費 |
| (第119) (※小(4 0 011) | NC模型 |
| (資料4-2-211) | 守和4(2022) 牛皮ALC活動計画 お777 # Processed |
| [寅 科4-2-212] [答率[,4-9-919] | |
| [女士 4 5 312] [谷士 4 - 9 - 313] | 夕年八十八十四秋份安貝云巩住 仝和5(^003)年9日50葡萄스却生主 |
| [答称4-2-314] | - Totalo (2023) 4-5月17巡班云歌日言 合和5 (2023) 年3月23日FRC(教員研究会) のお知らせ |
| [資料4-2-315] | 令和4 (2022) 年9月SD勉強会報告書 |
| [資料4-2-316] | 令和4(2022)年度フィールドミーティング報告書(顧客創造) |
| 4-3. 職員の研修 | |
| 4-3-① | |
| [資料4-3-001] | 多摩大学事務職員研修規程 |
| (資料4-3-002) | 職員研修計画 |
| (資料4-3-003) | 多摩大字職員外部研修報告書(4) 人生证券 在此到 医二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十 |
| (資料4-3-004) | 3.0.全体钟修_ 美胞計画_ 美施報告 3.5.人作证券 治療 |
| [資料4-3-005] | 30至冷怵修 |

| 資料No. | 資料名 |
|---|--|
| | |
| 5-2. 理事会の機 | |
| (100 6 3 3 32 2 2 2 2 2 2 2 | 字叶/云为 笛 6 名 |
| (May 2-2-001) | 奇斯任為男b条 4 第一次次正確由日午 |
| [資料5-2-002] | 多摩大学学長選考規程 |
| [資料5-2-003] | 理事会議事録・評議員会議事録(令和4年9月26日) |
| [資料5-2-004] | 寄附行為第17条 |
| [資料5-2-005] | 理事会名簿 |
| [(| 理事会の出席状況(令和4年度) |
| [管料5-2-007] | 理事会の出席状況(令和元年度) |
| [資料5-2-008] | 理事会開催日・審議内容(令和4年度) |
| [資料5-2-009] | 出欠表 |
| [資料5-2-010] | 大学経営会議規程 |
| [管料5-2-011] | 大学経営・運営会議議事録 |
| 2-3 管理運営の | 管理運営の日帯化と相互チェック |
| | |
| [管料5-3-001] | 客附行為第12条 |
| [衛粋5-3-002] | 組織運営規程第8条 |
| [衛歩5-3-003] | 大学経営・運営会議議事録 |
| [資料5-3-004] | 多摩大学運営会議規程 |
| [資料5-3-005] | 2022年度第6回大学運営会議議事録 |
| [資料5-3-006] | 理事長定例 |
| 5-3-(2) | |
| [資料5-3-007] | 寄附行為第20条 第22条 |
| [魯粉2-3-008] | 評議員会名簿 |
| [資料5-3-009] | 評議員の選任 |
| [管料5-3-010] | 評議員会の出席状況(令和4年度) |
| [資料5-3-011] | 評議員会の出席状況(令和元年度) |
| [資料5-3-012] | 評議員会開催日·審議内容(令和4年度) |
| [資料5-3-013] | 評議員会議事録,理事会議事錄(令和5年3月27日) |
| [資料5-3-014] | 理事会議事録・評議員会議事録(令和4年5月23日) |
| [資料5-3-015] | 監事のプロフィール |
| [資料5-3-016] | 理事会議事録・評議員会議事録(令和4年1月21日) |
| [資料5-3-017] | 監事監査(多摩キャンパス) |
| [資料5-3-018] | 今和4(2022)年12月19日(月)監事・会計監査人懇談報告等 |
| 5-4. 財務基盤と収支 | |
| 2-4-(I) | |
| (資料5-4-001) | 令和4(2022)年度 事業計画[I-5 施設設備整備の事業計画] |
| (資料5-4-002) | 第3期甲期計画[1-5 施設設備整備の甲期計画] |
| (資料5-4-003) | 第2号基本金の組入れに係る計画表 |
| [100-11-31] [100-11-31] | 会和A(9099) 年审涉先,生徒, 国旧巾∽完昌 |
| (海粉2-4-00年) | 14 14 2022/ 十尺子工 工匠 図元次中尼貝 14 14 2022/ 十尺子工 工匠 図元次中尼貝 17 4 4 4 4 4 4 4 4 4 |
| [900 1 64/15] | 四次工作》于工工区学们13.4次// 超往至临7.6月11日下次次人压晓2.7点/ 阿莱昌合業真偽,由真合業直線(会和5年3.8月97日) |
| 「体業15-4-007」 | 叶酸貝式酸甲酸:生事式酸中酸(17件10年5月21日) 答金蛋田组织 |
| 【体料で1-4-000] | 東東州市の南部 東京本の東京 東京本の東京 東京本の東京 東京本の東京 |
| 5-5. 会計 | 一方人土体ジタ収付心・即当並が推移 |
| 2-2-(I) | |
| [資料5-5-001] | 経理規程 |
| [資料5-2-005] | レーザー学校会計システム |
| [資料5-5-003] | 予算管理システム「ドクター・バジェット」 |
| [資料5-5-004] | |
| 2-2-3 | |
| [資料5-5-005] | 令和4(2022) 年度 監査日程 |
| [資料5-2-006] | |
| [資料5-5-007] | 令和4 (2022) 年度 - リスクアプローチ |

| 「答款/1-/1-007] | 14十二分十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二 |
|-----------------------------|--|
| (1441 1 001) | 多摩大学競争的資金等の公的研究費の管理・監査に関する規程 |
| [資料4-4-008] | 多摩大学競争的資金等の公的研究費に係る間接経費取扱規程 |
| (資料4-4-009) | 多摩大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程 TTTが CHR |
| [資料4-4-113] [答點//-/-117] | |
| [管料4-4-214] | 理教育案内 |
| [資料4-4-215] | 研究成果報告書一覧 |
| [資料4-4-312] | dut |
| [資料4-4-313] | 博士課程前期院生対象倫理教育 |
| [資料4-4-314] | 博士課程後期院生対象倫理教育 |
| 4-4-(3) | the order from a second control of the |
| (資料4-4-115) | 2022年度個人研究費 |
| [資料4-4-315] | 2022年度経営情報学研究科専任教員 個人研究費について |
| (資料4-4-216) | 教員研究費 |
| (資料4-4-010) | |
| [資料4-4-110] | 外部貝運助成事表の情報に関するホームペーン お江華八首のデをお/佐門株准在の「甘藍在26.1 「国際中国在26.1/1) |
| (対表/4-4-218) | し来いれがJIEGEWI Ze、 角質WI Zeo・A、 |
| [答料4-4-117] | 次に認い場合語言を表していた。 |
| (資料4-4-219) | <u> </u> |
| 其准5 经营。每 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |
| 100 | イングリング 参加な |
| 5-1. 経営の規律と誠実性 | |
| -1-(I) | the mill of 15, before to |
| (資料5-1-001) | 티! |
| (資本5-1-002) | |
| (資本や-1-003) (※売に 1 004) | 奇斯汀為弗耳米 弗丁米 東丁州米 東西 東西 東西 東西 東西 東西 東西 東 |
| (| |
| (漢本5-1-003) | 多學人子事務概員稅,果規則 |
| (漢本5-1-000) (※本に 1 002) | 公舗油物房 夕展十彩十二一。 : ※(種類な間) |
| [其件3-1-007] [1 @ | 多年人子ホームパーン(旧報公開) |
| -1-亿 | |
| [答数5-1-009] | |
| (体表) 1 009 (体表)2-1-010 | お9効 〒 約10 国 |
| [答款5-1-011] | 1,440+校步来 国(1,140+1,1)1 |
| [答称5-1-012] | 1741 |
| 5-1-3 | THAT AND WITH |
| [資料5-1-013] | 地球温暖化対策実施計画(第二次) |
| [資料5-1-014] | 電力使用実績(令和4年度) |
| [資料5-1-015] | ガス使用実績(令和4年度) |
| [資料5-1-016] | 理事会•評議員会次第 |
| [資料5-1-017] | 多摩大学ホームページ(2022情報公開_環境宣言) |
| (資料5-1-018) | 個人情報保護規則 |
| [資料5-1-019] | 特定個人情報等取扱規程 |
| [資料5-1-020] | ハラスメント防止規則 |
| [資料5-1-021] | 安全衛生管理規程 |
| (資料5-1-022) | 目黒衛生委員会規程 |
| [資料5-1-023] | 多摩衛生委員会規程 |
| [資料5-1-024] | ストレスチェック実施規程 |
| (資料5-1-025) | ストレスチェック実施案内 |
| (資料5-1-026) | 防火防災管理規程 |
| (資料5-1-027] | 多摩大学防火防災管理規程 |
| [資料5-1-028] | 多摩大学_ 防災・避難訓練実施記錄(SMIS) |

| П | T | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | T | T | ## | | | | T | T | | | | Τ | | | | | T | | П | | | | | T | | | 7 |
|-------|-------------|----------------------------------|-------------|-------|-------------------------|------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|-------------|-----------------------------------|--|-------------|-----------------|---------------|----------------|-----------------------------------|------------------------------|--------------------------|--------------------------------------|----------------------------|-------------------------------|--|--|---|--------------------------------------|---|--|--|-------------|-------------|--|-------------|-------|-------------------|---------------|--------------|-------------------|-------------|---|--|-------------|---------------------|-------------|
| 黄梅名 | <u> </u> | 令和4(2022)年12月19日(月)監事・会計監査人懇談報告等 | | 資料名 | | 産官学民連機ポリシー | 第1回産官学民連携センター運営委員会議事録 | 第2回産官学民連携センター運営委員会議事録 | 多摩大学確官学民連携センター運営委員会細則 | との情報交換会 | 多摩大学組織図 | 産官字氏連携変員会規権 確宜学民連携センター2022事業計画 | 産ロコンスエック・・ こうこう 大川 日産 産業 大学 (産官学民連携センター・委員会メンバー) | 体制 | 第9回産官学民連携委員会議事録 | 第9回学部運営委員会議事録 | 第9回教授会議事錄 久 | 多學 不子事務組 權規程 夕靡士兴事致八崇相知 | り世 | 2022年校生月狄汉云 ()生日于八年场安貝云/ | 多摩大学と小田急電鉄㈱及び小田急不動産㈱との連携・協力に関する基本協定書 | 奥多摩町と多摩大学の連携に関する協定書 | 創業支援事業に関する連携協定書(多摩大学、多摩市、多摩信) | 株式会社ファンケルヘルスサイエンスとの覚書するユニューはは、これをおしています。 | 目町卑楽外と地吸仕会に関する調査研究のための見書 (附現代文化研究所) 多磨市と多磨大学の連携に関する基本協定書車締結 | <u>タチボスラを表れています。 との事業に関する協定書</u> 昭島市と多摩大学との連携に関する協定書 | 包括的連携に関する協定書(よい仕事おこしフェア実行委員会:城南信用金庫) | 多摩大学と多摩信用金庫との包括連携に関する協定書 まず細い帰しを磨上党して行経事権に開きす好合書 | ストトエ観元Mr<多摩八子<ツ凸泊連携に関りの防止音 多藤大学シエルが㈱レの白妊油機に関する協定主 | タチベナト ivy(Mr cシロゴボPart B)。Mr m 鎌令七・鎌令七細半弦会弦定書 | 攤 | 光協 | 株式会性ンヨーナンとの包括連携協定者 権治士権法なる アンケー 調子株式契約金 | 1111 | íl – | 2022年度リレー講座パンフレット | リレー講座開講回数2022 | レー講座受講者数2022 | リレー講座広報用プロモーション動画 | el L |]-Studio公開講座 2022年度参加者数 な麻ブルー・ガリーン賞選老系昌卓/圭良学卓) | 4年十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二 | -企画ツア | 2022年度ジェロントロジー企画参加者 | 多摩市こども・若者条例 |
| 資料No. | (資料2-2-009) | (資料5-5-010) | 基準A. 産官学民連携 | 資料No. | V-1. 産官学民連携 V-1-0 | A I U (| 〔資料A-1-002〕 | (資料A-1-003) | A-I-© 「管料A-1-004〕 | (資料A-1-005) | [資料A-1-101] | [資料A-1-102] [答料A-1-103] | [資料A-1-104] | 〔資料A-1-105〕 | 〔資料A-1-106〕 | (資料A-1-107) | [資料A-1-108] | (資本A-1-201) (※率1 4 1 909) | (寅本4-1-202) (悠報:\A-1-909) | A-1-(3) | i (資料A-1-109) | 〔資料A-1-110〕 | [資料A-1-111] | (資料A-1-112) | (資料A-1-113) 「答料A-1-114〕 | (資料A-1-115) | 〔資料A-1-116〕 | (資料A-1-117) | (寅仲A-1-118) (容影A-1-110) | [答料A-1-204] | (資料A-1-205) | (資料A-1-206) | (資料A-1-20%) | [管料A-1-209] | A-1-4 | [資料A-1-006] | [資料A-1-007] | [資料A-1-008] | [資料A-1-009] | (資料A-1-010) | (資料A-1-011) (答點A-1-019) | (写作A 1 012) (答料A-1-013) | (資料A-1-014) | 〔資料A-1-015〕 | [資料A-1-120] |

| 21] 庭官学民連携センターホームページ(22) 多慶大学 産官学民連携センターホームページ(24) 昭島市との意見交換会議事録 12022年度3 8億大学 産官学民連携センターホーン(27) 昭島市との意見交換会議事録 12022年度3 8億元 (27) 日本の意見交換会議事録 (27) 日本の重りを設定して、(27) 日本の意見交換会議事録 (27) 日本の重りを設定して、(27) 日本ので、(27) 日本 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 参数名 |
|--|--|---|
| 8022年度ケマ)スム報告書(事業概要と参加人数) 8 解決学 産官学民連携でメターホームペーン(タマリズム) 8 帰原市との意見交換会議事役の202年度事業報告 会員企業レポート8 | [資料A-1-121] | ーペイ |
| 多摩大学 産育学民連携センターホームページ(タマリズム) B 品 及換会議事録 B 局 市との意見交換会議事録 8 摩ブルーグリーン俱楽部2022年度事業報告 授業登壇(社工 1927 年本 1922年度) 8 摩ブルーグリーン俱楽部2022年度事業報告 授業登壇(社工 1922年度) 14 比重おこしフェブル (日本 1922年度) 15 上 (仕事おこしフェブル (日本 1922年度事業報告 2022年度事業報告 2022年度) 16 日本 1922年度事業報告 2022年度事業報告 2022年度事業報告 2022年度年度) 17 上 (日本 1922年度事業報告 2022年度事業報告 2022年度年度) 17 上 (日本 1922年度事業報告 2022年度事業報告 2022年度年度 2022年度 2022年 2022年度 2022年 2 | [資料A-1-122] | (事業権 |
| 昭島市との意見交換会議事録 昭島市との意見交換会議事録 昭島市との意見交換会議事録 多摩ブルーグリーン俱楽部2022年度事業報告 会員企業レポート8 多摩ブルーグリーン俱楽部2022年度事業報告 侵業登壇住社 まい代事おこしフェブ出題 瀬光に間かる発表会2022 11.C構との意見交換会議事録 604kvu Imovarion Rotts 11.C構との意見交換会議事録 11.C構との意見交換会議事録 11.C構との意見交換会議事録 11.C構との意見交換会議事録(01R) か日電を管学民連携委員会議事録(01R) か日電を管理を選手のより カインテナトンとも大学参加人数リスト 現多離可つたと言し交換会 12.022年度場了展大学館音学民連携プロジェクトー電表(委員等) 2022年度り再とよう整 2022年度りにきまカレッジ 2022年度り再と表すをがみはら コーコムプラザさがみはら コーコムプラザをがみはら コーコムプラボジウム 2022年度り日本学を選手展連携プロジェクトー電表(委員等) 2022年度り日本学民連携を自会議事録(定中の主) 第7回意職委員会議事録(定中の主) 第7回意職委員会議事録(第7ログンクトー電表 第5回産官学民連携委員会議事録(企中の主) 2022年度を開発と発生を加着者が別 第5回産官学民連携委員会議事験(企学工 2022年度第9回産官学民連携委員会議事験(企学工 2022年度第9回産官学民連携委員会議事験(企学工 2022年度第9回産官学民連携委員会議事教 第5回産官学民連携委員会議事教 2022年度第9回産官学民連携委員会議事教 12.22年度第9回産官学民連携委員会議事教 12.22年度第9回産官学民連携委員会議事教 2022年度第9回産官学民連携委員会議事教 12.22年度第9回産官学民連携委員会議事教 2022年度第9回産官学民連携委員会議事教 12.22年度第9回産官学民連携委員会議事教 12.22年度第9回産官学民連携委員会議事教 12.22年度第9回産官学民連携委員会議事教 2022年度第9回産音学民連携委員会議事教 2022年度第9回産音学民連携委員会議事教 2022年度第9回産音学民連携委員会議事教 2022年度第9回産音学民連携委員会議事教 2022年度第9回産音学民連携委員会議事教、 2022年度第9回産音学民連携を自発を手機を手機のロジェントで言様を半期 1015年の中に構設する 2022年度第9回産音学民連携を手機を手機のロジェンストで言様を半期 1015年の中に構設する 2022年度番号期 1015年の中に構設・2022年2027年2017年2022年2017年2022年2027年2017年2022年202月2017年2022年202月2017年2022年202月2017年2022年2022年2017年2022年202月2017年2022年2017年2017年2022年2017年2022年2017年2022年2017年2022年2027年2017年2022年2022 | [資料A-1-123] | /ターホームページ(タマリ |
| 80島市産業まつり 80島市産業まつり 80度のアルーグリンと展楽部2022年度事業報告 会員企業レポート8 80年ブルーグリンと展楽部2022年度事業報告 会員企業レポート8 原工機工機力との意見交換会議事験 10.(構との意見交換会議事験 10.(構との意見交換会議事験 (3.1R) 10.(相との意見交換会議事験 (3.1R) 10.(相との意見交換会議事験 (3.1R) 10.2年企庫報告の意見交換会議事験 (3.1R) 10.22年度場所ではできた子参加人数リスト 度多電町の方と高力交換会 コニコムブラザさがみはら 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 第7回康職委員会議事験(業界研究とテーク) ロボット大集合 第7回康職委員会議事験(発展がロジェクトー覧表(委員等) 87回康職委員会議事験(発展がロジェクトー覧表(登別を 87回康職委員会議事験(PC相談会) 87回康職委員会議事験(PC相談会) 87回雇官学民連携委員会議事験(PC相談会) 87回雇官学民連携委員会議事験(PC相談会) 87回雇官学民連携委員会議事験(PC相談会) 87回雇官学民連携委員会議事験(PC相談会) 87の24年度を記する考える 87の24年度を記すを表える 87の24年度年度制度を実施するトスピーカーな上で来を一覧表 87の24年度を記すを表える 87の24年度年度制度を実施するトスピーカーを表す 87の22年度が日間が (10.50.04年職別 (2.22.2K・生生 2022年度が手期 にないを再議別 (2.4年 2022年度を手期にないを主機別 (4.4年 2022年度を手期にないを主機別 (4.4年 2022年度を手期にを受害者 1ストー (4.4年 2022年度を手期にを受害者 1ストー (4.4年 2022年度を手期のこのとのを実施事務 (4.4年 2022年度を手期のこのとのを実施事務 (4.4年 2022年度を手期のこのとのを実施事務 (4.4年 2022年度を手期のこのとのを表すり (6.4年) (6.4年) (6.44と) (6.4年) | [資料A-1-124] | |
| 多摩ブルーグリーン俱楽部2002年度事業報告 会庫ダルーグリーン俱楽部2002年度事業報告 会庫グルーグリーン俱楽部2002年度事業報告 会庫グルーグリーン俱楽部2002年度事業報告 長葉登庫4柱 原土福東北に関する養表会2022 1AC構との意見交換会議事録 1AC構との意見交換会議事録 1AC構との意見交換会議事録 原土成場でしてまる形との意見交換会議事録 1AC構との意見交換会議事録 1AC構との意見交換会議事録 市口産子が下ことも大学参加人数リスト 地多層町の方と意見交換会 1AC基とびかった 1AC基とびかった 東多町の方と意見交換会 1Aとがデンカム 1Aとでするがみはら 2022年度と所にできたい 2022年度と原生のアデンボジウム 2022年度との変化がような 2022年度とがまさ自全に連携を自会議事録(PC相談会) 1Aにプレッジ 2022年度とがまさ自全に連携を自会議事録(PC相談会) 1Aにプレーン 2022年度との産産学民連携を関係を関係を関係を開発してジェクトー覧表 等が固定学生民連携を関係等が可を定めているアインと、ファインとが表している。 1Aに子の関係を関係 第5回産官学民連携を見会議事録 AC工ールーン・1を表える 8を開発等に対しているアインと、アインと、ファインとのイン・デを考える 1Aに子中のミライを考える 8の202年度第9回産官学民連携を引える。 1Aに子中のミライを考える 8の202年度第9回産官学民連携を発表を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発しているのイン・インと・ファイを発える 1Aに手中のシライを考える 8の22年度第9回産官学民連携を募集者が高度を発生を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を | [資料A-1-125] | 昭島市産業まつり |
| 多摩ブルーグリーン俱楽部2002年度事業報告 授業登壇4社 | [資料A-1-126] | |
| はい仕事おこしフェア出展 原工調光(構との意見交換会議事録 1AC構との意見交換会議事録 10dakru Imnovation Roots 第1回旅官学民建成の意見交換会議事録(01R) マチカドことも大学参加人数リスト 度多権町づちがみはら シリアスゲーム 12022年度かできたがみはら シリアスゲーム 12022年度かできまます。 12022年度といなぎにカレッジ 12022年度かできままカレッジ 12022年度かできままカレッジ 12022年度かできままカレッジ 12022年度かできままカレッジ 12022年度かできまカレッジ 12022年度かできまカレッジ 12022年度ができまカレッジ 12022年度ができまカレッジ 12022年度ができまカレッジ 12022年度ができまカレッジ 12022年度多様大学産目学民連携プロジェクトー覧表(委員等) 12022年度を歴史が存置が大学院 12022年度を展生を発展を開発のログニントー覧表(委員等) 12022年度を展生を発展を開発のログニットー覧表 12022年度を選集を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を記事を | [資料A-1-127] | |
| 南王衛光勝との意見交換会議事録 観光に関する第4会2022 11/2(樹との意見交換会議事録 (OIR) 小田島不動産機との意見交換会議事録 (OIR) 小田島不動産機との意見交換会議事録 (OIR) 小田島不動産機との意見交換会議事録 (OIR) カーロースライブをがみはら コニコムフラザさがみはら コニコムアラザさがみはら コニコムアラザさがみはら コン202年度 高がまとカレッジ 2022年度 さがまとカレッジ 2022年度 さがまとカレッジ 第7回歳職委員会議事録 (業界研究とミナー) ロボット大集合 第7回歳職委員会議事録 (定発表員会) 第7回歳職委員会議事録 (で相談会) 高届 印向子広連務委員会議事録 (PC相談会) 2022年度 メットンド (選考を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を | [資料A-1-128] | よい仕事おこしフェア出展 |
| 総光に関する養表会2022 JA(構との意見交換会議事録 DIA(構との意見交換会議事録 DIA(構との意見交換会議事録 中元を大学参加人数リスト 東多電町つえと大学参加人数リスト 東多電町つえと音を次がみはら コニコムブラザさがみはら コニコムブラザさがみはら コニコムブラザさがみはら コニコムブラザさがかはら コニコムブラザさがかはら コニコムブラザさがかはら 2022年度いたまちレッジ 2022年度といままカレッジ 2022年度とかままカレッジ 2022年度とかなましたいが 2022年度とかなましたいが 2022年度とがなまらカレッジ 2022年度とかなまらカレッジ 2022年度とがなまらカレッジ 2022年度とがなまらカレッジ 2022年度とかなまらカレッジ 2022年度とがなまらカレッジ 2022年度とがなまらカレッジ 2022年度と呼吸がままめい 第7回旅職委員会議事録(PC相談会) 第6世報等の上述表別を会員会議事録(PC相談会) 2022年度を大学産官学民連携がプロジェクトー覧表 数配員会社見学会参加者状況 第6回産官学民連携を会長の地強決会 2022年度を表別を上述表を目を指していた。 2022年度を表別を上述を表しるがより 第3回産官学民連携を会長の地強が、AP に変表 第40回産官学民連携を会長の世界が、AP に登しますとのいで 第50位を表別の産り学とので下離沢、Am 南口11 履修者名簿 2022年度株学期「Discover 藤沢 M 南口12 2021年度 第1回産官学民連携を員会議事務 2022年度様学期「Discover 藤沢 M 南口12 2021年度 第1回産日学とので下離沢 M 南 2022年度第1回産日学とので下離沢 M 南 2022年度第1回産日学とので下離沢 M 南 2022年度第1回産日学とので下離沢 M 南 2022年度第1回産日学とので下離パ M 位 2022年度第1回産日学とので下離パ M の 2022年度第1回産日学とので下離パ M の 2022年度第1回産日学とので下離パ M の 2023年度第1回産日学とので下離パ M の 2023年度第1回産日学とので下離パ M の 2023年度第1回産日学とのでは下腹が見るのでは 第1回産日学とのでは 下間のでのでは 1 第1回産日学とのでは 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | [資料A-1-129] | 京王観光㈱との意見交換会議事録 |
| 14.0(附との意見交換会議事録 (14.0) (2.1 | [資料A-1-130] | 観光に関する発表会2022 |
| () () () () () () () () () () () () () (| 〔資料A-1-131〕 | TAC㈱との意見交換会議事録 |
| 第1回産官学民連携委員会議事録 (OIR) 小田急不動産機との意見交換会議事録 (OIR) 小田急不動産機との意見交換会選事録 (AIR) 奥多暐町ゴミ拾い 奥多暐町ゴミ拾い 奥多暐町ゴミ拾い 東多韓町ゴミ拾い 東多韓町ゴミ拾い 東多韓町ゴミ拾い 東京で上面事業補助金 コニコムブラザさがみはら 2022年度いたこう 整 (業界研究とデナー) 2022年度いたこう 整 (32年度 | [資料A-1-132] | Odakyu Innovation Roots |
| 小田急不動産機との意見交換会議事録 マチカドこども大学参加人数リスト 奥多曜町づちと意見交換会 等生企画事業補助金 コニコムプラザさがみはら 2022年度別戸北京大学院 2022年度とかますがかけら 2022年度とかますがかけら 2022年度とかますがかけら 2022年度とかますが、 2022年度とがますカレッジ 2022年度とがますカレッジ 2022年度をがますカレッジ 2022年度をがますカレッジ 2022年度を修士を直撃尺連携プロジェクトー覧表(委員等) 第7回館職委員会議事録(業界研究セミナー) 2022年度をがますカレッジ 2022年度をがますカレッジ 2022年度の経費を産門学民連携プロジェクトー覧表(委員等) 第7回館職委員会議事録(定対でいる)トー覧表(委員等) 第6回雇官学民連携委員会議事録(に対数会) 2022年度がランティア学生参加者名簿 ハモ子市のミライを考える NGP202 2023年度産育学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録 2023年度第7シティア学生参加者名簿 NGP202 2023年度産育学民連携委員会議事録 2022年度第3回産官学民連携委員会議事録 2022年度第3回産官学民連携委員会議事録 2022年度第3回を開発と対してジェクトー・般・学生 2022年度発学期Discover環察(附庸加) 2022年度第4月のレンデスト程修生リスト 2022年度素学規プロジェクトゼミ優修生リスト 2022年度素学期プロジェクトゼミ優修生リスト 2022年度春学期プロジェクトゼミ優修生リスト 2022年度春学期プロジェクトゼミ優修生リスト 2022年度春学期プロジェクトゼミ優修生リスト 10dakyu Innovation Roots」第1回を開催人学ニュースリリーデ | [資料A-1-133] | 第1回産官学民連携委員会議事録(OIR) |
| マチカドこども大学参加人数リスト 與多摩町ゴミ拾い 與多摩町ゴミ拾い 與多摩町ゴミ拾い 当と企画事業補助 コニコムラサきがみはら シリアスゲーム おだじざよ 2022年度いなよう塾 2022年度いなまうかしッジ 2022年度いなまりかしッジ 2022年度いなまり、シリン (選考委員会) 第7回散職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット集合 多摩大学本ームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 高月日が王藤濱 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 第6回私委員会議事 教授会(FD勉強会) 第6回私委員会議事 教授会(FD勉強会) 2022年度302人で学生参加者状況 経営情報学部ゲストスピーカーよび来客一覧表 第6回私委員会議事 教授会(FD勉強会) 2022年度302年度302年度 第6回私委員会議事 教徒会(FD勉強会) 2022年度302年度302年度 第6回私委員会議事 教授会(FD勉強会) 2022年度202年度302年度302日と 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学本人 第5回産官学民連携委員会議事録(産学工人 第5回産官学民連携委員会議事録(産学工人 第5回産官学民連携委員会議事録(産学工人 第5回産官学民連携委員会議事録(産学工人 第5回産官学民連携委員会議事録(産学工人 第5回至年度務学期 「Discover騰沢・湘南加 2022年度務学期「Discover騰沢・湘南加 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事 2022年度第11回産官学民連携委員会議事 2022年度第11回産官学民連携委員会議事 2022年度第11回産官学民連携委員会議事会 | [資料A-1-134] | 小田急不動産㈱との意見交換会議事録 |
| 與多摩町ゴミ拾い 與多摩町ゴミ拾い 学生企画事業補助金 コニコムブサギさがみはら シリアスゲーム おだじぎょ おだじぎょ 2022年度いちよう整 2022年度いちよう整 2022年度いたような 2022年度がまちカレッジ 2022年度さがまちカレッジ 2022年度さがまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 第5回産官学民連携を員会議事録(で名) 第5回産官学民連携を自会との下間表(実験) 経営情報学部ゲストスピーカーで対検検案支援) 経営情報学部ゲストスピーカーなよび来客一覧表 第6回A、委員会議事、数検会(印勉強会) 2022年度がランティア学生参加者名簿 第6回A、委員会議事、数検会(印勉強会) 2022年度がランティア学生参加者名簿 第6回A、委員会議事をのことがよび来客一覧表 第6回A、委員会議事をのと、カトー覧表 第6回A、委員会議事をのといかと 数値度音学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回産官学民連携委員会議事 2022年度第11回座官学民連携委員会議事 2022年度第11回座官学民連携委員会議事 2022年度第11回座官学民連携委員会議事録。 2022年度第11回座官学民連携委員会議事 2022年度第11回座官学民連携委員会議事 2022年度第11回座官学民連携委員会議事 2022年度第11回座官学民連携を開催、大学にコーストー | [資料A-1-135] | マチカドこども大学参加人数リスト |
| 奥多摩町の方と意見交換会 学生企画事業補助金 シリアスゲーム おだってライライをがみはら シリアスゲーム おだしぎょ 2022年度りちょう整 2022年度からがまでカレッジ 2022年度からがまでカレッジ 2022年度を対す金がながウム 2022年度を対す金がカレッジ 2022年度を対す金がレッジ 2022年度を対す金がレッジ 2022年度を対す金がレッジ 2022年度を対す金がレッジ 2022年度を対す金がレッシ 2022年度多摩ブル・・グリーン賞(選考委員会) 第7回航職委員会議事録(業界研究セミナー) 日ボット大集合 第6回程度学民連携委員会議事録(PC相談会) 会和4(2022) 産日学民連携委員会議事録(産学のカーなよび本名一覧表 新国産官学民連携委員会議事録(産学工のシェクトー覧表 85回程度等日連携を手のまりのまりの22年度第月を手に変数の提案 2023年度等日産業者りストントトトトントトー 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回程度等日産業者リストントー・般+学生 1022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年月 リー諸建受講者リストー・報・学生 2022年度第9回産学民連携委員会議事録 2022年度第9回回に管学日産業のできまります。 2022年度第1回回に管学日本等のできまがある。 2022年度第1回回に登学会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会 | [資料A-1-136] | 奥多摩町ゴミ拾い |
| 学生企画事業補助金 コニコムブラザきがみはら コニコムブラザきがみはら おだします。 2022年度いちょう塾 2022年度いちょう塾 2022年度でいままりレッジ 2022年度でいますがましたい学校授業支援) 2022年度でいままカレッジ 2022年度では、カーン賞(選考委員会) 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット大集合 多摩大学ホームページ(聖ル丘小学校授業支援) 第5回産日学民連携のエジェクトー覧表(委員等) 第7回航工委員会議事。 第7回航工委員会議事。 数職員会社見学民連携のエジェクトー覧表 数配値子学民連携を員会議事録(PC相談会) 合和4(2022) 確守民連携のエジェクトー覧表 数職員会社見学会参加者状況 経営情報等部分ストスピーカーおよび来客ー覧表 数配面在音学民連携委員会議事録(在学元のデットー 数職員会社見学民連携委員会議事録(在学元のデットー 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元のデットー 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元のデットー 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元のデットー 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元ームページャーブン) 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元のデットー 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元のデットー 第5回産日学民連携委員会議事録(在学元ームページャーブン) 2022年度第9回産自学民連携委員会議事録 12022年度第9回産自学民連携委員会議事録 「海外からのインバウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 「12022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録 2022年度第11回産日学民連携委員会議事録。 | [資料A-1-137] | 奥多摩町の方と意見交換会 |
| コニコムプラザさがみはら シリアスゲーム おどしぎよ 2022年度いちょう塾 2022年度いたよう塾 2022年度いたよう型 2022年度いなぎICカレッジ 2022年度いなぎICカレッジ 2022年度いなぎICカレッジ 2022年度いなぎICカレッジ 2022年度のなぎログレー・オリーン賞(選考委員会) 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット大集合 第8回産官学民連携交員会議事録(PC相談会) 高店目向子氏講演 第8回産官学民連携交員会議事録(PC相談会) 合和4(2022) 産官学民連携プロジェクトー覧表(表債) 2022年度ポランティア学生参加者名簿 が職員会社見学会参加者状況 経営情報学部プストスピールおよび来客一覧表 第0回租委員会議事 教授会(印勉強会) 2022年度ポランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP202 2023年度成当上建議委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録 2022年度第回産音学民連携委員会議事録 2022年度第1回産音学民連携委員会議事録 2022年度第1回産音学民連携委員会議事録 2022年度保学財 1Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度依学期 1Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度格学期 1Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度券学期 1Discover藤沢・湘南II」2022年度第11回産音学民連携委員会議事録 2022年度第11回産音学民連携委員会議事録 2022年度第11回産音学民連携委員会議事録 2022年度第11回産音学民連携委員会議事録 2022年度第11回産音学民連携委員会議事録 | [資料A-1-138] | 学生企画事業補助金 |
| いりアスゲーム おだじざよ well-Beingンポジウム 2022年度関ラ地球大学院 2022年度かもよう整 2022年度かもようを 2022年度かもようとのシップ 2022年度かもようとのシップ 2022年度かなまさカレッジ 2022年度か・大集台 第7回旅職委員会議事録(業界研究セミナー) 第7回旅職委員会議事録(業界研究セミナー) 高品目向子氏講演 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 合和4(2022)産自学民連携プロジェクトー覧表 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 合和4(2022)産自学民連携プロジェクトー覧表 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) (Aエテ市のミライを考える) NGP202 NGP202 NGP202 (Aエテ市のミライを考える) NGP202 (A工子市のミライを考える) NGP202 (A工子市のミライを考える) 2023年度産育学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーイン) 第5回2年度務学期 Discover藤沢 和南III 履修者名簿 2022年度務学期 Discover藤沢・湘南III 履修者名簿 2022年度務学期 Discover藤沢・湘南III 履修者名簿 2022年度第月回産官学民連携委員会議事録 2022年度務計回産官学民連携委員会議事録 2022年度務計回産官学民連携委員会議事録 2022年度務計回座官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携を引用のvation Roots」第11回を開催上学ニュースリリーフ | [資料A-1-139] | ユニコムプラザさがみはら |
| ## 175 にきょ ## 175 にきょ ## 175 にきょ ## 175 にきょ ## 175 に | [資料A-1-140] | シリアスゲーム |
| #e11-Beingシンポジウム 2022年度間戸地球大学院 2022年度1とよう整 2022年度1とカレッジ 2022年度1とカレッジ 2022年度を対策を配合する。 2022年度を対策を配合する。 2022年度を対策を配合する。 2022年度を対策を配合する。 2022年度を対策を配合する。 2022年度を対策を配合する。 第7回抗職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット大集合 2022年度を配置機プロジェクトー覧表(委債等) 合和4(2022)産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 合和4(2022)産官学民連携で1とガーがよび本名一覧表 数職員会社見学会参加者状況 数職員会社事学会参加者状況 数職員会議事。教授会(FD勉強会) 2022年度多摩大学産官学民連携で1ンテクトー覧表 第5回雇官学民連携委員会議事録(産学元・ムページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学元・カトーで表表) NGP2022 NGP2022 NGP2022 12023年度生産費会員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学元・カトーが表表のでは、大学工会ので22年度第2月上のできたる。 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録。 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度者学期 7 に 3 と 7 と 7 を 7 を 7 と 7 と 7 と 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | [資料A-1-141] | おがじぎょ |
| 2022年度期戸地球大学院 2022年度1ともよう整 2022年度1とカレッジ 2022年度とがまさカレッジ 2022年度とがまさカレッジ 2022年度とがまさカレッジ 2022年度を添す学力レップ(選考委員会) 2022多摩ブル・・グリーン賞(選考委員会) ロボット大集合 第7回航職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット大集合 第6回日子氏講演を目学民連携プロジェクトー覧表(委員等) 第6回日子氏講演を目学民連携プロジェクトー覧表(実績) 第6回日子氏講演を目学民連携プロジェクトー覧表 数職員会社見学会参加者状況 無監情報学部グストスピーカーおよび来客ー覧表 数職員会社見学会参加者状況 第6回日本学民連携委員会議事録(座学元単表) 2022年度多摩大学を自学民連携を(正学元を) NGP2022 NGP202 12023年度産費与民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回程学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回程学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 2022年度第12年度書 (第2021201 | [資料A-1-142] | Well-Beingシンポジウム |
| 2022年度いちょう型 2022年度いなぎICカレッジ 2022年度とがまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 2022年度をがまちカレップ 2022年度とがまちカレップ 2022年度とがまちカレップ 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット大集合 多摩大学元上ページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 高局目向子氏建構 第5回産日学民建構のロジェクトー覧表(実績) 経営情報学部ガストスピーカーおよび来客ー覧表 数職員会社見学民連構のロジェクトー覧表 数職員会社見学民連構のロジェクトー覧表 数職員会社見学会参加者状況 経営情報学部ガストスピーカーおよび来客ー覧表 数職員会社見学民連構委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産日学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産日学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産日学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産日学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産日学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9回産官学民連携委員会議事録 2022年度務9日の産官学民連携委員会議事録 2022年度務11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-143] | 2022年度関戸地球大学院 |
| 2022年度1・なぎICカレッジ 2022年度5がまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 2022年度を原本学産官学民連携プロジェクトー覧表(委員等) 2022多摩大学産官学民連携プロジェクトー覧表(委員等) ロボット 大集台 多摩大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 富高日向子氏講演 第5回産官学民連携委員会議事録(深書のインシェクトー覧表) 2022年度多町音子民連携プロジェクトー覧表 第6回配官学民連携委員会議事録(PC相談会) 2022年度第10回AL委員会議事録(PC相談会) 2022年度報子のミライを考える MGP2022 2023年度連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第2022年度第10重官学民連携を責会議事録(産学ホームページオーブン) 第2022年度第四重音学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録(金学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録(2022年度報刊) 2022年度第7月回産官学民連携委員会議事録 2022年度依字期「Discover藤沢利南助M 2022年度核学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度春学期ブロジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催 大学ニュースリリーフ | [資料A-1-144] | 2022年度いちょう塾 |
| 2022年度さがまちカレッジ 2022年度をがまちカレッジ 2022年度多摩大学産官学民連携プロジェクトー覧表(委員等) 第7回執職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット集合 多摩大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 富高日向子氏講演 第5回産官学民連携プロジェクトー覧表(実績) 台和4(2022) 産官学民連携プロジェクトー覧表(実績) 教職員会社原学公園工管民連携プロジェクトー覧表 教職員会社見学会参加者状況 経営情報学部プストスピーカーおよび来客一覧表 第6回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第7回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第8回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第8回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第1回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度報が101scover藤沢和南加 2022年度株学期 15scover藤沢・湘南11、履修者名簿 2022年度株学期 15scover藤沢・湘南11、履修者名簿 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度株学期 15scover藤沢・湘南11、履修者名簿 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 2022年度券11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-145] | 2022年度いなぎICカレッジ |
| 2022年度多摩大学産官学民連携プロジェクトー覧表(委員等) 2022多摩ブルー・グリーン賞(選考委員会) 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) 5摩大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 富高日向子氏講演 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 合和4(2022) 産官学民連携プロジェクトー覧表 数職員会社見学会参加者状況 経営情報学部グストスピールもよび来客一覧表 数値員会社見学会参加者状況 経営情報学部グストスピールもよび来客一覧表 第0回仏委員会議事 教授会(FD勉強会) 2022年度がランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP202 2023年度進携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携を員会議事録 八王子市のミライを考える NGP202 2022年度第9回産音学民連携委員会議事録 2022年度第9回産音学民連携委員会議事録 2022年度第9回産音学民連携委員会議事録 2022年度第9回産音学民連携委員会議事録 2022年度務2月1日産官学民連携委員会議事録 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度券2月1日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 2022年度券11日産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-146] | 2022年度さがまちカレッジ |
| 2022多摩ブルー・ブリーン賞(選考委員会) 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) 9年大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 2024年度多摩大学産官学民連携グロジェクトー覧表 第6回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 令和4(2022)産官学民連携グロジェクトー覧表 経営情報で部グストスピーカーおよび来客一覧表 経営情報で部グストスピーカーおよび来客一覧表 第6回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録 八王子市のミライを考える NGP2022 NGP2022 1022年度第9回産官学民連携委員会議事録 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度保学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度券第1回室官学民連携委員会議事録 2022年度本学期「SCOver藤沢・湘南II」履修者名簿 | [資料A-1-147] | 2022年度多摩大学産官学民連携プロジェクトー覧表(委員等) |
| 第7回旗職委員会議事録(業界研究セミナー) ロボット大集合 国体学元本ページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 国属月四十元構造 電局日の千元は高 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 令和4(2022)産官学民連携プロジェクトー覧表 総置情報学部プストスピーカーおよび来客一覧表 第0回私委員会議事、教授会(PD勉強会) 7022年度ポランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP2022 NGP2024 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学生 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度税学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度税学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度務11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-148] | 1 |
| ロボット大集台 多摩大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 高周日向子氏講演 第5回電子氏建構を員会議事録(PC相談会) 合和4(2022) 産官学民連携プロジュクトー覧表 整盤情報学的ケストスピーカーおよび来客ー覧表 整盤情報学的ケストスピーカーおよび来客ー覧表 数職員会社見学会参加者状況 経営情報学的ケストスピーカーおよび来客ー覧表 が回ML委員会議事。 MGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2024 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 12022年度第9回産官学民連携委員会議事録 12022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度報月iscover議決・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-149] | 第7回就職委員会議事録(業界研究セミナー) |
| 多摩大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) 富周目向子氏講演 第5回産官学民連携委員会議事録(PC相談会) 4502222 産官学民連携プロジェクトー覧表(実績) 2022年度多摩太学電音学民連携プロジェクトー覧表 教職員会社見学会が加者状況 経営情報学部グストスピーカーおよび来客一覧表 第0回AL委員会議事。教授会(FD勉強会) 2022年度ボランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える 八王子市のミライを考える 八王子市のミライを考える 1022年度第3回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録 2022市民講座子ラシ 今和4(2022)年度市民講座実施報告書 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 7022年度第1回産官学民連携委員会議事録 2022年度報的1scover議沢補南加M 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 2022年度報71回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-150] | ロボット大集合 |
| 富高日向子氏講演 第5回産官学民連携委員会議事級(PC相談会) 2022年度3020 産官学民連携プロジェクトー覧表(実績) 2022年度3020 産官学民連携プロジェクトー覧表(実績) 整職情報学部グストスピーカーおよび来客一覧表 総監情報学部グストスピーカーおよび来客一覧表 第0回AL委員会議事—教授会(FD勉強会) 2022年度ボランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP2022 3023年度産産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録 第3回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録 2022年度第3回産官学民連携委員会議事録 2022年度第3回産官学民連携委員会議事録 2022年度期500名インパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度期500名インパウンド誘致の提案」コンテスト開催 2022年度報1回産官学民連携委員会議事録 2022年度報700名 2022年度 2022年度報700名のVアルトー一般+学生 2022年度秋学期 「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度春等期ブロジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催 大学ニュースリリーフ | [資料A-1-151] | 多摩大学ホームページ(聖ヶ丘小学校授業支援) |
| 第5回産官学民連携委員会議事録 (PC相談会) 合和4(2022) 産官学民連携プロジェクトー覧表 (実績) 2022年度学会参加音学民連携プロジェクトー覧表 整置情報学部プストスピーカーおよび来客一覧表 第0回加委員会議事 教授会 (FD勉強会) 2022年度ボランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP2022 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオープン) 第5回産官学民連携委員会議事録 第5回産官学民連携ペンフレット 第5回産官学民連携委員会議事録 2023年度第回産官学民連携委員会議事録 2022年度第回産官学民連携委員会議事録 2022年度第回産官学民連携委員会議事録 2022年度第回庫官学民連携委員会議事録 2022年度第1回産官学民連携委員会議事 2022年度報的13cover藤沢和南加 2022年度株学期 「Discover藤沢・湘南11」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南11」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南11」程修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南11」程修者名簿 2022年度券出加下ジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催 大学ニュースリリーフ | [資料A-1-152] | 富髙日向子氏講演 |
| 令和4(2022)産自学民連携プロジェクトー覧表 (集績) 2002年度多極大学産育学民連携プロジェクトー覧表 経営情報学部グストタル省状況 経営情報学部グストタル省状況 経営情報学部グストタル省状況 2022年度ボランティア学生参加者名簿 ハ王子市のミライを考える NGP202 S133年度産育学民連携ベンフレット 第5回産官学民連携を員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回を官学民連携を員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 2022年度株学期 「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度株学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度春学期ブロジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催 大学ニュースリリージ | [資料A-1-153] | 第5回産官学民連携委員会議事錄(PC相談会) |
| 2022年度多摩大学産官学民連携プロジェクトー覧表 教職員会社見学会参加者状況 無監情報学和アストスピーカーおよび来客一覧表 第0回M支員会議事、教授会(PD勉強会) 2022年度ポランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP2022 2023年度産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第1回産官学民連携委員会議事 2022年度保学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度保学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度保学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度格学期「Scover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度常1回産官学民連携委員会議事録 2022年度常1回産官学民連携委員会議事録 2022年度常1回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-154] | 令和4(2022) 産官学民連携プロジェクトー覧表(実績) |
| 教職員会社見学会参加者状況 経営情報学部グストスピーカーおよび来客一覧表 第0回AL 多具会議事。教授会(FD勉強会) 2022年度求ランティア学生参加者名簿 八王子市のミライを考える NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 NGP2022 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインバウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインバウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第1回産官学民連携委員会議事 2022年度税学期「Discover議沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-155] | 2022年度多摩大学産官学民連携プロジェクト一覧表 |
| 経営情報学部グストスピーカーおよび来客ー覧表 経営情報学部グストスピーカーおよび来客ー覧表 3002年度ポランテイを考えを NGP2022 NGP2022 2023年度産育学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(第5回産官学民連携委員会議事録 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュ 2022年度第10座市民連携委員会議事 2022年度税学期「Discover騰沢・湘南II」履修者名簿 2022年度税学期「Discover騰沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-156] | 教職員会社見学会参加者状況 |
| 第0回M.委員会議事。数符会(FDを強定) 2022年度ボランティア学生参加者名簿 NGP2022 2023年度産官学民連携交員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携交員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録 2022市民講座チラシ 合和4(2022)年度市民講座実施報告書 「海外からのインバウンド誘致の提案」コンテスト開催大学ニュー語外からのインバウンド誘致の提案」コンテスト開催大学ニュー2022年度第10日 2022をプリレー講座受講者リスト 一般・学生 2022を学期Discover議沢補南M 2022年度新月回産官学民連携委員会議事録 2022年度新月回産官学民連携委員会議事録 2022年度新月回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資料A-1-157] | 経営情報学部ゲストスピーカーおよび来客一覧表 |
| 2022年度ホフンアイブ字生参加省名簿 NGP2022 2023年度産官学民連携交員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録 2022市民講座チラシ 合和4(2022)年度市民講座実施報告書 活体れらのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催、大学ニュー商44(2022)年度市民講座実施者リスト 一般・学生 2022年度第9Discover議形を員会議事。 2022を実力レー講座受講者リスト 一般・学生 2022を学期Discover議沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | (資料A-1-158) | 第0回AL委員会議事_教授会(FD)勉強会) |
| ハエナ巾の>:フイを考える 100P2022 2002年度産育学民連携※リンフレット 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回産官学民連携委員会議事録 (産学ホームページオーブン) 令和4(2022) 年度市民講座実施報告書 | (資本A-1-159) | 2022年度ホフンテイア字生参加者名簿 ニュニュニュニュニュニュー |
| NM270.22 AM270.22 AM270.23 AM270.22 第5回座官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回座官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第3回座官学民連携委員会議事録 金か4(2022) 年度市民講座実施報告書 一海外からのインパウンド誘致の提案。2022年度第9回産官学民連携委員会議事。2022年度 1 レー講座受講者リスト 一般・学生 2022 | [資本A-1-160] | 八土ナ市のミフィを考える Monopologic |
| 2023年度座目字広連携へメノレント 第5回産官学民連携委員会議事録(産学ホームページオーブン) 第5回産官学民連携委員会議事録 2022年度等日連接委員会議事録 令和4(2022)年度市民講座実施報告書 「海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催 <u>大学ニュ</u> 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 2022年度別15cover藤沢和南加 2022年度株学期 「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [10]—I—W—————————————————————————————————— | NorY2022 2006 医安克氏学见法据 3、1、) |
| 第5回座 日子尺連携委員会議事録 (2022) 中原 (2022) 年度市民講座実施報告書 (2022) 年度市民講座実施報告書 (海外からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催_大学ニュ (2022年度第9回産官学民連携委員会議事 (2022年度 (2022年 1) レー講座受講者リスト — 一般+学生 (2022年度 (2024年 (2022年度 (2024年 | [資本A-1-162] [終期 1 169] | 2023年度産日子氏連続パノノレット 年6日か市第日 1年本月 4年 1月 20日か中第日 1月 |
| #5.002和氏菌療験で 2022和氏菌療をデラン 合和4(2022) 年度市民講座実施報告書 「海外からのインバウンド誘致の提案」コンテスト開催 <u>大</u> 学ニュ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 2022年 リレー講座受講者リスト。 一般+学生 2022をプリレー講座受講者リスト。 一般+学生 2022を実現が12cover療沢補南IM 2022を実現「Discover療沢補南M 2022年度税学期「Discover療沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 | [資本A=1=103] [※率 A=1=104] | 据3回暦日子氏理院安貞云磯事隊(生子ホームペーンカーノノ) 第3回年6月1日末来日の業事員 |
| 2022/II Krihtz 方式 2022/II Krihtz 方式 「海体からのインパウンド誘致の提案」コンテスト開催 <u>大学ニュ</u> 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 2022/201 2022春 リレー講座受講者リスト - 一般"学生 2022秋 リレー講座受講者リスト - 一般"学生 2022秋学期Discover藤沢湘南JM 2022年度秋学期「Discover藤沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度寿学期プロジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催 大学ニュースリリーフ | [| RODD 年日子戊里烷安貝式磯中数 DODD 年日華広子言、 |
| 1944(2022) 中及 1754 年来配表配表日 1844(2022) 中及 1754 年来配表の表現。 2022程度第9回産官学民連携委員会議事。20221201 2022程 リレー講座受講者リスト - 一般+学生 2022板 リレー講座受講者リスト - 一般+学生 2022板 リレー講座受講者リスト - 一般+学生 2022を実験で期Discover藤沢和南DM 2022年度が守期 Discover藤沢・湘南II 履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度等11回産官学民連携委員会議事録 2022年度等11回産官学民連携委員会議事録 2022年度者学期プロジェクトゼミ履修生リスト [0dakyu Innovation Roots] 第1回を開催 大学ニュースリリープ | [| 7077日大津座フノン 本記書の実施地生 |
| (中水が5)5071 へハウト Fibty 2070年末 ユンノハトド市性 人イナーユ 2022年度第9回産官学民連携委員会議事 20221201 2022巻 | [寅仲A-I-ZII] [然率[A 1 616] | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ |
| 2022年度界9日暦百子氏連携金貴芸融事_20221201 2022春_リレー講座受講者リスト_一般+学生 2022秋学期Discover議沢湘南DM 2022校学期「Discover議沢・湘南II」履修者名簿 2022年度秋学期「Discover議沢・湘南II」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度春学期プロジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催_大学ニュースリリー | [AAA=1=Z1Z] | ト州催 人子ニューヘッツ |
| 2022年- リー・講座文講者リスト」 - 〒〒エ 2022秋 - リレー講座文講者リスト」 - 〒〒 + 学生 2022年度秋学期 Discover藤沢・湘南IM | [資料·A-1-213] [然料 1 914] | 2022年度第9回産官字氏連携委員会議事_20221201 2000年 11 1 2 3 3 3 3 3 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 |
| 2022板 字出 2022枚 学期Discover 藤沢湘南JM 2022年度税学期「Discover 藤沢湘南JM 2022年度税学期「Discover 藤沢・湘南JI」履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度春学期プロジェクトゼミ履修生リスト 「Odakyu Innovation Roots」第1回を開催_大学ニュースリリー | [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [| 1 |
| 2022年度祝学期 105cover職形・湘南II 履修者名簿 2022年度祝学期 105cover職形・湘南II 履修者名簿 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度春学期プロジェクトゼミ履修生リスト [Odakyu Innovation Roots] 第1回を開催 大学ニュースリリー | 【資本A-1-213】 「答彩∆-1-216】 | |
| 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 2022年度寿学期プロジェクトゼミ履修生リスト [Odakyu Innovation Roots] 第1回を開催_大学ニュースリリー | (京村A 1 210) 「海粉A-1-917」 | 2025の大労ptscovet 除り、tulthpm 5099年 唐永 受担 [Discover 藤沢・ 湘南11] 屠修 孝久 籓 |
| 2022年で分711日年日 ナルモルタスニ版中が 2022年度春学期プロジェクトゼミ履修生リスト [Odakyu Innovation Roots] 第1回を開催_大学ニュースリリー | (東北A-1-918) | 70754开区1077月 10780041 除17、48月17」 像同日白艳1009年 伊第11同店白沙巴油桶米已气螺电筒 |
| Todakyu Innovation Roots」第1回を開催_大学ニュースリリー | (217) T 218) [68-1-219] | <u>2022</u> 十次次が11日年日子75年79を交換的数字数。 2022年度春学期プロジェクトゼミ履修生リスト |
| ・ / / ハート/一里田見田 TA 「Shoot Hotalan and and and and and and and and and a | (文字) (文字) (文字) (文字) (文字) (文字) (文字) (文字) | し二にとしてした |
| | LA11A 1 24VJ | 另 1 回名用権 - ヘナーコーヘッツー |

| 斯 斯 斯 斯 | 資料名 |
|------------------|-----------------------------------|
| [資料A-1-302] | 品川塾_令和4(2022)年度イベント集計表 |
| [資料A-1-303] | イノベーターシップ&ライフシフト・フォーラム_イベント集計表 |
| [資料A-1-304] | 文科省ホームページ「職業実践力育成プログラム」(BP)認定課程一覧 |
| [資料A-1-305] | 履修証明台帳 |
| A-1-⑤ | |
| [資料A-1-177] | 相談、橋渡し、コラボレーション一覧 |
| [資料A-1-178] | 2021日経グローカル |
| [資料A-1-263] | 第02回産官学民連携委員会議事錄 |
| [資料A-1-264] | 第07回産官学民連携委員会議事録 |
| [資料A-1-265] | 今後の地域活動について |
| [資料A-1-266] | 語学力検証(2022年度) |
| [資料A-1-267] | 韓国語能力試験(TOPIK)5級合格証明書 |
| [資料A-1-268] | 地域活動に参加した学生のPROG検証 |
| [資料A-1-269] | 2022年度地域活動参加学生アンケート |
| | |

| 聚仪消 | _ |
|-----|---------|
| 国際と | |
| E | Par age |
| 基準B | |

| 例十0. 可軽人气 | |
|-------------|---------------------------------|
| | 資料名 |
| B-1. 国際交消 | |
| B-1-(I) | |
| 〔資料B-1-001〕 | 国際交流センター規程 |
| [資料B-1-002] | 多摩大学 国際化ビジョン |
| (資料B-1-003) | 中期計画 |
| 〔資料B-1-004〕 | 令和4年度教育機関の選定結果について |
| 〔資料B-1-002〕 | 国際交流センター運営委員会細則 |
| [資料B-1-006] | 国際交流センター運営委員会メンバー |
| [資料B-1-007] | 2022年度国際交流センター運営委員会議事録 |
| [資料B-1-008] | 全学協定校一覧 |
| [資料B-1-009] | 2022年度留学生受入・海外留学派遣状況一覧 |
| [資料B-1-010] | 2022年度計画 |
| 〔資料B-1-011〕 | 多摩大学国際交流委員会規程 |
| 〔資料B-1-101〕 | 第1回国際交流委員会議事録 |
| 〔資料B-1-201〕 | 国際交流委員会メンバー |
| 〔資料B-1-202〕 | 国際交流センター事務課外国人国籍 |
| [資料B-1-203] | 2022年国際交流委員会日程 |
| B-1-② | |
| [資料B-1-102] | 広東財経大学とのオンライン講義 |
| [資料B-1-103] | StudyAbroad広東報告書 |
| [資料B-1-104] | 交換留学生受入要項 |
| [資料B-1-204] | JAWAHARLAL NEHRU UNIVERSITY_MOU |
| (資料B-1-205) | 2022年度SGSの協定校一覧 |
| [資料B-1-206] | 提携校より受け入れたStudy Tourの日程表 |
| [資料B-1-207] | 送り出し_Online Study Tour日程表 |
| [資料B-1-301] | ハルピン工業大学協定書 |
| B-1-3 | |
| [資料B-1-105] | 2022年度SMIS留学生受入・海外留学派遣状況一覧 |
| [資料B-1-106] | 経営情報学部2022年度計画 |
| [資料B-1-107] | 留学パンフレット |
| [資料B-1-108] | 海外留学説明会T-NEXT掲示板 |
| [資料B-1-109] | 海外留学事前面談用紙 |
| 〔資料B-1-110〕 | 体験報告会 |
| 〔資料B-1-111〕 | 留学体験記(派遣)_経営情報学部 |
| [資料B-1-112] | 2022年度海外留学修了報告書 |
| 〔資料B-1-113〕 | 留学プログラム参加者の満足度 |
| [資料B-1-114] | 2022年度 学生満足度・学生生活実態調査 |
| 〔資料B-1-115〕 | 海外留学事前事後課題について(お知らせ) |
| | |

| 養料No. [資料A-1-221] [答料.N-1-299] | - 資料名 2022年度3月教授会 <u>-</u> 産官学民連携委員会 ホマアタルティ細ルカミュー産が ホラシ |
|---|--|
| [資料A-1-223] | / 1 戦ルモミノー癖の ティ観光セミナー藤沢 |
| [資料A-1-224] | ΙI |
| [資料A-1-225] | ホスピタリティ観光セミナー寒川 受付簿 ののの在 麻並い ナル 阿・ はいか 中部 計 中 (中部) |
| 【資本A-1-226】 「答料A-1-997〕 | 2022年長膝次巾外当人觀沈各ج點調宜報告書(抜粹) 2029年度3日教經会(確宜受足連攜悉昌会) |
| (資料A-1-228) | 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 |
| [資料A-1-229] | 2023年度第1回産官学民連携委員会議事録 |
| 〔資料A-1-230〕 〔答料A-1-231〕 | 2022多言語メニューシフト最終 2022多言語メニューシフト最終 2022年世間日開発を会ポートページを言語ル |
| (資料A-1-232) | 2022年及今江町魔力が、コ・・シタロ町に 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 |
| [資料A-1-233] | 合同台湾研修(第3回)開催 大学ニュースリリース |
| (資料A-1-234) (答判A-1-234) | 2022年度第11回産官学民連携委員会議事 昆なゝ いま 今 岩 ボランティア 参加 割 毎 鎌 |
| (資料A-1-236) | っこり及単が/ 権座3月10日チラ |
| [資料A-1-237] | 2022年度第1回湘南台小学校学校運営協議会会議錄 |
| [資料A-1-238] | 史と観光」セミ |
| [資料A-1-239] [答料A-1-240] | 滕沢市地球温暖化対策地域協議会_大学ニュースリリース 2003年世第11回案合学日油権系昌へ議事録 |
| [資本A-1-240] [管料A-1-241] | 2022年後年11川年日千八連協安員云職事弊藤沢市の観光プロモーション動画を制作 大学ニュースリリース |
| (資料A-1-242) | |
| [資料A-1-243] | 10回産官学民連携委員会議事録 |
| (資料A-1-244) | 「ぶらりごみ拾い in 六会 2022」_大学ニュースリリース |
| [資料A-1-245] [答判A-1-246] | 2022年度第8四産日字氏連携委員会議事録 毎9日報由田鈺フピーチュンテュト間歴 ナ学ニューフ 11 11 ニュ |
| (資料A-1-247) | リュルが |
| [資料A-1-248] | 大学ニュ |
| (資料A-1-249) | 2022年度6月教授会_產官学民連携委員会 |
| (資料A-1-250) (※點 / 1 951) | 2022年度第7四萬百字氏連携委員会議事録 10000年年第7日第1日第1日第1日第1日第1日第1日第1日第1日第1日第1日 1日 1 |
| [資料A-1-251] [答料A-1-252] | 2022年段界3四座日子达建烤安貝云藏事繁2022年度第8回産官学民連携委員会議事録 |
| [資料A-1-253] | 2022年茅ヶ崎アロハマーケット参加 大学ニュースリリース |
| (資料A-1-254) | _産官学民連抄 ※日本#本号 |
| [資料A-1-255] [答料A-1-256] | 2022年及界1川座日平戊連楞安貞云藏事嫁2029年度第11回確官学民連攜委員会議事録 |
| [資料A-1-257] | 2022年度3月教授会_産官学民連携委員会 |
| (資料A-1-258) | 11学民連携 |
| (資料A-1-259) (答料A-1-260) | 滕澤七福神めぐり アルバイトシフト表 の99年年第6回歩台沙口連権米昌今業市総 |
| [資料A-1-261] | 2022年度第11回産官学民連携委員会議事録 |
| [資料A-1-262] | 2022年度第9回産官学民連携委員会議事録 |
| 〔資料A-1-165〕 | 総研2022年度事業報告・2023年度計画書 |
| 〔資料A-1-166〕 | 総研21年度報告・22年度計画(広報) |
| [資料A-1-167] [答料A-1-168] | 総研21年度報告・22年度計画(外部人内) 住方金属鉱川株式会社 社会音融フェーラム |
| [管料A-1-169] | 15 |
| [資料A-1-170] | 地域でのマルチステークスホルダを巻き込んだ協創手法の研究報告書(日立) |
| [資料A-1-171] | 씯 |
| 〔資料A-1-172〕 「答料A-1-173〕 | イノペーション創出事業イベント「これからの地域共創の可能性と展望」 (エス市帝業メノベーションプラン会は |
| (資料A-1-174) | 22年度 報 |
| [資料A-1-175] | 福祉×産業で実現する Well-beingなまちづくり研究会 |
| [資料A-1-176] (※※14-1-004) | NGP最終発表会 Elimania |
| [資料A-1-301] | 마// 활とば |

| 或 数 Mo | 灣遊苑 |
|--------------|-------------------------------|
| | |
| 〔資料B-1-126〕 | 春学期1回目の在籍確認 |
| 〔資料B-1-127〕 | 春学期2回目の在籍確認 |
| [資料B-1-128] | 2022年度私費留学生在籍面談 |
| [資料B-1-129] | 卒業に関わる在留資格変更 |
| [資料B-1-130] | 2022年度私費外国人留学生授業料減免 |
| [資料B-1-131] | 貸格試驗受験料補助 |
| [資料B-1-132] | 2022年度未入国者 |
| [資料B-1-133] | 未入国者の対応について(WeChat画面) |
| [資料B-1-252] | 国際交流ホームページの更新 |
| [資料B-1-253] | 2022年留学生の受け入れ人数 |
| [資料B-1-254] | 留学生用新入生オリエンテーション資料 |
| 〔資料B-1-255〕 | 担当教員による留学生個別面談 |
| (資料B-1-256) | 私費外国人留学生学費減免奨学金 |
| (資料B-1-257) | 職員による留学生相談の受付 |
| (資料B-1-258) | 職員による学生寮の手配 |
| (資料B-1-259] | 留学生在留カード取得のサポート |
| [資料B-1-260] | 本業した留学生への対応 |
| [資料B-1-302] | 院生名簿220501現在 |
| (資料B-1-303) | 院生名簿221001現在 |
| [資料B-1-304] | 令和4(2022)年度春学期新入生オリエンテーション |
| [資料B-1-305] | 日本語能力試験模擬試験実施案内 |
| [管料B-1-306] | 留学生のための日本経済・経営基礎 |
| (資料B-1-307) | ビジネスジャパニーズI、II |
| [資料B-1-308] | 論文スタートアップI、II |
| [資料B-1-309] | 留学生のためのビジネス日本地理・日本史I、II |
| [資料B-1-310] | 在留期間更新許可申請 |
| [資料B-1-311] | 令和4(2022)年度 院生個別面談記錄 |
| [資料B-1-312] | 多摩大学私費外国人留学生授業料減免規程 |
| (資料B-1-313) | 令和4(2022)年春学期 私費留学生減免審査判定結果 |
| [資料B-1-314] | 令和4(2022) 年度 院生個別面談記録 |
| (資料B-1-315) | 留学生就職ガイダンス 報告書 |
| (資料B-1-316) | 東京外国人雇用センター主催イベント案内 |
| B-1-⑤ | |
| (資料B-1-134) | 2022新入留学生歓迎会 多摩大学 |
| [資料B-1-135] | 留学生によるミニ講座 |
| [資料B-1-261] | 日中国交正常化50周年記念イベント |
| [資料B-1-262] | 高大連携台湾の高校とオンライン交流 |
| (資料B-1-263) | 高大連携タイの学校とオンライン交流 |
| 〔資料B-1-264〕 | 学内交流 高尾山紅葉を見に行こう |
| (資料B-1-265) | 学内交流、五月人形飾ろうイベント |
| (資料B-1-566) | 学内交流、歌舞伎鑑賞イベント |
| [資料B-1-267] | 学内交流、文楽鑑賞イベント |
| [資料B-1-268] | 学園祭の留学説明会 |
| [資料B-1-269] | 中国語スピーチコンテスト |
| [資料B-1-317] | 令和4(2022)年度第1.2回留学生のつどい 実施報告書 |
| | |

| 資料No. | |
|------------------------------|--|
| (資料B-1-116) | 梅外留学奨学金_2022年度 |
| (資料B-1-117) | オンライン留学補助金支給 |
| (資料B-1-118) | |
| [資料B-1-119] | 2022春休み・秋出発事前オリエンテーション |
| (資料B-1-120) | 2022年度春休み海外渡航者情報 |
| (資料B-1-121) | 海外渡航誓約書 |
| (資料B-1-122) (※率1p 1 909) | 第4回 国際交流委員会議事録 |
| (資本B-1-208) | 一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二 |
| [資本B-1-209] [答料R-1-910] | ンノルホール_NIF3 ノフイノ奸修_参加名一見 部駐野台済莊稼参加考 11 スト |
| (管料B-1-211) | |
| (資料B-1-212] | 長期一般留学参加者リスト |
| (資料B-1-213) | 長期交換留学派遣リスト |
| (資料B-1-214) | 留学希望者への個別相談 |
| 〔資料B-1-215〕 | 学生へ留学プランの提案書 |
| (資料B-1-216) | 留学個別相談一覧 |
| 〔資料B-1-217〕 | 留学を周知する資料 |
| [資料B-1-218] | 留学申込時の動機及び達成したいこと |
| [資料B-1-219] | |
| (資料B-1-220) | 年次別オリエンテーションの留学説明 |
| (資料B-1-221) | 春学期留学説明会参加人教統計リスト 下間五佐翌四々 空間 |
| (資本B-1-222) (然がIn 1 999) | (再次) 建物 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 计 |
| (資本B-1-223) (参加 1 994) | 校別留字記男演算本 信用の影響品へ終記 |
| (資本4B-1-224) (恣寒(p-1-995) | 拉男留子凯男式真朴 大梅冈亭器田今次凯 |
| [黄作D 1 223] [答来[B-1-996] | 父张田士师乃太灵怀 4.学祖庄祖汾亭岩田人 |
| (対表)B-1-997] | 小子郊又郊田 于奶奶式 小子郊又郊田 于奶奶式 小子狗又狗田 于奶奶式 小学相信相 空沙岩田 今 |
| [香料B-1-228] | 大字 |
| [管料B-1-229] | |
| [資料B-1-230] | 留学情報の掲示 |
| [資料B-1-231] | シンガポール研修招聘講師講義資料 |
| [資料B-1-232] | 高大連携台湾研修_東呉大学訪問者リスト |
| (資料B-1-233) | 票 |
| (資料B-1-234) | ナンヤンボリテクニック スタディツアー17人の学生受け入れ |
| (資料B-1-235) (※地下: 996) | スタナ |
| [資本B-1-236] [答率[P-1-997] | 笛子伎珠超佐山についての連絡メール 電子傍珠超佐山についての連絡メール 電佐 闘俊 |
| [黄作D 1 234] [谷彩[R-1-938] | 中 版 |
| [答称B-1-239] | コナゼロカシュロ 留学効果を確認でする威相や |
| (資料B-1-240) | 田子然れて精神へこうが近へ 国学後アンケート |
| (資料B-1-241) | 多摩大学に掲示される留学満足度や留学成果等 |
| (資料B-1-242) | 海外留学奨学金給付者リスト |
| (資料B-1-243) | 後接会補助金 |
| 〔資料B-1-244〕 | 留学のための試験補助金 |
| (資料B-1-245) (※割B・1-246) | 0 |
| [寅称B-1-240] [答率[B-1-947] | DG版 年に ミナーへの参加(オノノイノ) 祐女 図事年接答曲 ここに ディーカ |
| [海松B-1-948] | 年六田十元 数日 ガン・ノン |
| [資料B-1-249] | 田子町の70000日 ユニンノ 24時間竪急中ポート付き海外旅行保除の加入 |
| (資料B-1-250) | 7.54.4 同来沙 / 4 |
| (資料B-1-251) | 開係教職員の間で共有する留学参加学生の緊急連絡先 |
| B-1-4 | |
| 〔資料B-1-123〕 | 留学生受け入れ |
| 〔資料B-1-124〕 | 経営情報学部 私費外国人留学生の方へ |
| (資料B-1-125) | 2022年度春学期私費留学生在籍面談(2回目) |
| | |

令和4(2022)年度 多摩大学自己点検報告書

令和5年8月発行

編集・発行 多摩大学 自己点検評価委員会 〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1 電話 042-337-1111(代表)

https://www.tama.ac.jp/

印刷製本 株式会社相模プリント

